

茨城県男女共同参画社会県民意識調査結果報告書

平成27年3月

茨城県

目次

I 調査の目的・方法等	1
(1) 調査目的	3
(2) 調査対象	3
(3) 調査方法	3
(4) 調査項目	5
(5) 回収状況	8
(6) 本報告書を読む際の留意点	8
II 調査結果概要	9
III 調査結果	17
1 回答者属性	19
2 男女の地位の平等に関する意識	27
(1) 各分野の男女の地位	27
(2) 社会全体でみた男女の地位	37
(3) 平等になるために重要なこと	39
3 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等	43
(1) 結婚や子どもを持つことへの考え	43
(2) 男女の生き方や家庭生活などに関する考え	49
(3) 家事等の分担、最終決定者	59
(4) 性別役割分担意識についての考え方	70
(5) 家事・育児・介護等に携わる時間	72
(6) 子どもについての考え	84
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	91
(1) 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の理想と現実	91
(2) 父親の育児参加	96
(3) 男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと	102
5 就業	106
(1) 仕事の能力・内容の男女差についての考え	106
(2) 職場での男女の地位	109
(3) 中途退職の経験	114
6 地域活動	122
(1) 地域活動	122
7 ドメスティック・バイオレンス	129
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験	129
8 男女共同参画社会	142
(1) 男女共同参画に関する用語等の周知度	142
(2) 男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること	146
(3) 男女共同参画拠点施設	153

IV 資料	159
(1) 調査票.....	161
(2) 単純集計表.....	177
(3) 主な項目における前回調査等との比較表.....	194



I 調査の目的・方法等

(1) 調査目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けて、県民の意識と実態等を調査・集計した結果を分析し、ウィメンズパワーアップ会議からの提言に基づき、女性が輝く社会づくりの実現に向けた施策を推進するために実施したものである。

また、「茨城県男女共同参画基本計画（第2次）いきいき いばらきハーモニープラン」の計画期間が平成27年度末で終了するため、次期計画策定のための基礎資料とする。

(2) 調査対象

本調査の対象者は、茨城県在住の20歳以上の男女である。抽出方法は、層化二段抽出法を用いた。県内市町村を地域別に区分し、20歳以上の人口を順に並べ替えて等間隔で抽出し、さらに、抽出した市町村の人口規模に応じて対象者数を配分し、各市町村の住民基本台帳に基づき、対象者数を等間隔に抽出（無作為抽出）した。抽出数は4,000（男性2,000、女性2,000）である。

(3) 調査方法

調査方法は、郵送調査法（郵送配布・郵送回収）を用い、調査期間は平成27年2月1日から2月20日までとした。

■抽出の構成

	実数 (人, %)				有効回答 (票, %)				回答と実数の差 (%)	
	男性		女性		男性		女性		男性	女性
総数	2,388,258				1,082				-	-
	1,180,645	49.4	1,207,613	50.6	501	46.3	580	53.6	-3.1	3.0
20~24	73,638	6.2	63,932	5.3	10	2.0	15	2.6	-4.2	-2.7
25~29	75,755	6.4	66,922	5.5	23	4.6	23	4.0	-1.8	-1.6
30~34	86,803	7.4	78,967	6.5	25	5.0	42	7.2	-2.4	0.7
35~39	100,558	8.5	91,991	7.6	29	5.8	32	5.5	-2.7	-2.1
40~44	113,445	9.6	105,100	8.7	44	8.8	54	9.3	-0.8	0.6
45~49	97,584	8.3	92,078	7.6	33	6.6	47	8.1	-1.7	0.5
50~54	89,355	7.6	86,930	7.2	38	7.6	45	7.8	0.0	0.6
55~59	94,921	8.0	93,532	7.7	49	9.8	65	11.2	1.7	3.5
60~64	112,437	9.5	113,383	9.4	77	15.4	62	10.7	5.8	1.3
65~69	106,678	9.0	109,120	9.0	61	12.2	71	12.2	3.1	3.2
70歳~	229,471	19.4	305,658	25.3	112	22.4	124	21.4	2.9	-3.9
年齢	1,180,645	100.0	1,207,613	100.0	501	100.0	580	100.0	0.0	0.0
県北	251380	21.3	258442	21.4	111	22.2	118	20.4	0.9	-1.0
県央	185085	15.7	197751	16.4	85	17.0	116	20.0	1.3	3.7
鹿行	113139	9.6	110634	9.2	42	8.4	43	7.4	-1.2	-1.7
県南	403607	34.2	409584	33.9	165	32.9	192	33.2	-1.3	-0.8
県西	227434	19.3	231202	19.1	98	19.6	110	19.0	0.3	-0.1
地域	1,180,645	100.0	1,207,613	100.0	501	100.0	579	100.0	0.0	0.0

実数は、平成26年10月1日現在の常住人口による有効回答総数は1,111だが、表中では性別、年齢、居住地域の欄の無回答を除いた票数を示してある

■地域区分

県北		○日立市, ひたちなか市, ○常陸太田市, 那珂市, ○北茨城市, 常陸大宮市, ○高萩市
	那珂郡	○東海村
	久慈郡	大子町
県央		○水戸市, 笠間市, ○小美玉市
	東茨城郡	○茨城町, 城里町, ○大洗町
鹿行		○神栖市, 鹿嶋市, ○鉾田市, 行方市, ○潮来市
県南		○つくば市, 土浦市, ○取手市, 牛久市, ○龍ヶ崎市, 石岡市, ○守谷市, つくばみらい市, ○稲敷市, かすみがうら市
	稲敷郡	○阿見町, ○美浦村, 河内町
	北相馬郡	利根町
県西		○古河市, 筑西市, ○常総市, 坂東市, ○結城市, 桜川市, ○下妻市
	結城郡	八千代町
	猿島郡	○境町, ○五霞町

○：抽出市町村

平成26年10月1日現在

(4) 調査項目

■ あなたご自身について		A	B
F 1	性別はどちらですか。	—	—
F 2	年齢（平成27年1月1日現在）をお答えください。	—	—
F 3-1	あなたの職業はどのような内容ですか。	—	—
F 3-2		—	—
(1)	そのお仕事は常勤ですか。パートタイムですか。	—	—
(2)	あなたの職名は何ですか。	—	—
F 4-1	あなたは結婚されていますか。	—	—
F 4-2	あなたの配偶者の職業はどのような内容ですか。	—	—
F 5-1	あなたにはお子さんがいますか。	—	—
F 5-2	一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。	—	—
F 6	お宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。	—	—
F 7	現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。	—	—
F 8-1	あなたが現在お住まいの市町村を○印で囲んでください。	—	—
F 8-2	あなたのお住まいの地域は次のどれに該当すると思いますか。	—	—
■ 男女の地位の平等に関する意識について			
問1	次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。	○ _{※1}	○
問2	社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。	○ _{※1}	○
問3	今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。		○
■ 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等について			
問4	結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。		
問5	次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。		○
問6	掃除や洗濯などの家事等を主に誰が分担していますか。また、家計費の管理等について最終的に決めているのは誰ですか。		○
問7	「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考えに同感しますか。	△ _{※2}	○
問8	次にあげるア～ウについて、あなたはどれくらい時間をかけていますか。		○
問9			
(1)	あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。		○
(2)	実際の子どもの数（又は実際に子育てできると思う数）は何人ですか。		○
(3)	その理由は何ですか。		○

■ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について		A	B
問 10	「仕事」，「家庭生活」，「地域・個人の生活」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。	△※1	○
問 11	お子さんがいる方にうかがいます。 「男性へ」実際にあなたの働き方に近いものはどれですか（どれでしたか）。 「女性へ」あなたの配偶者の働き方に近いものはどれですか（どれでしたか）。		
問 12	父親の働き方と子育てについてどう思いますか 「男性へ」あなたに、子どもがいる場合どのような働き方をしたいですか（したかったですか） 「女性へ」あなたの配偶者にどのような働き方を希望しますか（したかったですか）		
問 13	男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。	△※1	○
■ 就業について			
問 14	就業についてうかがいます。		
(1)	仕事をこなす能力に男女差はあると思いますか。		○
(2)	男性向き，女性向きの仕事内容はあると思いますか。		○
問 15-1	職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。	○※1	○
問 15-2	その具体的な内容はどのようなことですか。		○
問 16-1	あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。		○
問 16-2	仕事を辞めた主な理由は何ですか。		○
問 16-3	仕事を辞めたあと，再就職しましたか。		
■ 地域活動について			
問 17-1	現在，町内会やボランティア活動などの地域活動をしていますか。		○
問 17-2	それはどのような活動内容（分野）ですか。		○
問 17-3	地域活動をすることについてどう思いますか。		○
■ ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人等からの暴力）について			
問 18-1	配偶者（元配偶者も含む。）や恋人から暴力を受けた経験はありますか。		○
問 18-2	それはどのようなことですか。		○
問 18-3	誰かに打ち明けたり，相談したりしましたか。		
問 18-4	あなたが相談した人（場所）を教えてください。		
問 18-5	相談して問題は解決しましたか。		
問 18-6	あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。		

■ 男女共同参画社会について		A	B
問 19	次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。	○※ ₁	○
問 20	男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。	○※ ₁	○
問 21-1	県の男女共同参画を推進する施設「女性プラザ男女共同参画支援室」をご存知ですか。		○
問 21-2	県の鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザ「レイクエコー」をご存知ですか。		
問 21-3	あなたは、男女共同参画を推進するための拠点施設に対して、どのような役割を期待していますか。		○

※A = 男女共同参画社会に関する世論調査 (※₁: 平成 24 年 10 月/内閣府大臣官房政府広報室), 女性の活躍推進に関する世論調査 (※₂: 平成 26 年 8 月/内閣府大臣官房政府広報室),
 B = 茨城県男女共同参画社会県民意識調査 (平成 22 年 3 月)

※○はほぼ同じ内容あり。△は類似する内容あり。

(5) 回収状況

対象 4,000 票に対し、回収された調査票は 1,111 票である。無効票（すべてが無回答）は無かったため 1,111 票（男性 501, 女性 581, 性別不明 29）を有効回答票とした。有効回収率は 27.8%（男性 25.1%, 女性 29.1%）である。

■有効回収率

項目	票・%	備考
発送	4,000	a (男女各 2,000)
調査不能 (未着)	26	b
回収数	1,111	c
無効 (データ欠損)	0	d
有効回答数	1,111	e=c-d
男性	501	f
女性	581	g
性別不明	29	
有効回収率	27.8%	e/a
男性	25.1%	f/2,000
女性	29.1%	g/2,000

(6) 本報告書を読む際の留意点

- 単純集計結果は、比較設問があるものについて、「女性の活躍推進に関する世論調査（平成 26 年 8 月/内閣府大臣官房政府広報室）」又は「男女共同参画社会に関する世論調査（平成 24 年 10 月/内閣府大臣官房政府広報室）」と全国・地域の比較、「茨城県男女共同参画社会県民意識調査（平成 22 年 3 月）」と時系列比較を行っている。
- グラフ中の「SA」は単数回答の、「MA」は複数回答の集計結果を表し、「n=〇〇」はサンプル数を表す。グラフ内数値や表の単位は、特に断りのない限り「%」である。
- 本文グラフ及び表では「無回答」を含んで集計した。
- 単数回答の単純集計結果を表す本文グラフの中で、百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が 100.0 にならない場合もある。
- 複数回答の集計結果を表すグラフまたは集計表の場合、「%」は選択肢の構成比を表すものではなく、回答のあったサンプル数に対する割合を示している。
- 本文中コメントでは、およその傾向を概括するために「〇割」と「〇%」という表現を併用している。設問の選択肢を引用する場合は、省略して表現している場合もある。
- その他の選択肢のある設問については、代表的回答を掲載した。
- 自由回答式の設問については、原則として回答者の記入したとおりに引用・掲載しているが、明らかな誤字・脱字等については修正してある。



II 調査結果概要

1 男女の地位の平等に関する意識について

●男女の地位

「学校教育の場」(54.0%)では平等感が高いものの、「家庭生活(家事, 育児など)」(17.4%), 「政治の場」(16.0%), 「社会通念, 慣習, しきたりなど」(17.8%)では依然として不平等感が強くなっている。

また, 8つの分野と社会全体のすべてにおいて「平等である」は男性が女性を上回っている。反対に, 「男性の方が優遇されている」は, 「家庭生活」(男性: 51.9%, 女性: 62.5%), 「政治の場」(男性: 59.3%, 女性: 69.7%), 「法律や制度」(男性: 31.3%, 女性: 46.6%)で女性が男性を10ポイント程度上回っている。

●平等になるために重要なこと

男女が平等となるために重要なことは, 男性では「女性を取り巻く様々な偏見, 固定的な社会通念, 慣習・しきたりを改めること」(49.5%), 女性では「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(46.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

また, 「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実」(男性: 35.1%, 女性: 46.5%)や「女性自身の経済力, 知識・技術の習得」(男性: 27.9%, 女性: 39.1%)を重要とする考えは, 男性よりも女性に多くなっている。

2 男女の生き方や家庭生活などに関する考え, 役割分担等について

●結婚や子どもを持つことへの考え

結婚や子どもを持つことへの考えについてみると, 「人は結婚する方がよい」で『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が8割(全体: 82.9%, 男性: 86.2%, 女性: 80.4%)を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」の回答で『そう思う』が約5割(全体: 51.5%, 男性: 47.9%, 女性: 55.9%), 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」(全体: 42.4%, 男性: 41.5%, 女性: 43.0%)と「結婚しても, 必ず子どもを持つ必要はない」(全体: 42.5%, 男性: 39.2%, 女性: 46.0%)で『そう思う』が約4割を占めており性別にみると女性の割合が強い傾向にある。

「結婚しないで子どもを持ってもよい」で『そう思う』は約2割(全体: 25.7%, 男性: 30.0%, 女性: 22.0%)を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

●男女の生き方や家庭生活などに関する考え

男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると, 「『男性(女性)だから』という決めつけは, その人の可能性を閉じこめてしまう」(82.2%), 「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」(87.1%), 「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」(87.1%)で『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が8割を超えている。

一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」(66.2%) や「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」(58.0%) についても約6割が『そう思う』と回答しており、家庭生活などにおける性別による固定的な役割分担意識があるということが考えられる。

性別にみると、全般的に女性より男性の方に性別役割分担意識がやや強い傾向にある。

年齢別にみると、特に「女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」という考えに対しては、20歳代（80.3%）、30歳代（78.5%）、40歳代（80.9%）と、約8割となっている。

●家事等の分担、最終決定者

家事等の分担については、「妻」が多数を占めており、「掃除、洗濯、食事のしたくなど家事全般」は約6割（57.6%）、「育児」は5割以上（51.5%）となっている。

一方、最終決定者については、「夫」は「不動産等の購入」（31.5%）、「夫の就職・転職」（40.5%）が最も高くなっているが、「妻」は「家計費の管理」（48.4%）、「妻の就職・転職」（37.3%）が最も高くなっている。

家事等の分担を「妻」と回答した割合は男女とも高く、年齢別にみると、30～60歳代で「妻」が家事等の分担をする割合が他の年代に比べて高くなっている。

●性別役割分担意識についての考え方

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が52.8%、「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が40.0%で、『同感しない』が12.8ポイント上回っている。

性別にみると、男性は『同感する』が45.7%、女性は『同感しない』が57.1%と高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて『同感する』の割合が高くなる傾向となっている。

●家事・育児・介護等に携わる時間

家事に携わる時間については、男性は平日が「30分未満」（38.9%）、土曜日と日曜日は「1～3時間未満」（土曜日：32.9%、日曜日：35.3%）が最も高くなっているが、女性は「1～3時間未満」（平日：33.9%、土曜日：33.4%、日曜日：32.7%）が最も高くなっており、男女で家事に携わる時間に差があることがわかる。

育児に携わる時間については、平日では男性は「30分未満」（54.3%）、女性は「1～3時間未満」（31.2%）が最も高くなっている。土曜日・日曜日は、男性は3時間未満が7割以上（土曜日：77.2%、日曜日：71.7%）、女性は3時間以上が5割以上（土曜日：56.0%、日曜日：56.8%）を占めている。

介護・看護に携わる時間については、どの曜日でも「30分未満」が男性（平日：60.3%、土曜日：50.8%、日曜日：55.6%）も女性（平日：45.0%、土曜日：45.0%、日曜日：45.0%）も最も高くなっている。

●子どもについての考え

理想とする子どもの数と実際の子どもの数を比較すると、4割超が理想より実際の子どもの数が少ないと回答しており、理由としては、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」で5割（49.9%）、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」で3割（30.1%）、「仕事と子育ての両立が困難だから」で2割（26.3%）を超えている。

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

●仕事、家庭生活、地域・個人の生活の理想と現実

《理想》では、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が30.7%と最も高く、女性は「『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したい」が29.6%と最も高くなっている。

《現実》では、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先している」が40.3%と最も高く、女性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』に専念している」が28.1%と最も高くなっている。

●父親の育児参加

父親の育児参加については、現実には『仕事を優先』（「仕事を優先」と「どちらかといえば仕事を優先」の合計）が男女とも約7割（男性：69.1%、女性：67.8%）と最も高くなっている。一方、希望でも4割以上（男性：43.3%、女性：46.1%）が『仕事を優先』となっているが、2割以上の差がみられる。

「仕事と育児を同時に重視」は、現実には男女とも約1割（男性：12.0%、女性：9.5%）となっているが、希望では4割強（男性：44.9%、女性：43.4%）となっており、3割以上の差がみられる。

●男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと

男性が家事、子育て等に参加するために必要なことについては、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が6割（59.8%）、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が4割（41.1%）、「男性の仕事中心の考え方を改めること」が3割（27.2%）となっている。

4 就業について

●仕事の能力・内容の男女差についての考え

仕事をこなす能力に対する男女差については、『あると思う』が6割以上（63.1%）となっている。

性別にみると、『あると思う』は、女性（61.4%）より男性（65.1%）の方が高くなっている。

また、男性向き、女性向きの仕事内容があるかについては、『あると思う』が9割（93.2%）を超えている。

●職場での男女の地位

職場で男女の地位が平等ではないと思う内容については、「賃金，昇進，昇格」が7割（69.1%），「能力の評価」（35.5%），「仕事に対する責任の求められ方」（35.3%），「採用時の条件」（29.9%）が3割となっている。

●中途退職の経験

途中で仕事を辞めた経験については，女性の約7割（68.8%），男性の約4割（39.1%）が「ある」と回答しており，女性は男性よりも約3割程度高くなっている。その理由については，男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が4割強（44.9%）と最も高い。一方，女性では「結婚（自主的）のため」が約3割（25.5%），「家事や育児に専念するため」が1割強（13.0%）となっている。再就職については，7割以上（72.1%）が「した」と回答しており，男性（85.2%）は女性（65.6%）より2割程度高くなっている。

年齢別にみると，20歳代は6割（59.3%）となっており，30歳代～60歳代に比べて1割以上低くなっている。

5 地域活動について

●地域活動

現在地域活動をしているかについては，「している」が約3割（30.1%）となっている。活動している内容については，「町内会関係」が4割（41.3%）を超え，次に「子ども関係」（13.5%），「高齢者関係」（9.3%）などが続いている。

今後，地域活動をすることについては，「今後，地域活動をしたいと思うが，現在はそれに向けた準備はしていない」が3割強（36.5%），次に「地域活動をしたいとは思わない」（22.6%），「わからない」（20.6%）となっている。

6 ドメスティック・バイオレンスについて

●ドメスティック・バイオレンスの経験

配偶者や恋人から暴力を受けた経験については，全体では「ある」が約1割（9.6%）となっており，前回調査と比較すると3.2ポイント減少している。

暴力の内容については，「大声でどなられたり，暴言を吐かれる」（71.0%），「『ばかだ，役立たずだ』などと言われる」（43.0%），「外出や人との付き合いを制限される」（39.3%）などが上位を占めている。

相手から受けた行為について，『相談できなかった』（「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」の合計）が6割（60.8%）と最も高く，「相談した」は38.3%と約4割となっている。また，女性の約5割（45.8%）は「相談した」となっているが，男性は0%となっている。

相談できなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」が約5割（47.7%）で最も高い。性別にみると、「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」（男性：23.5%，女性：45.5%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（男性35.3%，女性：13.6%）と男女間で2割以上の差がある項目がある。

7 男女共同参画社会について

●男女共同参画に関する用語等の周知度

男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」が7割（72.7%）で最も高く、「DV防止法」（56.1%）、「育児・介護休業法」（53.5%）で5割、「男女共同参画社会基本法」で3割（38.0%）を超えている。

●男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること

男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望することは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が6割（59.0%）で最も高く、次いで「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」で約5割（47.0%）、「子どものころからの男女共同参画教育」が約4割（37.9%）となっている。

●男女共同参画拠点施設

男女共同参画拠点施設の役割として期待することについては、「様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言」が4割（42.6%）と最も高く、次いで「講演会、シンポジウム、各種講座などの開催」（32.5%）、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」（29.0%）が約3割となっている。

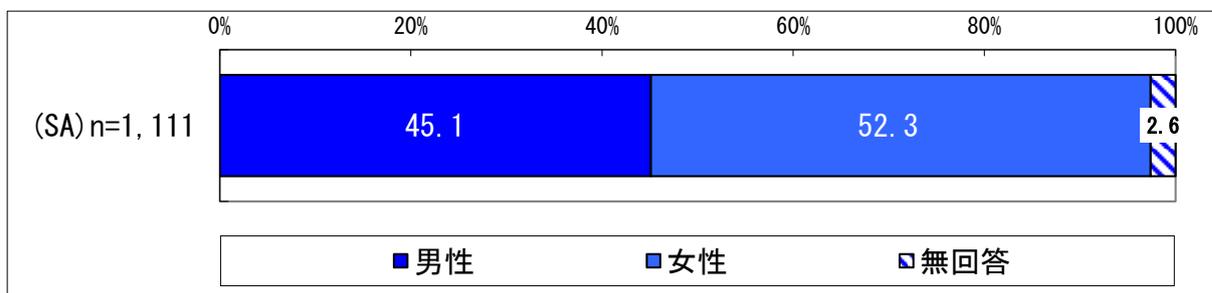
性別にみると、「男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供」で男性（32.9%）が女性（25.0%）を7.9ポイント上回っている。また、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」で女性（34.3%）が男性（23.0%）を11.3ポイント上回っている。



Ⅲ 調査結果

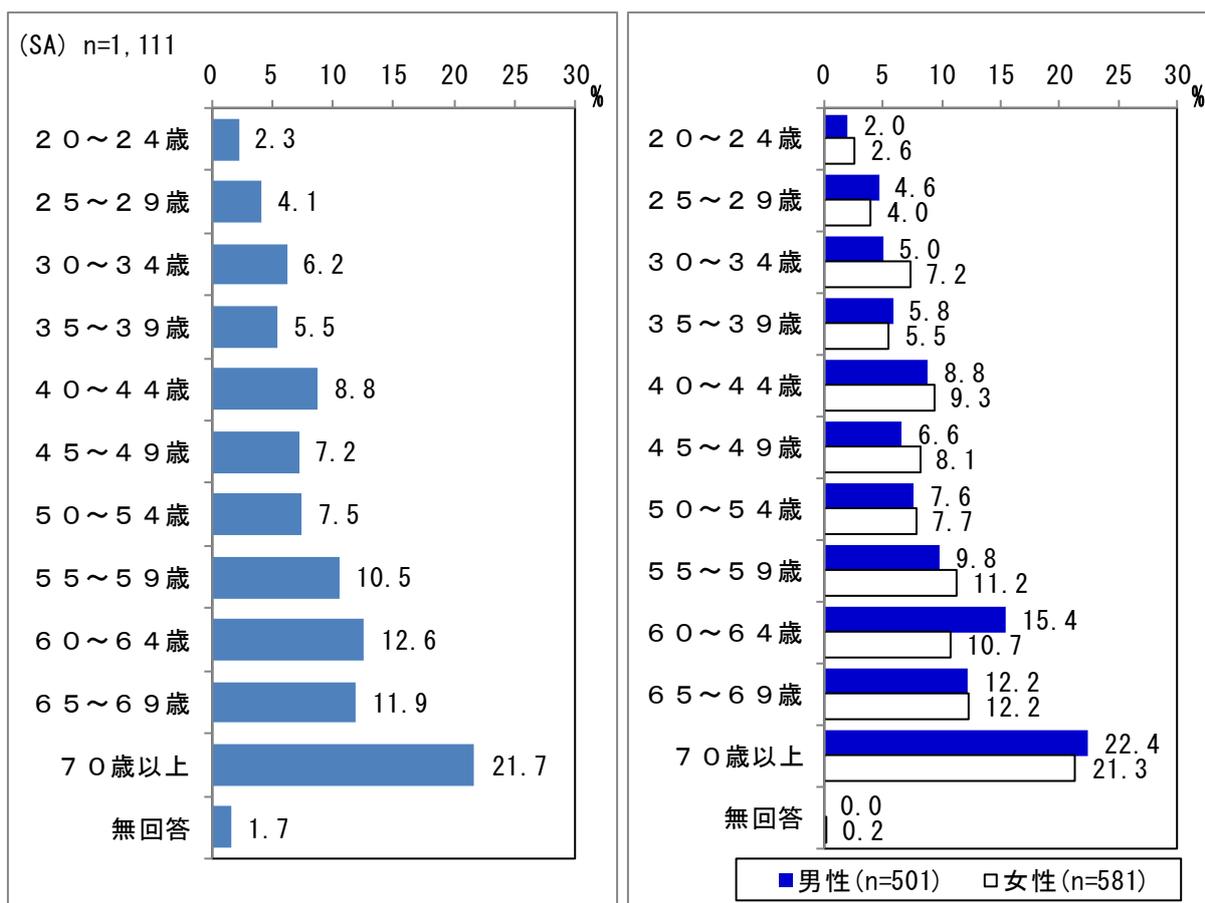
1 回答者属性

F 1 性別はどちらですか。(○は1つ)



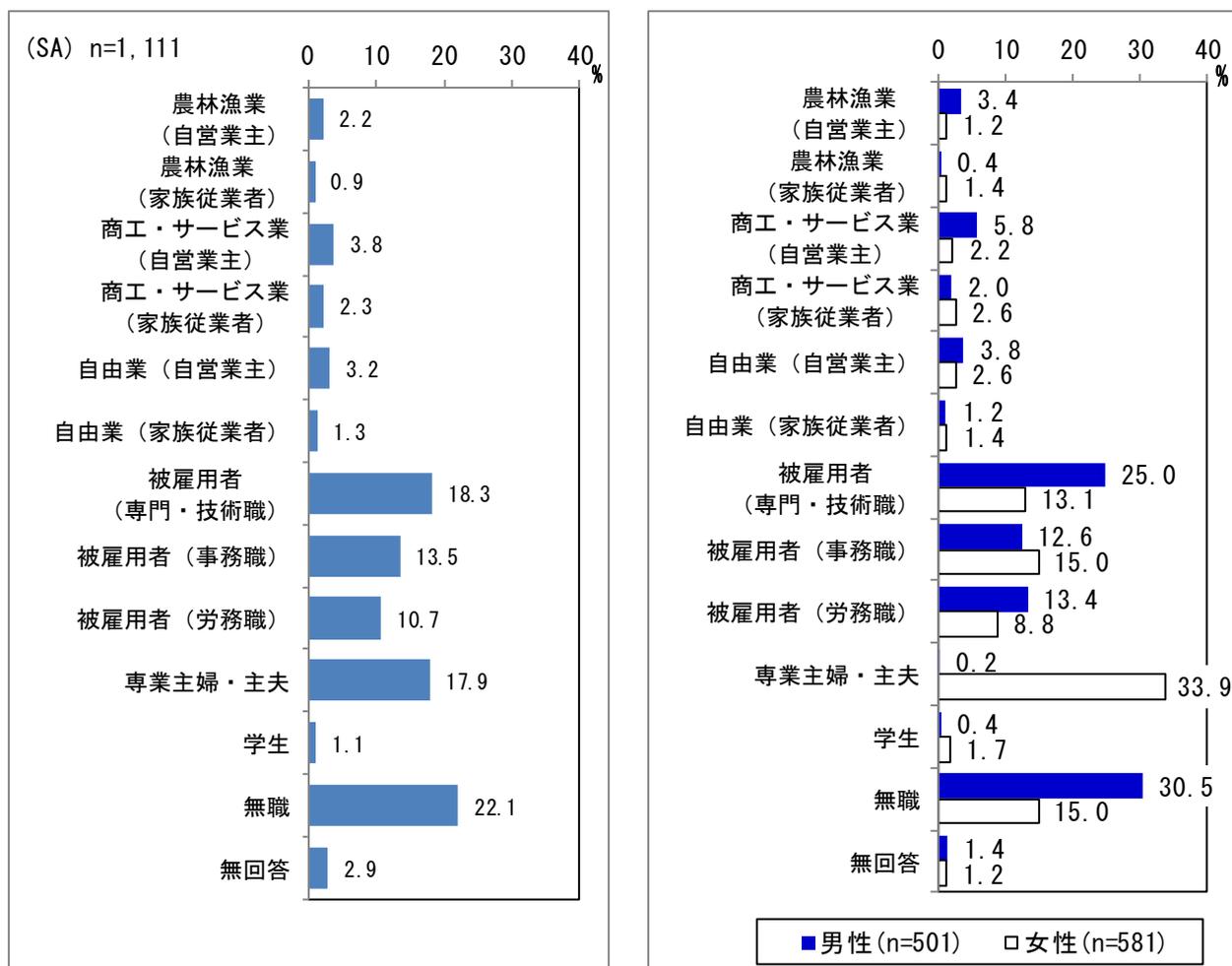
- ・回答者の性別は、「男性」が45.1%「女性」が52.3%となっており、「女性」の割合が高くなっている。

F 2 年齢（平成27年1月1日現在）をお答えください。(○は1つ)



- ・回答者の年齢層は、各層からの回答が得られているが、「70歳以上」が21.7%と最も高く、60歳代と55～59歳がやや高くなっている。

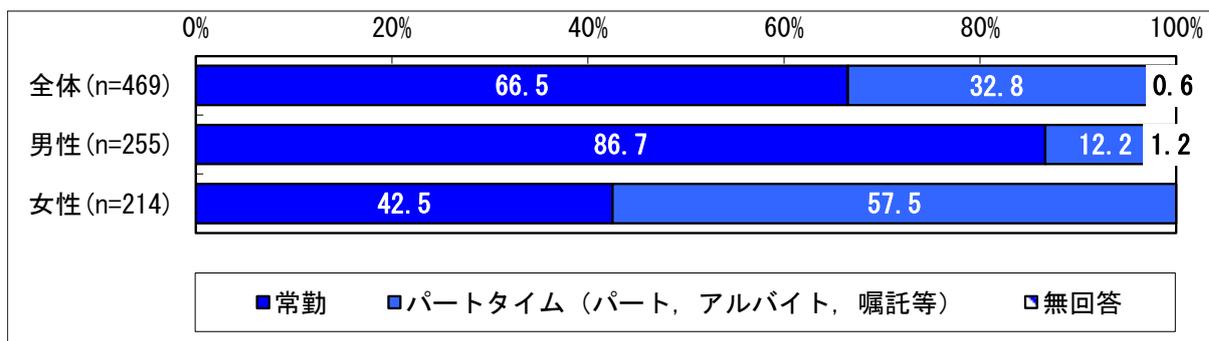
F 3 - 1 あなたの職業はどのような内容ですか。(○は1つ)
 (2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)



- ・回答者の職業は、「無職」が22.1%と最も高く、次いで「被雇用者(専門・技術職)」が18.3%、「専業主婦・主夫」が17.9%、「被雇用者(事務職)」が13.5%、「被雇用者(労務職)」が10.7%となっており、1割を超えている。
- ・性別にみると、男性では「無職」(30.5%)、女性では「専業主婦・主夫」(33.9%)が約3割とそれぞれ最も高くなっている。

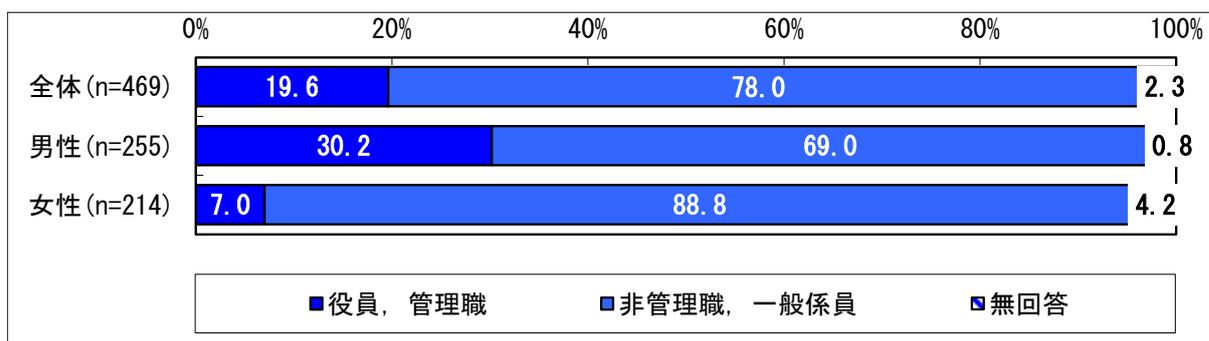
F3-2 F3-1で、7の「被雇用者（専門・技術職）」、8の「被雇用者（事務職）」、9の「被雇用者（労務職）」とお答えいただいた方にうかがいます。

(1) そのお仕事は常勤ですか。パートタイムですか。(○は1つ)



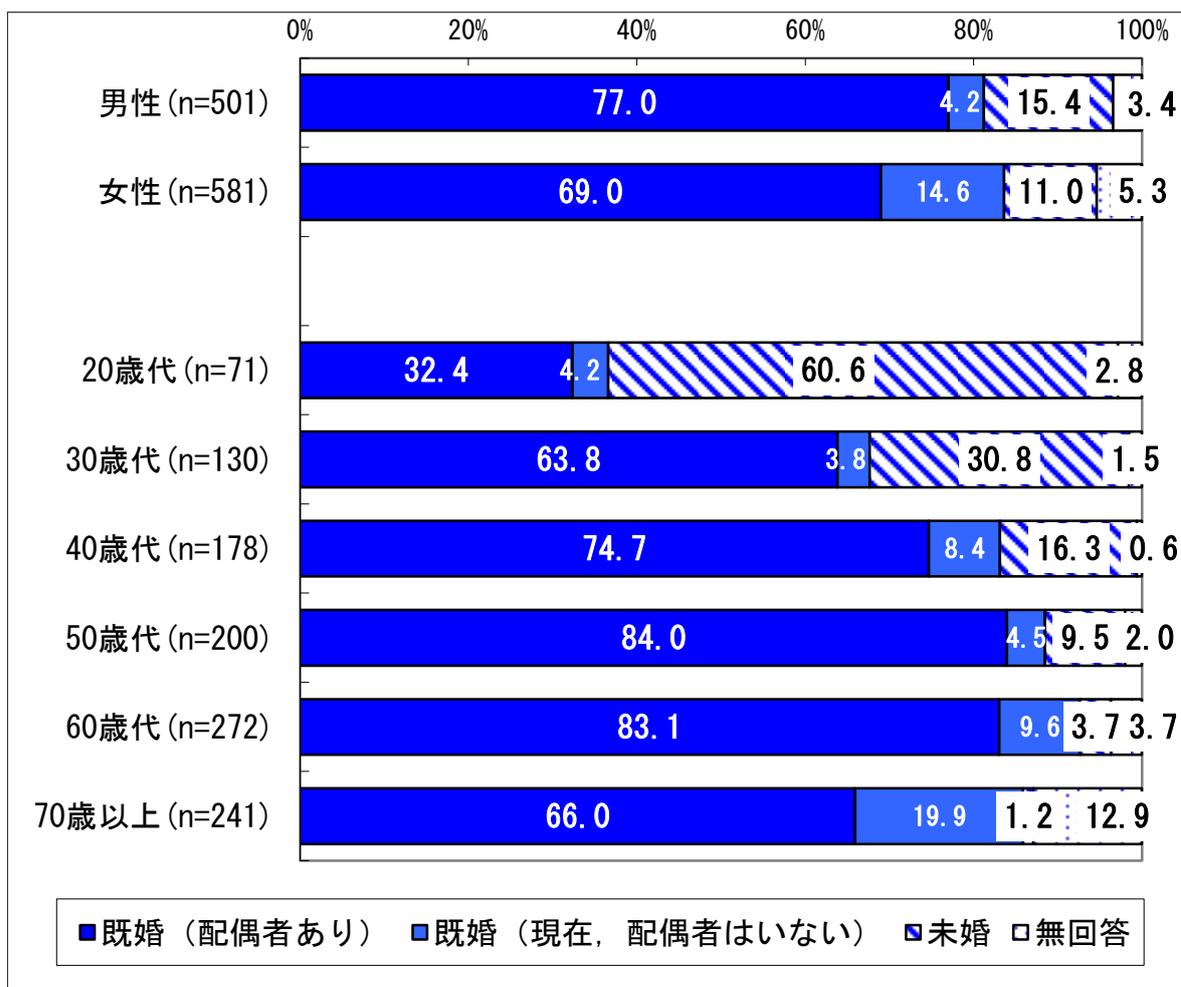
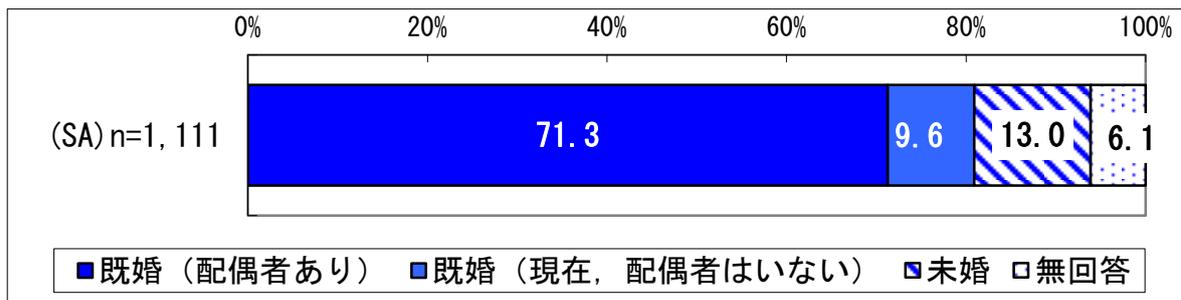
- ・被雇用者と回答した方の勤務形態は、「常勤」が66.5%、「パートタイム（パート，アルバイト，嘱託等）」が32.8%となっている。
- ・性別にみると、男性では「常勤」が約9割（86.7%）となっているのに対し、女性では「常勤」が4割程度（42.5%）で、「パートタイム（パート，アルバイト，嘱託等）」が6割超（57.5%）となっている。

(2) あなたの職名は何ですか。(○は1つ)



- ・職名については、「非管理職，一般係員」が78.0%、「役員，管理職」が19.6%となっている。
- ・性別にみると、「役員，管理職」との回答は、男性は30.2%だが、女性は7.0%と1割に満たない割合となっている。

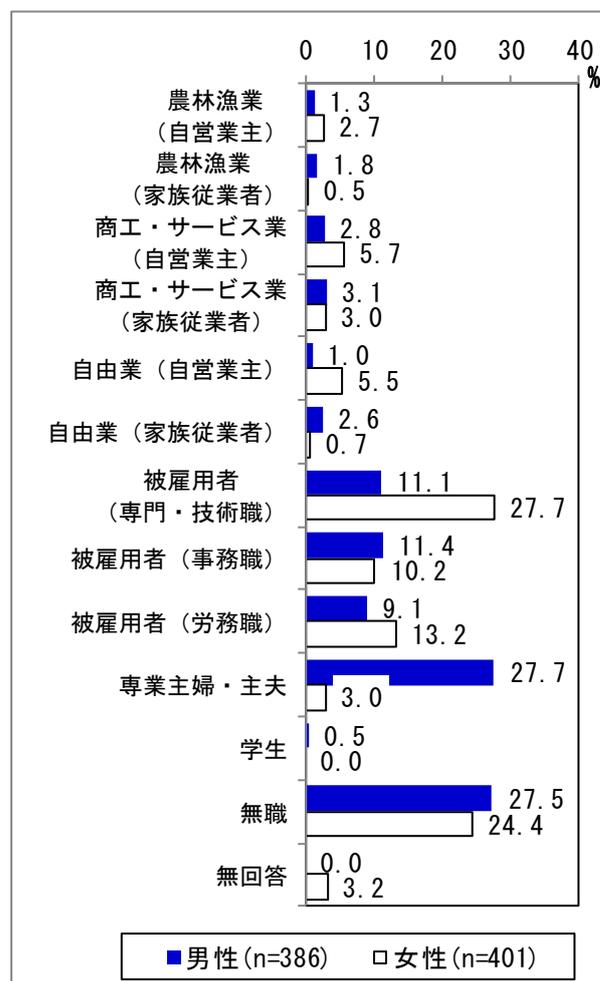
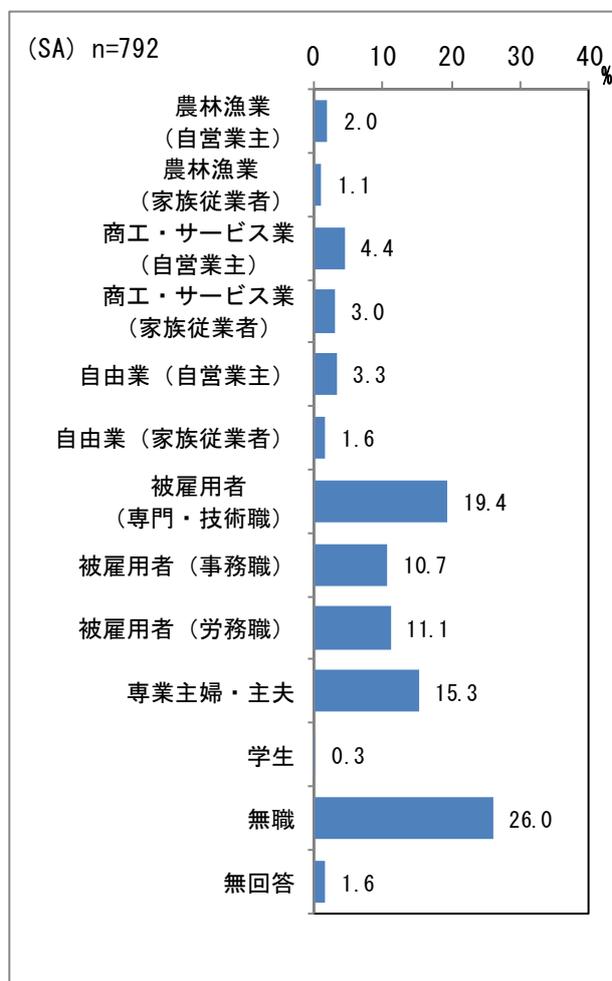
F 4 - 1 あなたは結婚されていますか。(○は1つ)



- ・結婚については、既婚（配偶者あり）が7割以上（71.3%）を占めている。
- ・年齢別にみると、30歳以上では、「既婚（配偶者あり）」が6割以上（30歳代：63.8%、40歳代：74.7%、50歳代：84.0%、60歳代：83.1%、70歳以上：66.0%）を占めているが、20歳代では「未婚」が約6割（60.6%）となっている。

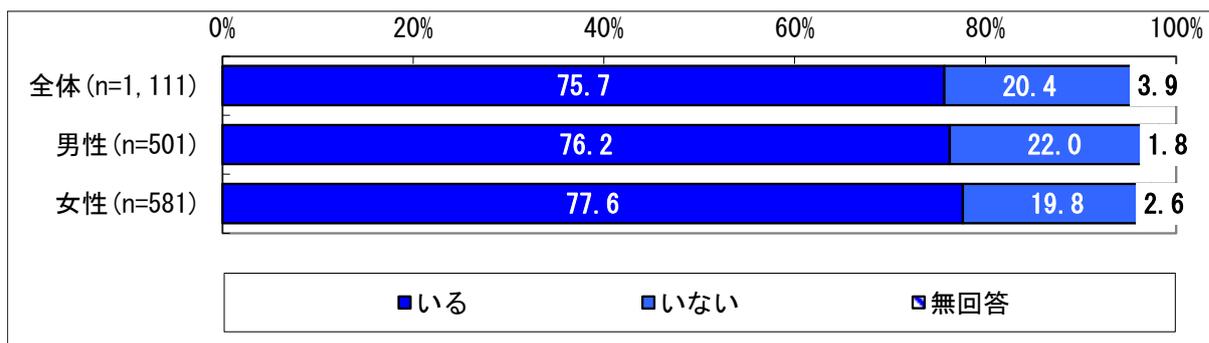
F4-2 F4-1で、1の「既婚（配偶者あり）」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたの配偶者の職業はどのような内容ですか。（○は1つ）
（2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ）



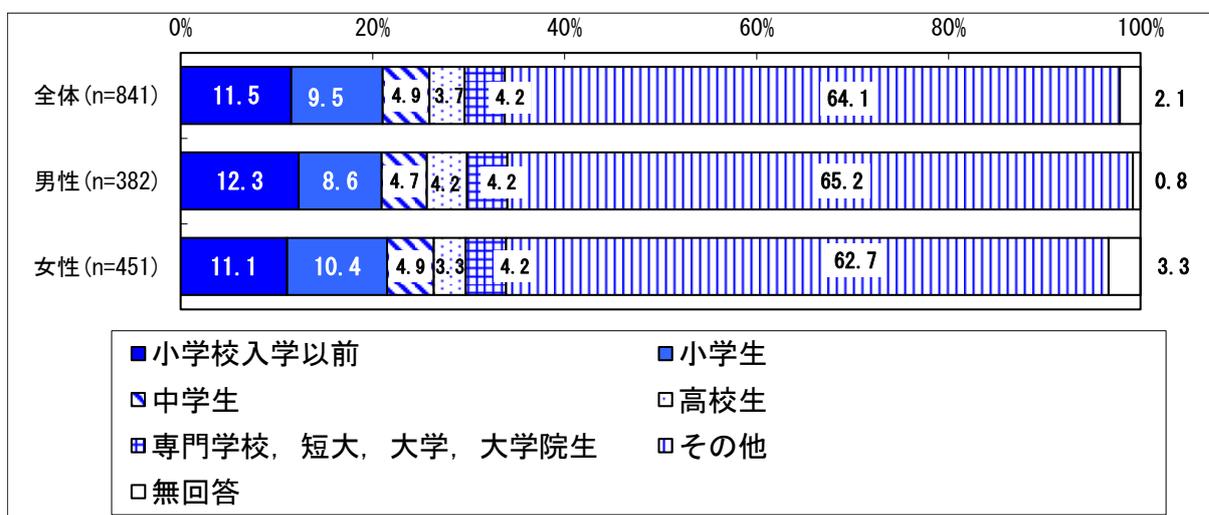
- ・ 配偶者の職業については、「無職」が 26.0%と最も高く、次いで「被雇用者（専門・技術職）」が 19.4%、「専業主婦・主夫」が 15.3%となっている。
- ・ 性別にみると、男性では「専業主婦・主夫」（27.7%）、女性では「被雇用者（専門・技術職）」（27.7%）がそれぞれ最も高くなっており、回答者の職業とほぼ反対の結果となっている。

F5-1 あなたにはお子さんがいますか。(〇は1つ)



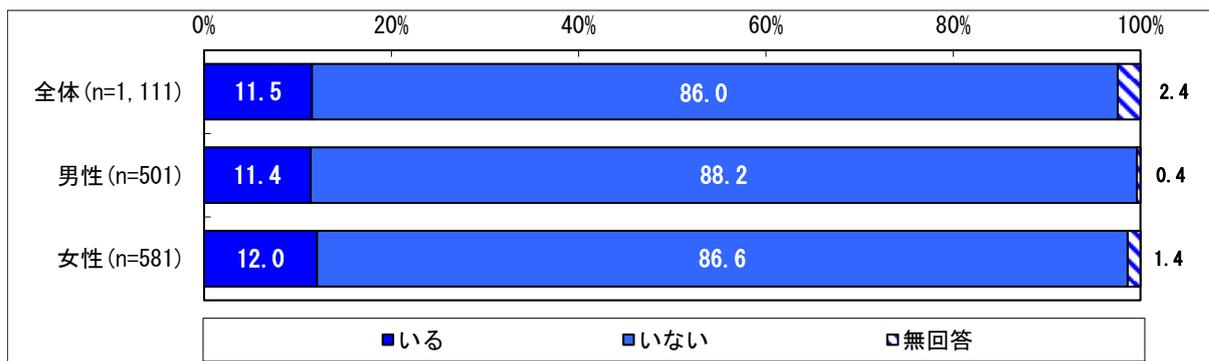
・子どもが「いる」方は、約8割(75.7%)となっている。

F5-2 F5-1で、1の「いる」とお答えいただいた方にうかがいます。
一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。(〇は1つ)



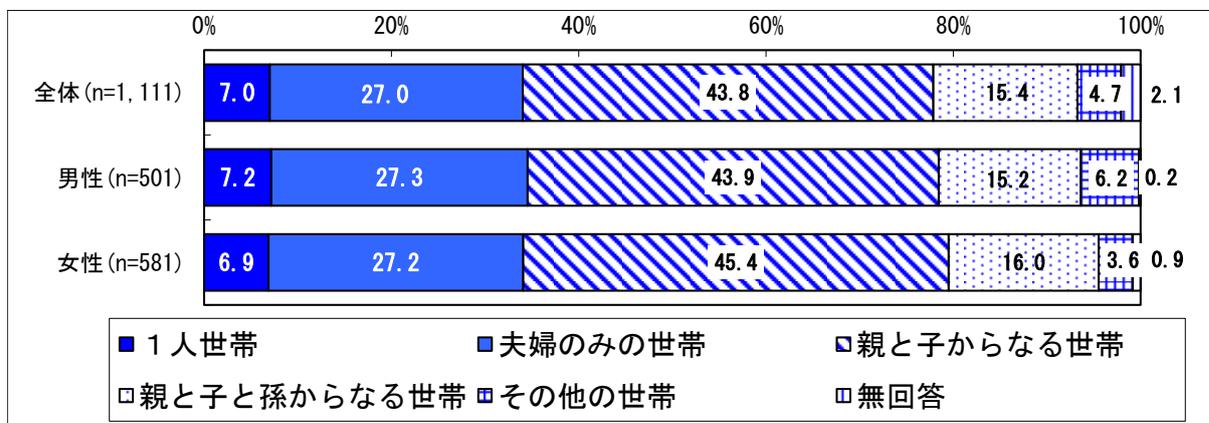
・一番下の子どもの状況については、「その他」が64.1%と最も高く、学校をすでに卒業、または就職している等の状態が考えられる。

F 6 お宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。(○は1つ)



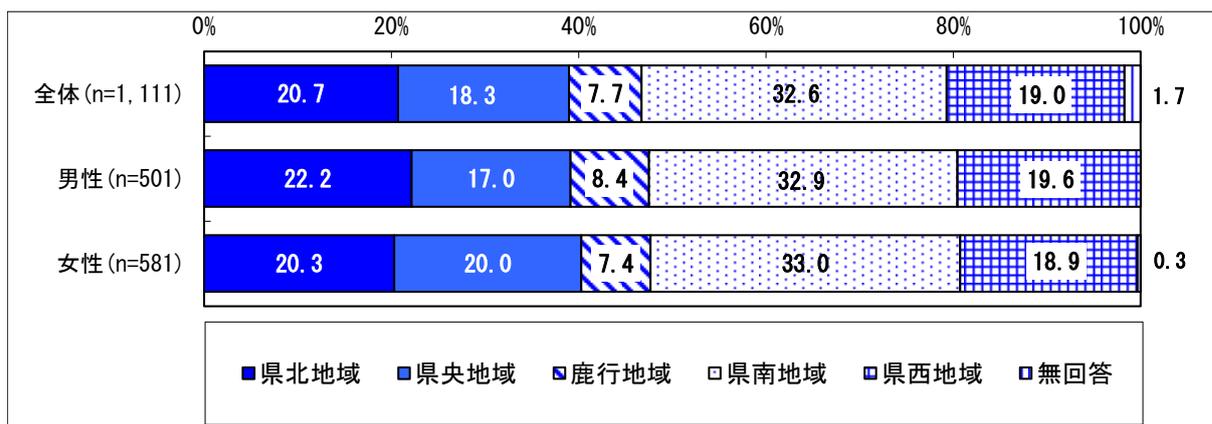
- ・回答者のうち、介護を必要とする高齢者がいるのは11.5%となっている。

F 7 現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。(○は1つ)



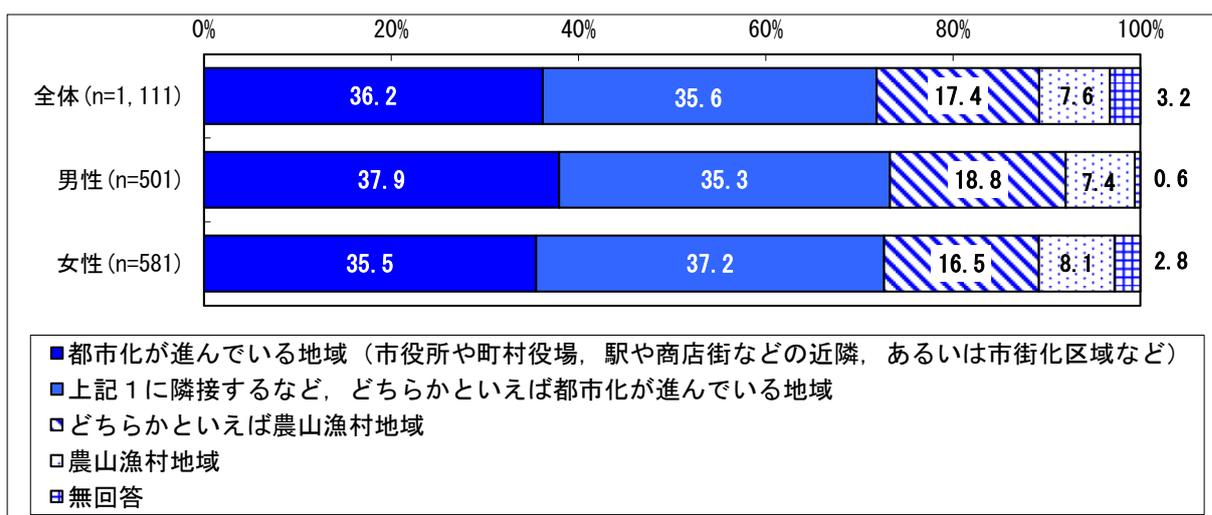
- ・回答者の家族構成は、「親と子からなる世帯」が43.8%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が27.0%、「親と子と孫からなる世帯」が15.4%となっている。

F 8 - 1 あなたが現在お住まいの市町村を○印で囲んでください。(○は1つ)



- ・ 回答者の居住地域は、県内の人口構成にほぼ沿ったかたちとなっている（Iの調査対象参照）。

F 8 - 2 あなたのお住まいの地域は次のどれに該当すると思いますか。(○は1つ)

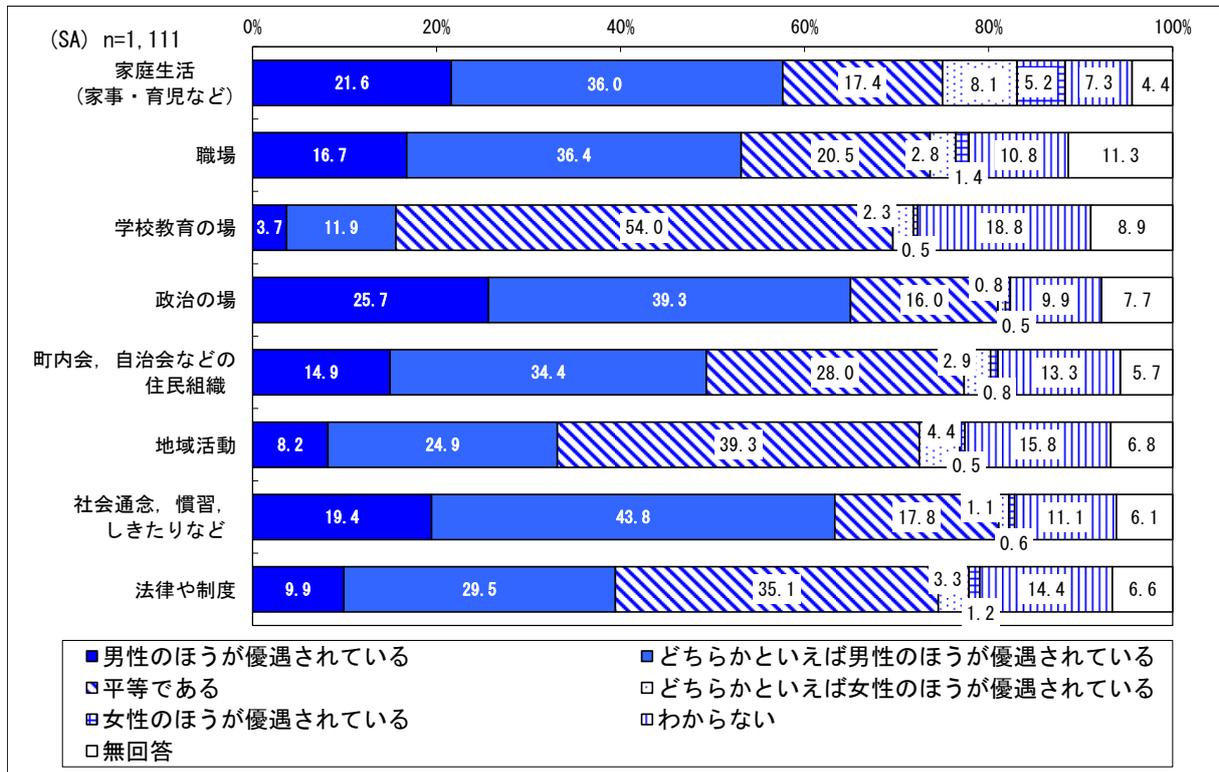


- ・ 都市と農村の区分については、「都市化が進んでいる地域」と「どちらかといえば都市化が進んでいる地域」を合わせた『都市化地域』が71.8%と7割を超えている。

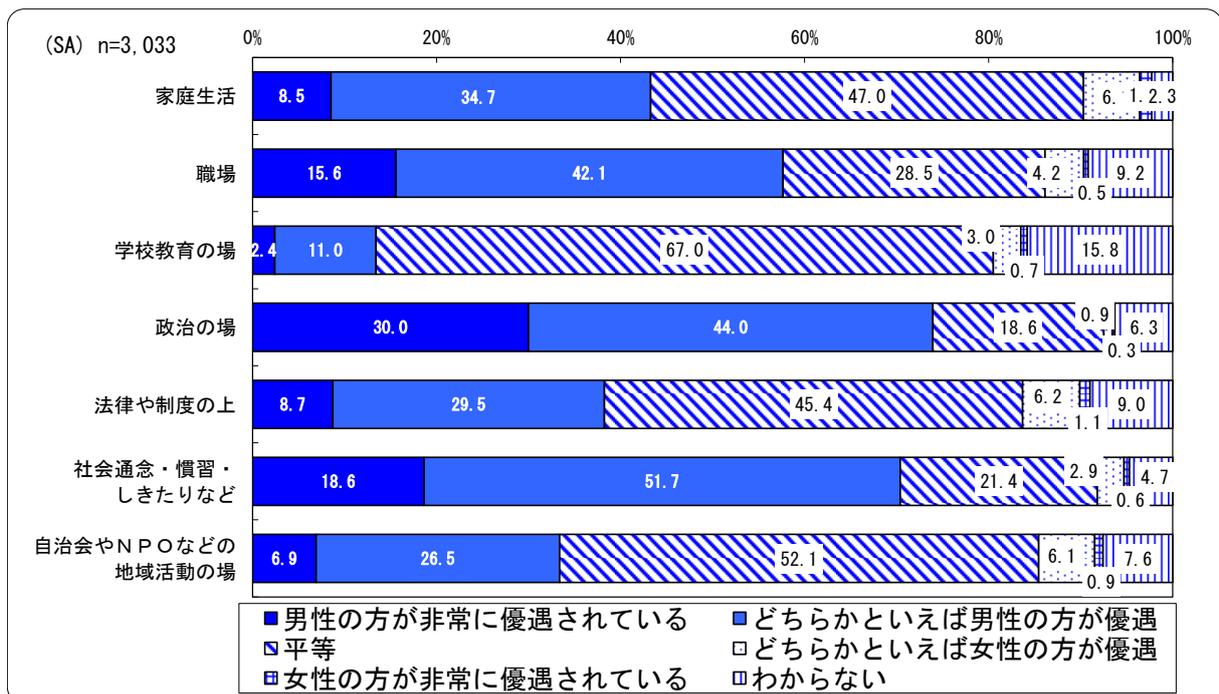
2 男女の地位の平等に関する意識

(1) 各分野の男女の地位

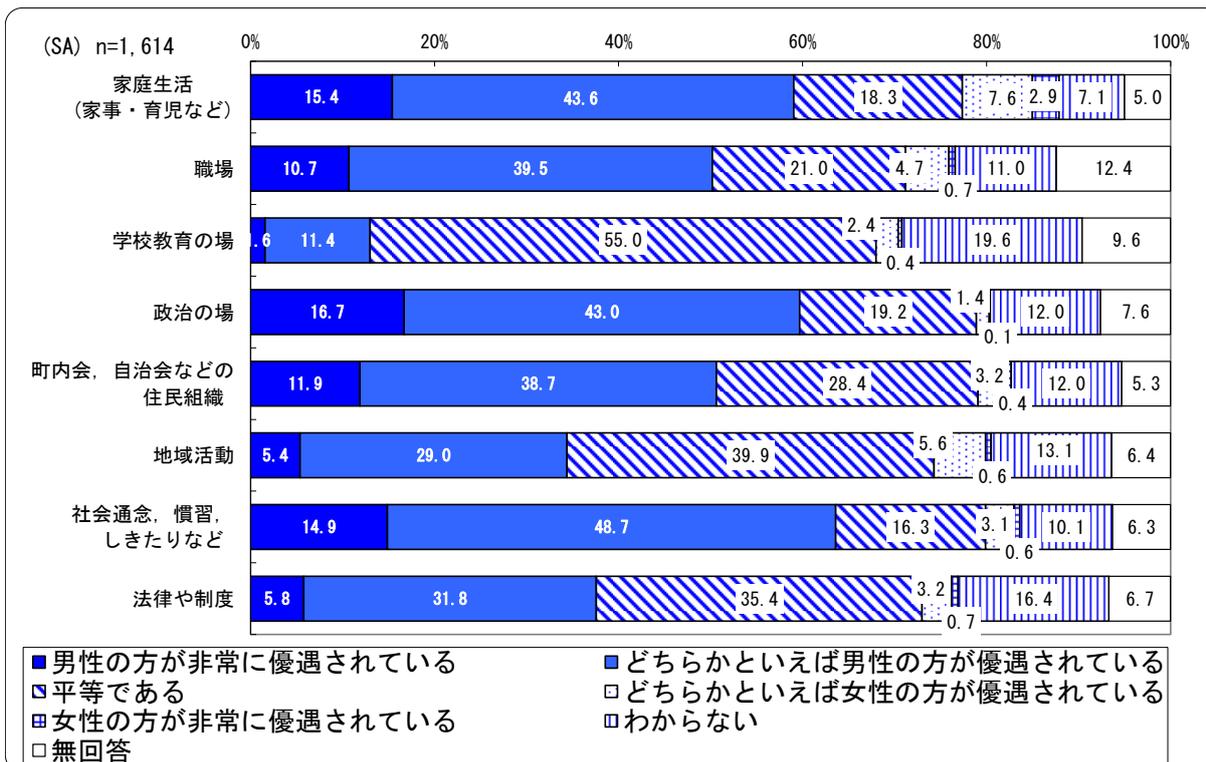
問1 次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)



■平成24年全国



■平成 22 年茨城県



■ 『学校教育の場』については、平等感が高いものの、『家庭生活（家事，育児など）』、『政治の場』・『社会通念，慣習，しきたりなど』では、「男性の方が優遇されている」と感じている割合が6割前後と高い

男女の地位は、ほとんどの分野で「男性の方が優遇されている」と感じている回答者の割合が高くなっている。「平等」だと感じている割合が半数を超えている分野は、『学校教育の場』の54.0%のみとなっている。

『家庭生活（家事，育児など）』については、17.4%が「平等」と感じており、前回調査の18.3%とほぼ同様であるが、全国の47.0%よりも低くなっている。

『職場』については、20.5%が「平等」と感じており、前回調査の21.0%とほぼ同様であるが、全国の28.5%よりも低くなっている。

『学校教育の場』については、54.0%が「平等」と感じており、前回調査の55.0%とほぼ同様であるが、全国の67.0%より低くなっている。

『政治の場』については、16.0%が「平等」と感じており、前回調査の19.2%から3.2ポイント減少しており、全国の18.6%よりも低くなっている。

『町内会，自治会などの住民組織』については、28.0%が「平等」と感じており、前回調査の28.4%とほぼ同様の結果となっている。

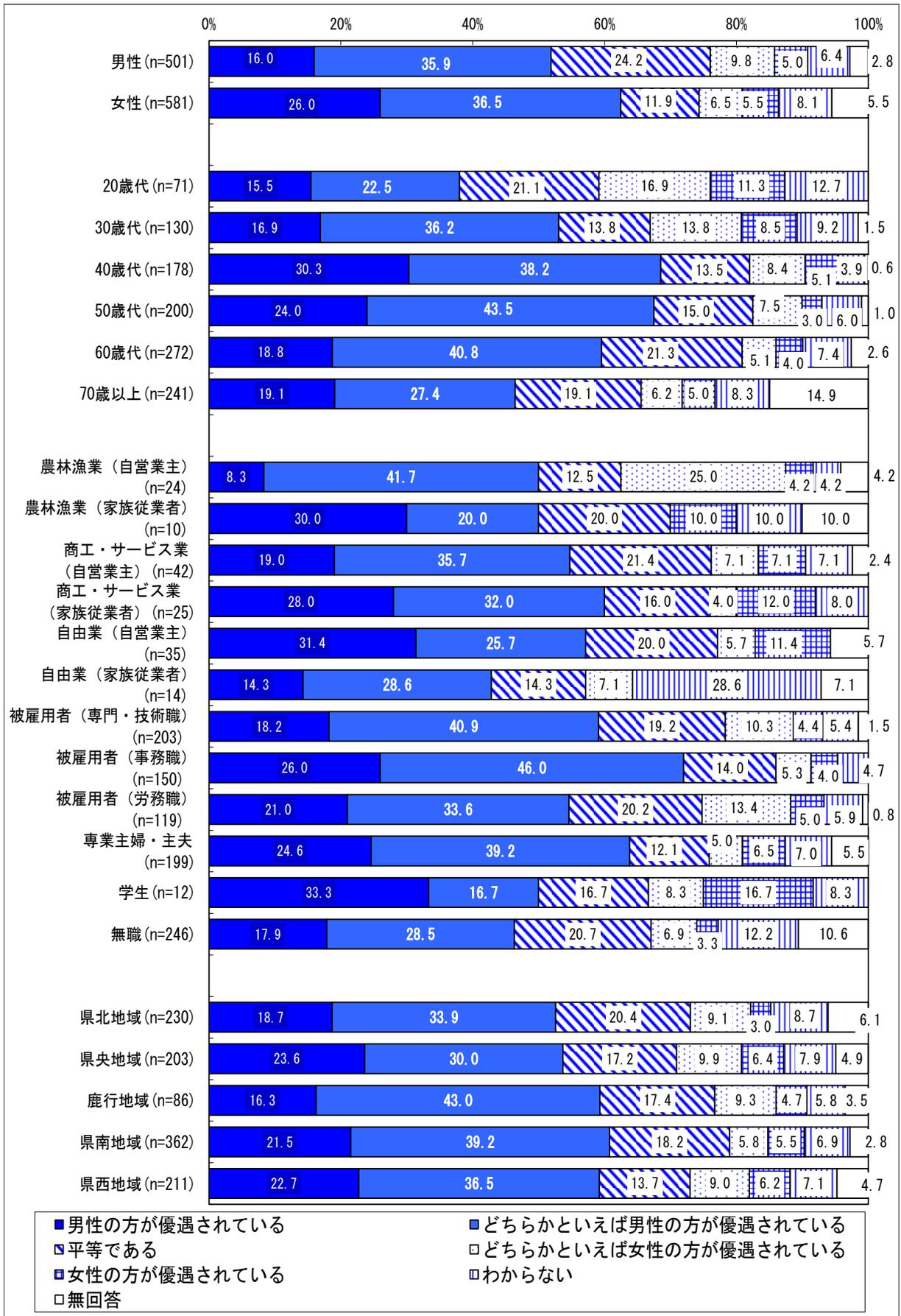
『地域活動』については、39.3%が「平等」と感じており、前回調査の39.9%とほぼ同様の結果となっている。

『社会通念，慣習，しきたりなど』については、17.8%が「平等」と感じており、前回調査の16.3%から1.5ポイント増加しているが、全国の21.4%よりも低くなっている。

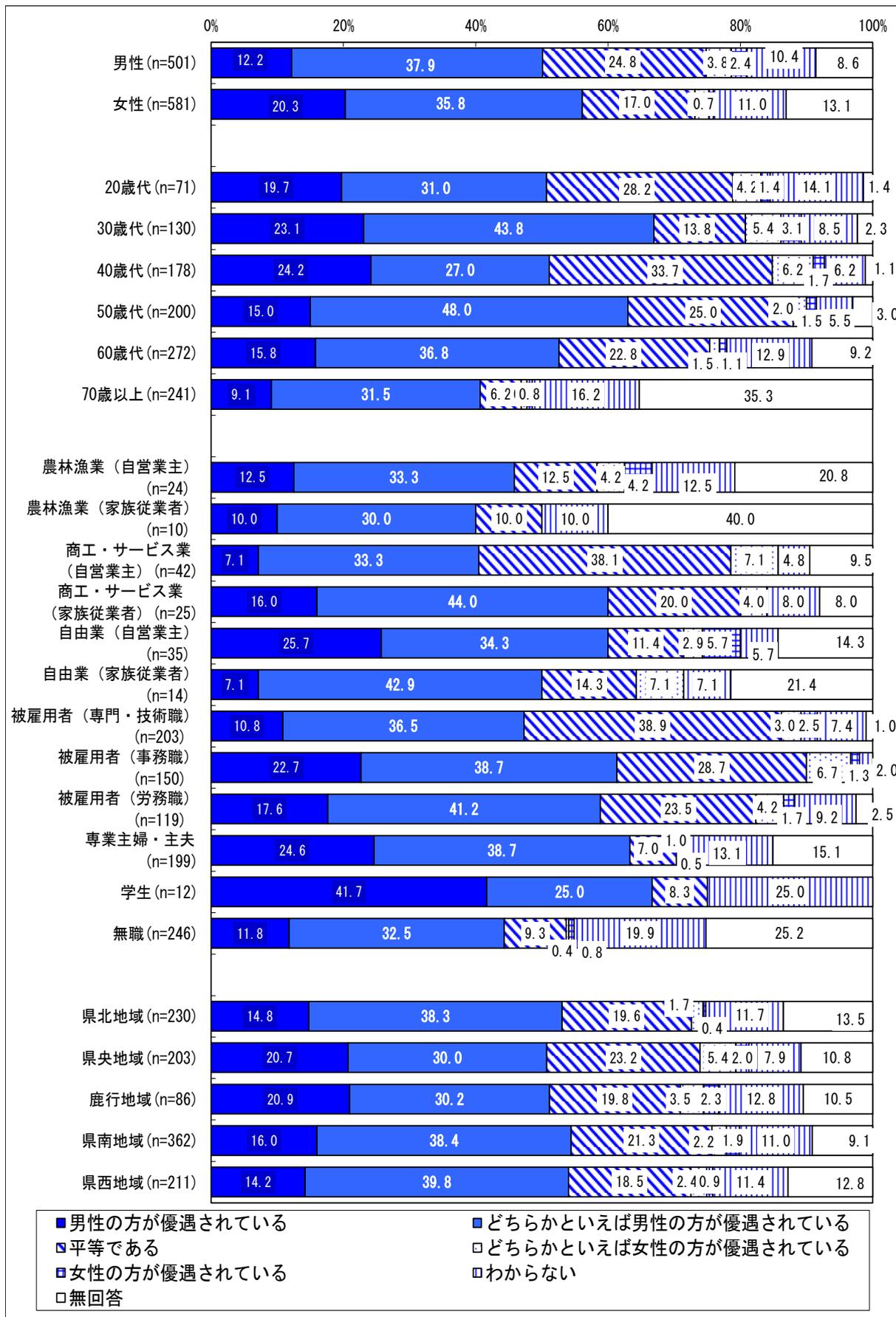
『法律や制度』については、35.1%が「平等」と感じているが、全国の45.4%よりも低くなっている。特に、性別での差が他の分野より大きく、回答割合に2割ほどの差がある。

■各分野の男女の地位（各属性別）

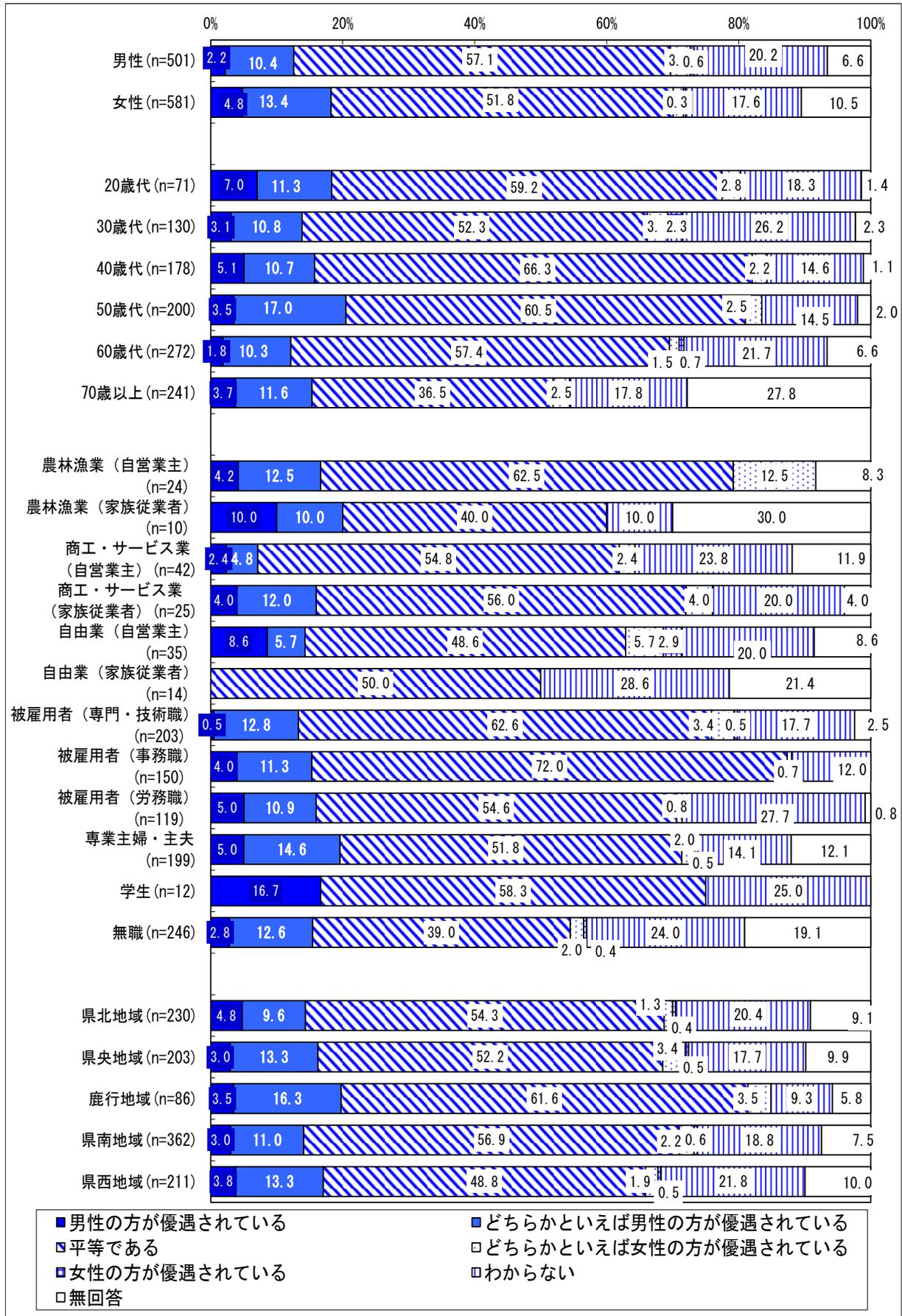
1. 家庭生活（家事・育児など）



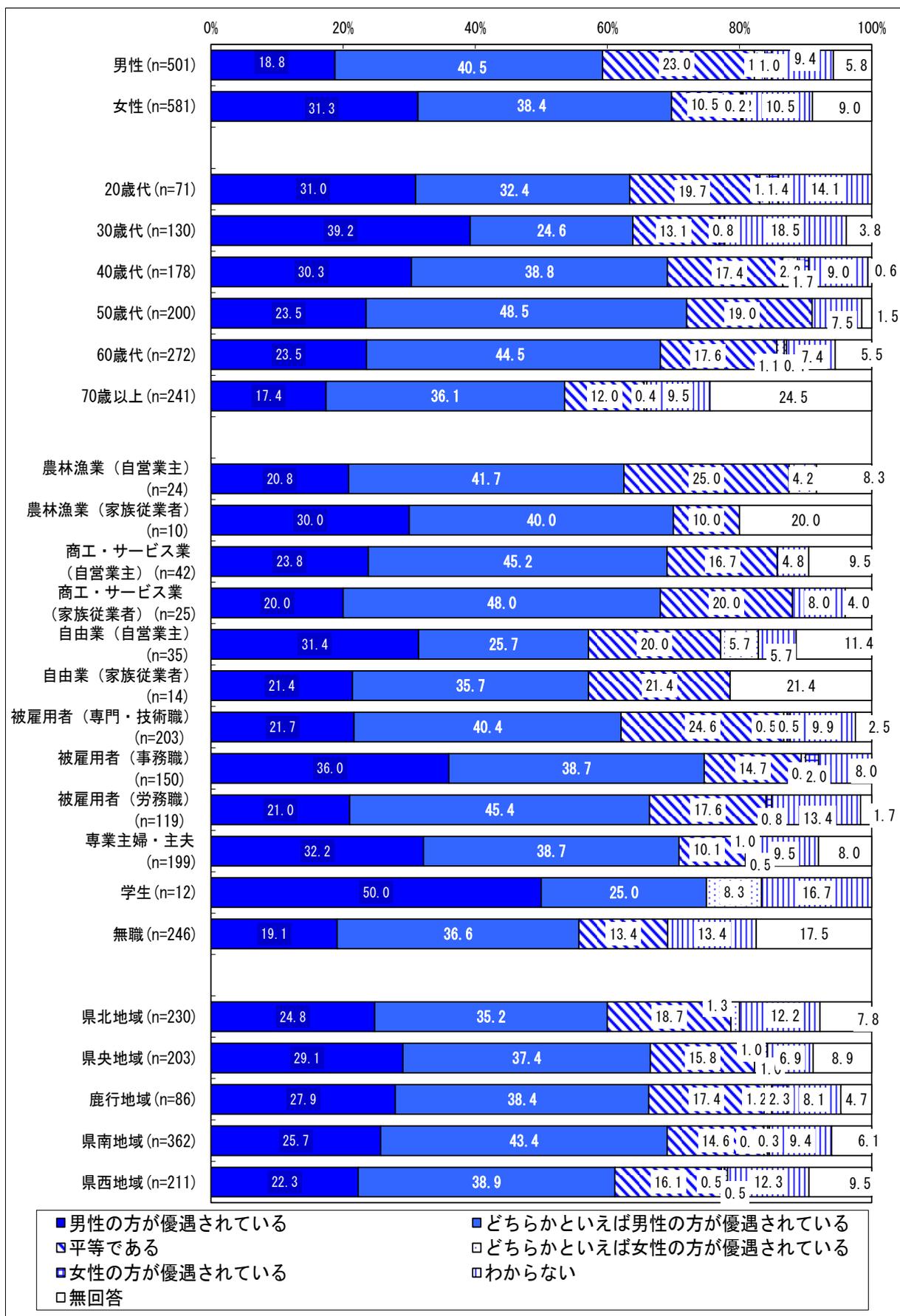
2. 職場



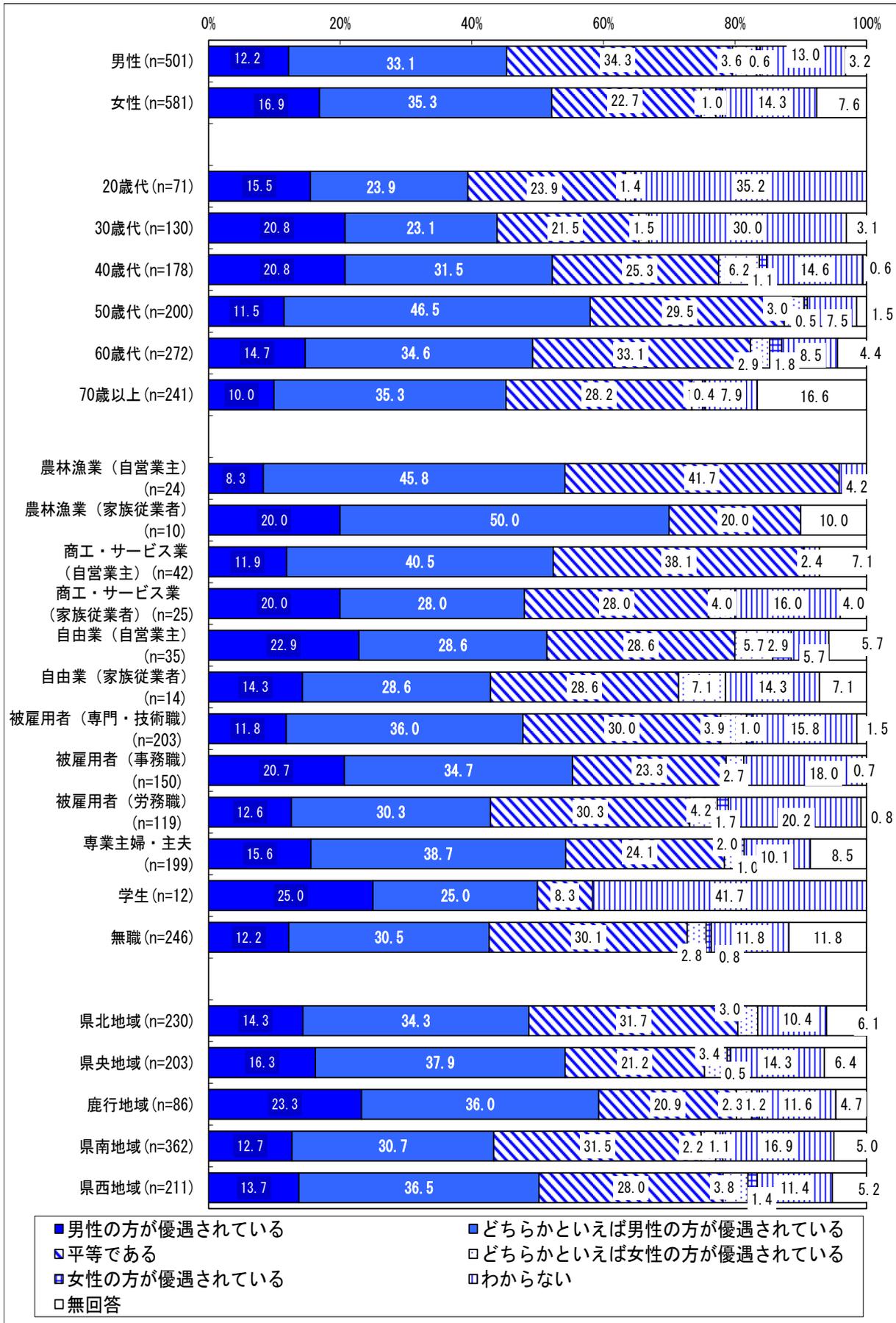
3. 学校教育の場



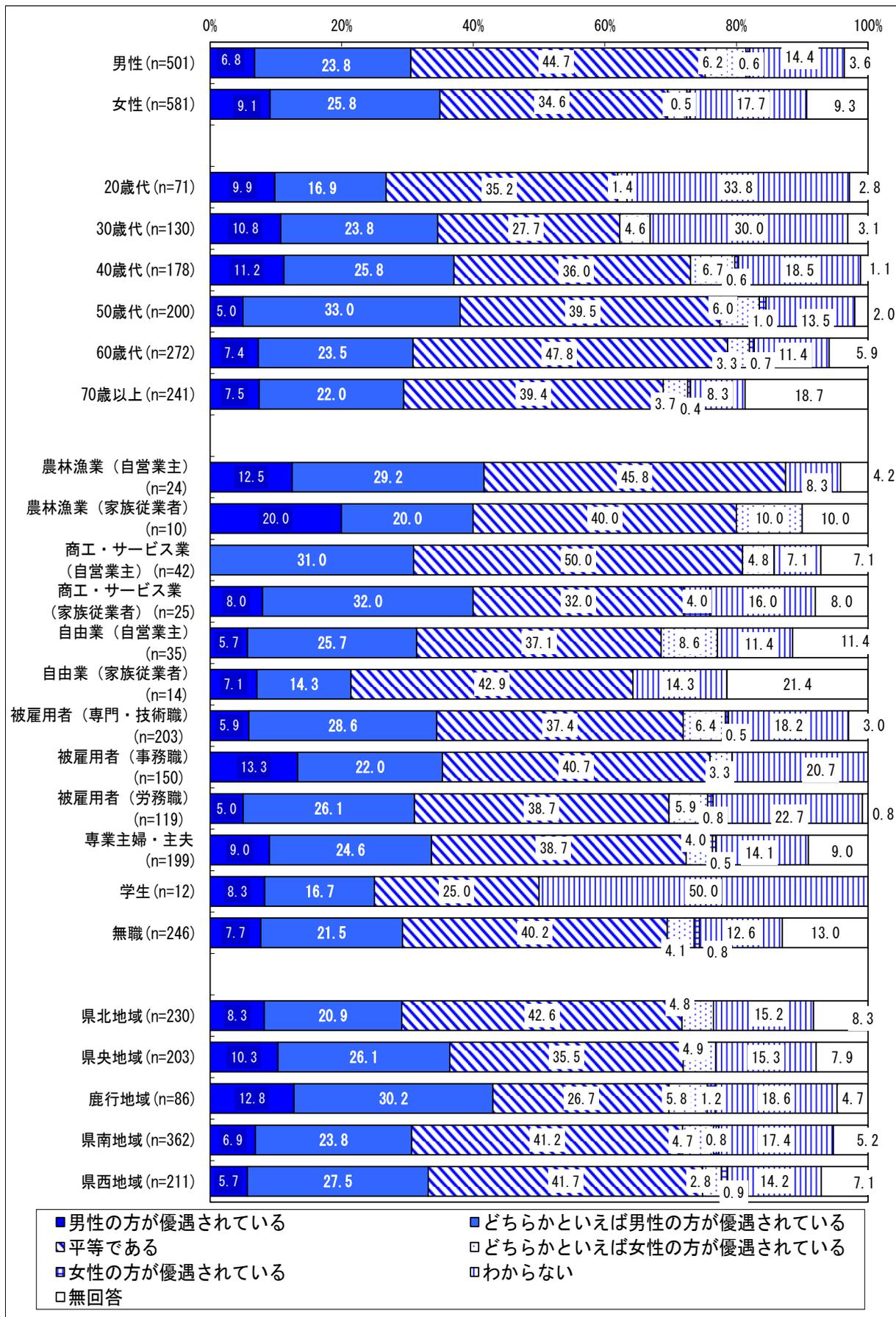
4. 政治の場



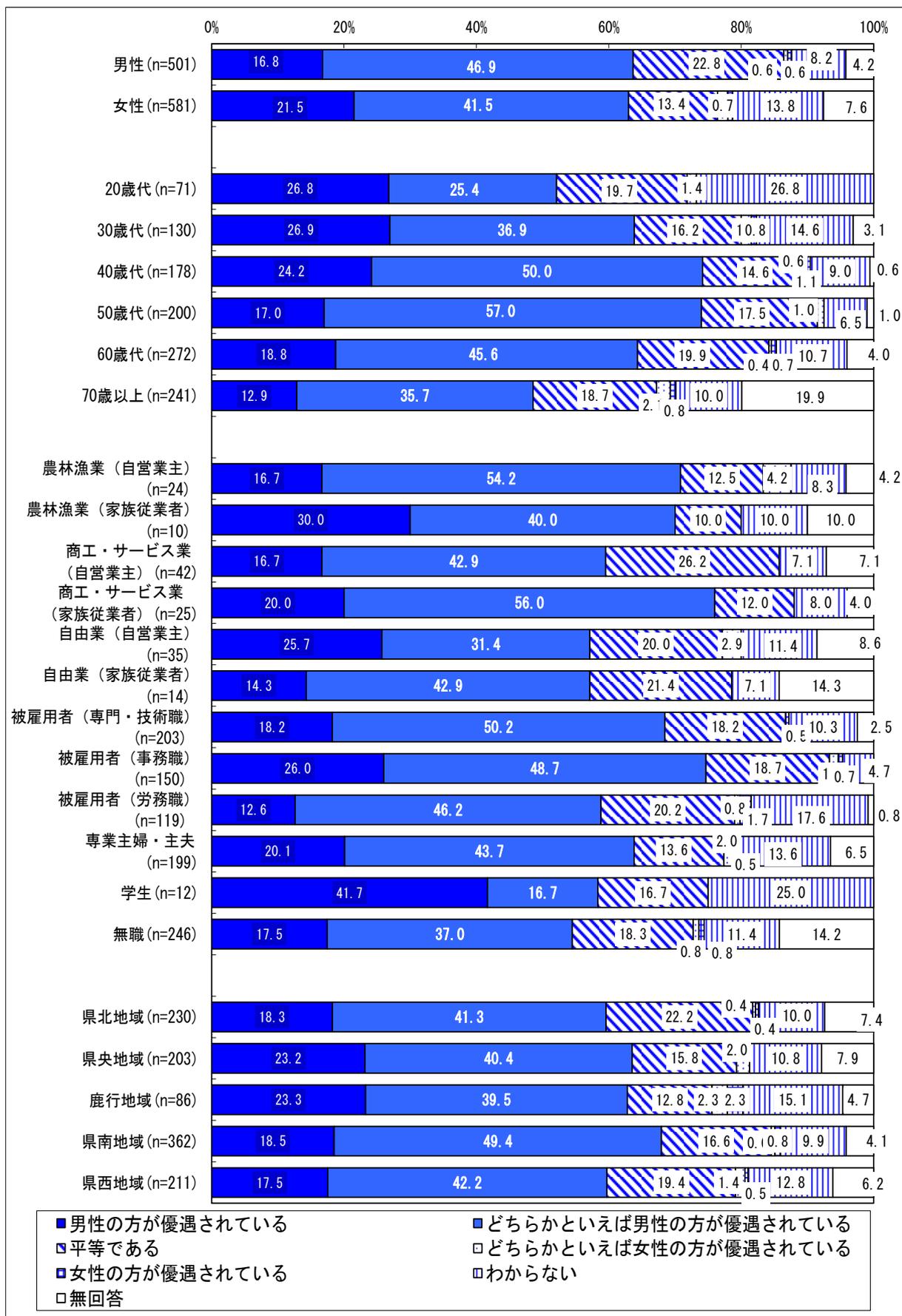
5. 町内会、自治会などの住民組織



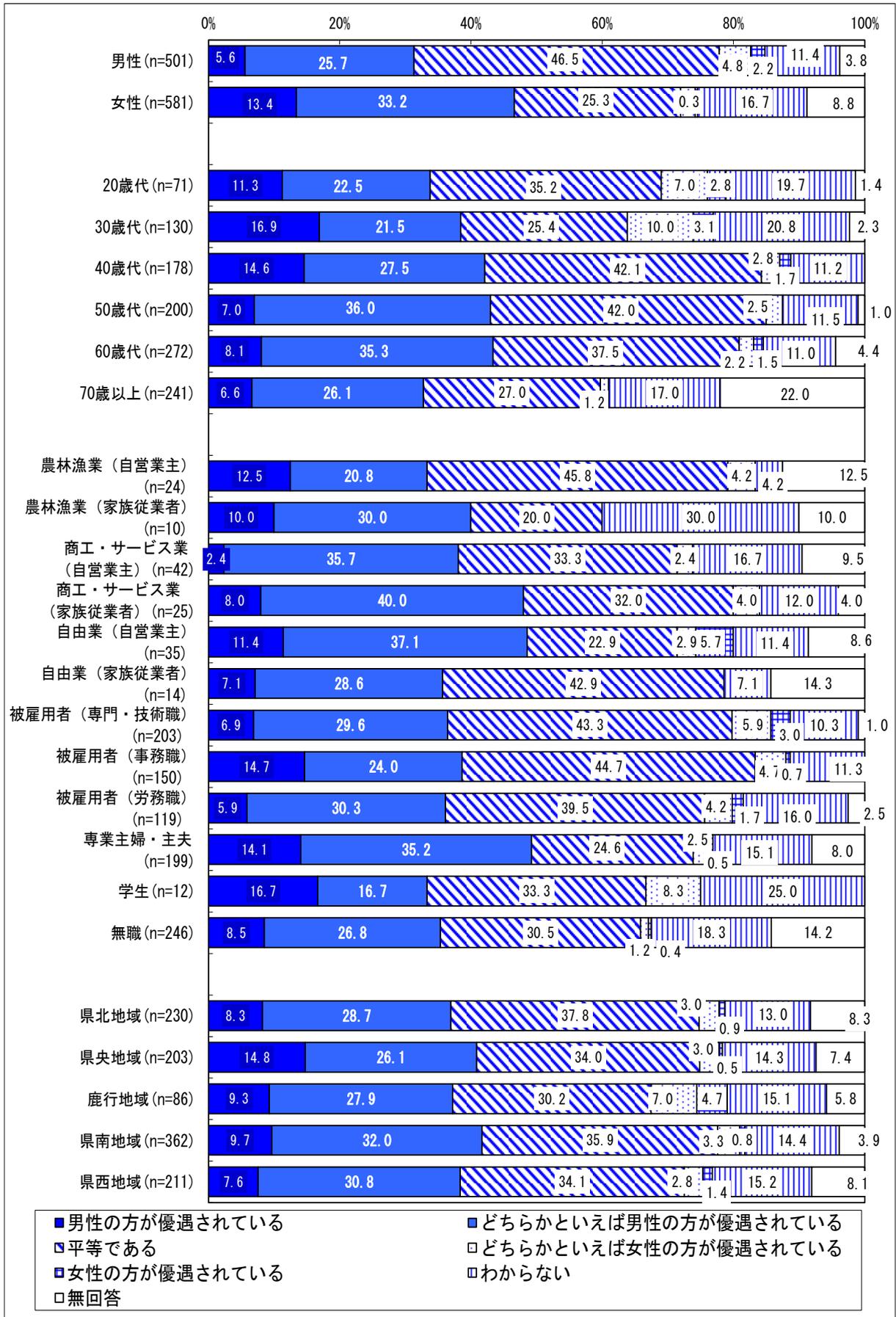
6. 地域活動



7. 社会通念, 慣習, しきたりなど

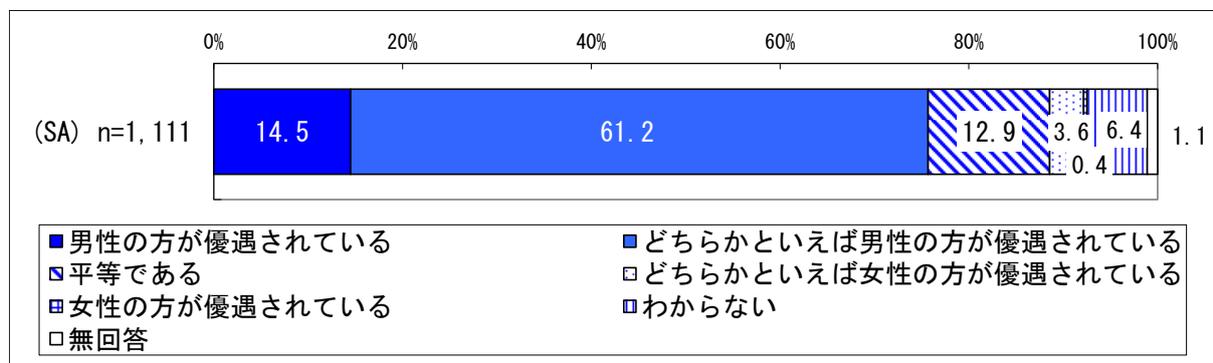


8. 法律や制度

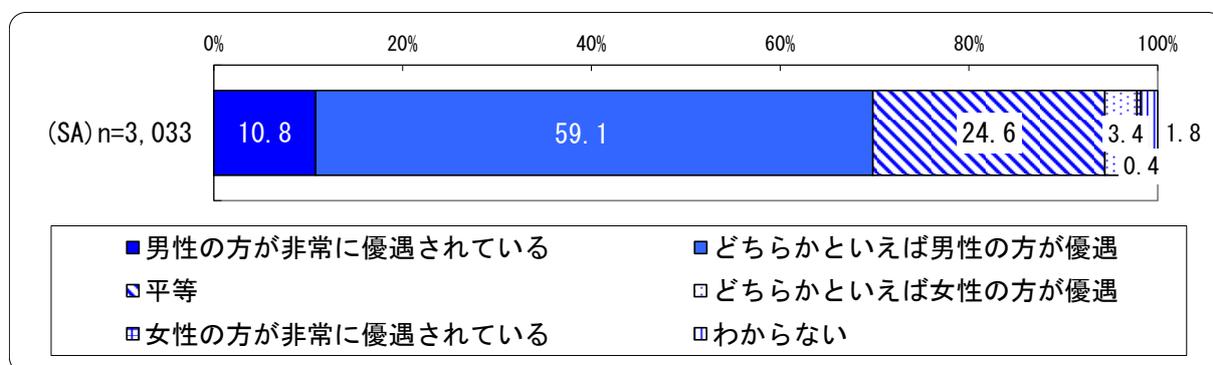


(2) 社会全体でみた男女の地位

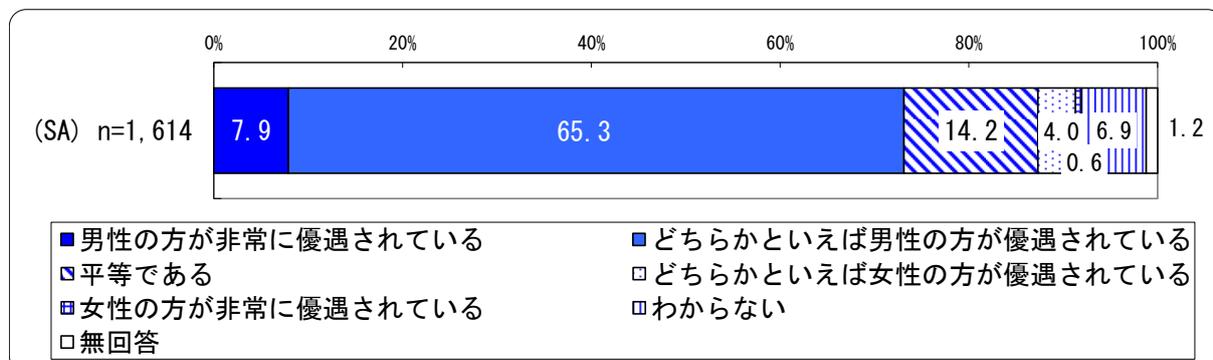
問2 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていますか。(〇は1つ)



■平成24年全国



■平成22年茨城県



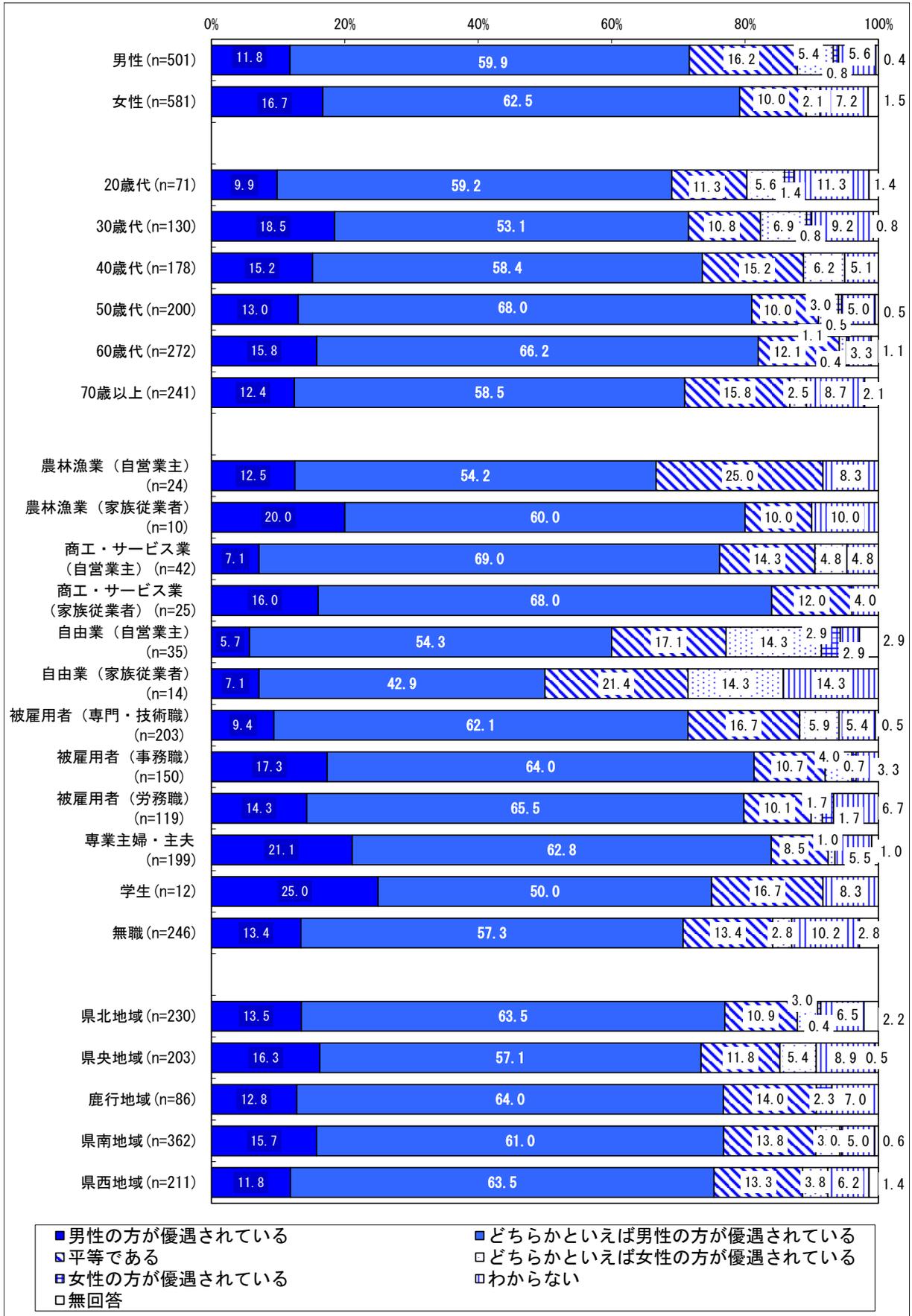
■回答者の約7割は、社会全体でみたとき、『男性の方が優遇されている』と感じている

社会全体でみた男女の地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』との回答が75.7%を占めている。「平等である」(12.9%)との回答は、前回調査の14.2%より1.3ポイント減少し、全国の24.6%よりも低くなっている。

性別にみると、『男性の方が優遇されている』は男性が71.7%、女性が79.2%で7.5ポイントの差がある。

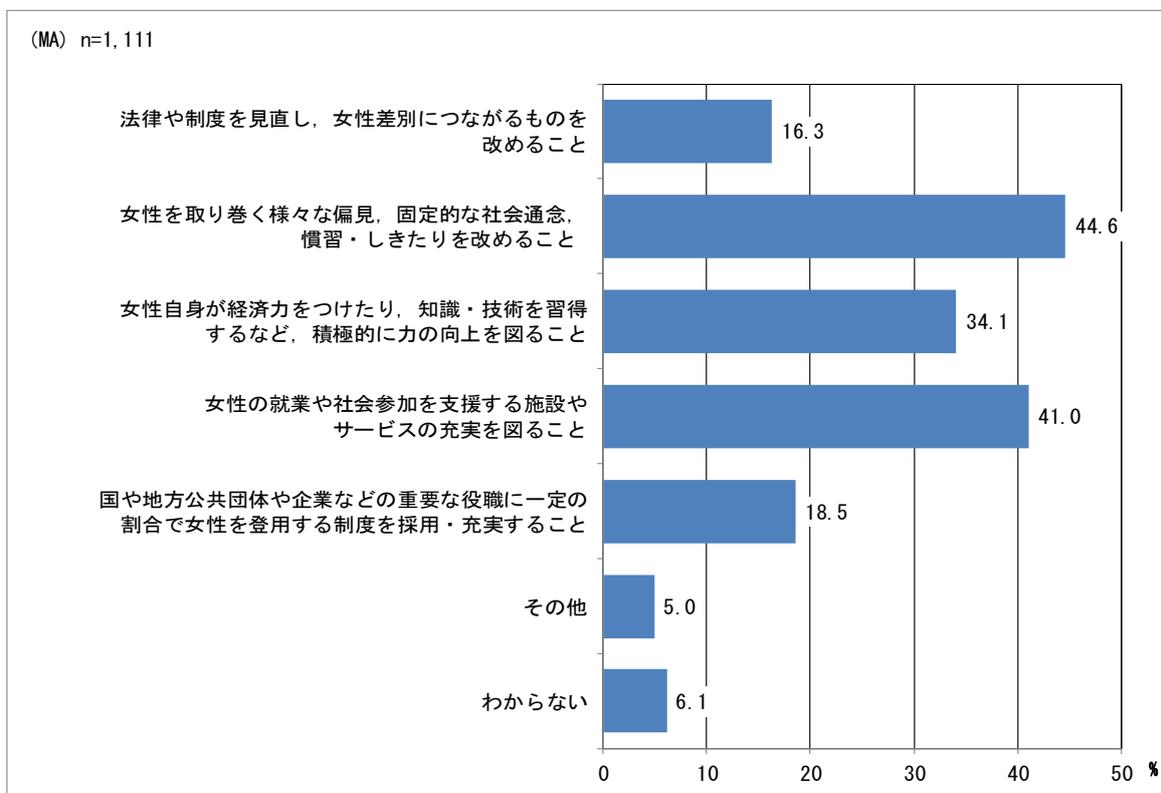
年齢別にみると、『男性の方が優遇されている』は50歳代で81.0%、60歳代で82.0%と、他の年代に比べて高くなっている。

■社会全体で見た男女の地位（各属性別）

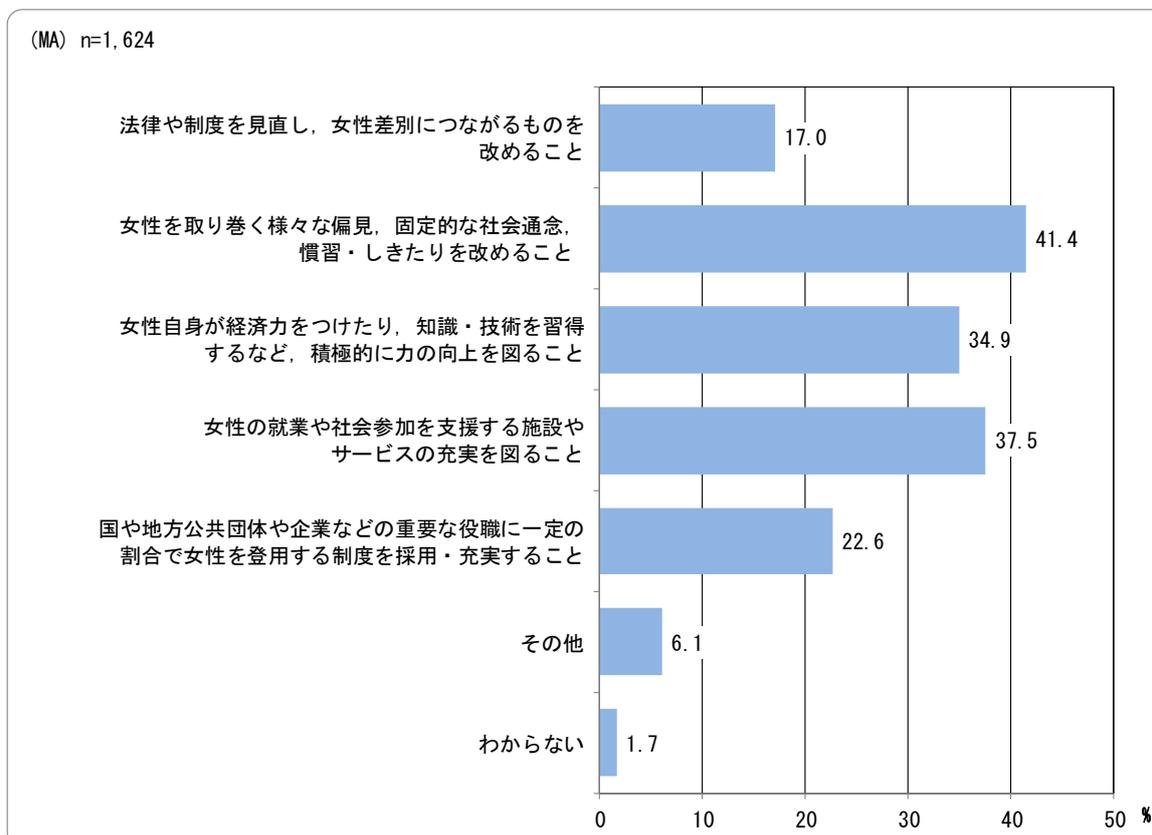


(3) 平等になるために重要なこと

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。(〇は2つまで)



■平成22年茨城県



■「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」が4割を超え，最多

男女が平等となるために重要なことは，「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」が44.6%と最も高く，次いで「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が41.0%，「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に力の向上を図ること」が34.1%となっている。

性別にみると，男性では「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」(49.5%)，女性では「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(46.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

年齢別にみると，「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」が20歳代(49.3%)，40歳代(52.2%)，50歳代(51.0%)，60歳代(46.0%)で，「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が30歳代(47.7%)で，「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に力の向上を図ること」が70歳以上(35.7%)で最も高くなっている。

職業別にみると，「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」が自由業(家族従事者)(64.3%)で，「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に力の向上を図ること」が農林漁業(家族従事者)(60.0%)で，「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が農林漁業(家族従事者)(50.0%)，商工・サービス業(自営業主：42.9%，家族従業者：52.0%)，自由業(家族従事者)(50.0%)で，他の職業に比べて高くなっている。

■平等になるために重要なこと(その他回答)

内容	性別	年齢
●女性に関すること		
女性自身の意識の改革とやる気	男性	40歳代ほか
仕事で役職を与えること	男性	60歳代
女性自身が負の意識を持たないこと。	男性	70歳以上
●男性に関すること		
男性の育児休暇取得など	女性	20歳代
男性にも妊娠・出産する術があればいい	女性	30歳代
男性の家庭参画意識向上	女性	40歳代
男性の意識を変える為の教育	女性	40歳代
女性をいたわり，男性の意識を変えることが大切	女性	40歳代
男性による子育ての意識を高める	女性	50歳代
●社会に関すること		
子供を預ける場所の確保	女性	40歳代
子育ての面での会社の理解	女性	50歳代ほか
子育て中や親の介護後の仕事復帰等の待遇の見直し	女性	60歳代

内容	性別	年齢
男女は良くも悪くも総合的に平等であると思う	男性	30 歳代
法律の施行→出産・子育ての際の優遇と社会復帰しやすい環境の整備（税制、補助金、保障）	男性	30 歳代
男女では体格、作りが違うので役割にあったことをする	男性	40 歳代
学校教育の場で女性の意識向上を図る	男性	60 歳代
社会側が変わるべき	女性	20 歳代
男性も定時で退社するのが普通と感じる社会にする	女性	40 歳代
子育ては男女の別ないことを徹底した認識にしていくべき	女性	40 歳代
●その他（「平等」に対する認識、現状維持		
役職に一定の割合で女性を登用すると言うことが男女平等に反している	男性	40 歳代
すでに平等である	男性	40 歳代
男女の能力差を考え互いに出来ることをするよう心がける	女性	20 歳代ほか
結婚＝男性の性になるのがあたり前、選択する場が無いという時点で平等にはなれない気がする	女性	30 歳代
平等にはならないと思う	女性	40 歳代ほか

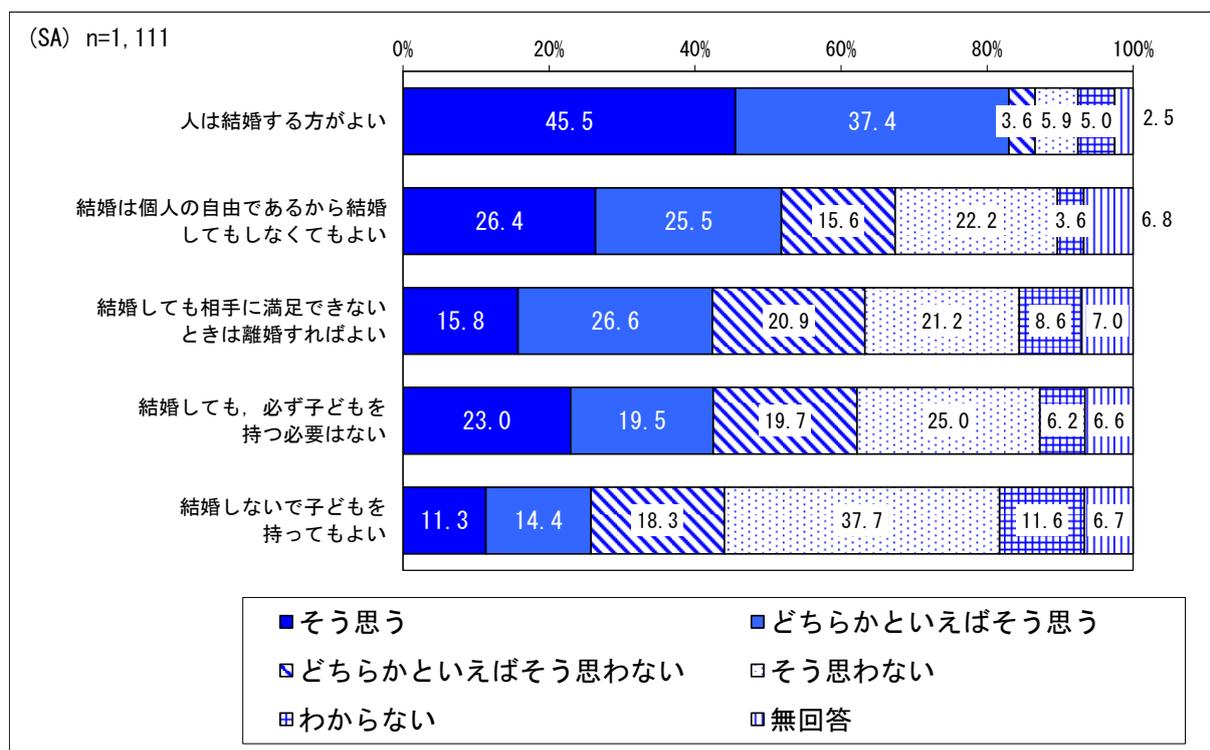
■平等になるために重要なこと（各属性別）

		と別法 に律つ な制 が度 るを 見直 をし 改め る女 性こ	き固女 たり定 を的を な取 改社 め会 る通 こと 、様 、々 、慣 習 、見 し、	こどり と、性 、積知 極識 的・技 的術 の力 の向 上を 得す けた るな	図する る施 こと設 や業 やサ ーソ シ ビ ス の充 実を 支 援	女の性 の就 業や 社会 参加 を支 援	充女の 実性を する登 用す る制 度を 採用 ・	国の重 要な 地方 公共 団 体や 企業 など	その他	わ から ない	無 回 答
単位：%											
性別	男性 (n=501)	19.2	49.5	27.9	35.1	20.8	5.6	5.6	1.0		
	女性 (n=581)	13.9	40.8	39.1	46.5	16.7	4.5	6.7	1.9		
年齢別	20歳代 (n=71)	14.1	49.3	32.4	36.6	22.5	9.9	7.0			
	30歳代 (n=130)	14.6	41.5	30.8	47.7	16.2	9.2	5.4	1.5		
	40歳代 (n=178)	15.2	52.2	29.2	47.2	11.2	10.1	5.6	0.6		
	50歳代 (n=200)	18.0	51.0	33.5	49.0	14.0	3.0	3.5	1.5		
	60歳代 (n=272)	16.9	46.0	37.9	36.8	22.1	2.9	5.5	1.1		
	70歳以上 (n=241)	16.2	34.0	35.7	32.8	23.7	1.7	9.1	3.7		
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	8.3	37.5	37.5	29.2	25.0	8.3	8.3			
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)		30.0	60.0	50.0	10.0		10.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	21.4	35.7	23.8	42.9	26.2	2.4	7.1	2.4		
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	16.0	36.0	48.0	52.0	20.0					
	自由業 (自営業主) (n=35)	14.3	40.0	37.1	31.4	11.4	8.6	2.9	2.9		
	自由業 (家族従業者) (n=14)	7.1	64.3	28.6	50.0	14.3	14.3				
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	12.3	54.7	35.5	45.3	15.3	4.9	4.4	1.5		
	被雇用者(事務職) (n=150)	16.7	53.3	36.0	40.0	20.0	7.3	3.3			
	被雇用者(労務職) (n=119)	15.1	42.9	31.9	49.6	14.3	6.7	5.0			
	専業主婦・主夫 (n=199)	17.1	42.2	34.2	43.2	17.6	5.5	7.5	1.5		
	学生 (n=12)	16.7	33.3	50.0	16.7	33.3	16.7	8.3			
	無職 (n=246)	19.9	38.6	30.1	35.0	22.4	1.2	9.8	3.7		
地域別	県北地域 (n=230)	15.7	43.0	37.4	40.0	18.7	3.0	6.5	3.0		
	県央地域 (n=203)	15.3	45.8	31.0	36.5	20.2	8.4	8.4	2.0		
	鹿行地域 (n=86)	11.6	32.6	39.5	43.0	22.1	7.0	5.8	1.2		
	県南地域 (n=362)	18.0	48.1	35.4	43.1	14.4	5.8	4.7	0.8		
	県西地域 (n=211)	17.1	46.0	28.0	42.2	22.3	1.9	6.2	1.4		

3 男女の生き方や家庭生活などに関する考え, 役割分担等

(1) 結婚や子どもを持つことへの考え

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(それぞれについて該当する「1～5」に○を1つ)



■回答者の8割以上は、「人は結婚する方がよい」と考えているが、一方で、約5割は、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」と考えている

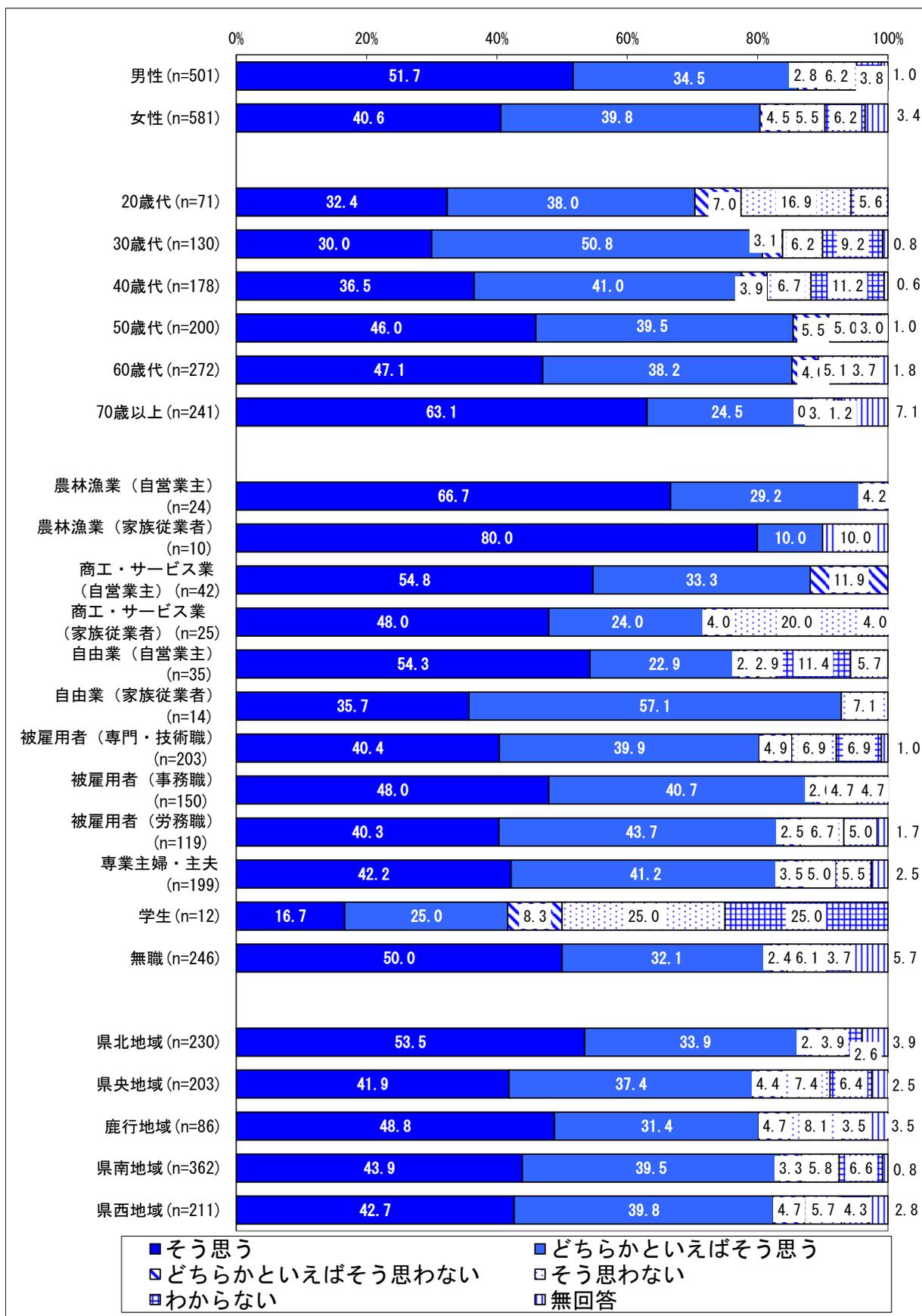
結婚や子どもを持つことへの考えについてみると、「人は結婚する方がよい」で『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が8割（全体：82.9%，男性：86.2%，女性：80.4%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」の回答で『そう思う』が約5割（全体：51.9%，男性：47.9%，女性：55.9%），「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」（全体：42.4%，男性：41.5%，女性：43.0%）と「結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない」（全体：42.5%，男性：39.2%，女性：46.0%）で『そう思う』が約4割を占めており性別にみると女性の割合が強い傾向にある。

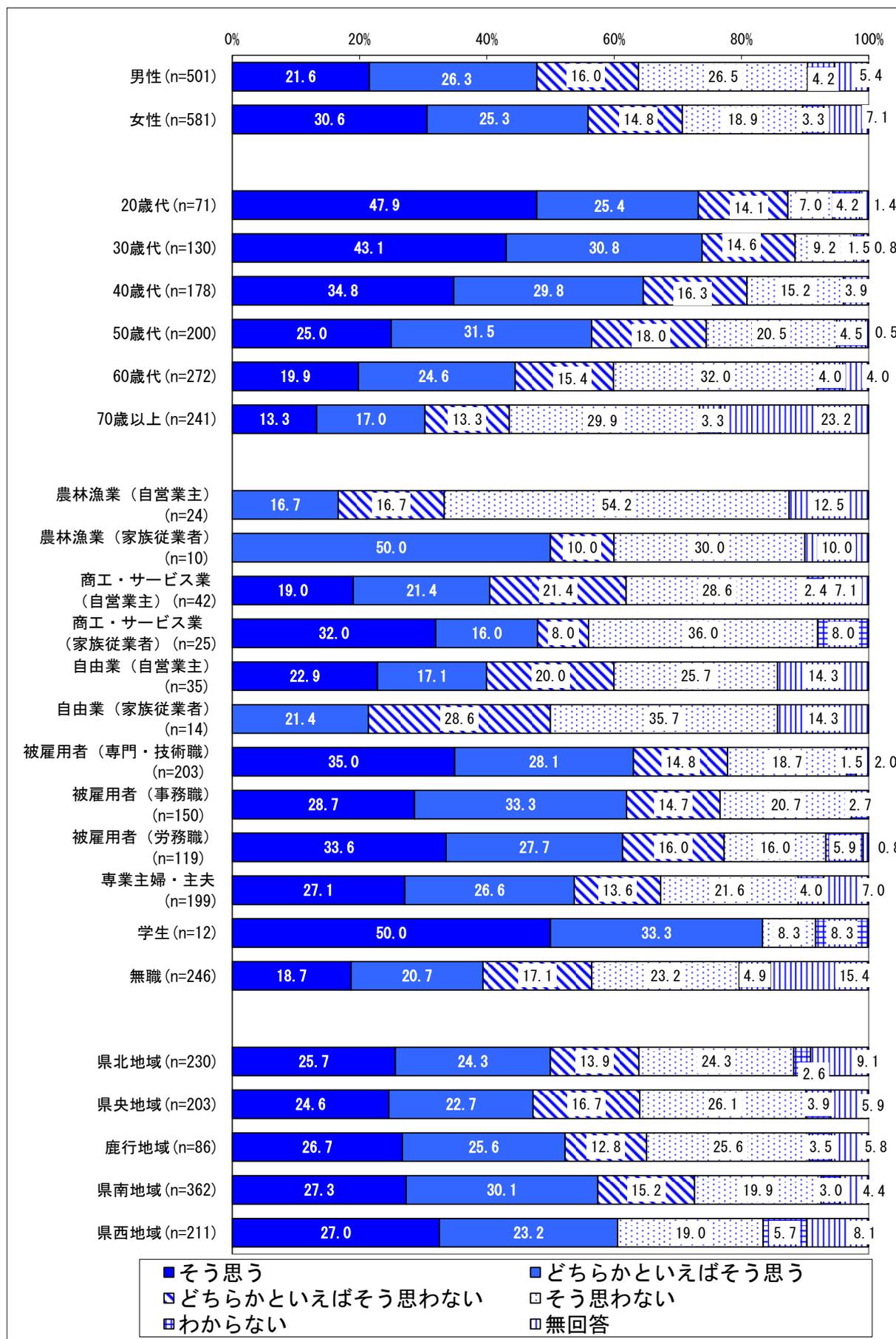
「結婚しないで子どもを持ってもよい」で『そう思う』は約2割（全体：25.7%，男性：30.0%，女性：22.0%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

■結婚や子どもを持つことへの考え（各属性別）

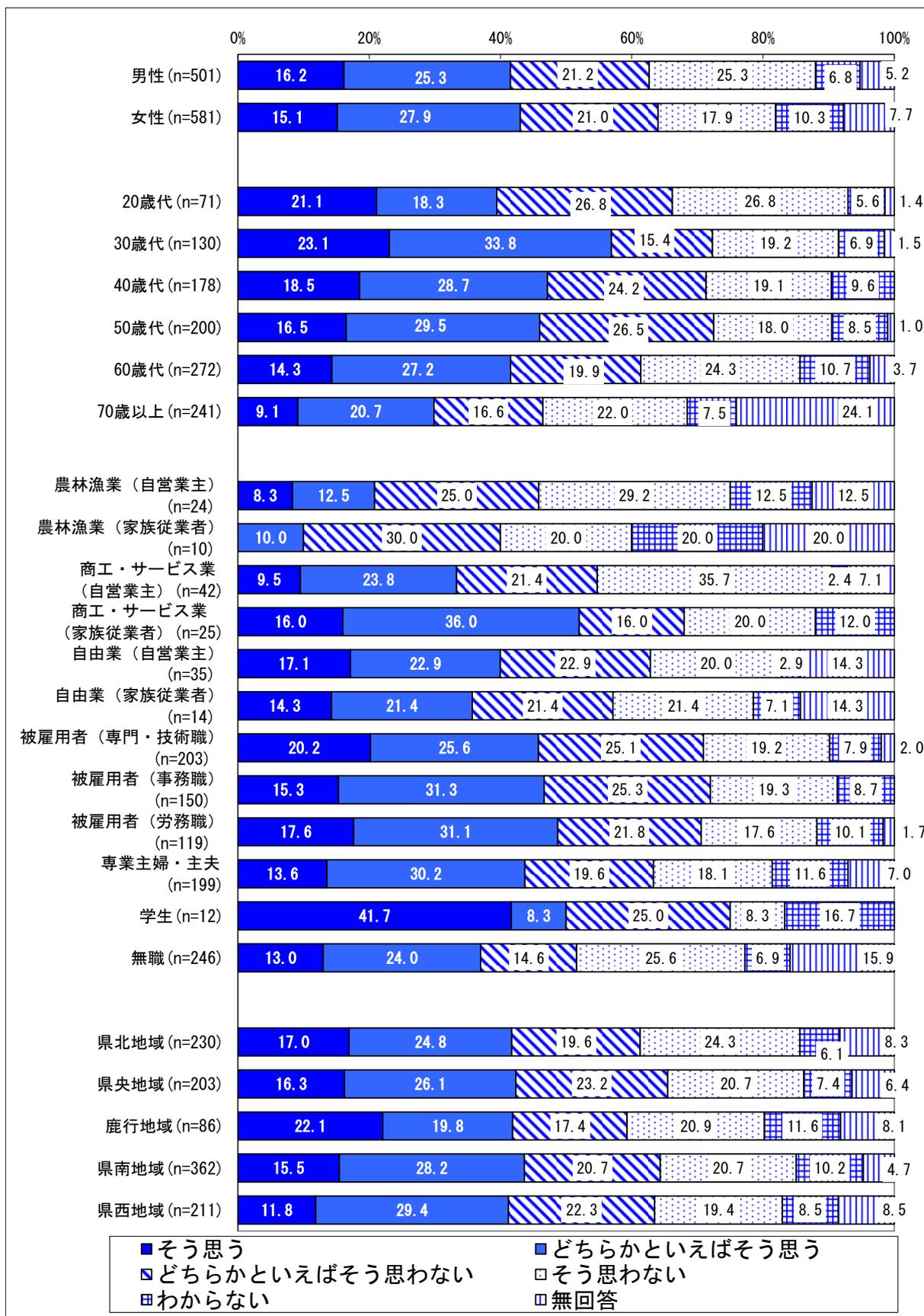
1. 人は結婚する方がよい



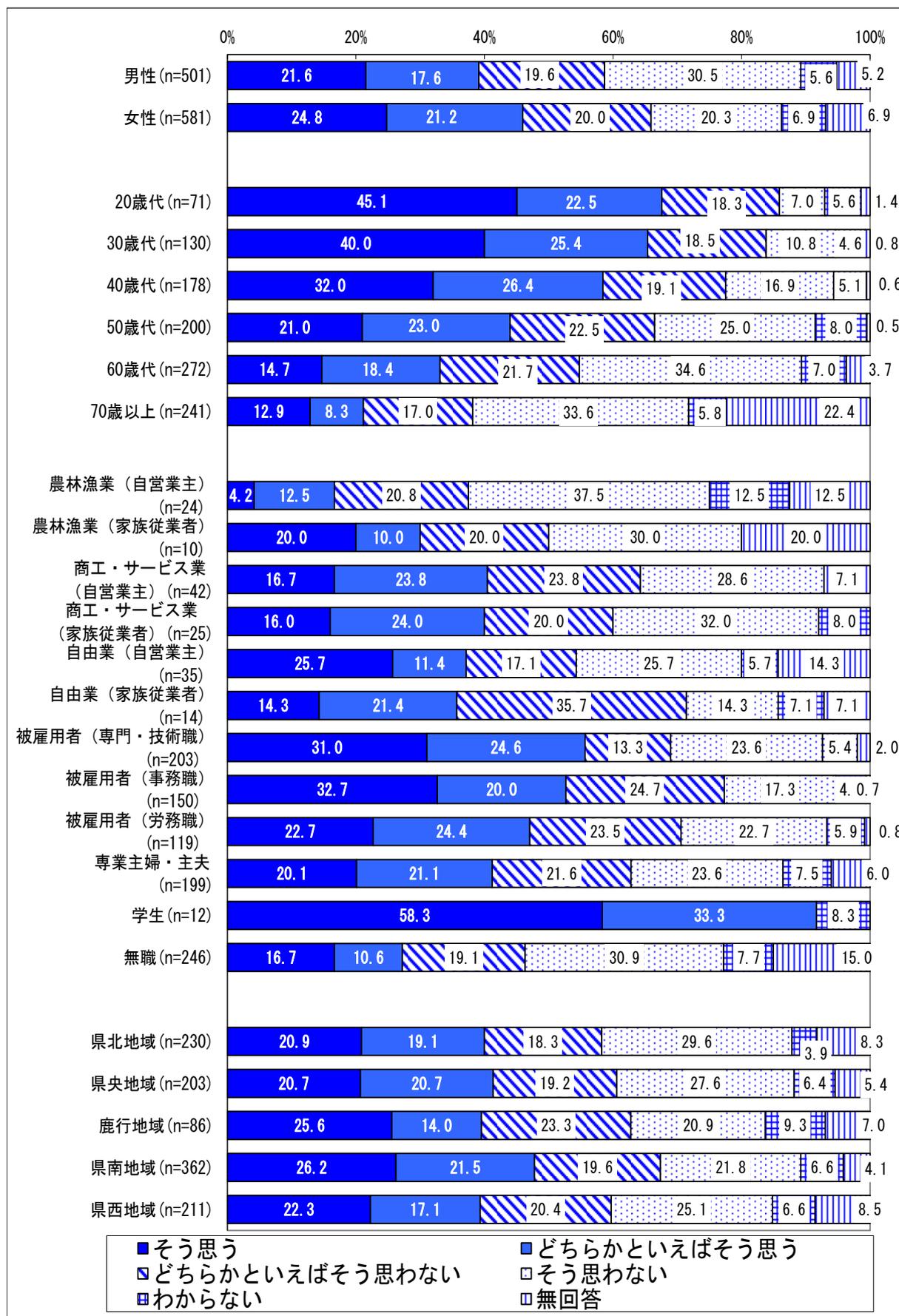
2. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい



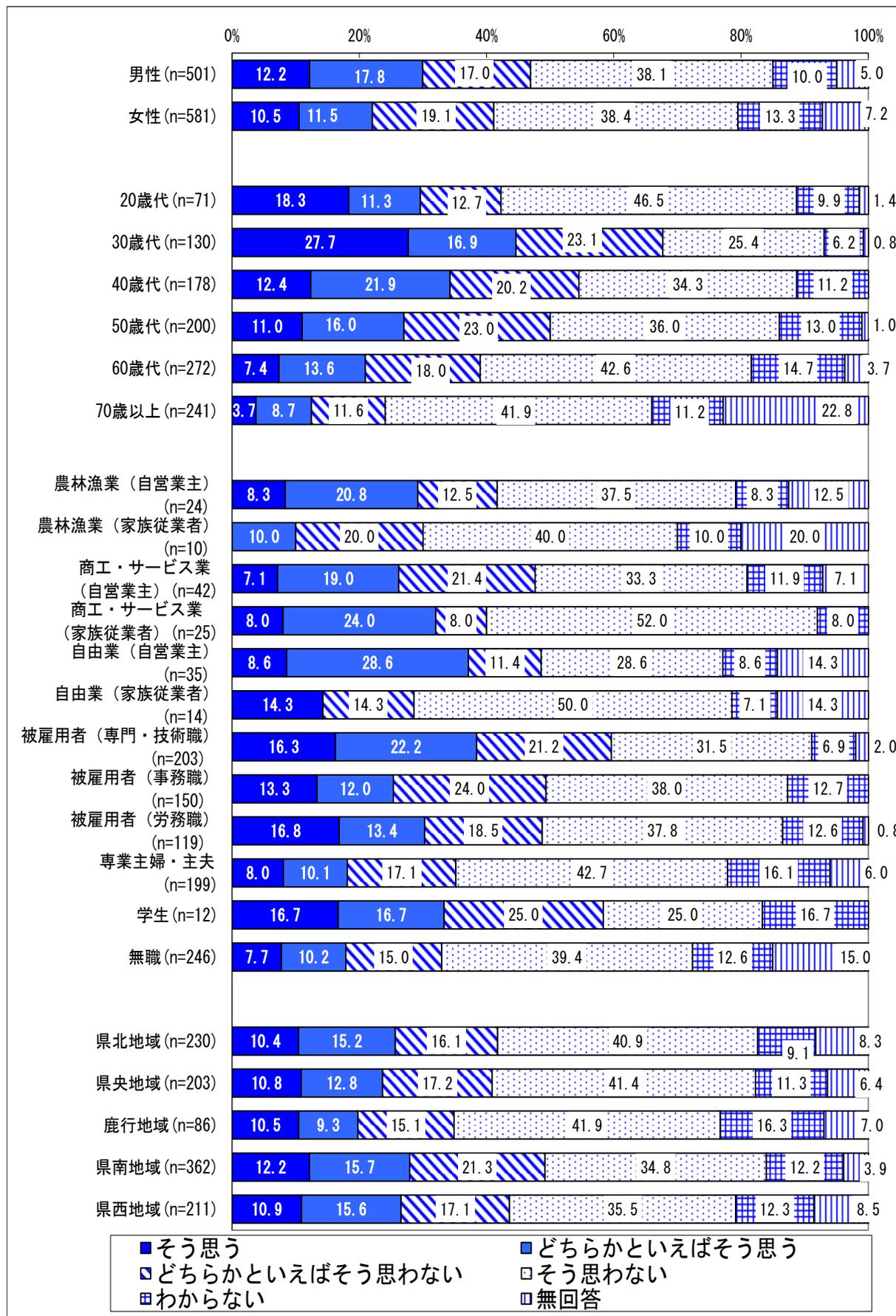
3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



4. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない

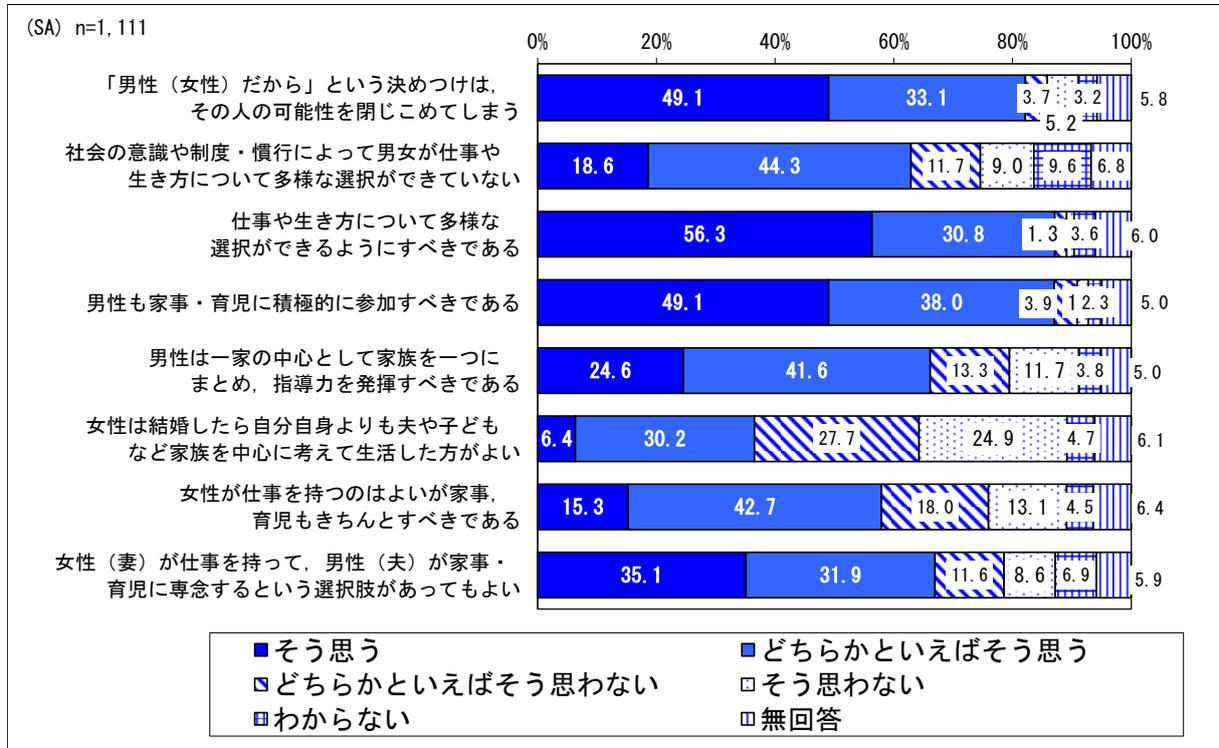


5. 結婚しないで子どもを持ってもよい

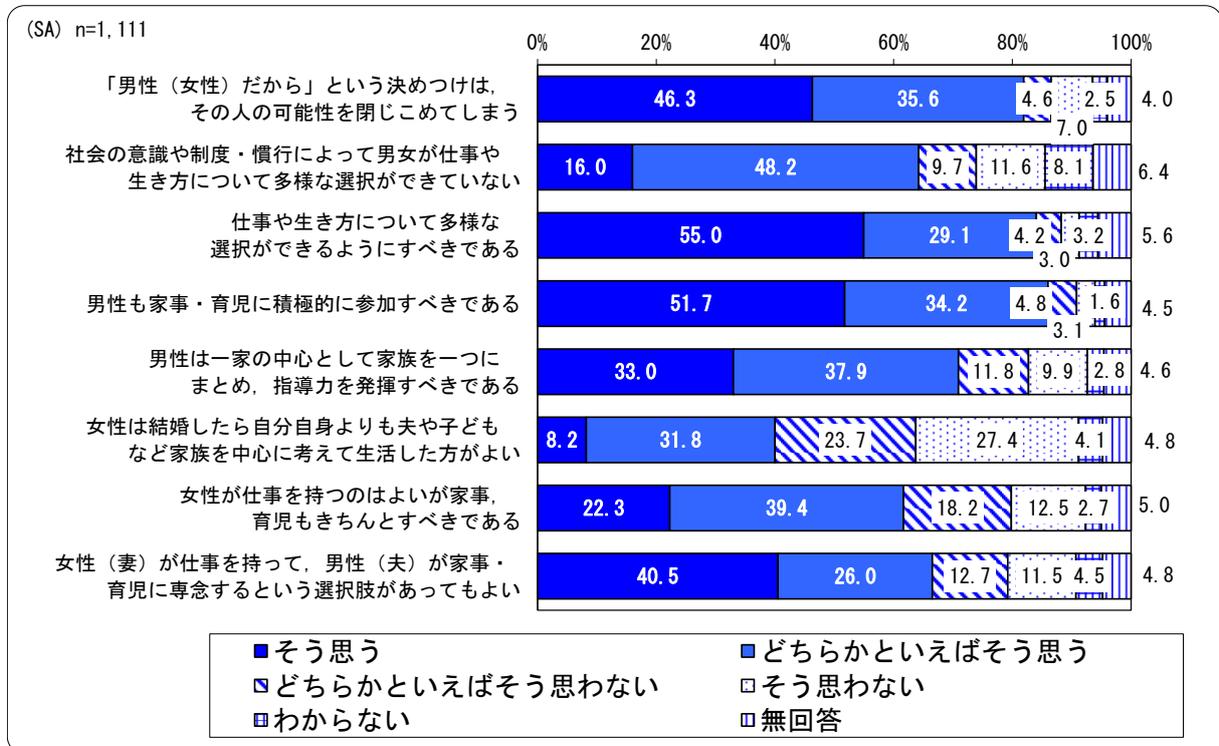


(2) 男女の生き方や家庭生活などに関する考え

問5 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。(それぞれについて該当する「1～5」に○を1つ)



■平成 22 年茨城県



■回答者の8割以上は、『男性（女性）だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」と考えているが、一方で、6割は、「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」と考えている

男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した割合は、『男性（女性）だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」（82.2%）、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」（87.1%）、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」（87.1%）で8割を超えており、男女が性の違いによって生き方の可能性に制限を受けるべきではないと考えている。

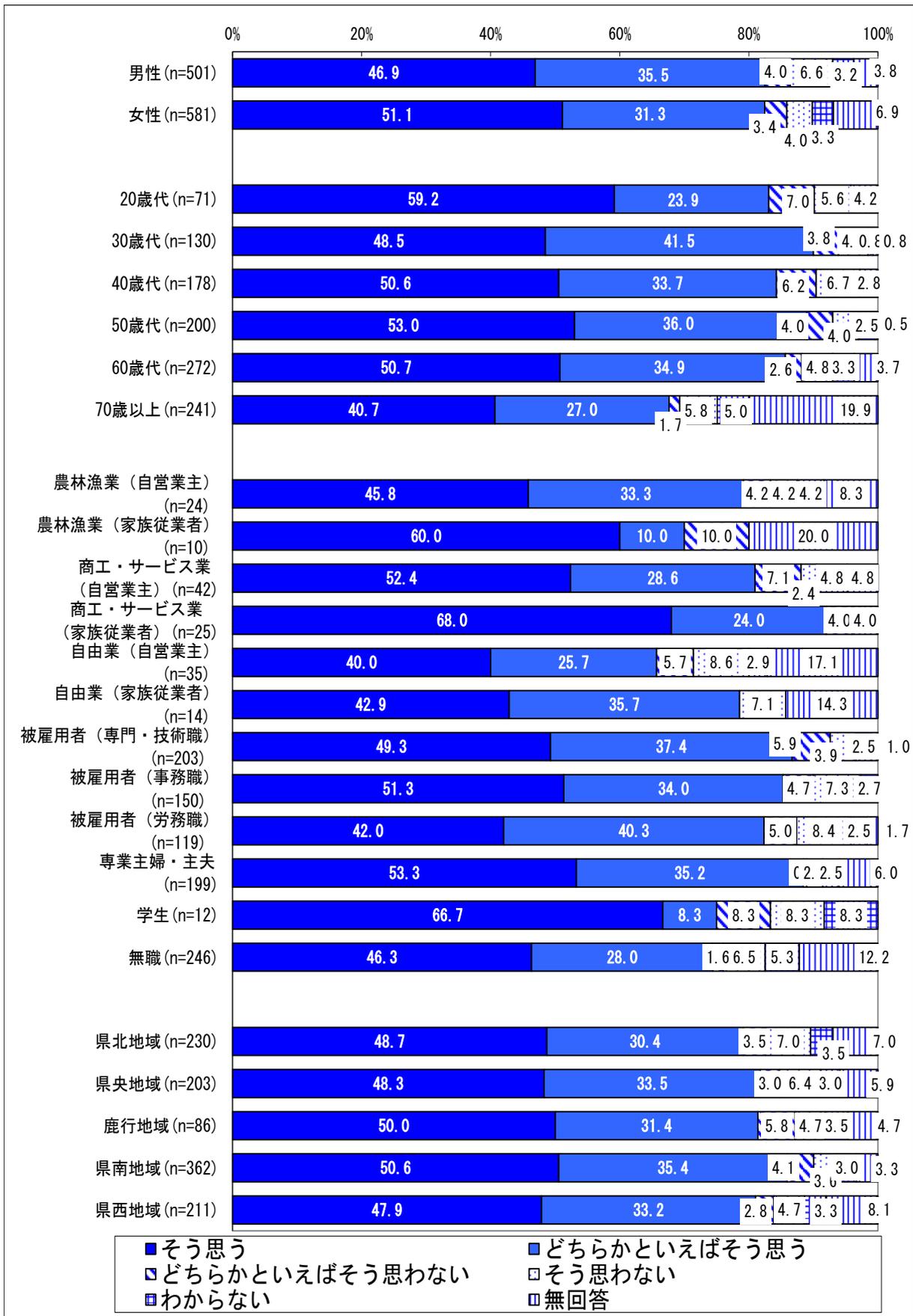
一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」（66.2%）や「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」（58.0%）についても約6割が『そう思う』と回答しており、家庭生活などにおける性別による固定的な役割分担意識があるということが考えられる。

性別にみると、全般的に女性より男性の方に性別役割分担意識がやや強い傾向にある。

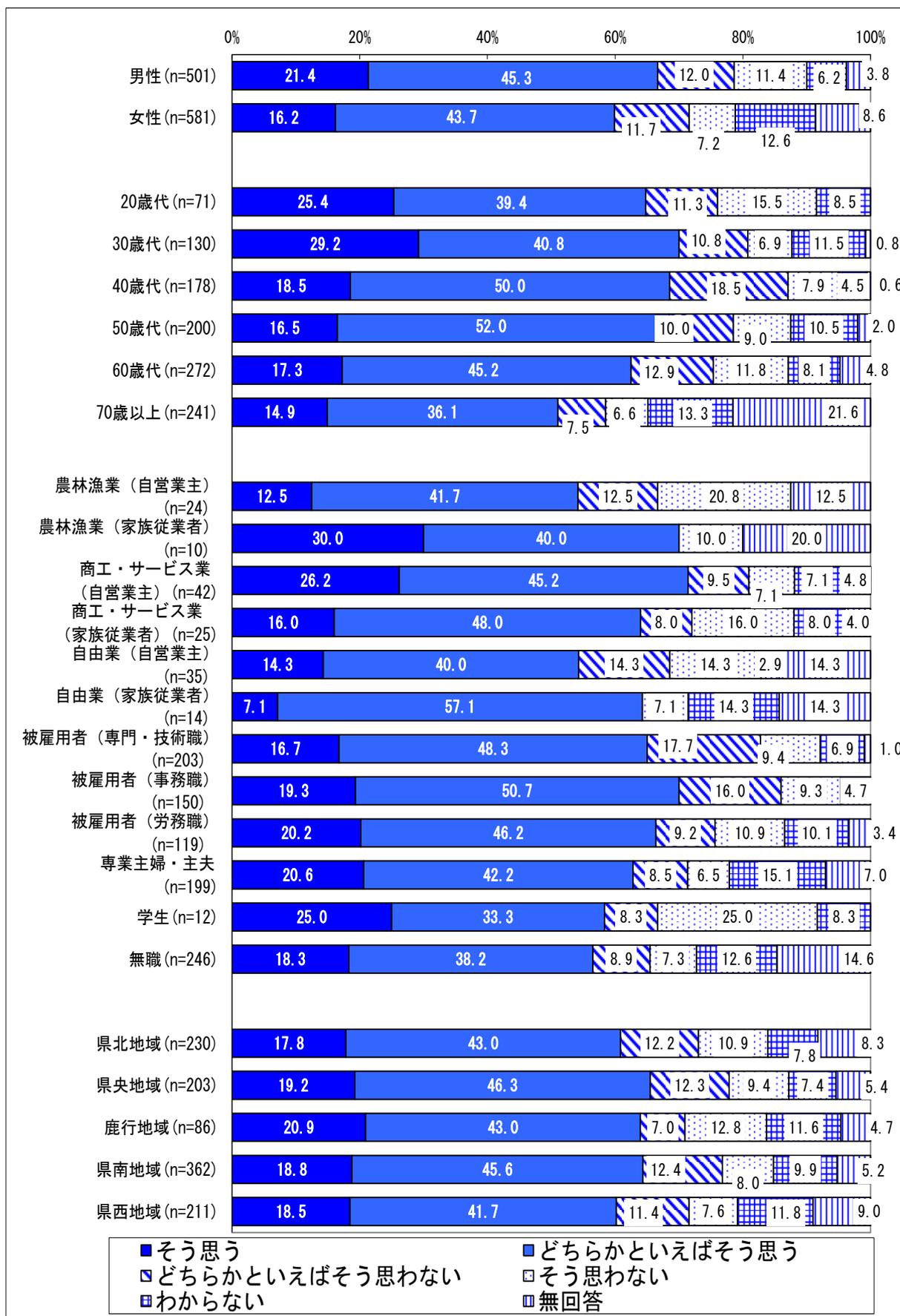
年齢別にみると、特に「女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」という考えに対しては、20歳代（80.3%）、30歳代（78.5%）、40歳代（80.9%）と、約8割となっている。

■男女の生き方や家庭生活などに関する考え（各属性別）

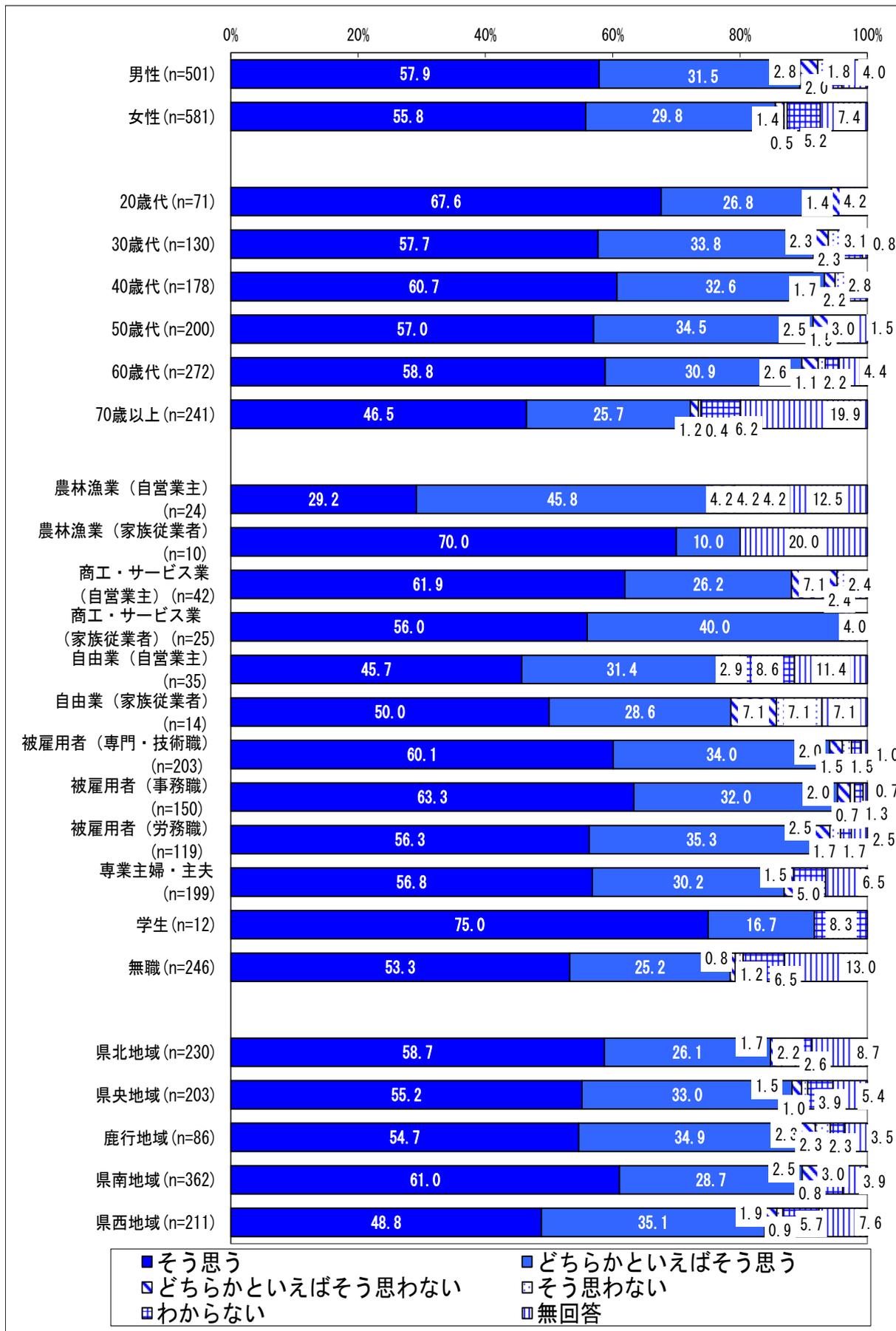
1. 「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう



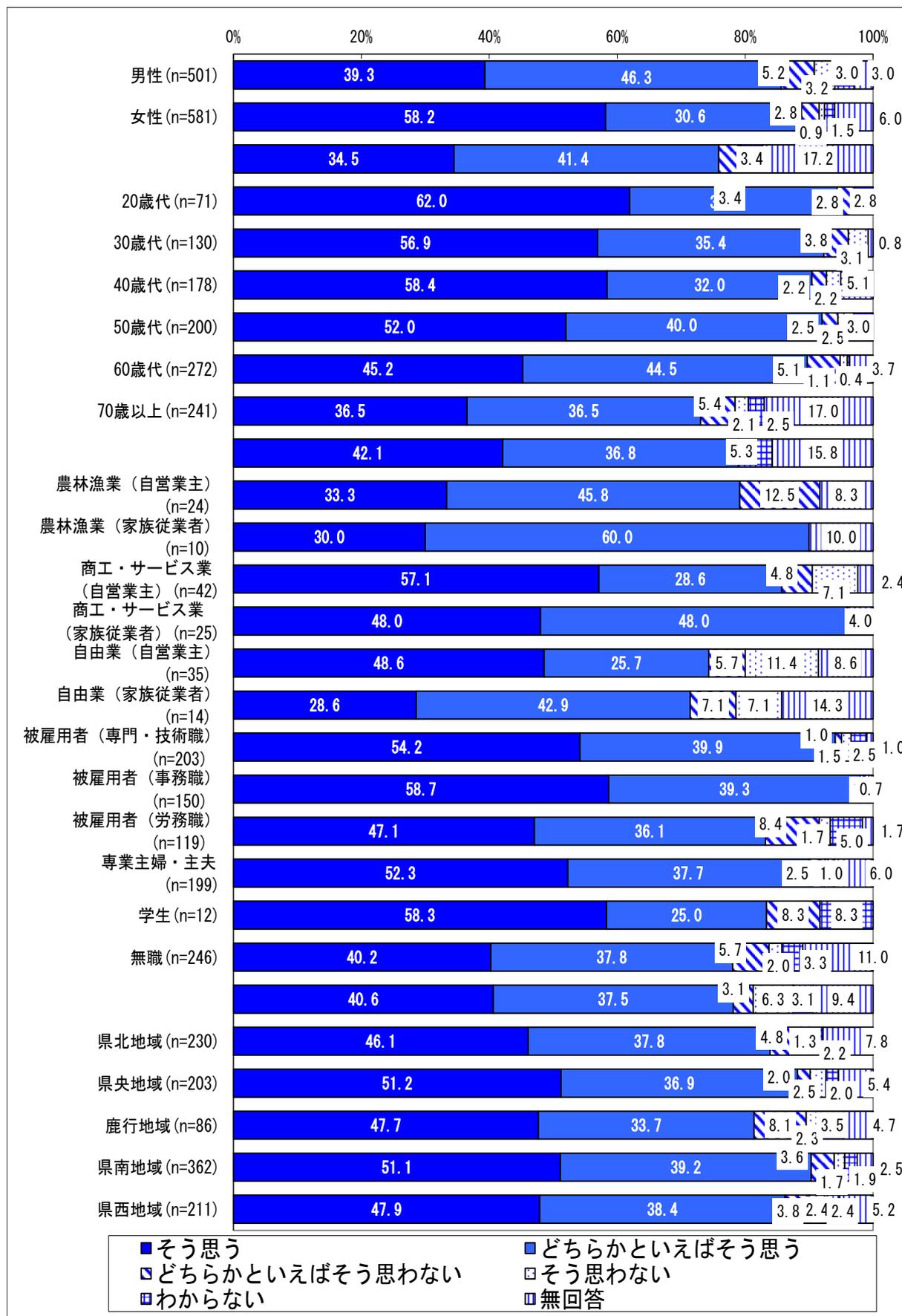
2. 社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



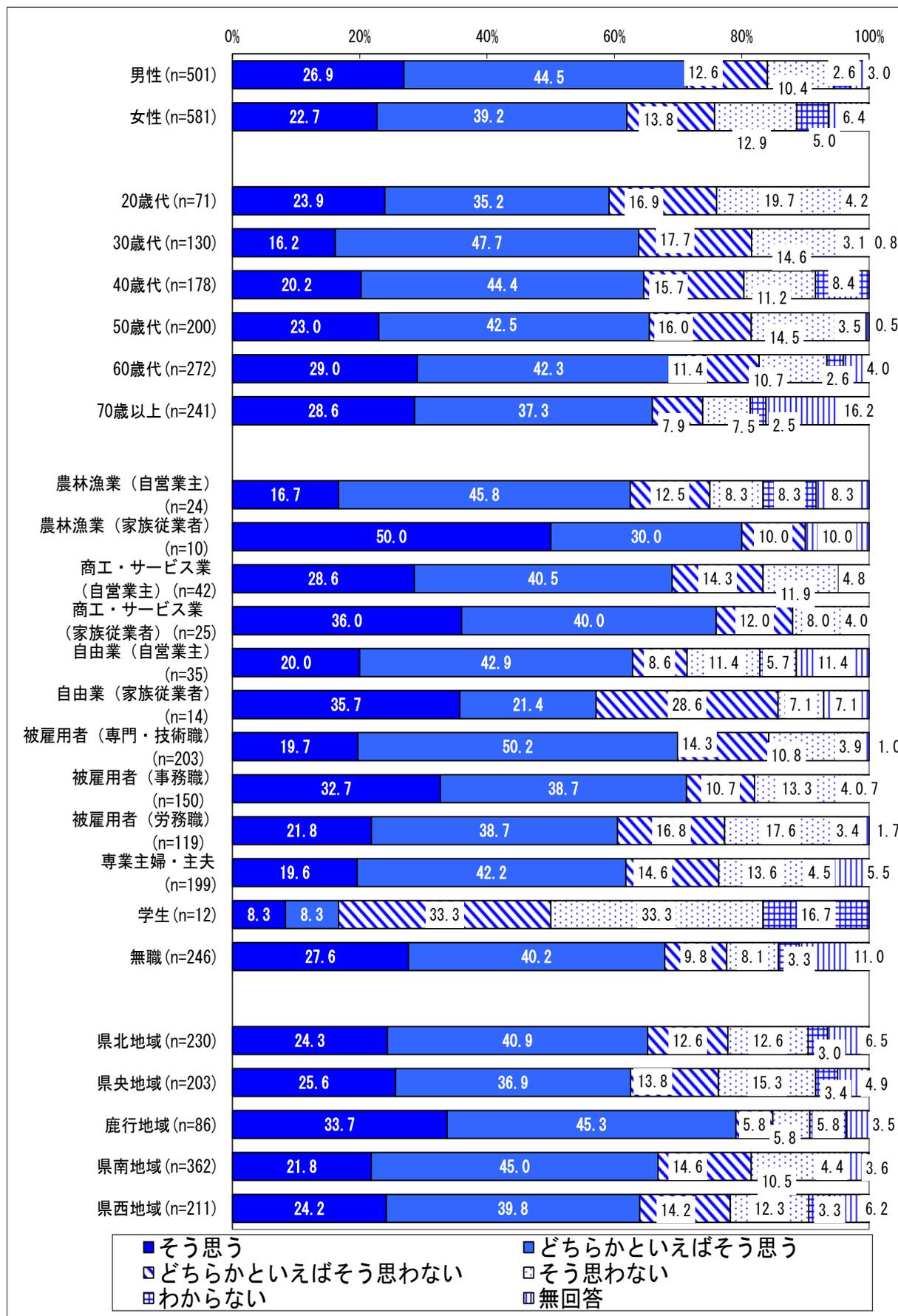
3. 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



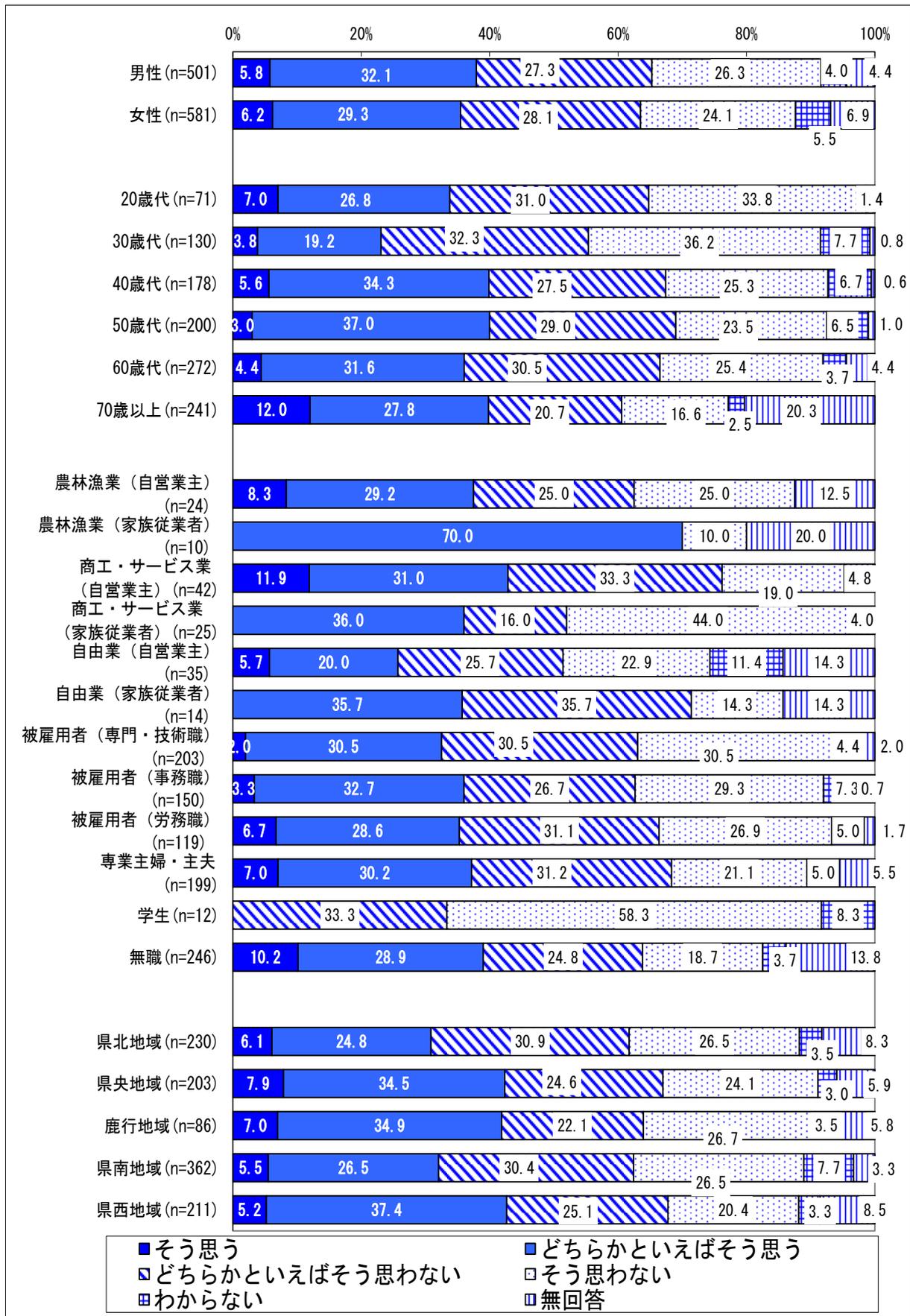
4. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである



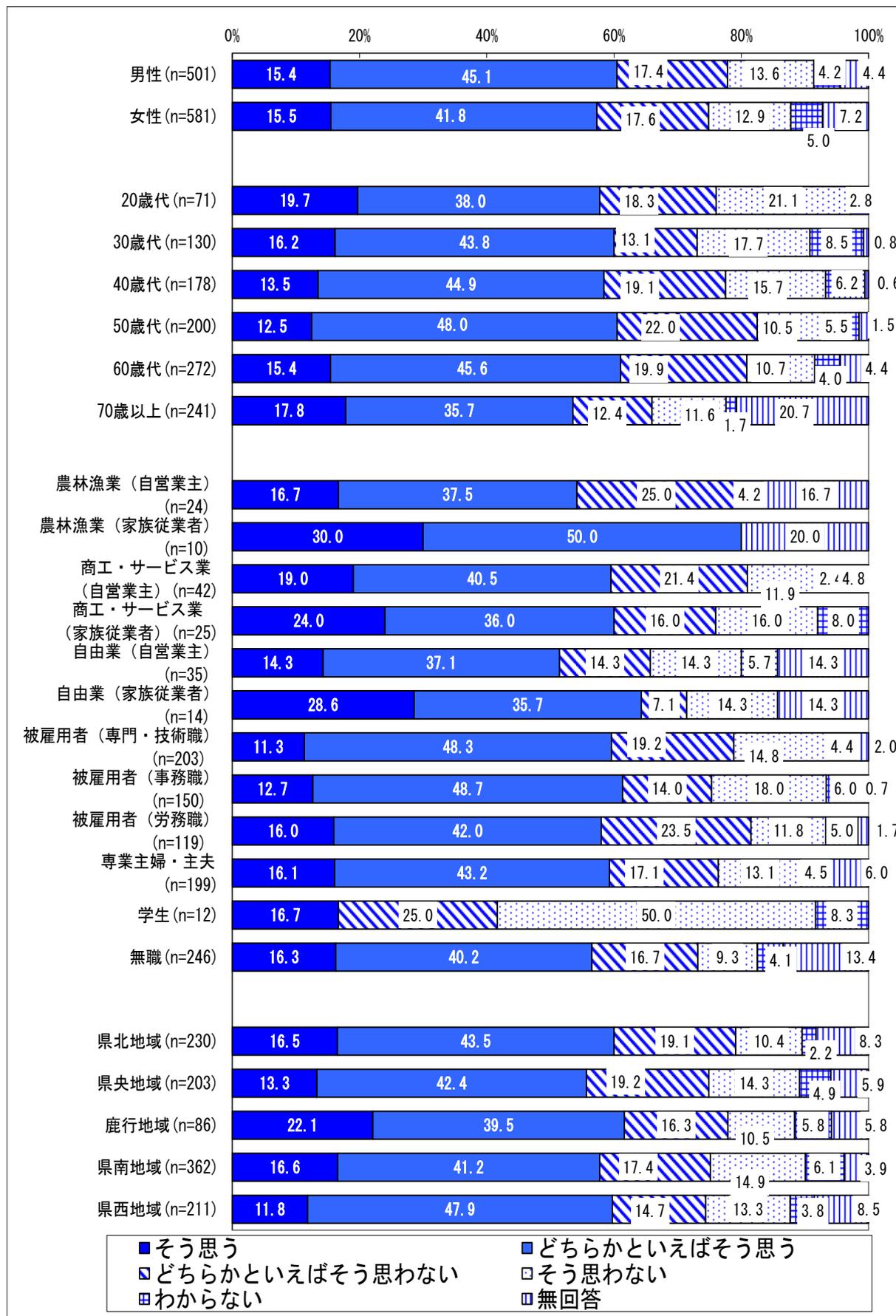
5. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである



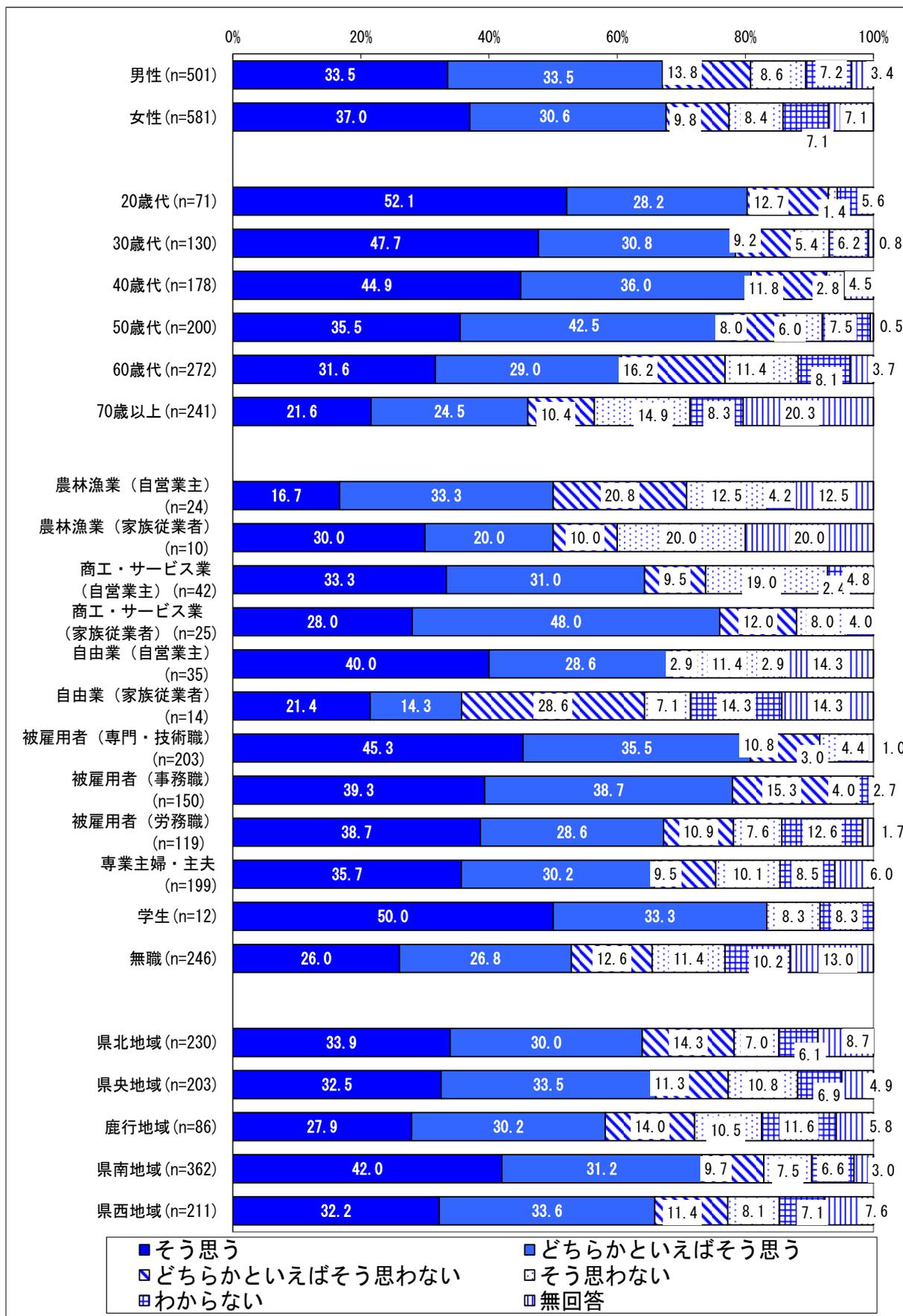
6. 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



7. 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである

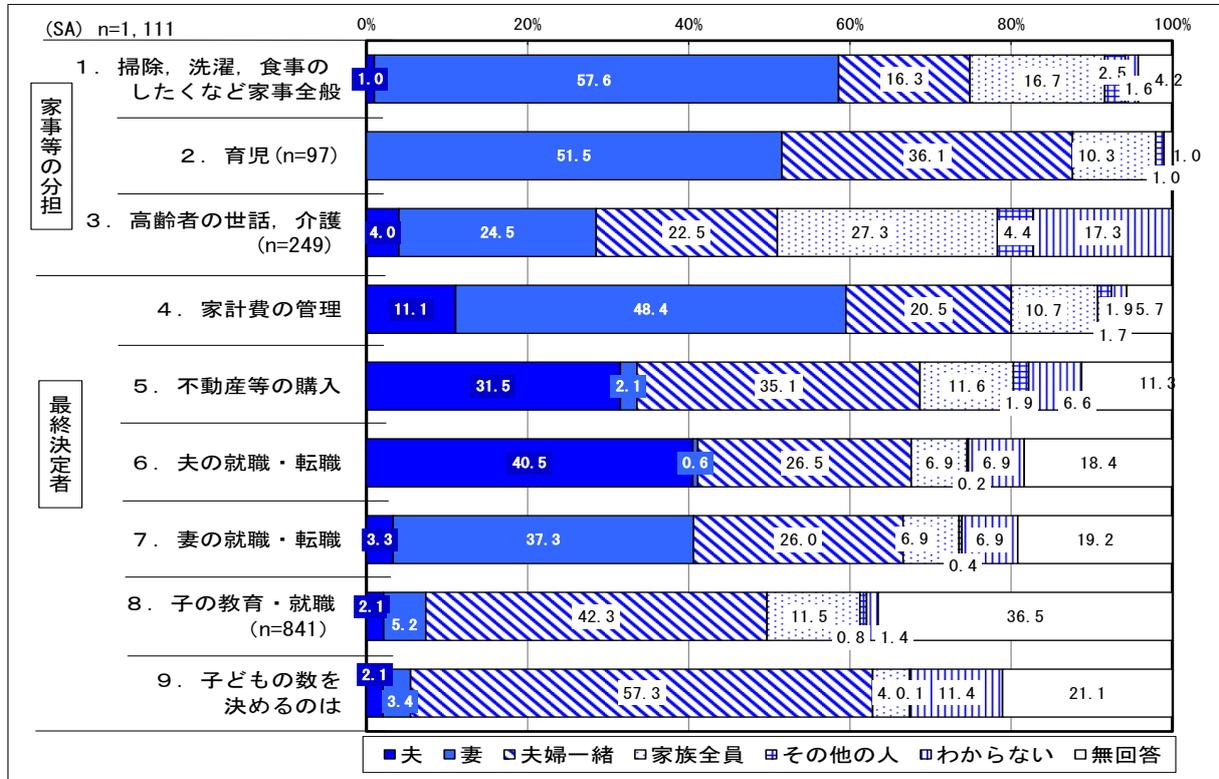


8. 女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい

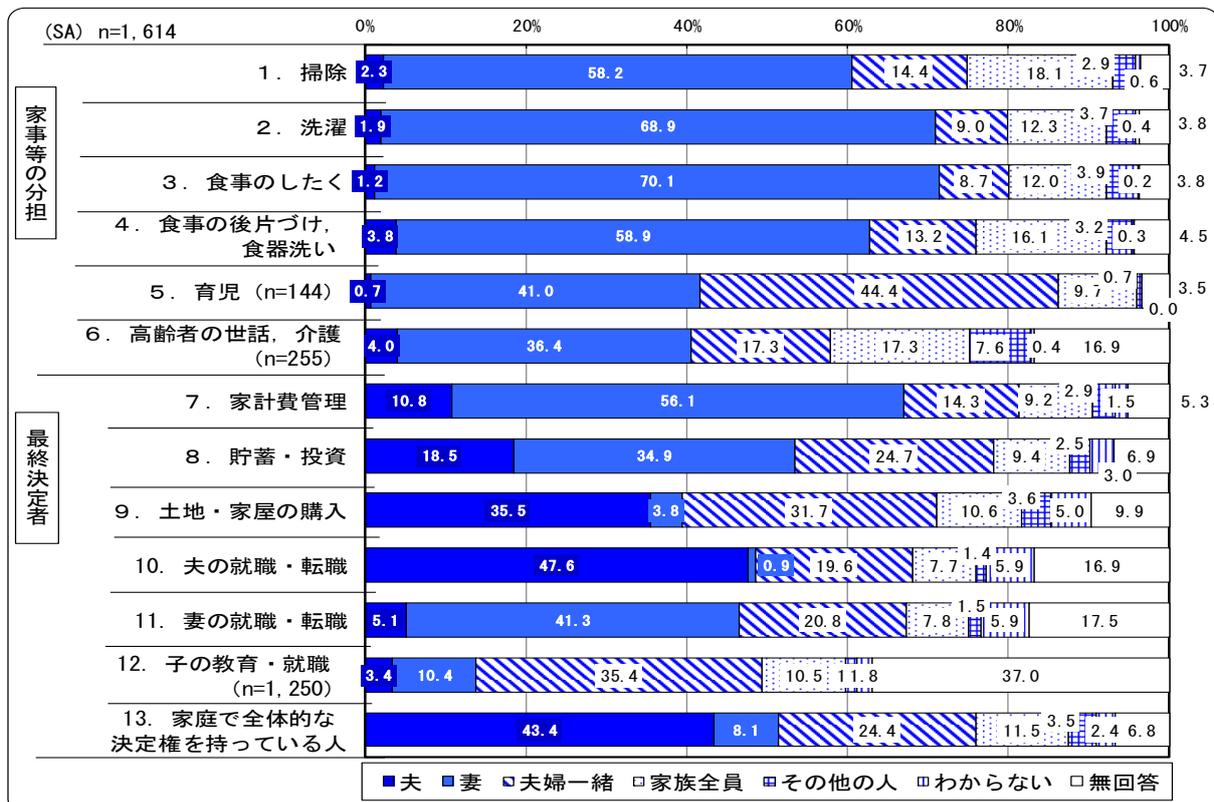


(3) 家事等の分担，最終決定者

問6 掃除や洗濯などの家事等を主に誰が分担していますか。また，家計費の管理等について最終的に決めているのは誰ですか。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)



■平成22年茨城県



■家事等の分担は「妻」、家庭で全体的な決定権を持っているのは「夫」となっており、固定的な性別役割分担が残っていることが考えられる

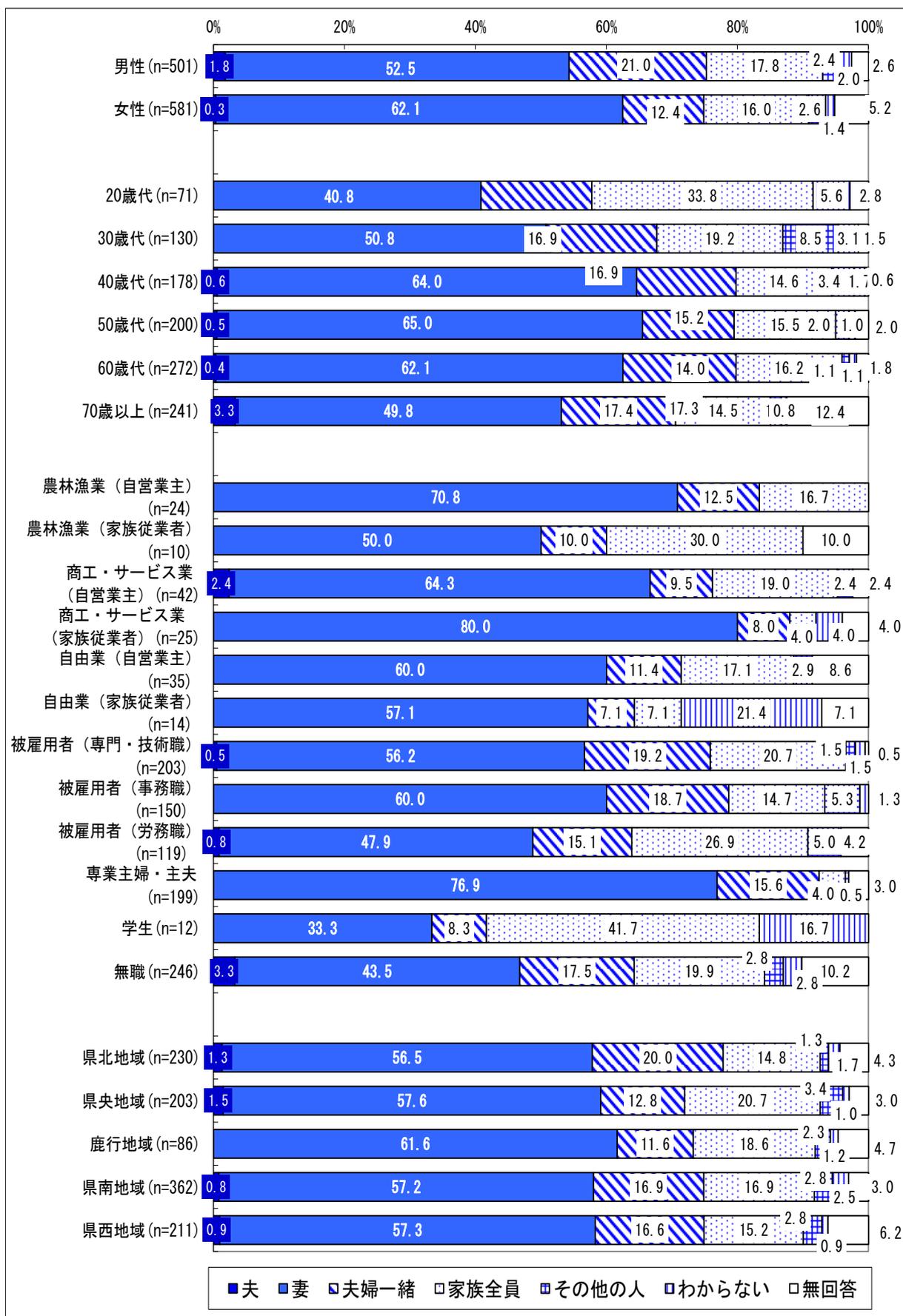
家事等の分担については、「妻」が多数を占めており、「掃除、洗濯、食事のしたくなど家事全般」は約6割（57.6%）、「育児」は5割以上（51.5%）となっている。

一方、最終決定者については、「夫」は「不動産等の購入」（31.5%）、「夫の就職・転職」（40.5%）が最も高くなっているが、「妻」は「家計費の管理」（48.4%）、「妻の就職・転職」（37.3%）が最も高くなっている。

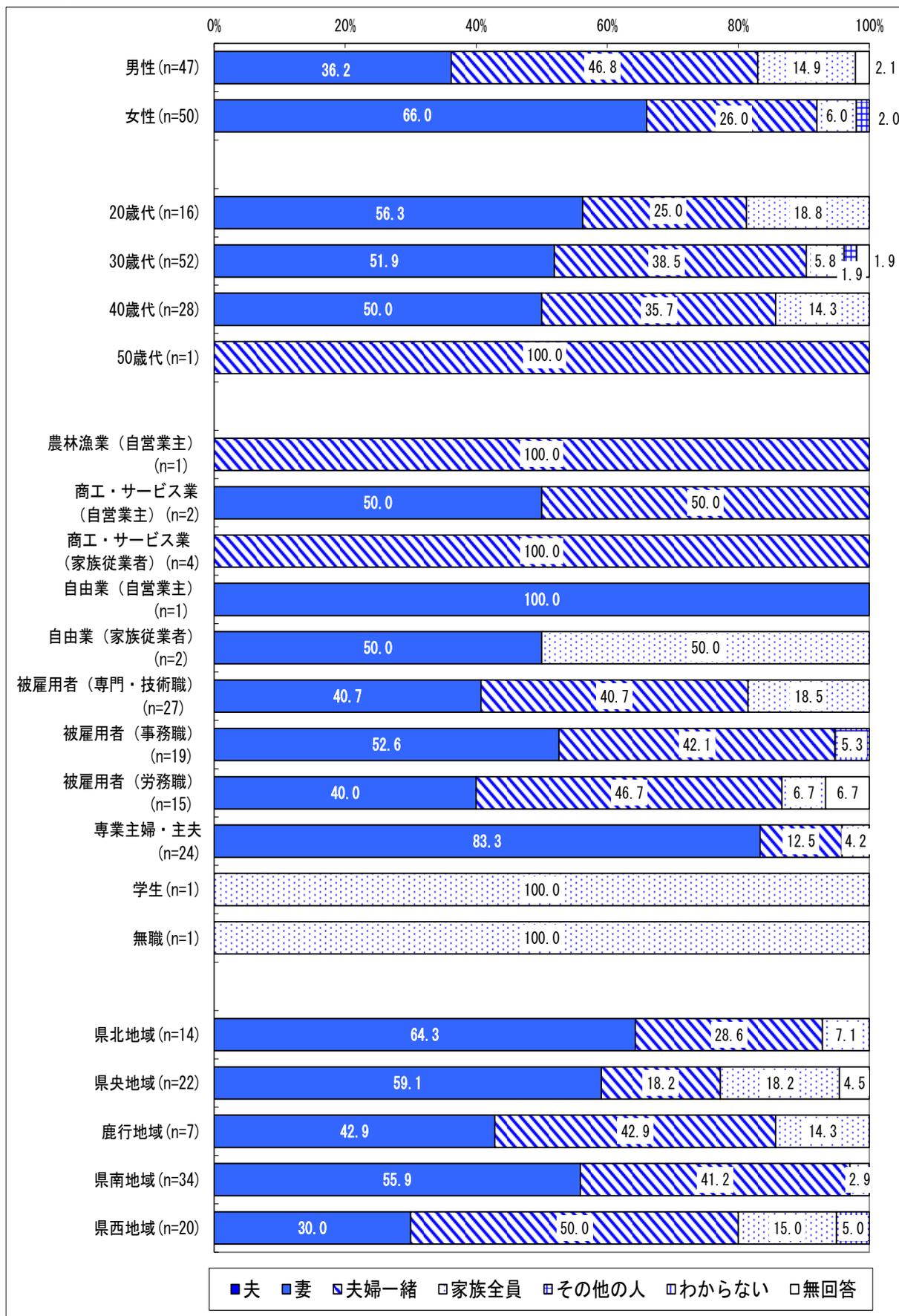
性別にみると、家事等の分担を「妻」と回答した割合は男女とも高く、年齢別にみると、30～60歳代で「妻」が家事等の分担をする割合が他の年代に比べて高くなっている。

■家事等の分担・最終決定者（各属性性別）

1. 掃除，洗濯，食事のしたくなど家事全般

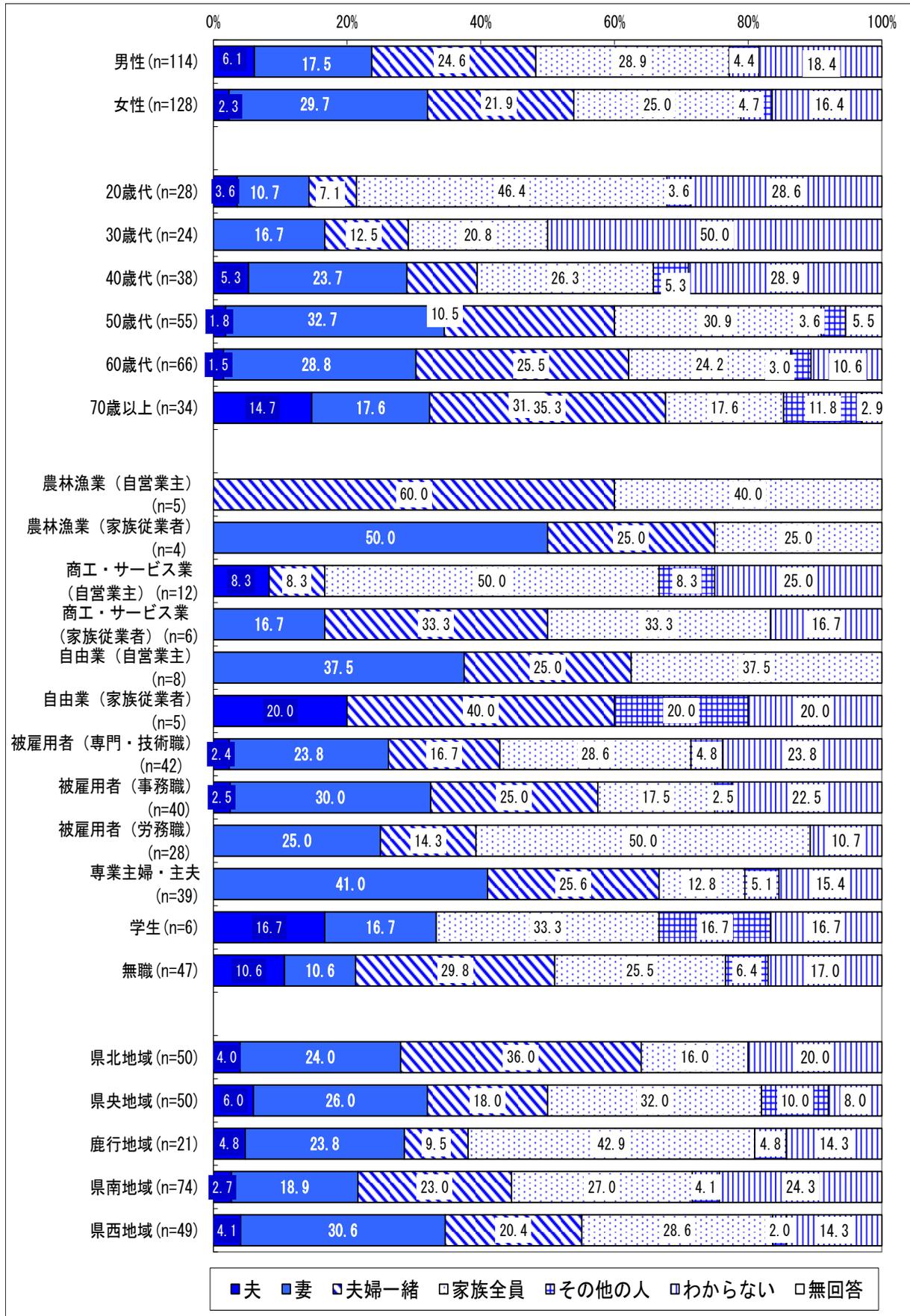


2. 育児

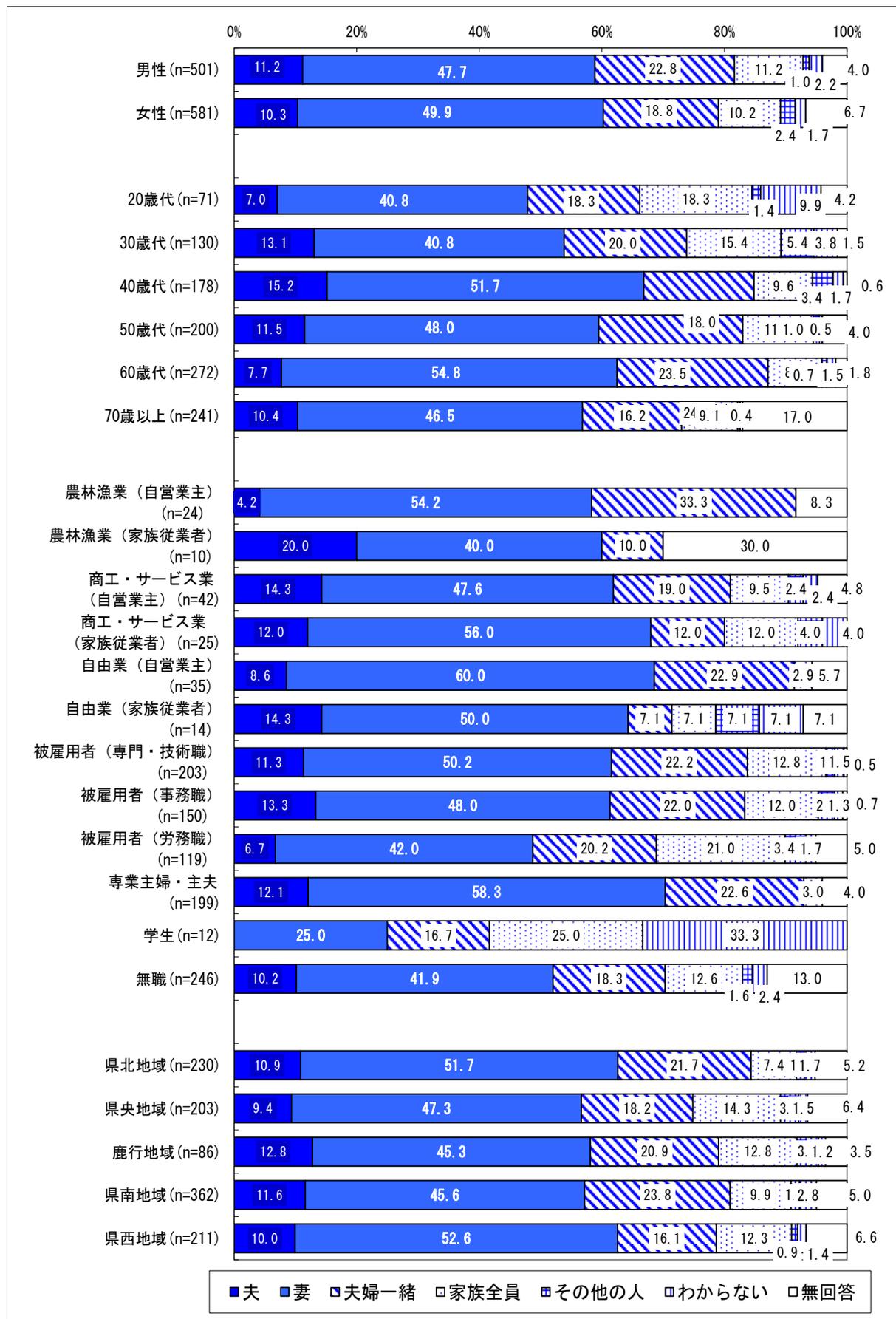


※60歳代・70歳以上・無職は、回答がなかったため、不掲載とする。

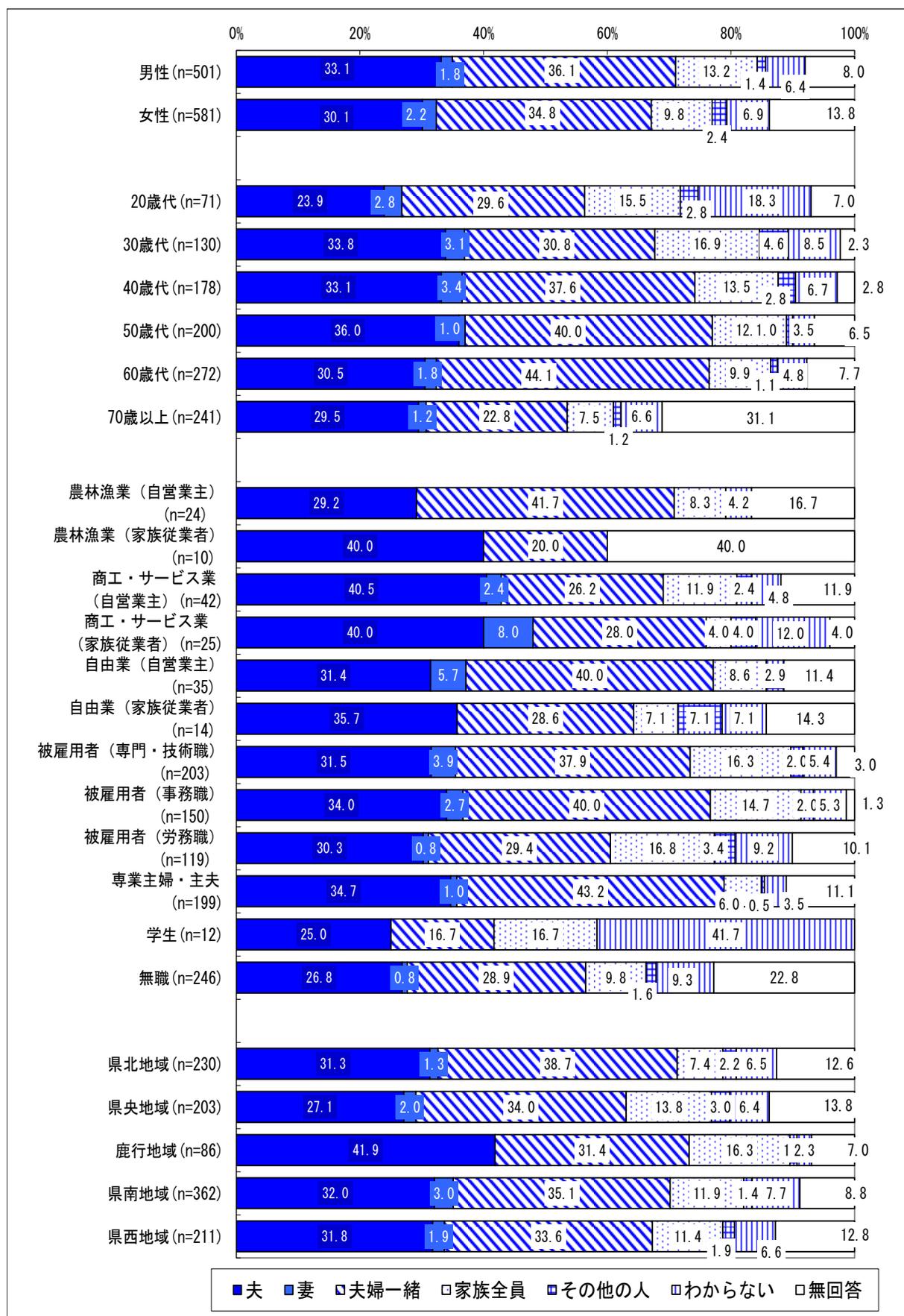
3. 高齢者の世話、介護



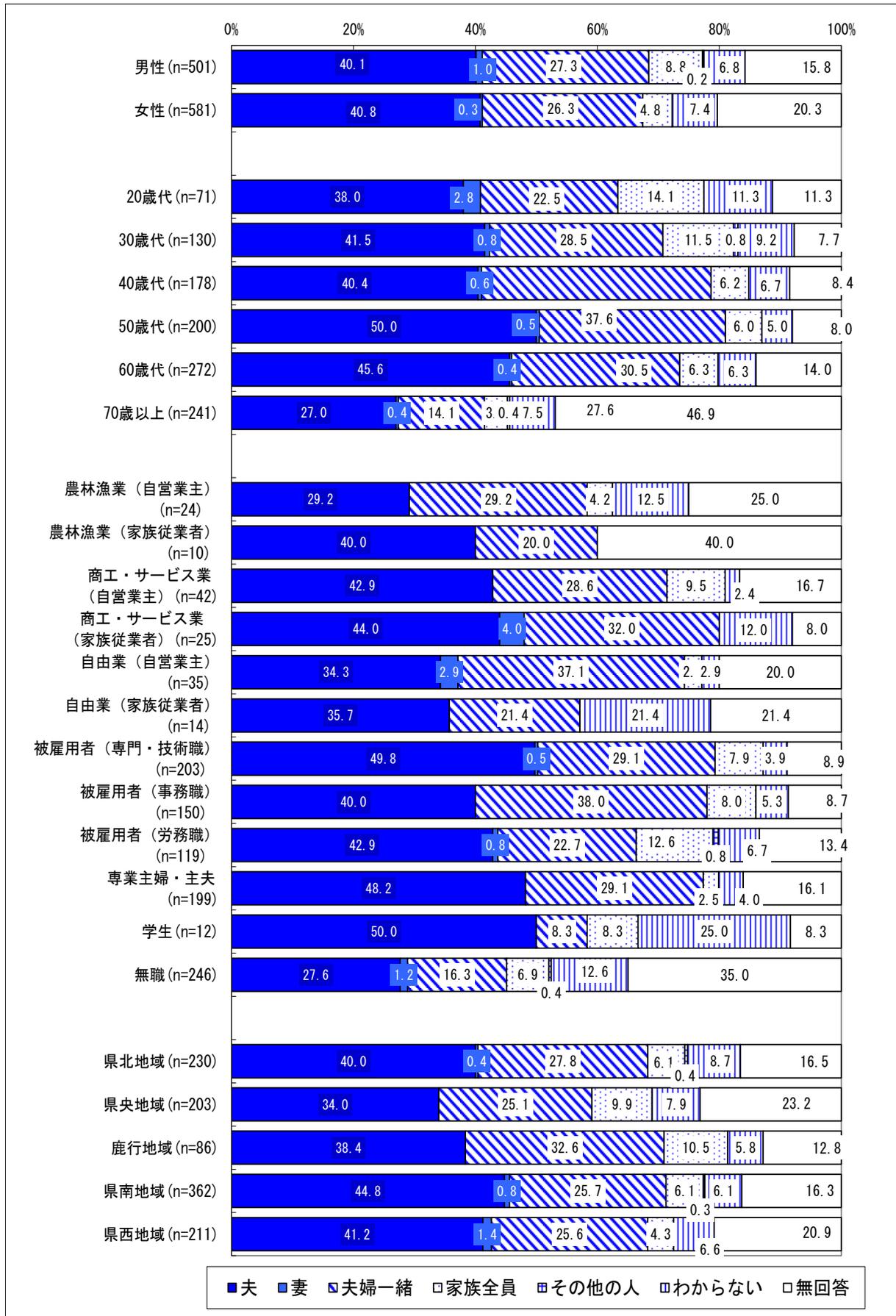
4. 家計費の管理



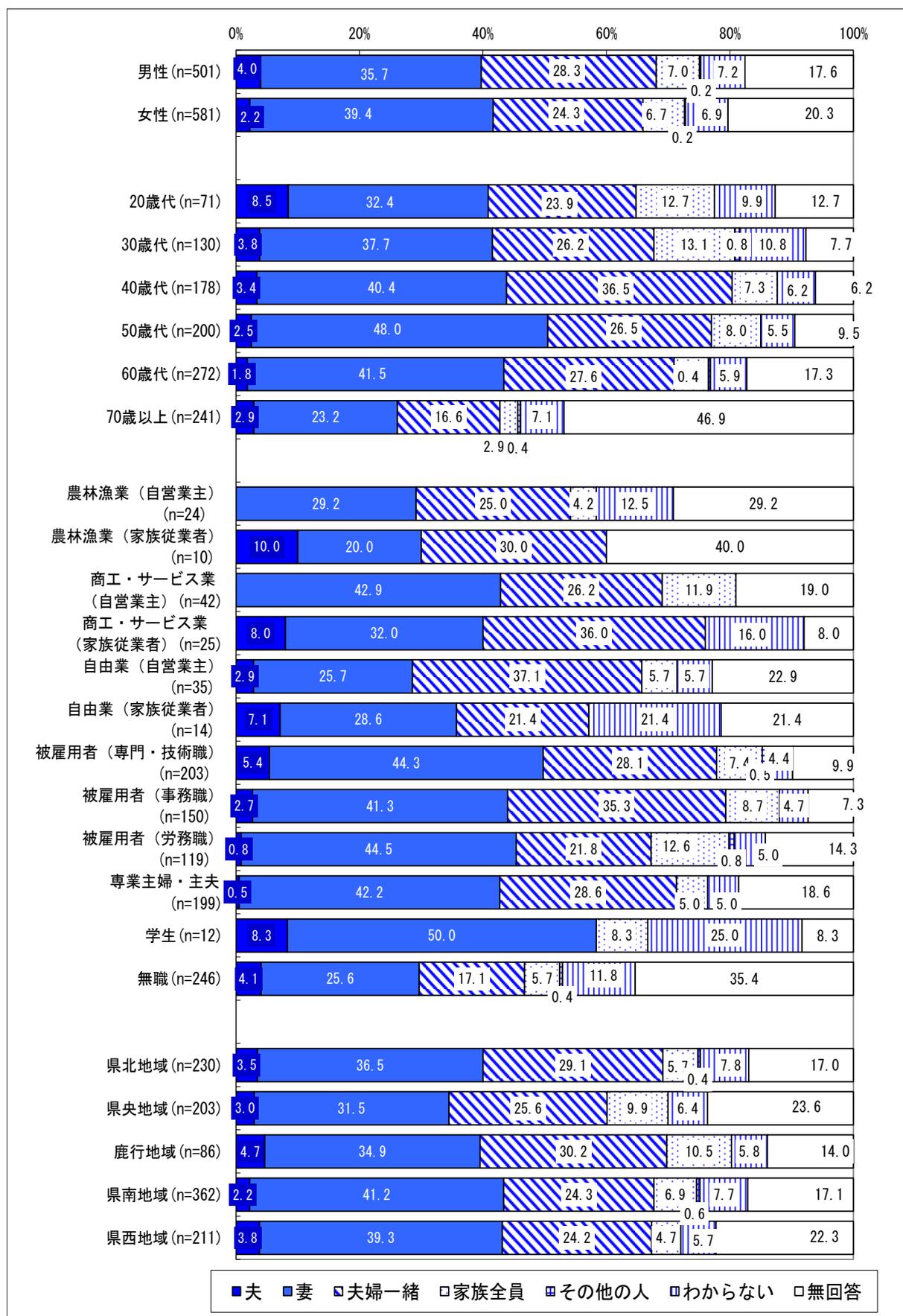
5. 不動産等の購入



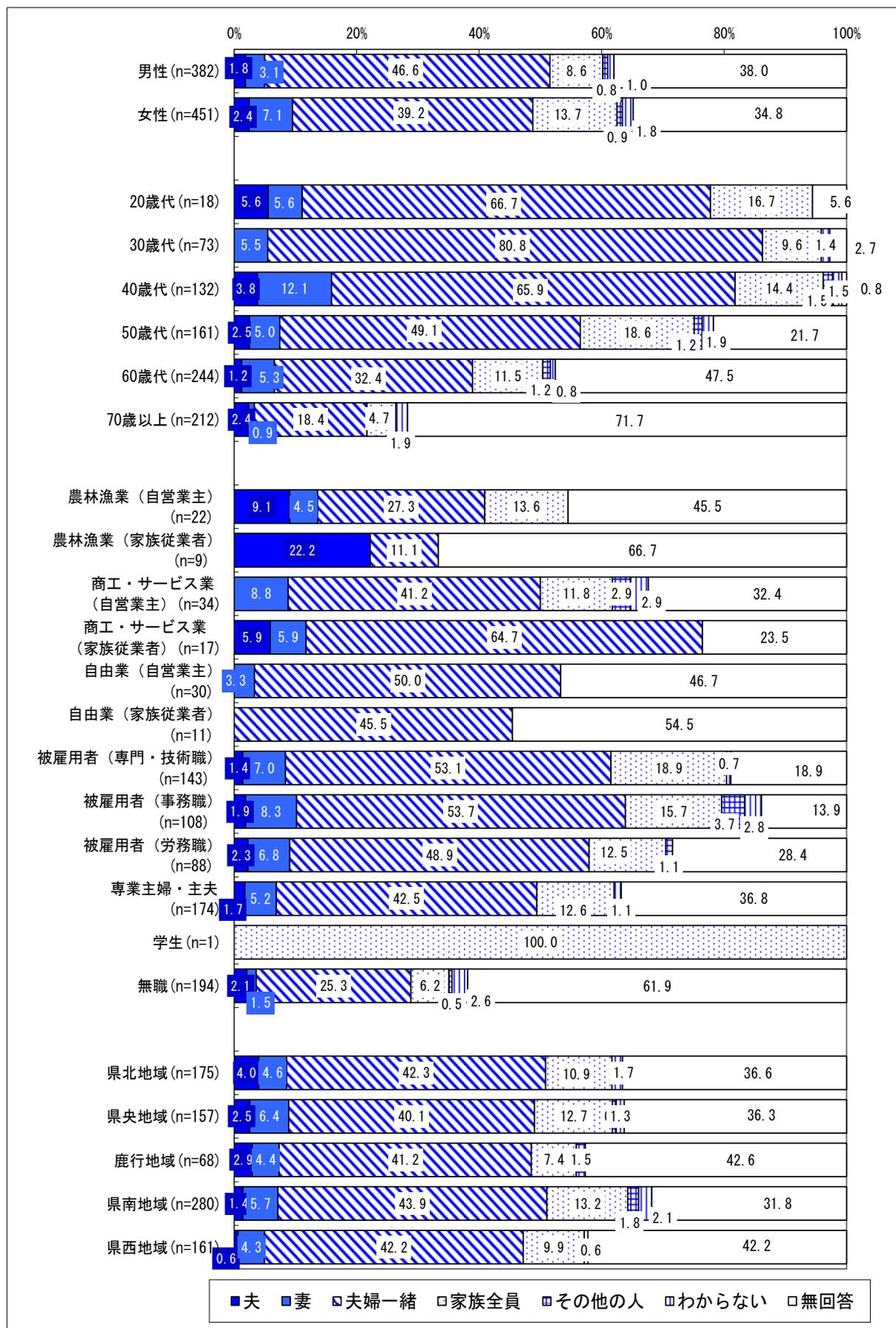
6. 夫の就職・転職



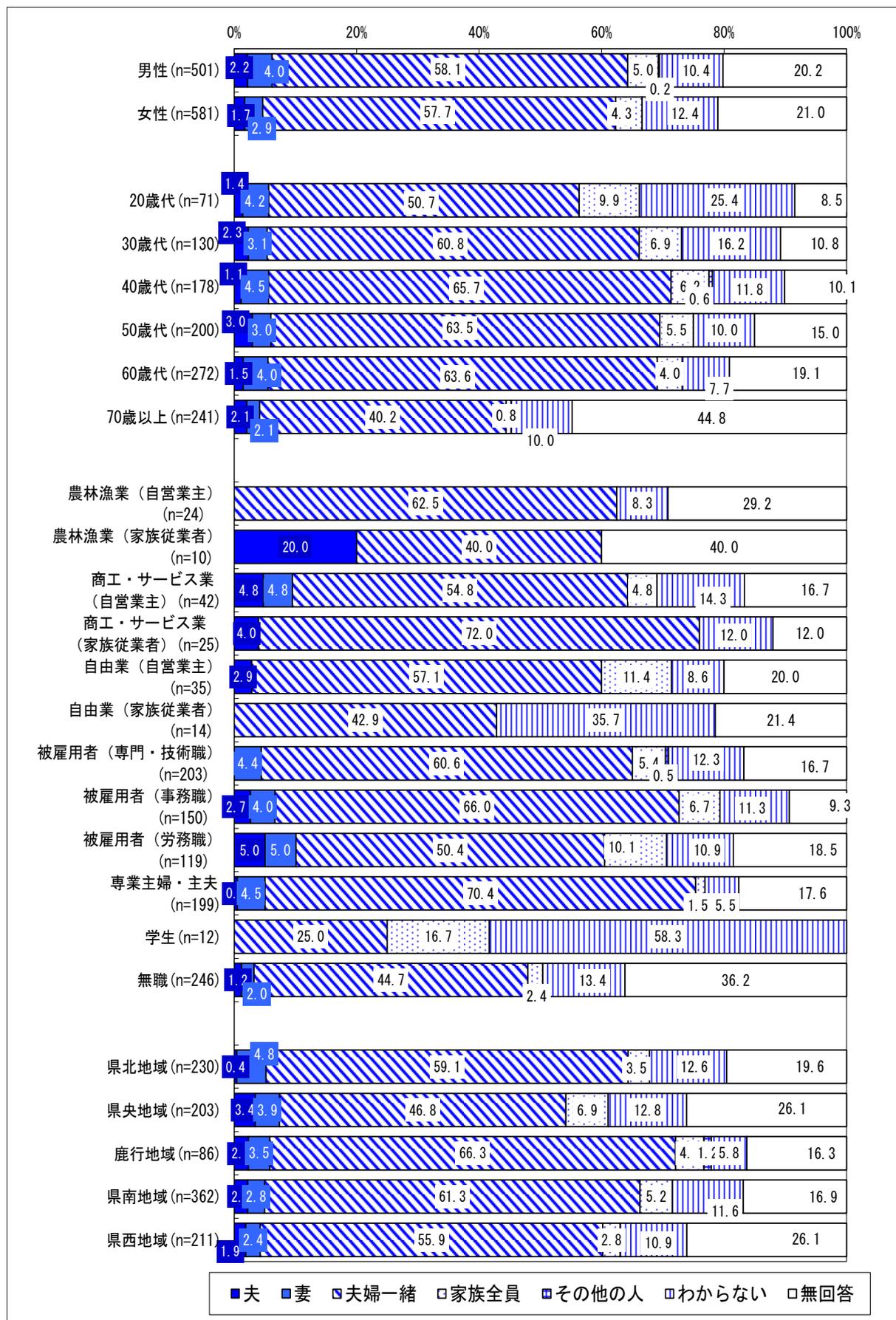
7. 妻の就職・転職



8. 子の教育・就職

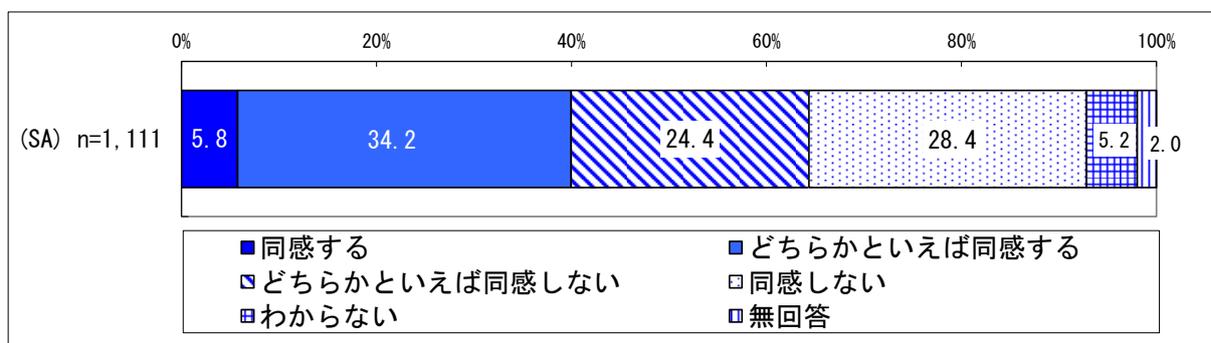


9. 子どもの数を決めるのは

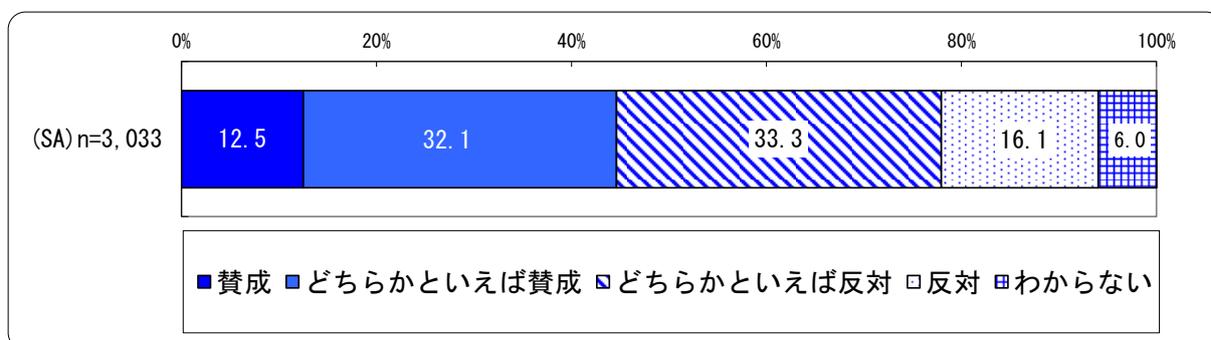


(4) 性別役割分担意識についての考え方

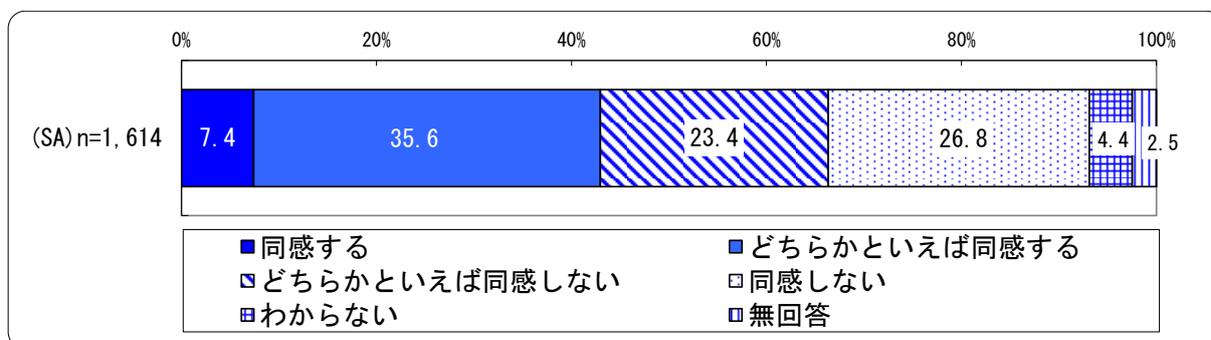
問7 「男性は仕事，女性は家庭」という考えがありますが，あなたはこの考えに同感しますか。(〇は1つ)



■平成26年全国



■平成22年茨城県



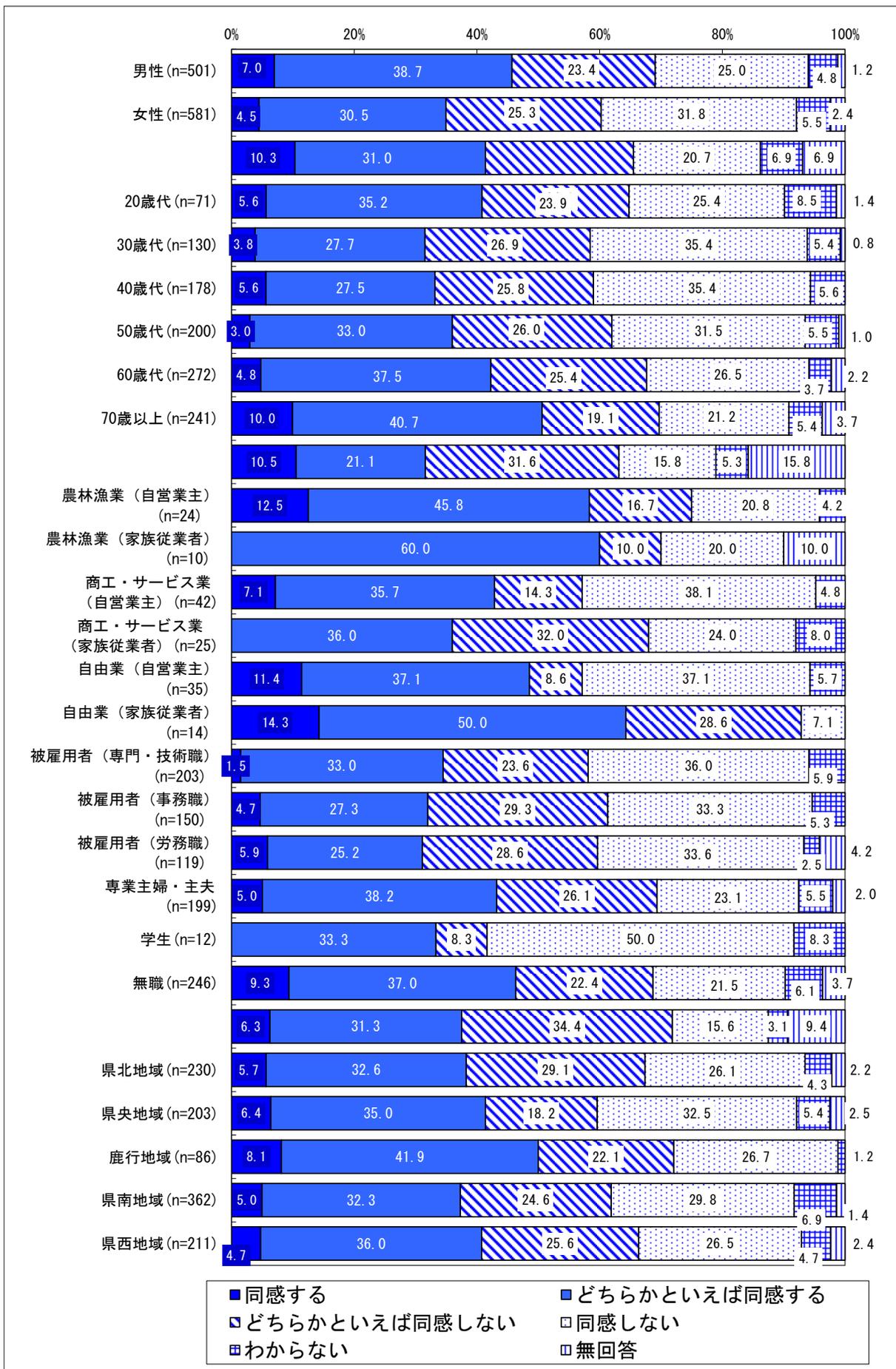
■「男性は仕事，女性は家庭」という考え方については、『同感しない』が『同感する』を若干上回っている

「男性は仕事，女性は家庭」という考え方については，「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合わせた『同感しない』が52.8%，「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』が40.0%で，『同感しない』が12.8ポイント上回っている。

性別にみると，男性は『同感する』が45.7%，女性は『同感しない』が57.1%と高くなっている。

年齢別にみると，年齢が高くなるにつれて『同感する』の割合が高くなる傾向となっている。

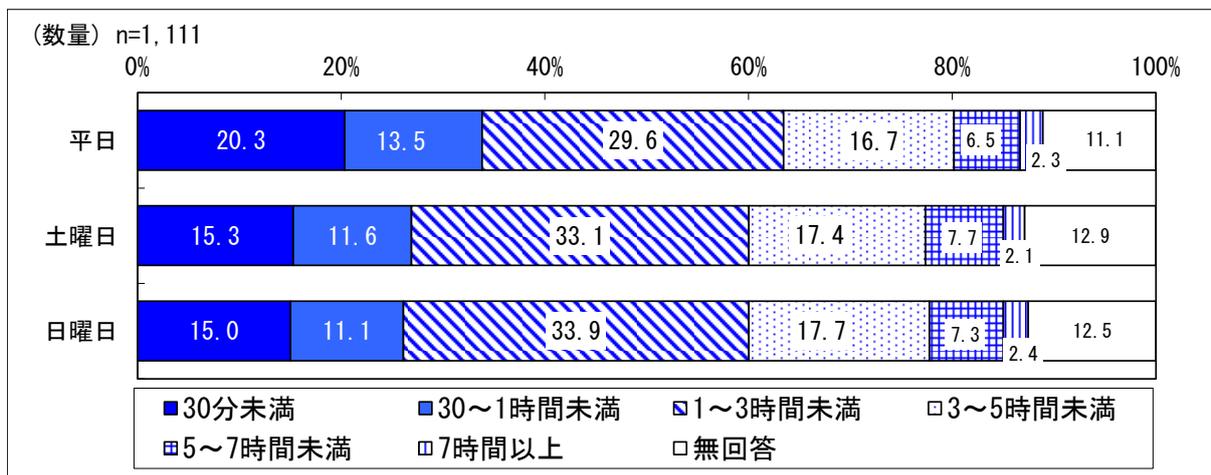
■性別役割分担意識についての考え方（各属性別）



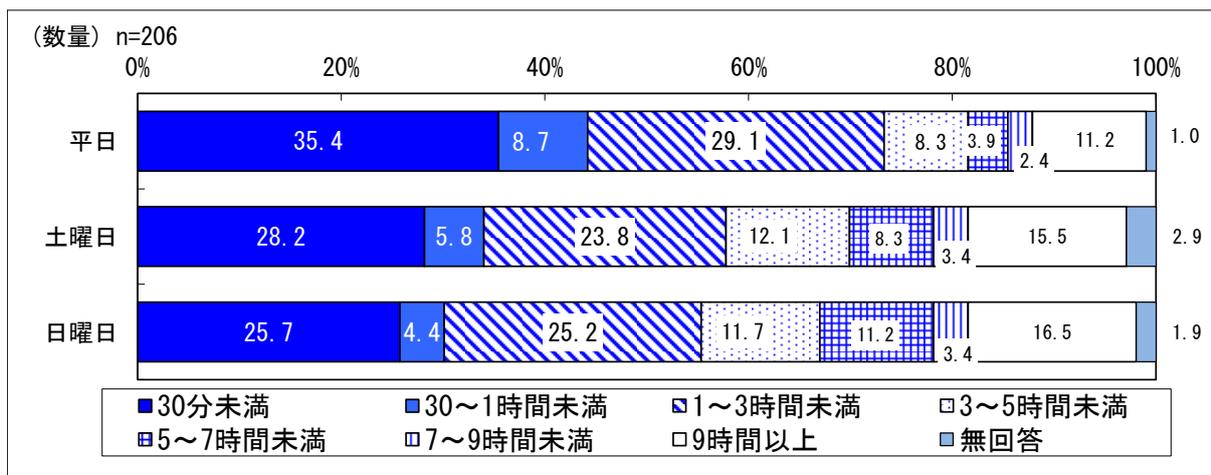
(5) 家事・育児・介護等に携わる時間

問8 次にあげるア～ウについて、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、土曜日、日曜日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

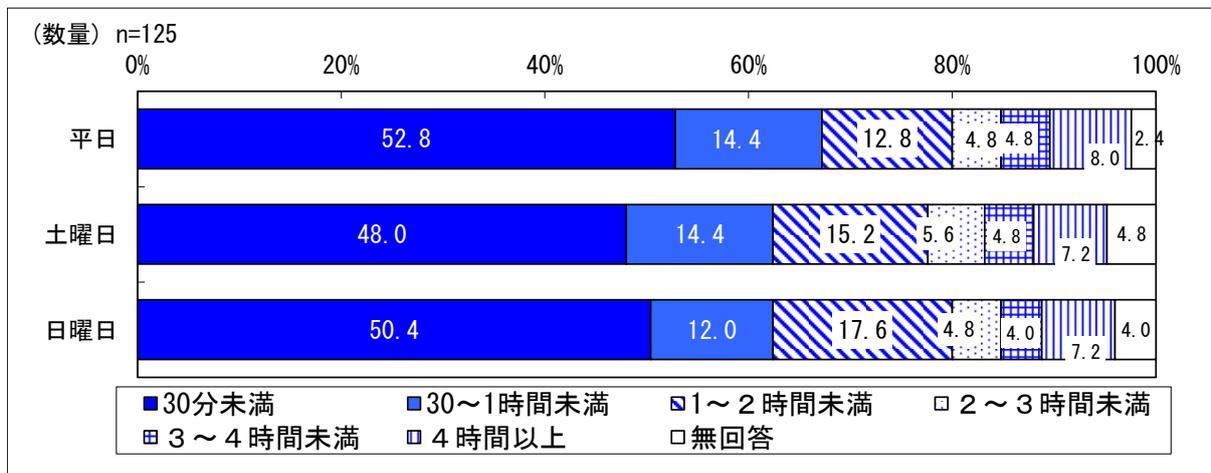
《ア 家事》



《イ 育児》

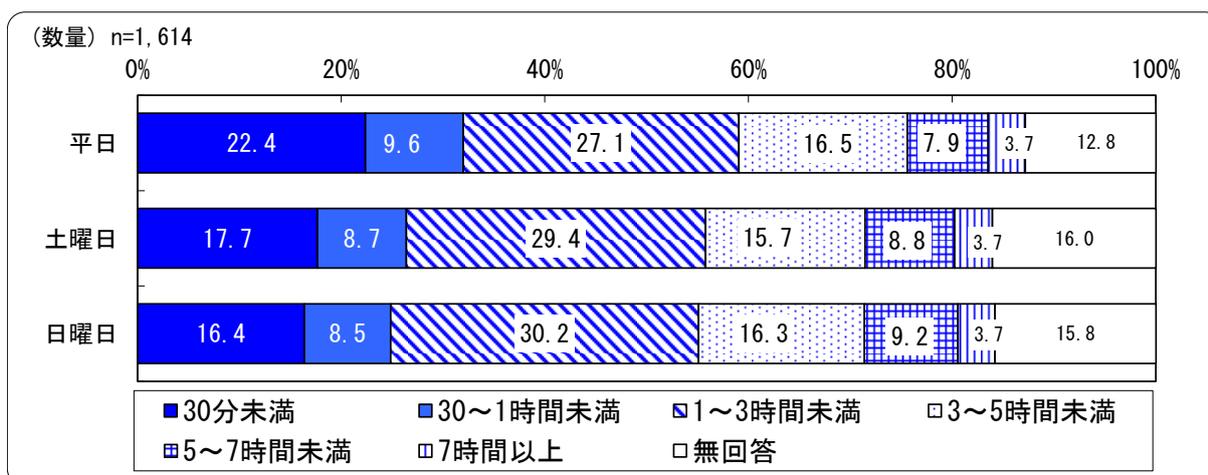


《ウ 介護・看護》

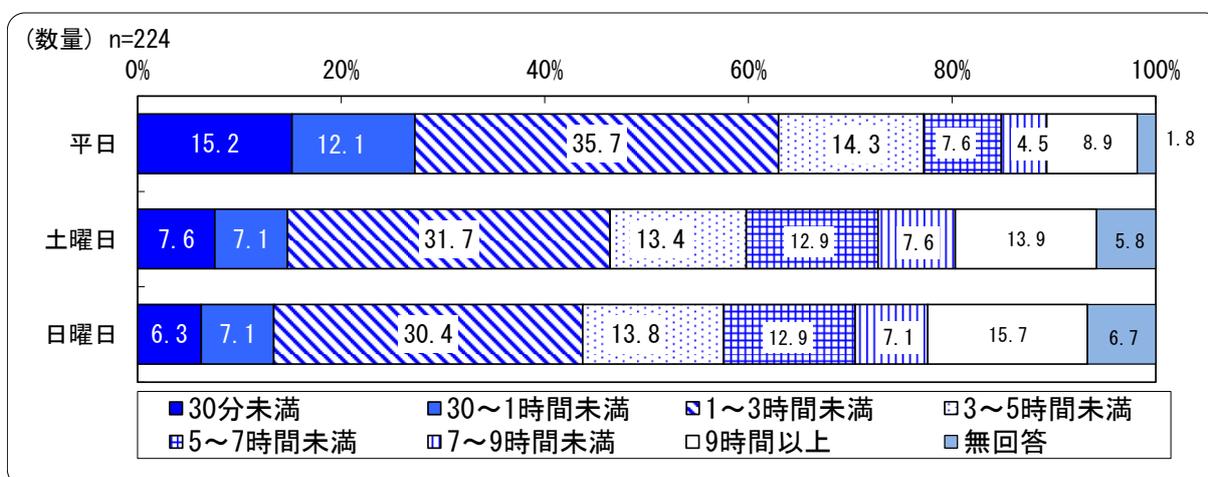


■平成 22 年茨城県

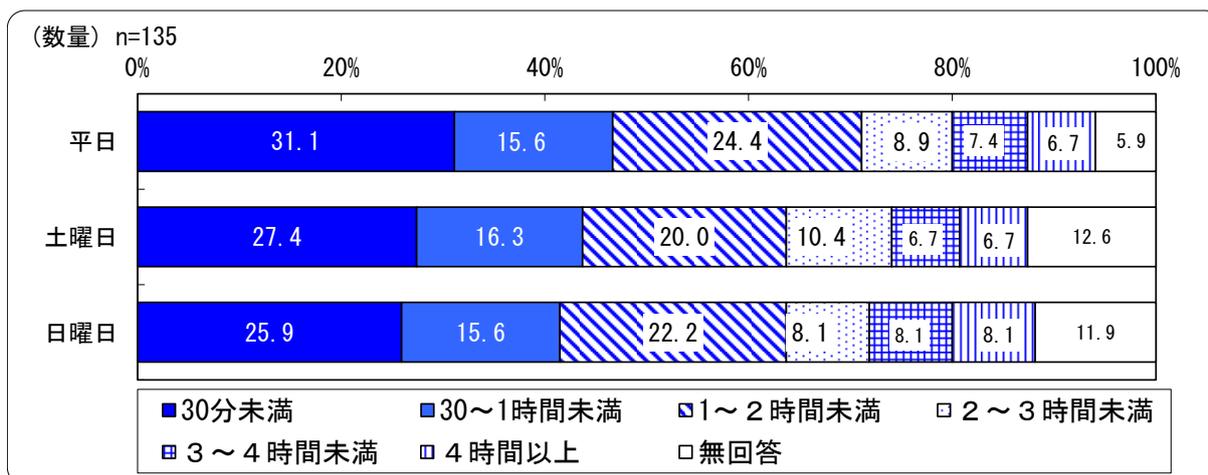
＜ア 家事＞



＜イ 育児＞



＜ウ 介護・看護＞



■家事・育児・介護等に携わる時間は総じて女性が男性を上回っている

家事に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日すべてで「1～3時間未満」（平日：29.6%，土曜日：33.1%，日曜日：33.9%）が最も高く、次いで「30分未満」（平日：20.3%，土曜日：15.3%，日曜日：15.0%）と「3～5時間未満」（平日：16.7%，土曜日：17.4%，日曜日：17.7%）が同程度となっている。

性別にみると、男性は平日が「30分未満」(38.9%)、土曜日と日曜日は「1～3時間未満」(土曜日：32.9%、日曜日：35.3%)が最も高くなっているが、女性は「1～3時間未満」(平日：33.9%、土曜日：33.4%、日曜日：32.7%)が最も高くなっており、男女で家事に携わる時間に差があることがわかる。

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて、「30分未満」の割合が高くなる傾向にある。

育児に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日すべてで「30分未満」(平日：35.4%、土曜日：28.2%、日曜日：25.7%)が最も高く、次いで「1～3時間未満」(平日：29.1%、土曜日：23.8%、日曜日：25.2%)となっている。

性別にみると、平日では男性は「30分未満」(54.3%)、女性は「1～3時間未満」(31.2%)が最も高くなっている。土曜日・日曜日は、男性は3時間未満が7割以上(土曜日：77.2%、日曜日：71.7%)、女性は3時間以上が5割以上(土曜日：56.0%、日曜日：56.8%)を占めている。

年齢別にみると、20歳代で「9時間以上」が平日・土曜日・日曜日に4割以上(平日：45.5%、土曜日：45.5%、日曜日：40.9%)を占め、他の年齢層に比べて高くなっている。

介護・看護に携わる時間については、平日・土曜日・日曜日全てで「30分未満」(平日：31.1%、土曜日：27.4%、日曜日：25.9%)が最も高く、次いで「1～2時間未満」(平日：24.4%、土曜日：20.0%、日曜日：22.2%)となっている。

性別にみても、どの曜日でも「30分未満」が男性(平日：60.3%、土曜日：50.8%、日曜日：55.6%)も女性(平日：45.0%、土曜日：45.0%、日曜日：45.0%)も最も高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ介護時間が長くなる傾向にある。

■家事・育児・介護等に携わる時間(平均時間)

ア 家事 (単位：分)

	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	113.52	122.42	123.56	119.83
男性	42.25	56.45	58.47	52.39
女性	175.54	180.02	180.43	178.66

ウ 介護 (単位：分)

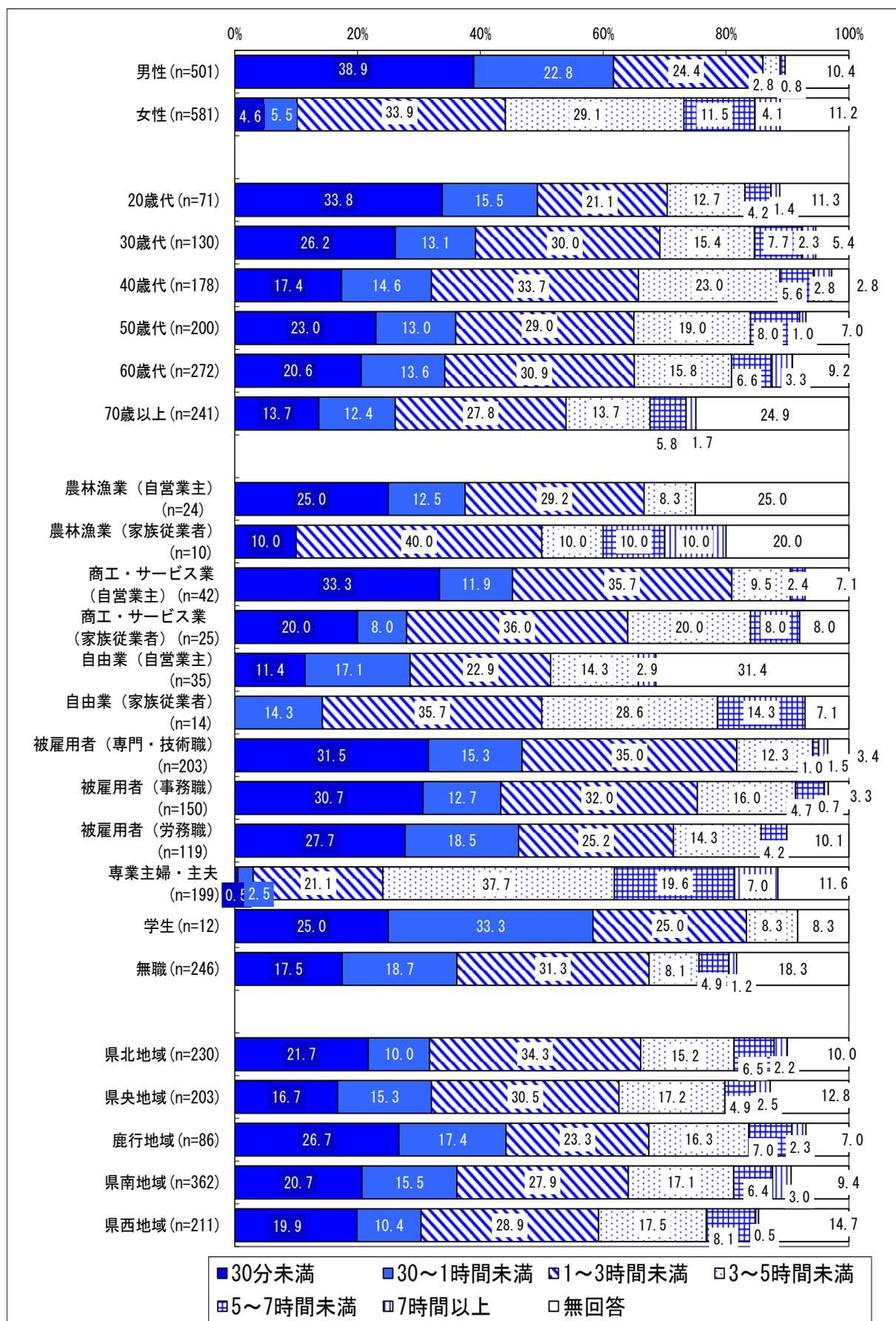
	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	58.05	58.98	66.63	61.22
男性	30.00	35.16	56.75	40.63
女性	87.50	84.00	77.00	82.83

イ 育児 (単位：分)

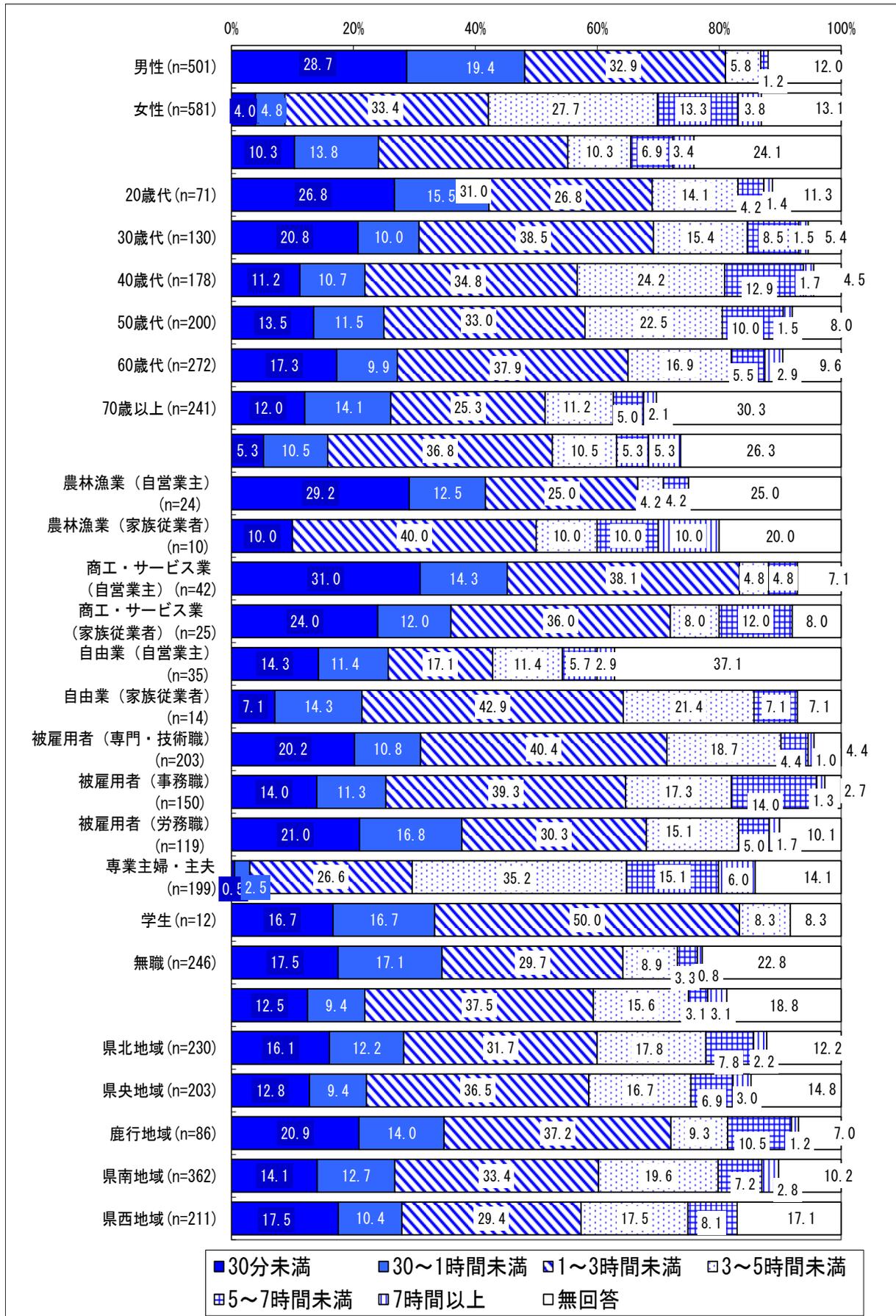
	平日	土曜日	日曜日	週全体
全体	170.47	234.23	250.04	218.25
男性	31.41	85.98	113.37	76.92
女性	287.84	359.36	365.39	337.53

《ア 家事》

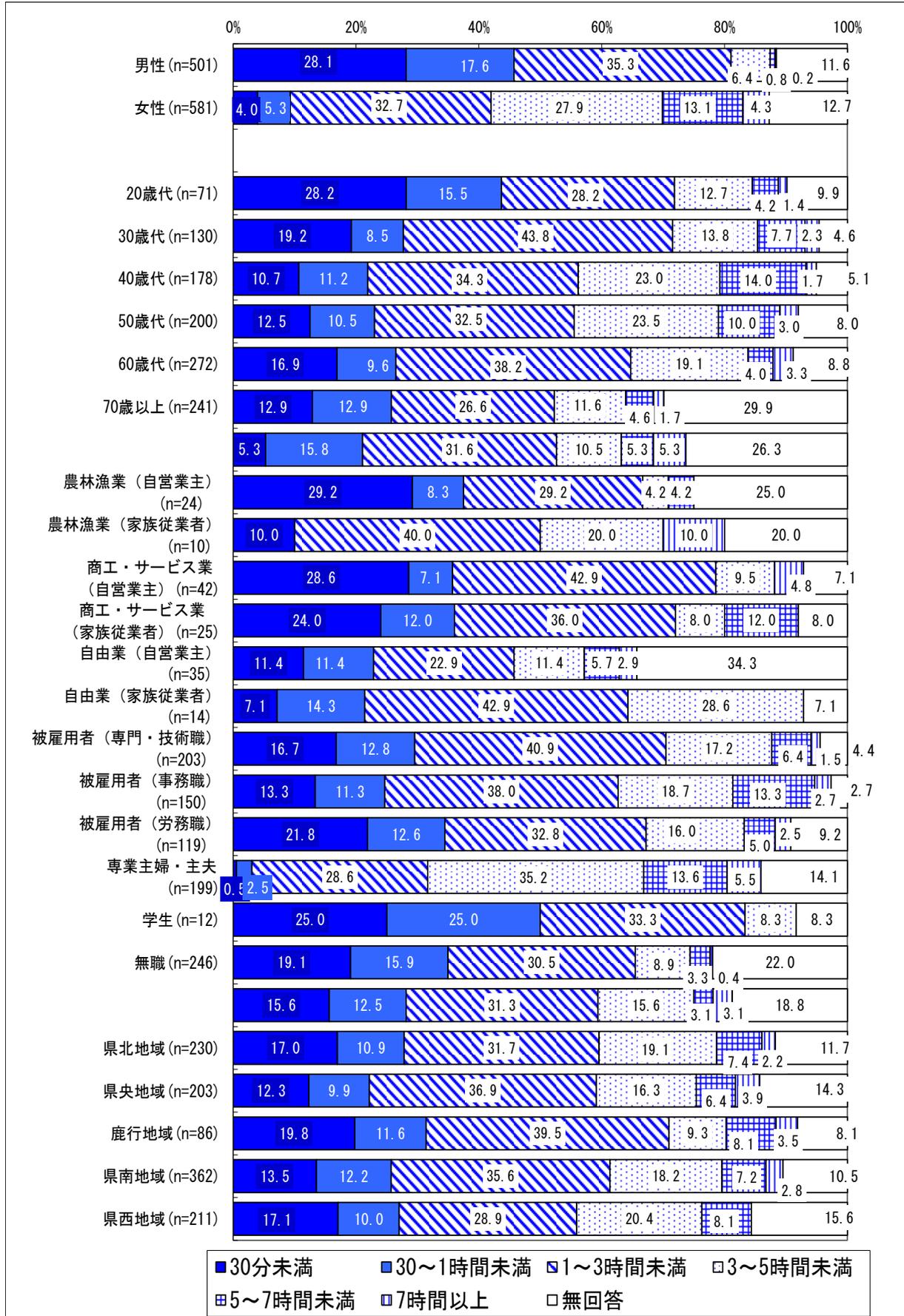
【平日】



【土曜日】

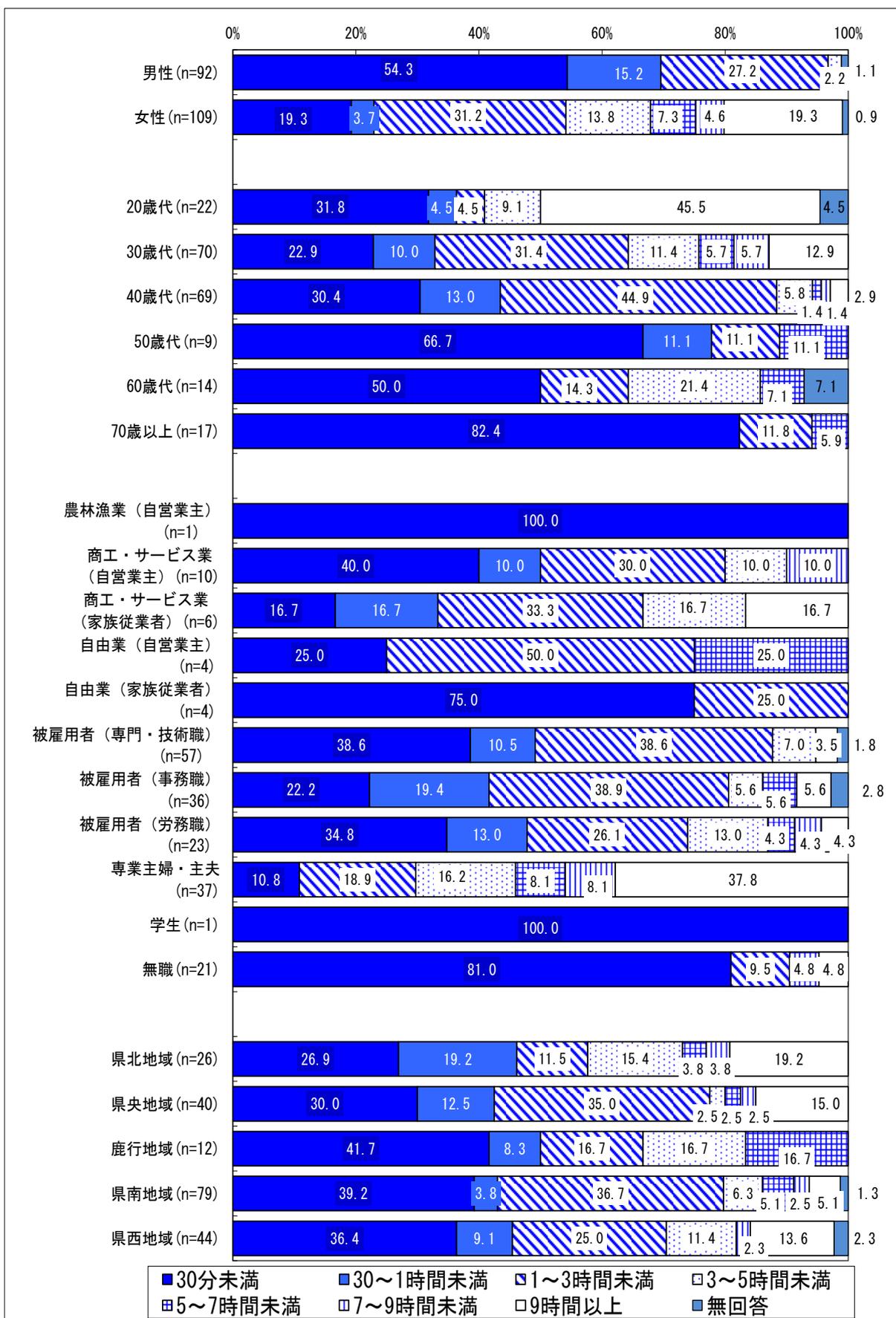


【日曜日】

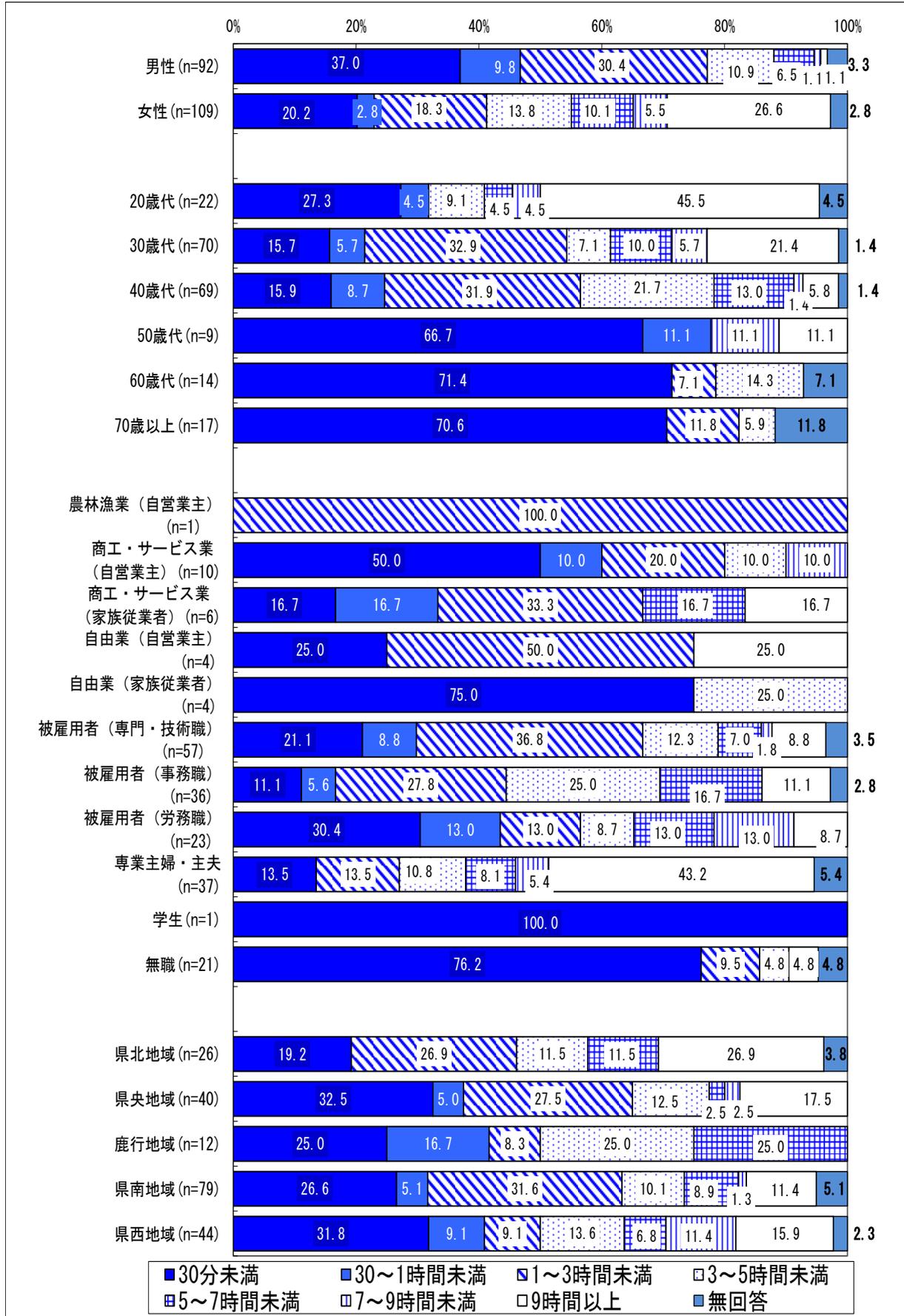


《イ 育児》

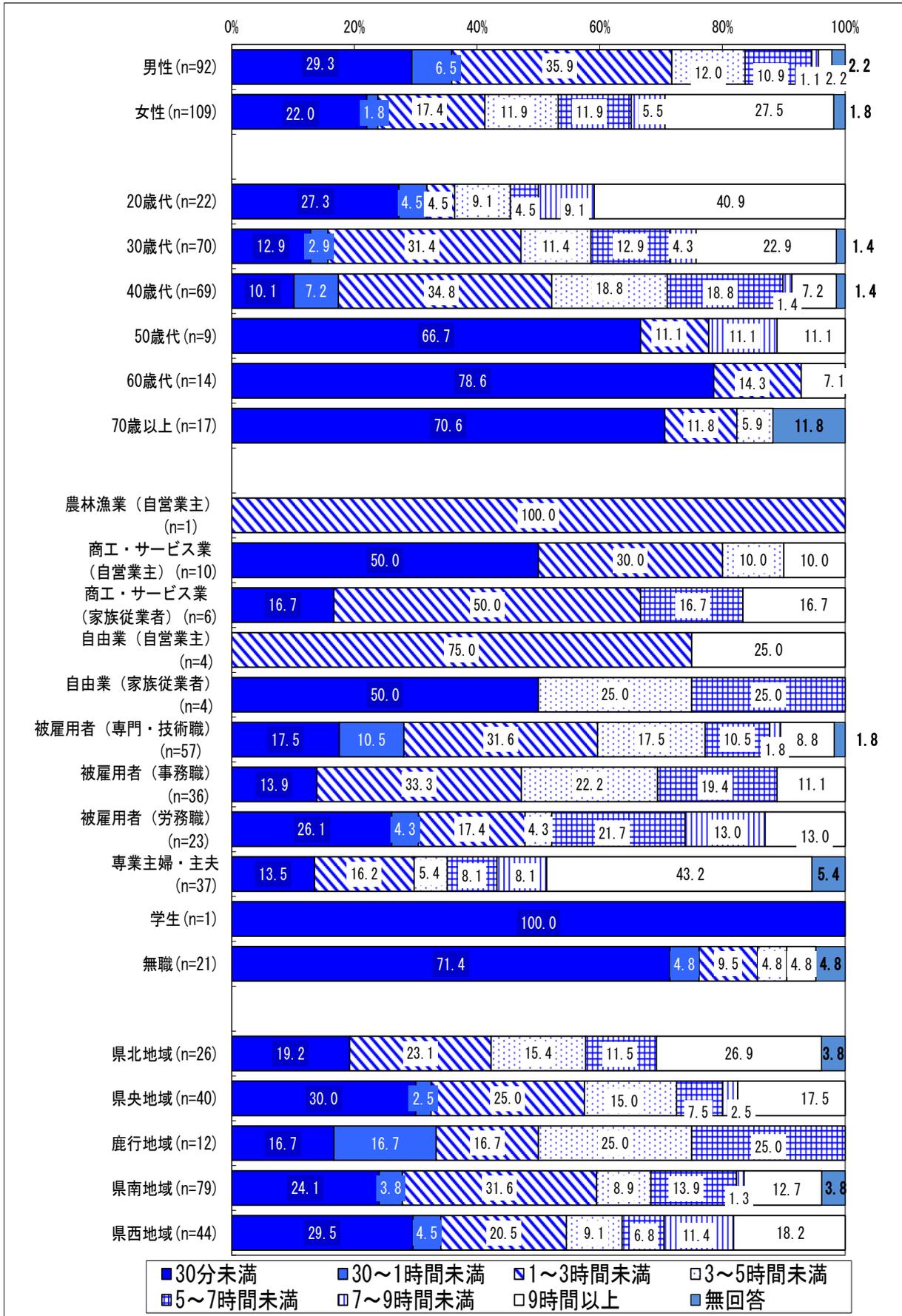
【平日】



【土曜日】

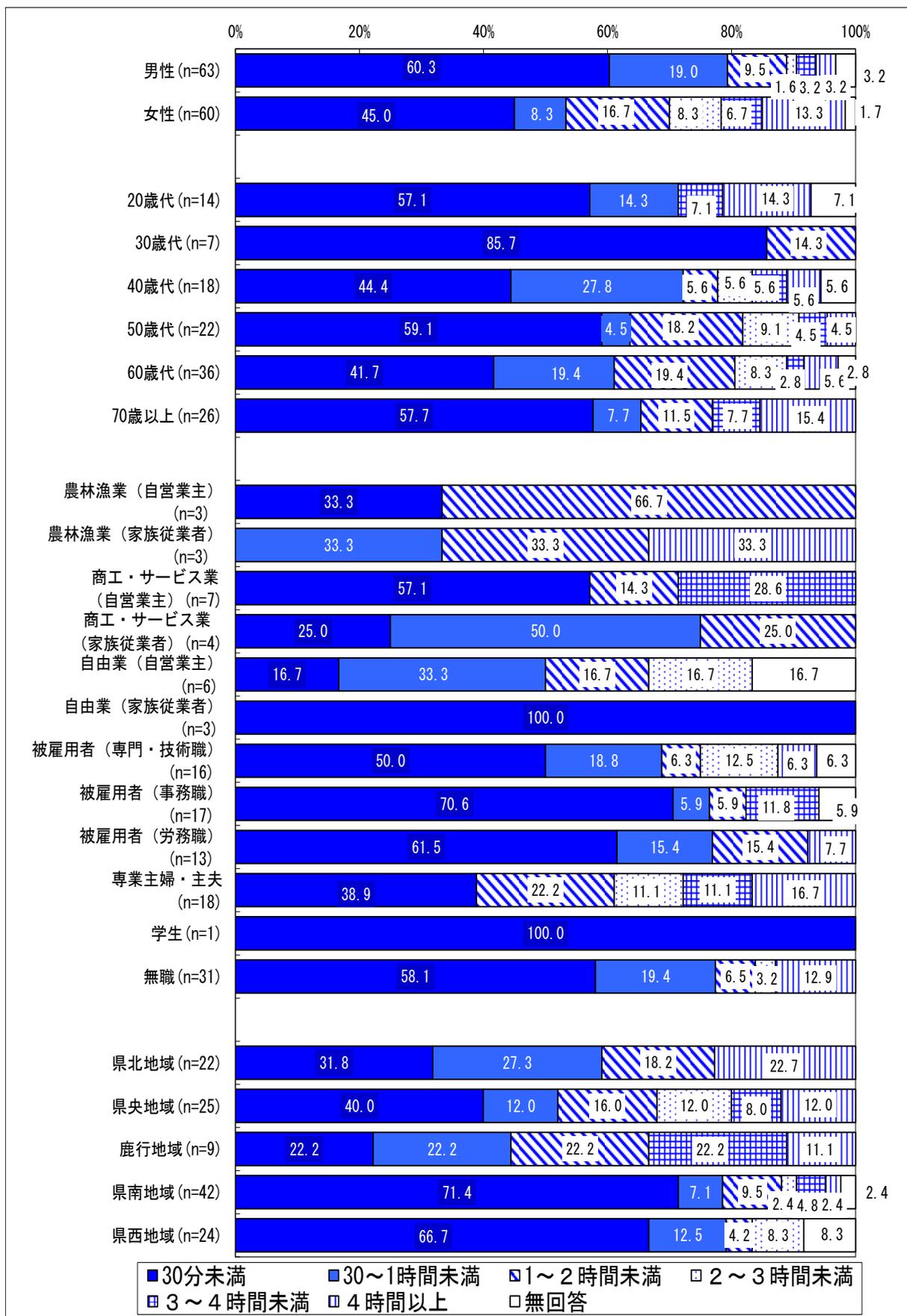


【日曜日】

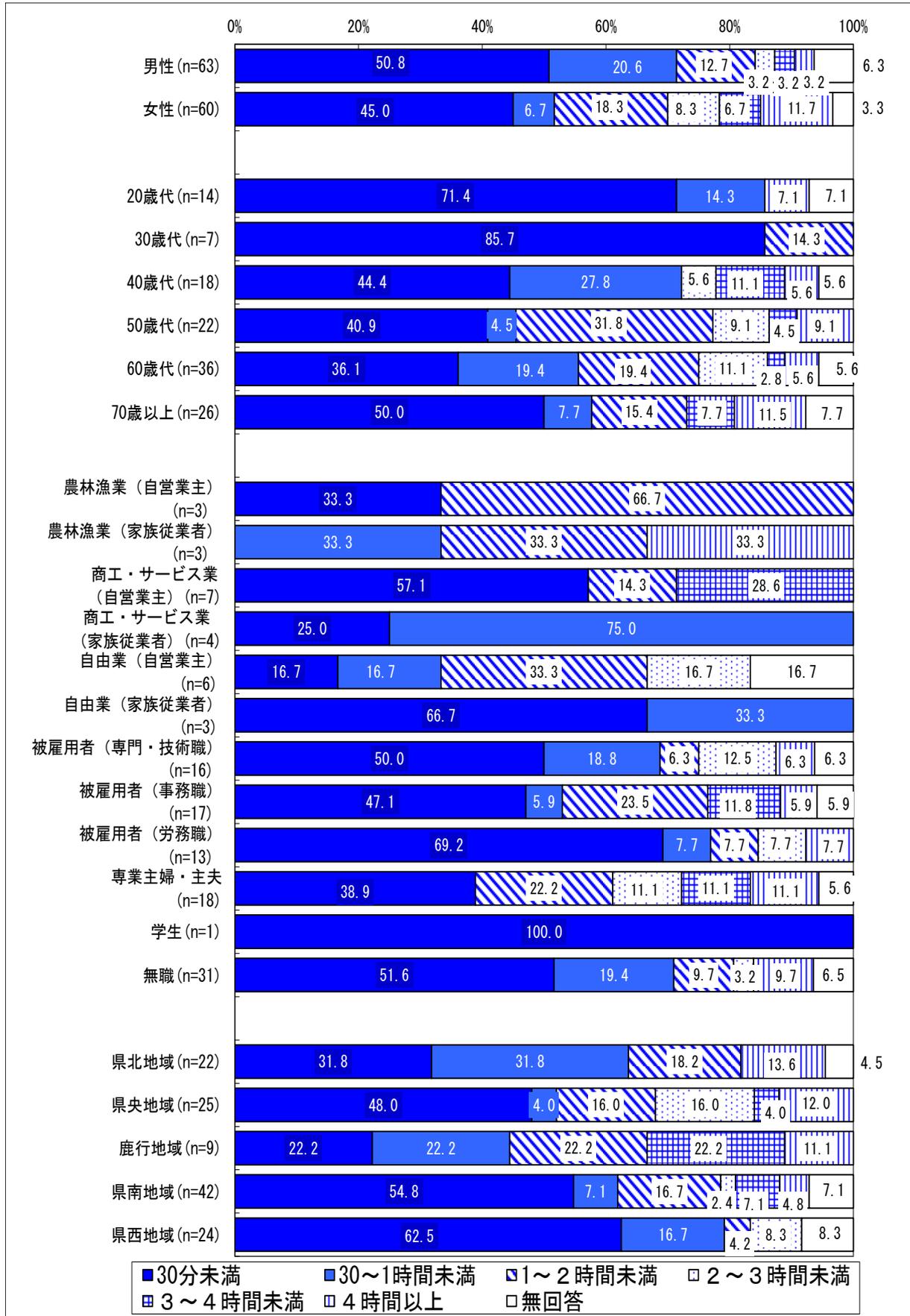


《ウ 介護・看護》

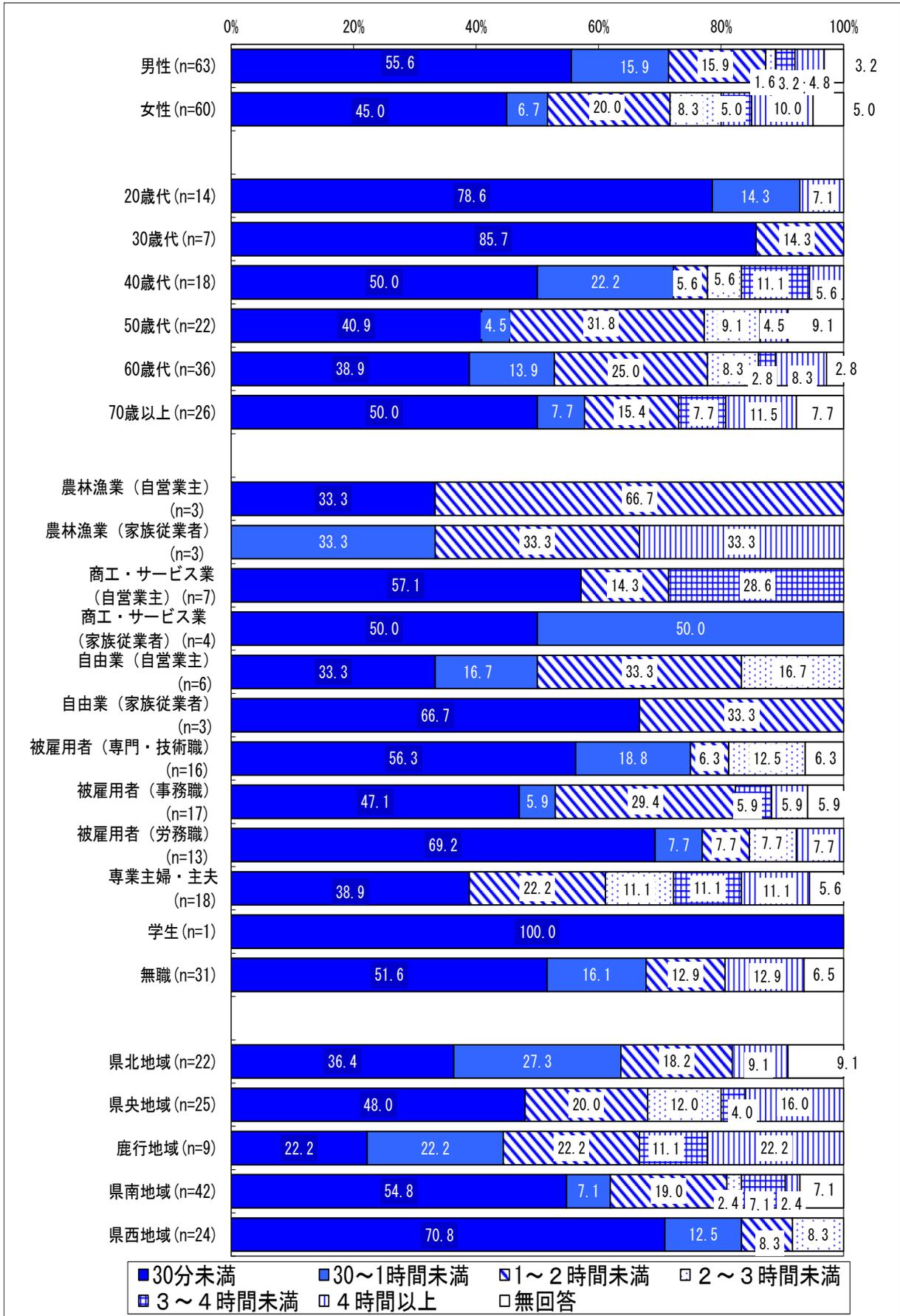
【平日】



【土曜日】



【日曜日】

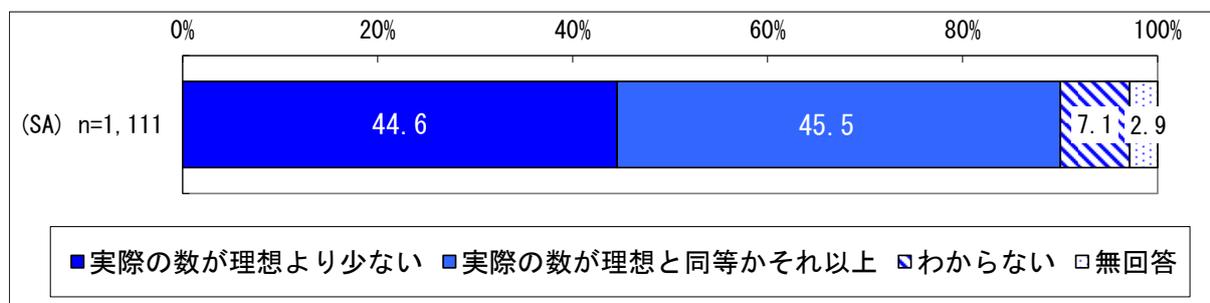
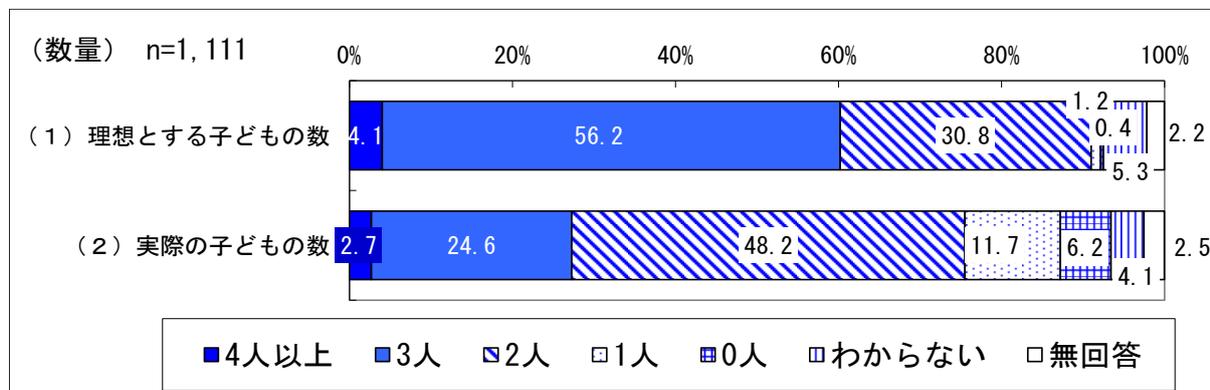


(6) 子どもについての考え

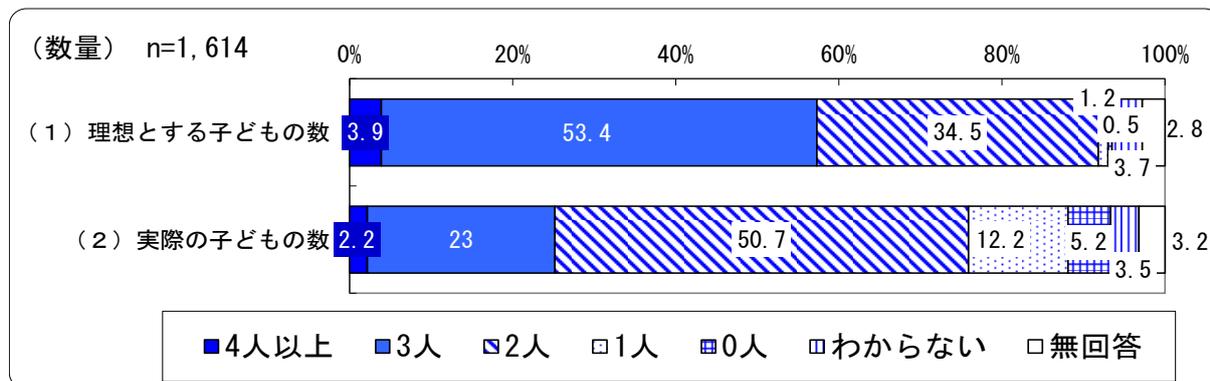
問9 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでしょうかがいます。

(1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(〇は1つ)

(2) 実際の子どもの数(又は実際に子育てできると思う数)は何人ですか。(〇は1つ)



■平成22年茨城県



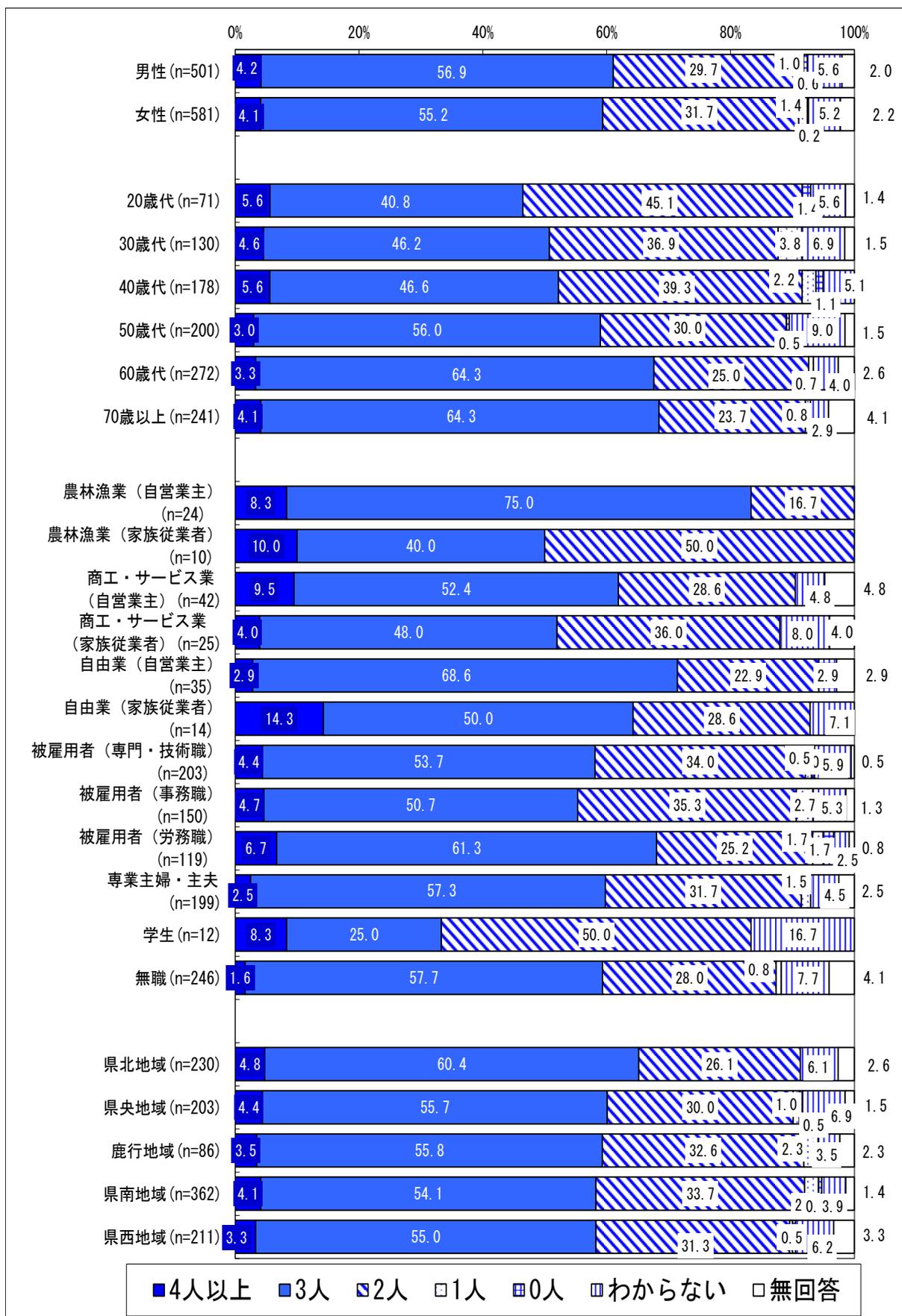
■回答者の4割以上は、理想とする子どもの数より、実際の子どもの数が少ない

理想とする子どもの数は、「3人」が56.2%と最も高く、次いで「2人」が30.8%となっている。実際の子どもの数は、「2人」が48.2%と最も高く、次いで「3人」が24.6%となっており、理想・現実ともに前回調査と同様の傾向になっている。理想と現実を比較すると、44.6%が理想より実際の子どもの数が少ないと回答している。

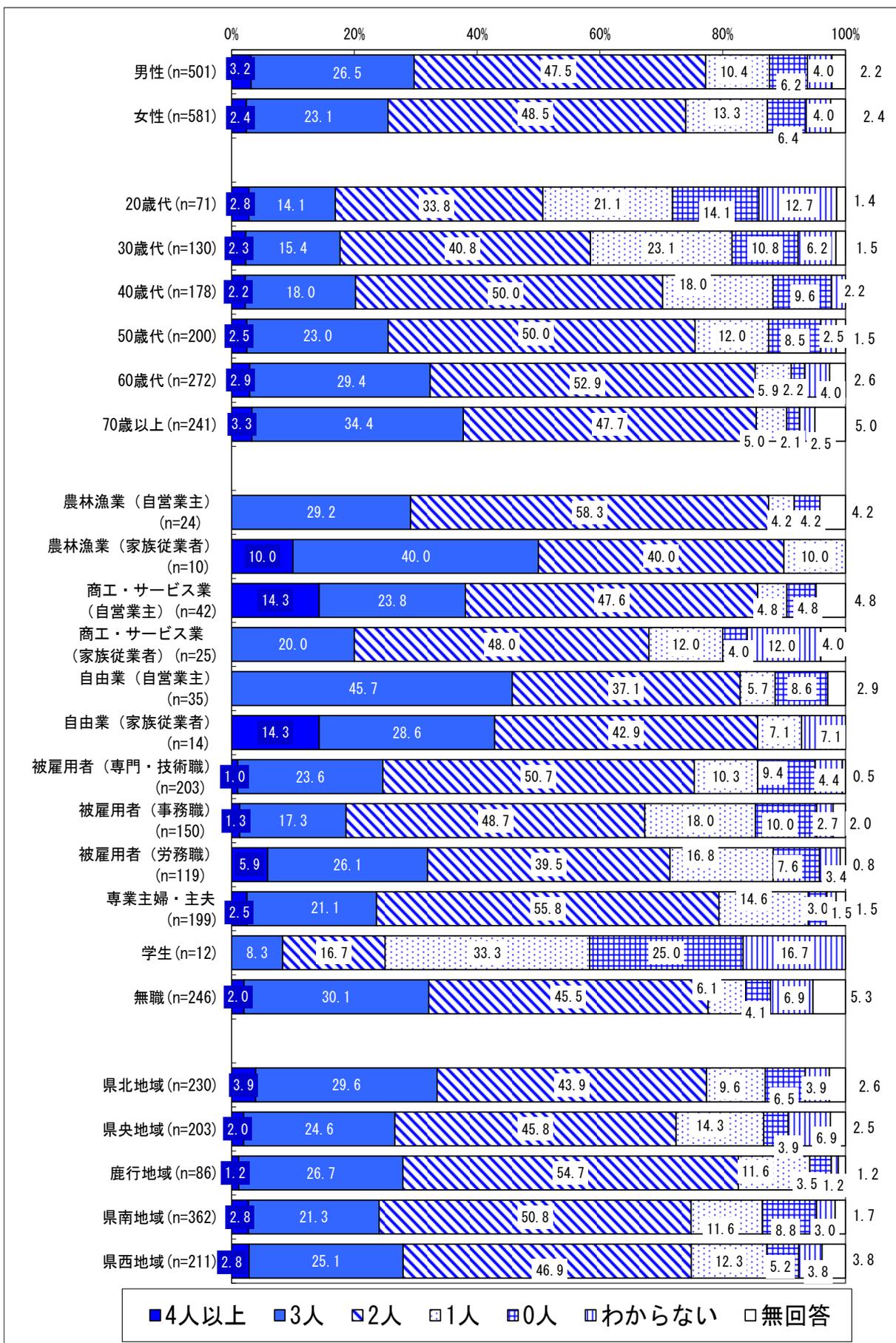
年齢別にみると、理想・現実ともに年齢が高くなるにつれて、「3人」の割合が増え、「2人」の割合が減る傾向にある。また、20歳代では実際の子どもの数(又は実際に子育てできると思う数)は「わからない」との回答が12.7%と他の年齢層に比べて高くなっている。

■子どもについての考え：理想と現実の子どもの数（各属性別）

《理想とする子どもの数》

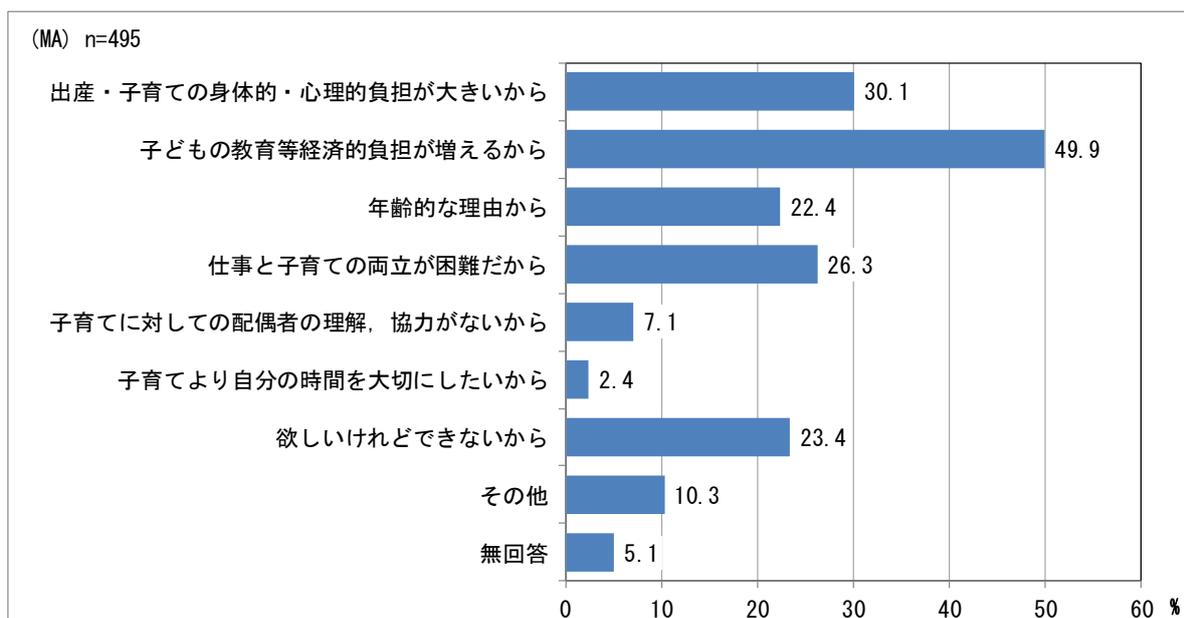


《実際の子ども数》

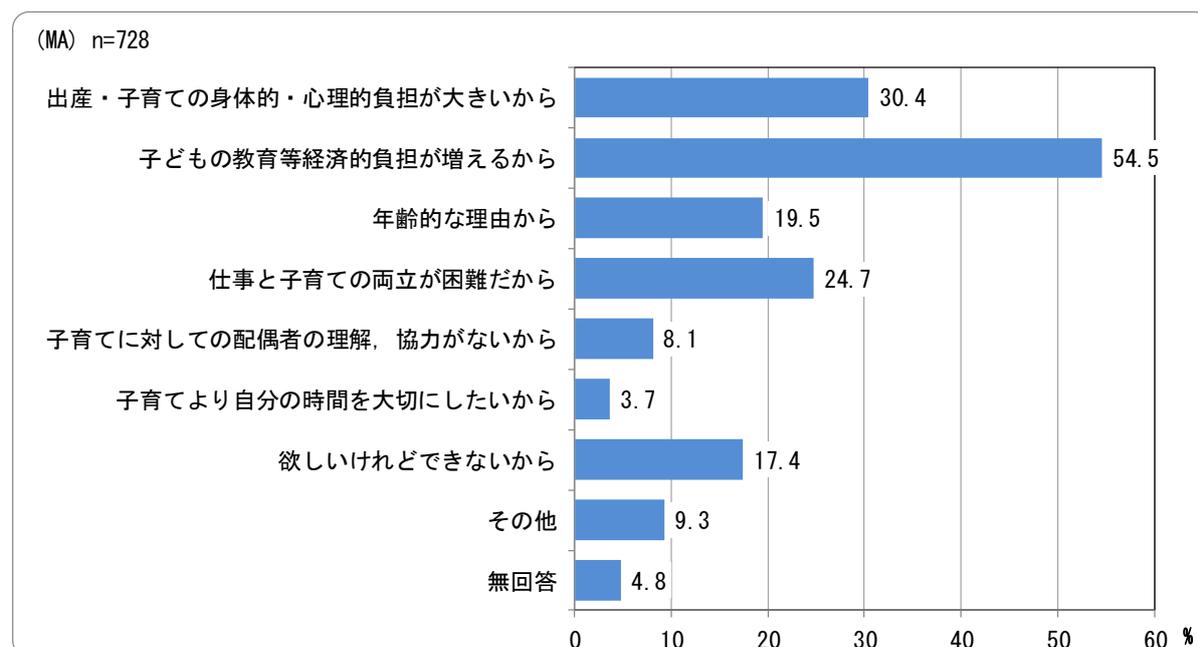


(2) の実際の数が、(1) の理想の数よりも少ない方にうかがいます。

(3) その理由は何ですか。(〇は3つまで)



■平成 22 年茨城県



■「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が5割を超え、最多

理想よりも実際の子どもの数が少ない理由については、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が 49.9%と最も高く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」が 30.1%、「仕事と子育ての両立が困難だから」が 26.3%となっている。

性別にみると、「子どもの教育等経済的負担が増えるから」(男性：49.1%、女性：49.6%)は男女共ほぼ同じ割合となっているが、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」(男性：25.2%、女性：34.3%)、「仕事と子育ての両立が困難だから」(男性：20.1%、女性：31.3%)については、いずれも女性が男性を約1割以上上回っている。

■理想より実際の子どもの数が少ない理由（その他回答）

内容	性別	年齢
結婚していないため	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	男性	20 歳代
	男性	30 歳代
	男性	50 歳代
離婚したから（離婚を考えている）	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	50 歳代
出産して（子どもが生まれて）間もないから	男性	30 歳代
	女性	30 歳代
子どもが嫌い，欲しいと思わない	男性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	20 歳代
子どもがいらないからわからない	男性	50 歳代
	男性	70 歳以上
夫（妻）の理解が得られない	男性	40 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	60 歳代
夫婦仲に問題があるから	男性	20 歳代
育てられるか不安だから	女性	20 歳代
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
双子だったから	女性	40 歳代
親の意見	女性	50 歳代
子どもをひとり亡くしているから	女性	30 歳代
世界情勢の変化がいちじるしいので	女性	30 歳代
夫の手助けが期待できないから	女性	40 歳代
子どもが二人だと親の愛に疑問を持ってしまいそうだから	女性	70 歳以上
仕事が多忙で家族計画を考える余裕がなかったから	男性	60 歳代
自然に	男性	70 歳以上
女子のみで男子ができなかったから	男性	70 歳以上
複合的理由により	女性	40 歳代
二人出産してどちらも異常分娩だったから	女性	50 歳代
少子化の心配がなかった時代だったから	男性	60 歳代

内容	性別	年齢
妊娠・出産の為産休を使えたとしても復帰後のポジション（役職等）の保障がないため、キャリアを捨ててまた1からやっていくのが困難	女性	30 歳代
体質的に無理なため（持病がある，病弱であるなど）	男性	40 歳代
	男性	60 歳代
	男性	70 歳以上
	女性	30 歳代
	女性	50 歳代
	女性	60 歳代
	女性	70 歳以上
経済的理由	男性	70 歳以上
	男性	30 歳代
ヨーロッパのように子供を持つ家庭に対しての支援が無いから	男性	20 歳代

■実際の子どもの数が理想より少ない理由（各属性別）

単位：%		いから	的産心・理的育	出産・育	子の育	負担の増えるから	経済的	年齢的な理由から	困難だから	仕事と子育ての両立が	者の理解・協力が	子育てにたいしての配	を大切にしたいから	子育てより自分の時間	から欲しいけれどできない	その他	無回答	
性別	男性 (n=214)	25.2	49.1	21.5	20.1	4.7	2.3	22.9	10.3	5.6								
	女性 (n=268)	34.3	49.6	22.8	31.3	8.6	2.2	23.5	10.8	4.9								
	不詳 (n=13)	23.1	69.2	30.8	23.1	15.4	7.7	30.8										
年齢別	20歳代 (n=34)	29.4	61.8	8.8	38.2	8.8	2.9	5.9	26.5	2.9								
	30歳代 (n=69)	24.6	56.5	24.6	27.5	10.1	4.3	23.2	15.9	1.4								
	40歳代 (n=92)	37.0	51.1	41.3	29.3	8.7	3.3	29.3	10.9									
	50歳代 (n=91)	39.6	54.9	20.9	27.5	5.5	3.3	25.3	9.9	2.2								
	60歳代 (n=116)	30.2	49.1	21.6	26.7	4.3	0.9	20.7	5.2	4.3								
	70歳以上 (n=84)	19.0	33.3	8.3	16.7	7.1		23.8	7.1	19.0								
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=13)	23.1	46.2	7.7	30.8										38.5	7.7	7.7	
	農林漁業 (家族従業者) (n=2)	50.0			50.0										50.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=16)	18.8	31.3	31.3	50.0	18.8									18.8	6.3	6.3	
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=13)	38.5	69.2	30.8	30.8	7.7									30.8	7.7		
	自由業 (自営業主) (n=11)	36.4	36.4	18.2	18.2	9.1									36.4		18.2	
	自由業 (家族従業者) (n=4)	25.0	50.0	25.0									25.0	25.0				
	被雇用者 (専門・技術職) (n=94)	24.5	45.7	33.0	26.6	5.3	4.3	19.1	16.0	2.1								
	被雇用者(事務職) (n=81)	33.3	53.1	27.2	30.9	4.9	3.7	34.6	12.3	2.5								
	被雇用者(労務職) (n=58)	27.6	58.6	24.1	27.6	8.6		20.7	8.6									
	専業主婦・主夫 (n=92)	42.4	53.3	19.6	26.1	8.7	1.1	18.5	8.7	4.3								
	学生 (n=6)	33.3	66.7		16.7			16.7		16.7						50.0		16.7
無職 (n=87)	24.1	40.2	10.3	16.1	8.0	1.1	21.8	8.0	13.8									
地域別	県北地域 (n=93)	31.2	54.8	17.2	17.2	9.7	3.2	22.6	12.9									
	県央地域 (n=84)	29.8	46.4	28.6	33.3	6.0		29.8	11.9	3.6								
	鹿行地域 (n=37)	32.4	48.6	29.7	29.7	8.1		18.9	13.5	5.4								
	県南地域 (n=173)	32.9	50.3	21.4	23.7	8.1	4.0	20.8	12.1	6.4								
	県西地域 (n=98)	25.5	48.0	21.4	33.7	3.1	1.0	23.5	3.1	8.2								

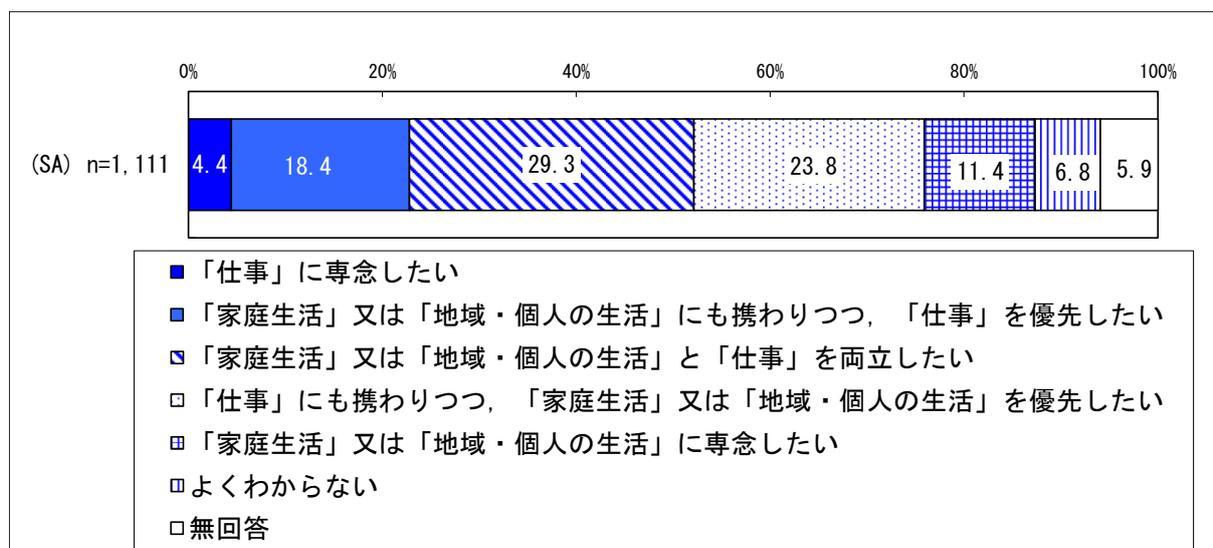
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

（1）仕事，家庭生活，地域・個人の生活の理想と現実

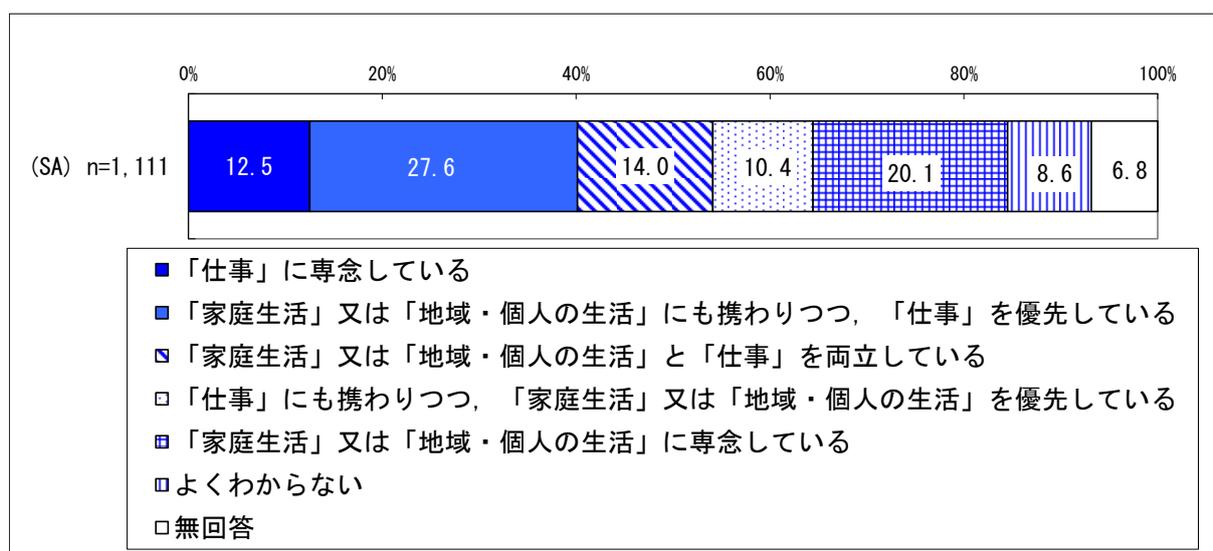
問10 「仕事」，「家庭生活」，「地域・個人の生活」の状況について，理想はどうあるべきだと思いますか。また，実際はどうですか。

（現在，仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。○はそれぞれ1つ）

《理想》

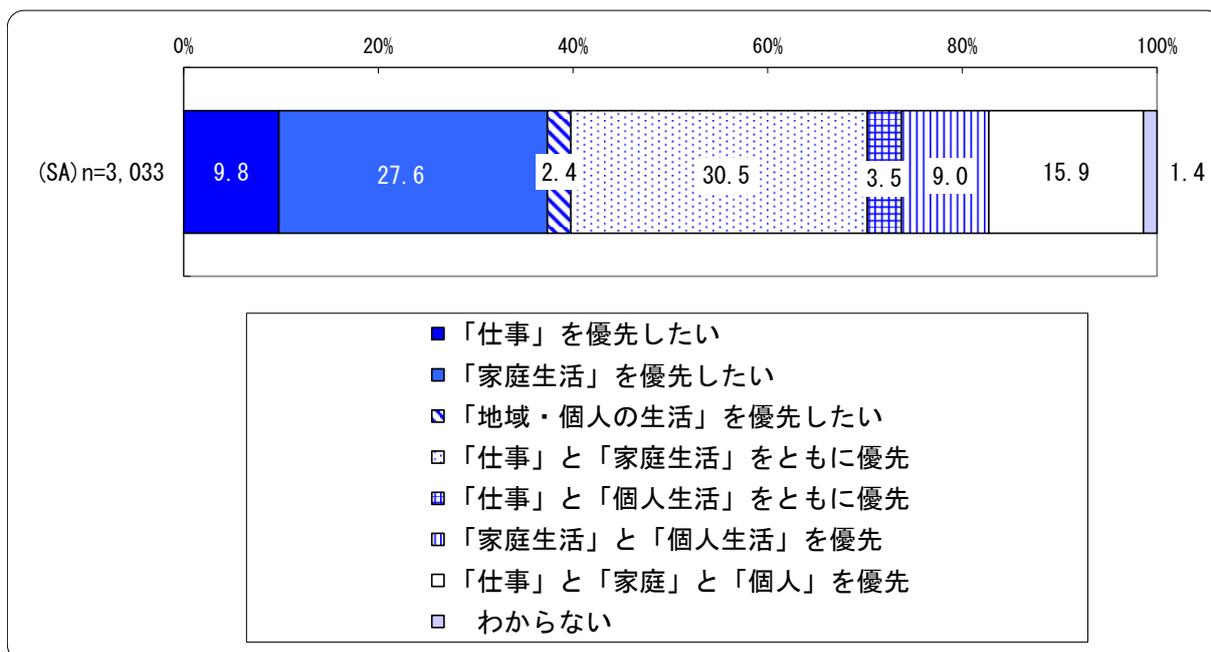


《現実》

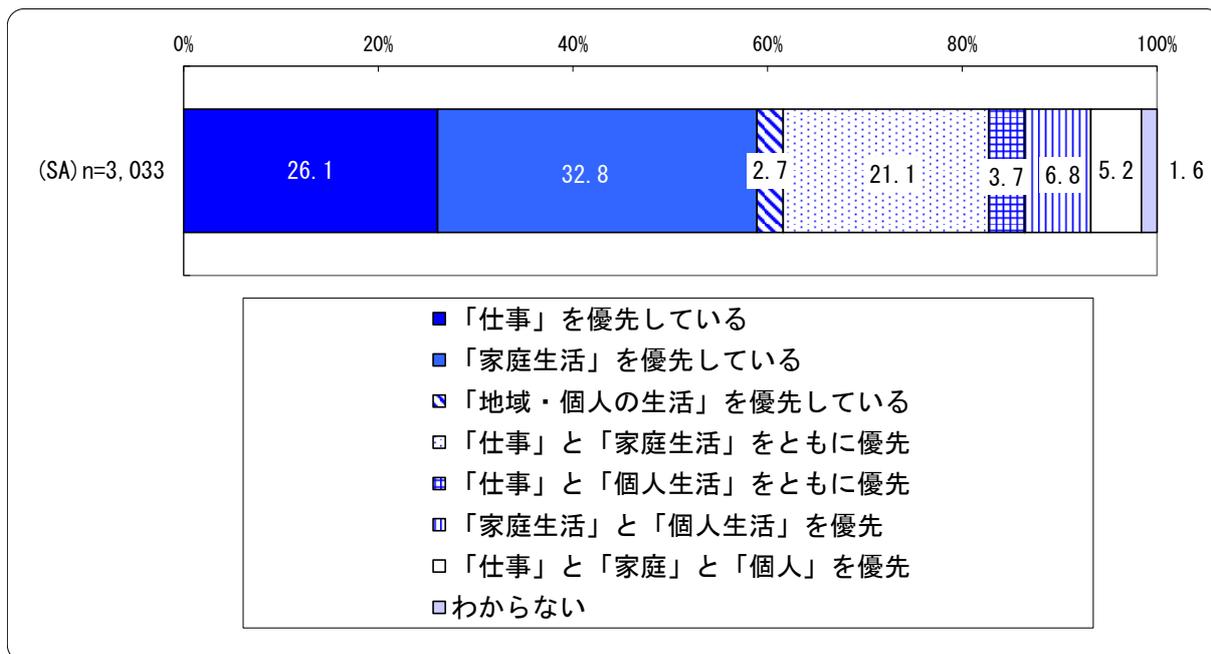


■平成 24 年全国

《理想》

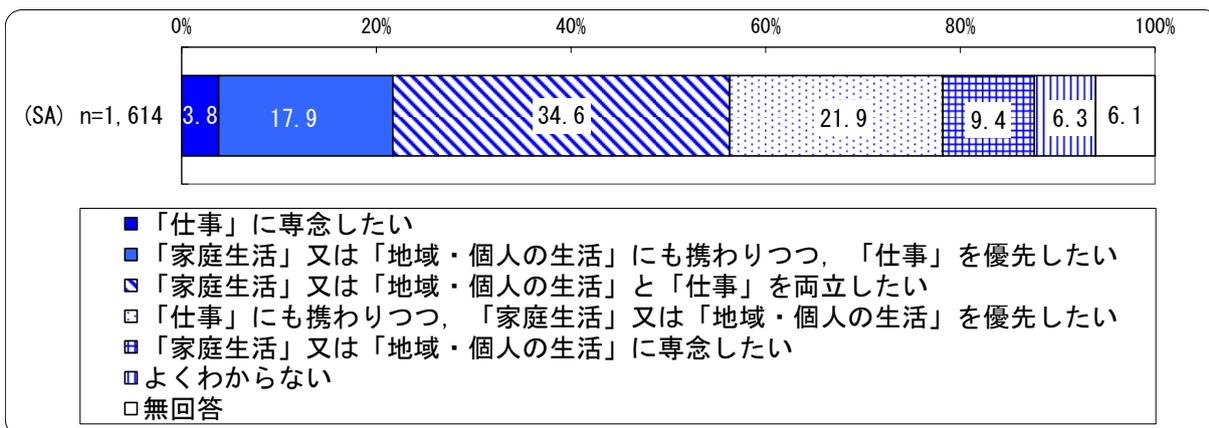


《現実》

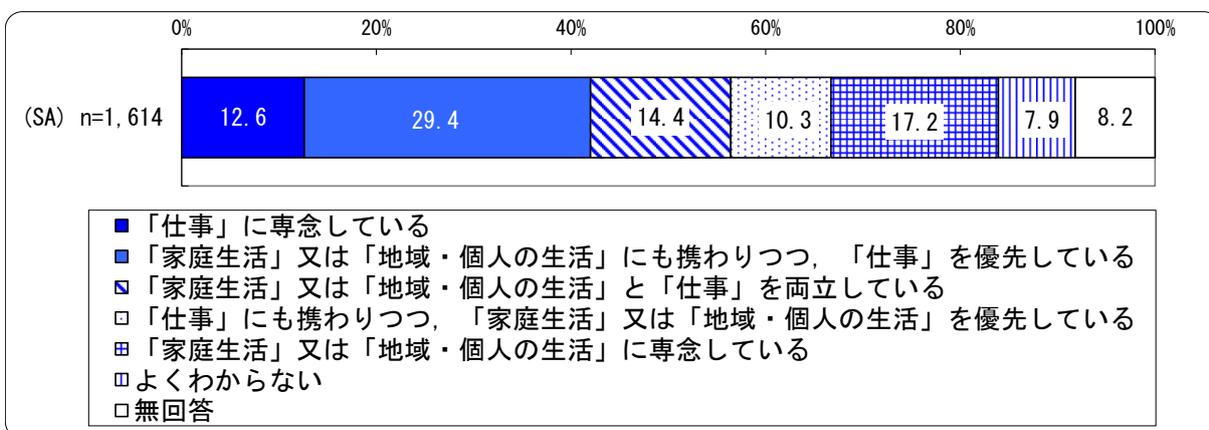


■平成 22 年茨城県

《理想》



《現実》



■理想では、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したいと考えているが、現実では、仕事を優先している割合が高い

仕事、家庭生活、地域・個人の生活の理想と現実については、理想は『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したいが 29.3%と最も高く、次いで『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したいが 23.8%、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先したいが 18.4%となっている。

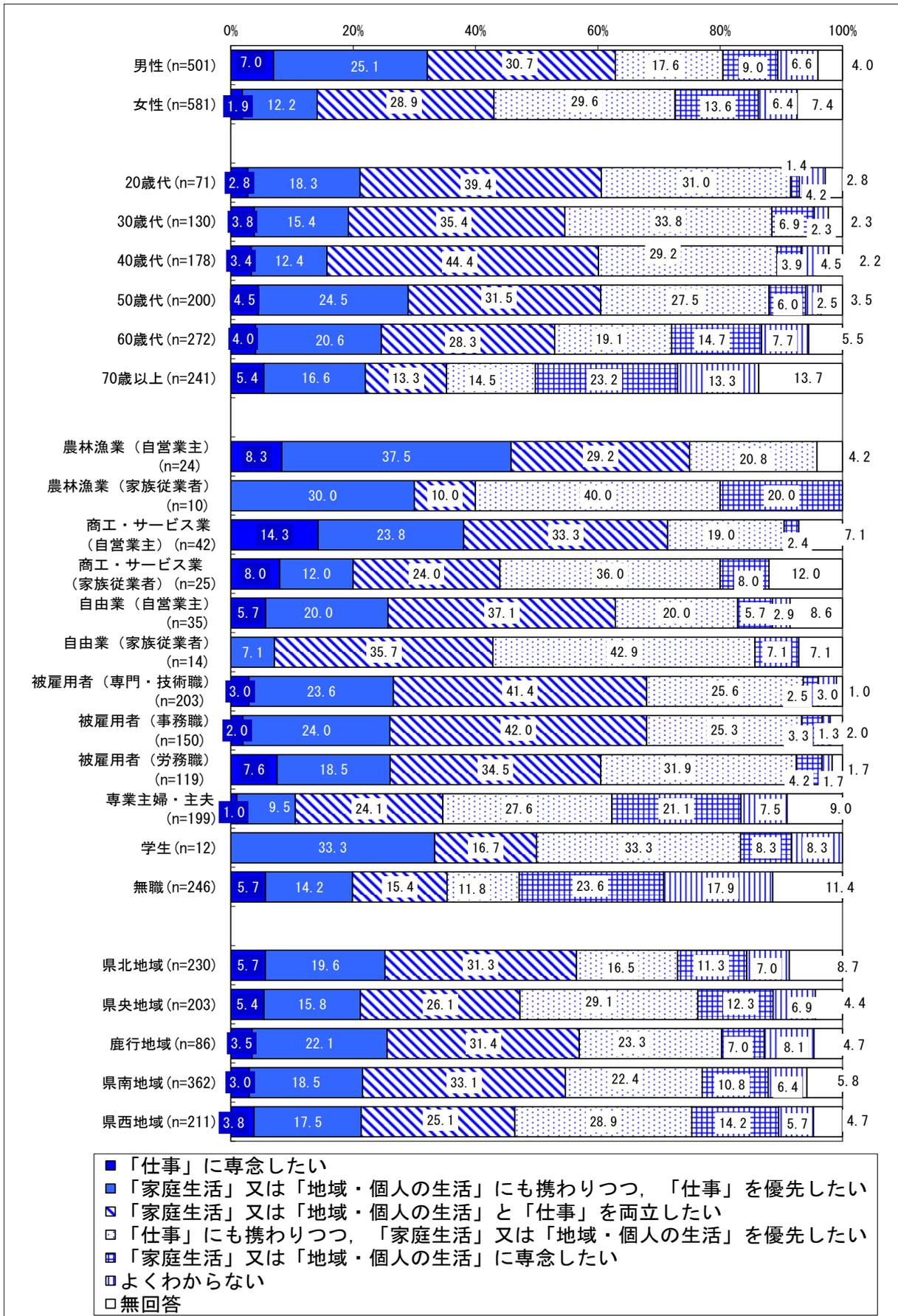
しかし、現実には『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先しているが 27.6%と最も高く、次いで『家庭生活』又は『地域・個人の生活』に専念しているが 20.1%、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立しているが 14.0%となっている。

性別にみると、男性は、理想では『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したいが 30.7%と最も高くなっているが、現実では『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先しているが 40.3%と最も高くなっている。

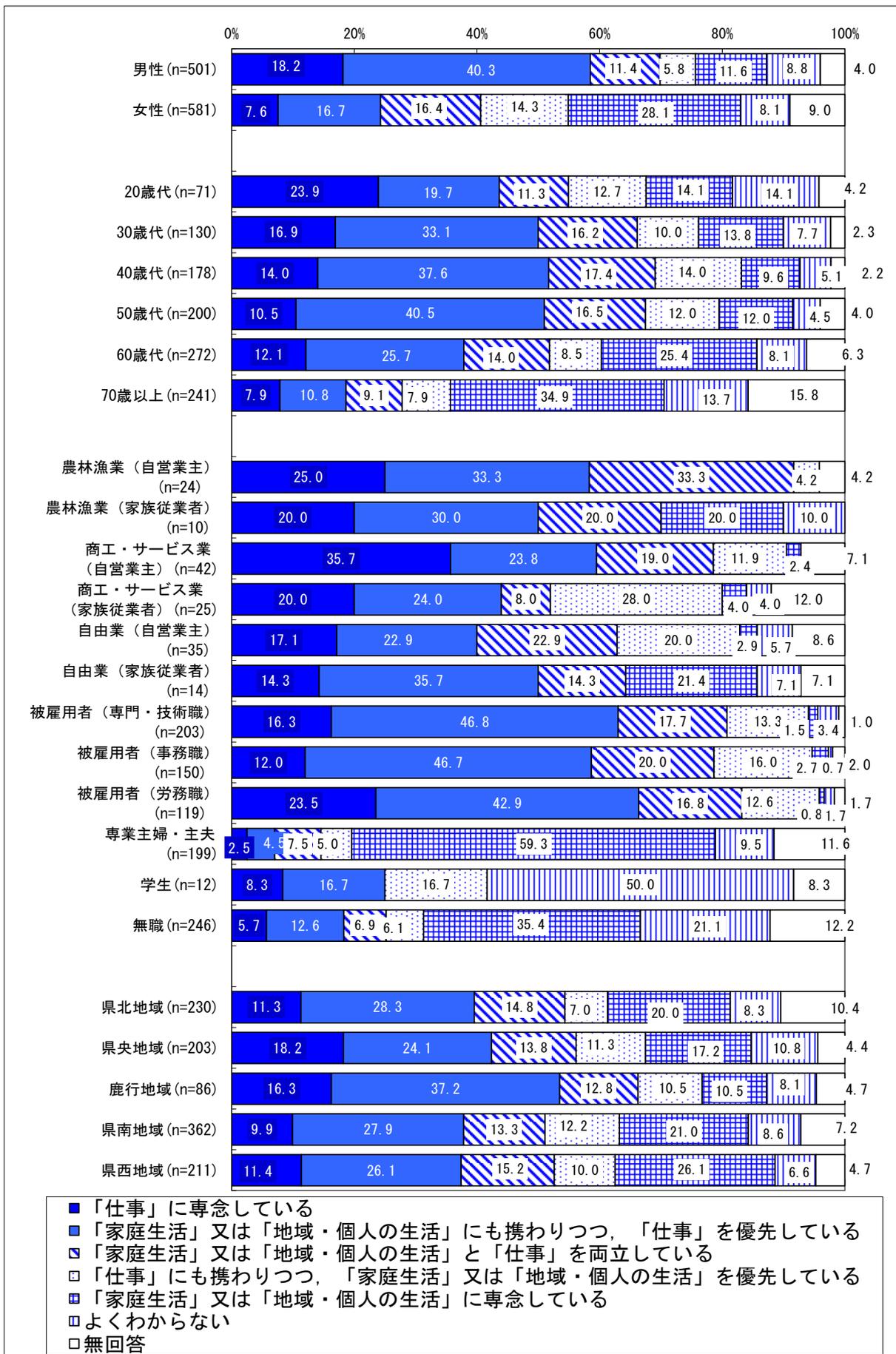
女性は、理想では『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したいが 29.6%と最も高くなっているが、現実では『家庭生活』又は『地域・個人の生活』に専念しているが 28.1%となっている。

■仕事，家庭生活，地域・個人の生活の理想と現実（各属性別）

《理想》



《現実》



(2) 父親の育児参加

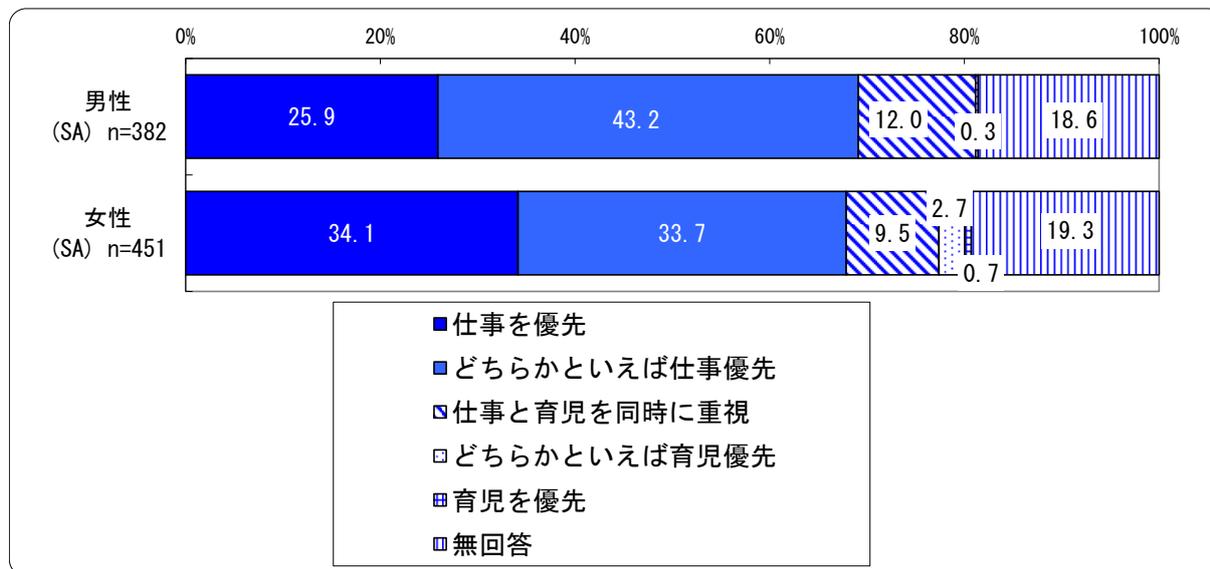
問11 お子さんがいる方にうかがいます。

「男性へ」実際にあなたの働き方に近いものはどれですか（どれでしたか）。

「女性へ」あなたの配偶者の働き方に近いものはどれですか（どれでしたか）。

(○は1つ)

《実際》



問12 父親の働き方と子育てについてどう思いますか。

子ども・配偶者がいない場合は、いるとしたらどうしたいかをお答え下さい。

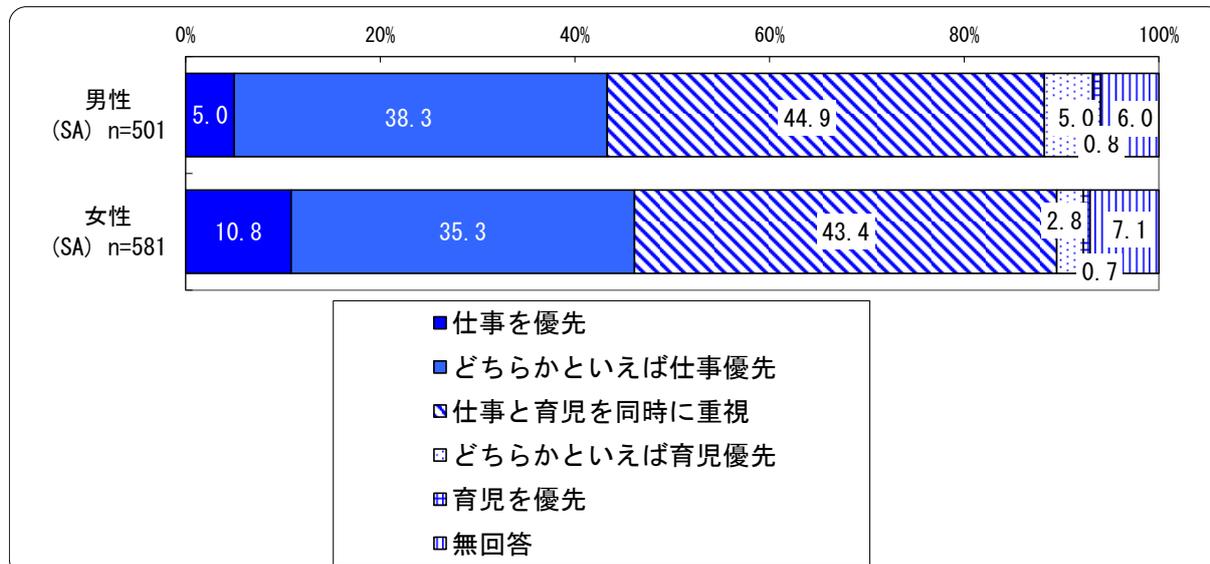
[男性へ] あなたに、子どもがいる場合どのような働き方をしたいですか

(したかったですか)。

[女性へ] あなたの配偶者にどのような働き方を希望しますか (したかったですか)。

(○は1つ)

《希望》



■父親の実際の働き方については、現実には『仕事を優先』が約7割と最多だが、希望は4割以上が育児と両立したいと考えている。

父親の仕事と子育ての対応についてみると、現実には『仕事を優先』（「仕事を優先」と「どちらかといえば仕事を優先」の合計）が男女とも約7割（男性：69.1%，女性：67.8%）と最も高くなっている。一方、希望でも4割以上（男性：43.3%，女性：46.1%）が『仕事を優先』となっているが、20ポイント以上の差がみられる。

「仕事と育児を同時に重視」は、現実には男女とも約1割（男性：12.0%，女性：9.5%）となっているが、希望では4割強（男性：44.9%，女性：43.4%）となっており、30ポイント以上の差がみられる。

■【男性】実際の働き方（各属性別）

		仕事を優先	えど どちら 仕事 優先 か と 先	同時 仕事 と 育児 を 重視	えど どちら 育児 優先 か と 先	育児 を 優先	無 回 答
単位：%							
性別	男性 (n=382)	25.9	43.2	12.0		0.3	18.6
年齢別	20歳代 (n=4)	50.0	25.0	25.0			
	30歳代 (n=31)	22.6	58.1	16.1			3.2
	40歳代 (n=54)	40.7	38.9	20.4			
	50歳代 (n=68)	27.9	44.1	13.2			14.7
	60歳代 (n=122)	20.5	50.8	9.8			18.9
	70歳以上 (n=103)	23.3	32.0	7.8		1.0	35.9
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=15)	33.3	60.0	6.7			
	農林漁業 (家族従業者) (n=2)	50.0		50.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=24)	25.0	50.0	20.8			4.2
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=4)	25.0	75.0				
	自由業 (自営業主) (n=18)	16.7	50.0	16.7			16.7
	自由業 (家族従業者) (n=4)	25.0	25.0	25.0			25.0
	被雇用者 (専門・技術職) (n=91)	28.6	46.2	13.2			12.1
	被雇用者(事務職) (n=47)	34.0	42.6	17.0			6.4
	被雇用者(労務職) (n=49)	30.6	42.9	8.2			18.4
	専業主婦・主夫 (n=1)	100.0					
	学生 (n=123)	18.7	37.4	8.9		0.8	34.1
	無職 (n=4)	25.0	50.0				25.0
地域別	県北地域 (n=86)	25.6	36.0	17.4			20.9
	県央地域 (n=68)	36.8	33.8	10.3			19.1
	鹿行地域 (n=34)	29.4	41.2	11.8			17.6
	県南地域 (n=123)	24.4	44.7	11.4		0.8	18.7
	県西地域 (n=71)	16.9	59.2	8.5			15.5

■【女性】配偶者の実際の働き方（各属性別）

		仕事を優先	えど どちら 仕事 か と 先	同時 仕事 と 育 児 を	えど どちら 育 児 か と 先	育 児 を 優 先	無 回 答
単位：%							
性別	女性 (n=451)	34.1	33.7	9.5	2.7	0.7	19.3
年齢別	20歳代 (n=14)	21.4	50.0	14.3		7.1	7.1
	30歳代 (n=42)	40.5	42.9	14.3	2.4		
	40歳代 (n=78)	41.0	35.9	14.1	5.1		3.8
	50歳代 (n=90)	40.0	33.3	8.9	4.4		13.3
	60歳代 (n=121)	32.2	33.1	7.4		0.8	26.4
	70歳以上 (n=106)	25.5	27.4	6.6	2.8	0.9	36.8
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=7)		28.6	28.6	14.3		28.6
	農林漁業 (家族従業者) (n=7)	42.9	28.6				28.6
	商工・サービス業 (自営業主) (n=10)	50.0	20.0	20.0			10.0
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=13)	30.8	46.2	15.4			7.7
	自由業 (自営業主) (n=12)	33.3	8.3	8.3	16.7		33.3
	自由業 (家族従業者) (n=7)	28.6	28.6				42.9
	被雇用者 (専門・技術職) (n=51)	39.2	43.1	7.8	3.9		5.9
	被雇用者(事務職) (n=61)	29.5	41.0	14.8	1.6		13.1
	被雇用者(労務職) (n=38)	31.6	39.5	10.5	2.6		15.8
	専業主婦・主夫 (n=173)	41.0	32.4	8.1	1.7	0.6	16.2
	学生 (n=67)	19.4	28.4	6.0	3.0	3.0	40.3
	無職 (n=5)	40.0		20.0			40.0
地域別	県北地域 (n=89)	30.3	34.8	10.1	2.2		22.5
	県央地域 (n=87)	34.5	31.0	10.3	3.4	1.1	19.5
	鹿行地域 (n=33)	27.3	45.5	12.1			15.2
	県南地域 (n=154)	38.3	33.8	8.4	3.2	0.6	15.6
	県西地域 (n=88)	33.0	30.7	9.1	2.3	1.1	23.9

■【男性】子どもがいる場合の自身の働き方と子育て（希望）（各属性別）

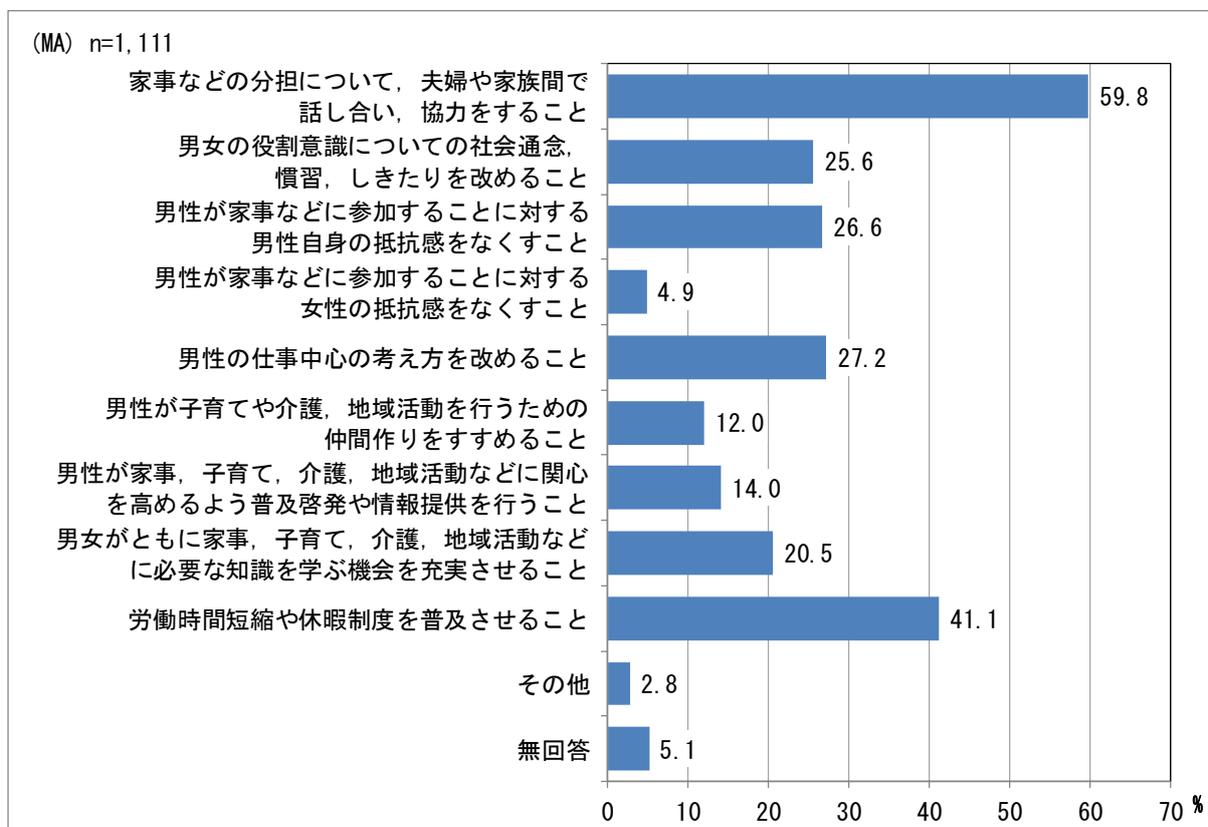
		仕事を優先	えど どちら 仕事か 優先	同仕 事に と重 視を	えど どちら 育児か 優先	育児を優先	無回答
単位：%							
性別	男性 (n=501)	5.0	38.3	44.9	5.0	0.8	6.0
年齢別	20歳代 (n=33)	3.0	33.3	48.5	12.1	3.0	
	30歳代 (n=54)		24.1	51.9	18.5		5.6
	40歳代 (n=77)	1.3	23.4	61.0	7.8	3.9	2.6
	50歳代 (n=87)	2.3	42.5	48.3	3.4		3.4
	60歳代 (n=138)	6.5	42.0	44.2	1.4		5.8
	70歳以上 (n=112)	10.7	49.1	27.7			12.5
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=17)	11.8	41.2	41.2			5.9
	農林漁業 (家族従業者) (n=2)	50.0		50.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=29)	3.4	41.4	41.4	6.9		6.9
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=10)		10.0	70.0	10.0	10.0	
	自由業 (自営業主) (n=19)	5.3	36.8	42.1	5.3		10.5
	自由業 (家族従業者) (n=6)	16.7	33.3	33.3			16.7
	被雇用者 (専門・技術職) (n=125)	3.2	31.2	52.0	9.6	0.8	3.2
	被雇用者(事務職) (n=63)	4.8	30.2	55.6	7.9		1.6
	被雇用者(労務職) (n=67)	3.0	41.8	46.3	4.5	1.5	3.0
	専業主婦・主夫 (n=1)		100.0				
	学生 (n=2)			100.0			
	無職 (n=153)	6.5	47.7	34.0	0.7	0.7	10.5
地域別	県北地域 (n=111)	5.4	34.2	48.6	5.4	0.9	5.4
	県央地域 (n=85)	4.7	42.4	42.4	3.5		7.1
	鹿行地域 (n=42)	7.1	45.2	42.9	2.4		2.4
	県南地域 (n=165)	6.7	35.2	43.6	6.1	1.2	7.3
	県西地域 (n=98)	1.0	41.8	45.9	5.1	1.0	5.1

■【女性】子どもがいる場合の配偶者の働き方と子育て（希望）（各属性別）

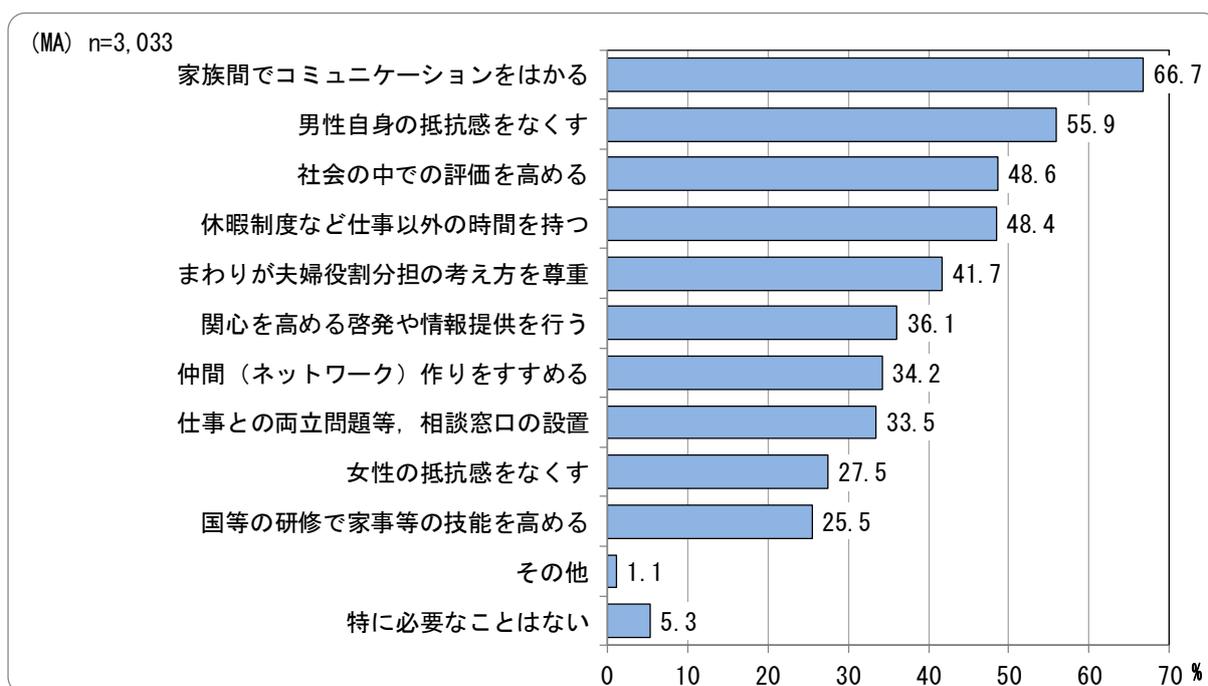
		仕事を優先	えど どちら 仕事 か と 先	同仕 事に と 重 視 を	えど どちら 育 児 か と 先	育 児 を 優 先	無 回 答
単位：%							
性別	女性 (n=581)	10.8	35.3	43.4	2.8	0.7	7.1
年齢別	20歳代 (n=38)	5.3	39.5	52.6	2.6		
	30歳代 (n=74)	8.1	31.1	58.1	2.7		
	40歳代 (n=101)	9.9	27.7	57.4	2.0	1.0	2.0
	50歳代 (n=110)	10.0	36.4	45.5	1.8	0.9	5.5
	60歳代 (n=133)	12.8	41.4	30.8	5.3	1.5	8.3
	70歳以上 (n=124)	13.7	35.5	32.3	1.6		16.9
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=7)	14.3	14.3	14.3	14.3		42.9
	農林漁業 (家族従業者) (n=8)	12.5	50.0	37.5			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=13)	7.7	38.5	30.8			23.1
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=15)	13.3	60.0	26.7			
	自由業 (自営業主) (n=15)	6.7	53.3	33.3	6.7		
	自由業 (家族従業者) (n=8)	25.0	12.5	37.5		12.5	12.5
	被雇用者 (専門・技術職) (n=76)	2.6	32.9	59.2	2.6		2.6
	被雇用者(事務職) (n=87)	6.9	33.3	54.0	2.3		3.4
	被雇用者(労務職) (n=51)	7.8	33.3	54.9	2.0	2.0	
	専業主婦・主夫 (n=197)	15.2	39.6	37.6	2.5	0.5	4.6
	学生 (n=10)		30.0	70.0			
無職 (n=87)	13.8	27.6	32.2	4.6	1.1	20.7	
地域別	県北地域 (n=118)	14.4	31.4	41.5	0.8	0.8	11.0
	県央地域 (n=116)	10.3	34.5	42.2	4.3	1.7	6.9
	鹿行地域 (n=43)	4.7	39.5	46.5	4.7		4.7
	県南地域 (n=192)	10.9	34.4	46.4	3.6		4.7
	県西地域 (n=110)	10.0	40.9	40.0	0.9	0.9	7.3

(3) 男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと

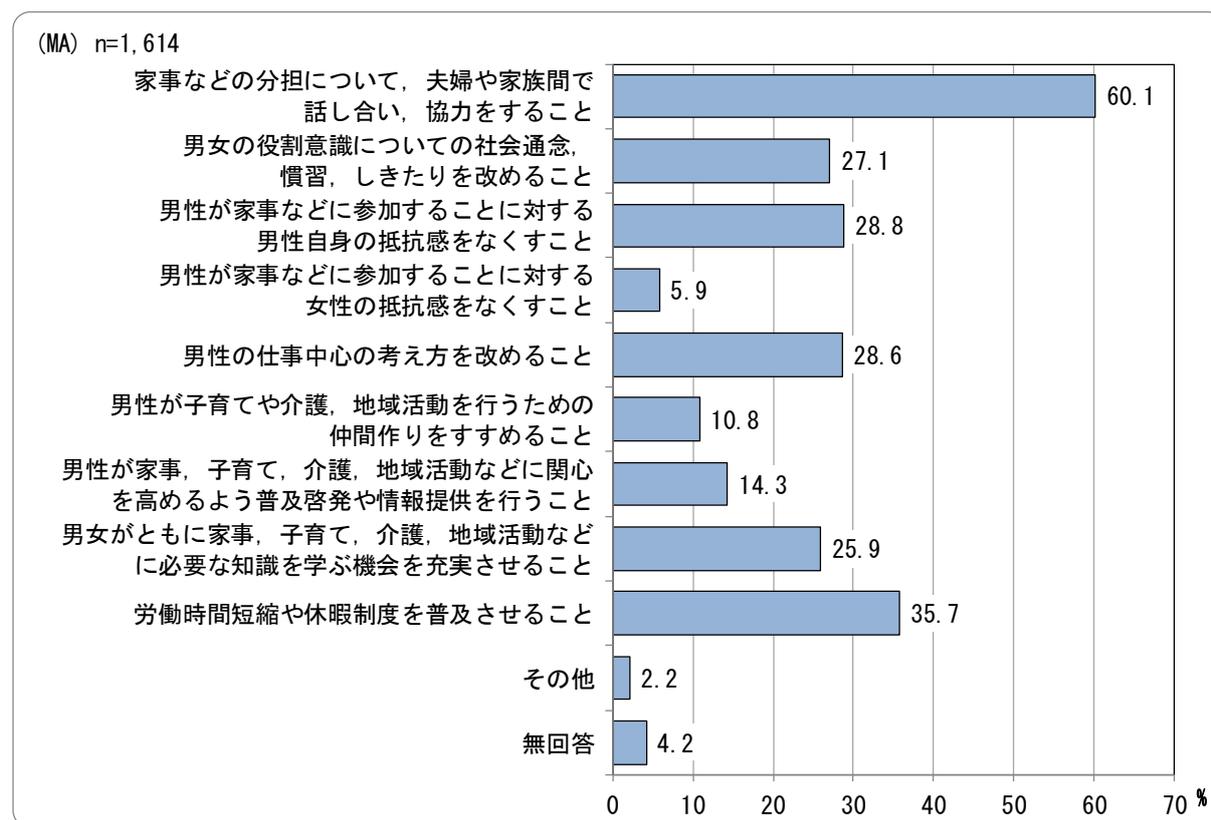
問13 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



■平成24年全国



■平成 22 年茨城県



■男性が家事、子育て等に参加するために必要なことについては、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が約6割と、最多

男性が家事、子育て等に参加するために必要なことについては、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が59.8%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が41.1%、「男性の仕事中心の考え方を改めること」が27.2%となっている。

年齢別にみると、若い年齢層で「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が高くなっている。

■男性が家事，子育て等に参加するために必要なこと（その他回答）

内容	性別	年齢
●経済的支援について		
賃金が高くなること	男性	20 歳代
	男性	30 歳代
収入の確保（一定の年収）が必要	男性	40 歳代
	男性	60 歳代
	男性	70 歳以上
	女性	30 歳代
	女性	40 歳代
	女性	40 歳代
●その他（意識・企業・社会環境についてなど）		
得意，不得意で家事を分担する	男性	30 歳代
会社や社会側が，男性も参加出来る様に協力する	男性	40 歳代
	女性	20 歳代
	女性	40 歳代
男女ともに仕事の業務を家でもできるようにする	女性	30 歳代
女性が働きやすい様に学童を普及させること	女性	30 歳代
男性が家事，介護等，実際に経験しないと女性まかせになってしまう	男性	60 歳代
学校教育に織り込む，教育の場で学ぶ	男性	60 歳代
	女性	30 歳代
	女性	70 歳以上
男性が家事分担できるよう，国が宣伝し義務化させる	男性	30 歳代
	女性	40 歳代
夫や妻へ思いやりをもち，家事や協力すべきことをやってあげる	女性	40 歳代
夫婦が尊敬し合う気持ちがあれば問題なし	男性	30 歳代
女性自身の意識を変えること	男性	40 歳代
個の考え，周囲の考えが重要	男性	30 歳代
現状でよい	男性	40 歳代
一人ですべてするしかなかった	男性	70 歳以上
介護，子育て，少しだけあとは私がぜんぶやった	女性	50 歳代

■男性が家事、子育て等に参加するために必要なこと（各属性別）

		と家事 家族間 などで 話の分 担につ いて、 協力を するこ と	念男女 の役割 、しき りたつ てを改 めるこ と	こ対男 性が家 事など に参加 すること に	対男 性が家 事など に参加 すること に	こ男 性の仕 事中心 の考え 方を改 める	と行男 性が子 育や介 護を地 域活動 として	啓活男 性が家 事など に参加 すること に	学護男 が地域 活動に 参加す ること に	せ労働 時間短 縮や休 暇制度 を普及 させる こと	その他	無回 答
単位：%												
性別	男性 (n=501)	59.1	25.7	23.2	4.2	33.9	10.8	14.2	15.4	44.5	3.6	3.2
	女性 (n=581)	60.9	25.0	29.3	5.3	22.0	13.1	13.9	24.8	39.1	2.2	6.4
年齢別	20歳代 (n=71)	60.6	28.2	33.8	4.2	22.5	12.7	11.3	21.1	59.2	2.8	
	30歳代 (n=130)	61.5	24.6	18.5	5.4	30.0	9.2	6.9	17.7	60.0	7.7	0.8
	40歳代 (n=178)	53.4	29.8	30.9	3.4	36.0	14.6	14.6	15.2	51.1	5.1	2.2
	50歳代 (n=200)	65.0	27.0	32.5	4.0	21.5	14.0	12.5	19.0	41.0	0.5	5.5
	60歳代 (n=272)	62.9	26.5	27.9	5.9	29.8	11.0	14.3	21.0	34.2	1.1	3.7
	70歳以上 (n=241)	55.6	19.1	19.1	5.0	23.2	11.2	19.1	26.6	27.8	2.5	12.0
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	58.3	25.0	8.3		16.7	12.5	8.3	12.5	29.2		16.7
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)	60.0	20.0	10.0		20.0	10.0		30.0	10.0		
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	59.5	14.3	16.7	4.8	35.7	14.3	14.3	23.8	33.3	2.4	7.1
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	52.0	28.0	36.0	8.0	16.0	12.0	28.0	12.0	36.0		4.0
	自由業 (自営業主) (n=35)	68.6	25.7	22.9		25.7	11.4	5.7	8.6	17.1	2.9	2.9
	自由業 (家族従業者) (n=14)	50.0	21.4	21.4	7.1	14.3			28.6	50.0	7.1	
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	65.5	25.6	26.6	4.9	37.4	14.8	13.3	16.3	48.8	3.0	1.5
	被雇用者(事務職) (n=150)	62.7	33.3	29.3	2.7	33.3	12.7	15.3	13.3	43.3	2.7	2.0
	被雇用者(労務職) (n=119)	55.5	20.2	35.3	8.4	21.0	9.2	11.8	18.5	56.3	5.0	1.7
	専業主婦・主夫 (n=199)	59.3	27.6	28.1	5.5	18.1	13.1	17.1	24.1	46.2	3.5	5.5
	学生 (n=12)	33.3	33.3	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	41.7	50.0	8.3	
	無職 (n=246)	57.7	22.0	23.6	4.1	28.5	11.0	14.6	27.2	31.3	1.6	10.6
地域別	県北地域 (n=230)	55.7	21.3	23.0	5.7	27.0	13.0	13.0	25.2	40.9	2.2	6.5
	県央地域 (n=203)	62.1	25.1	29.1	3.9	31.0	9.9	13.3	19.2	37.9	2.5	5.9
	鹿行地域 (n=86)	68.6	29.1	25.6	4.7	26.7	9.3	11.6	22.1	44.2	4.7	2.3
	県南地域 (n=362)	56.4	26.8	24.6	5.0	27.9	14.9	16.0	20.2	46.1	3.6	4.4
	県西地域 (n=211)	64.9	25.6	31.3	4.3	22.7	9.5	13.3	17.1	36.5	1.9	5.2

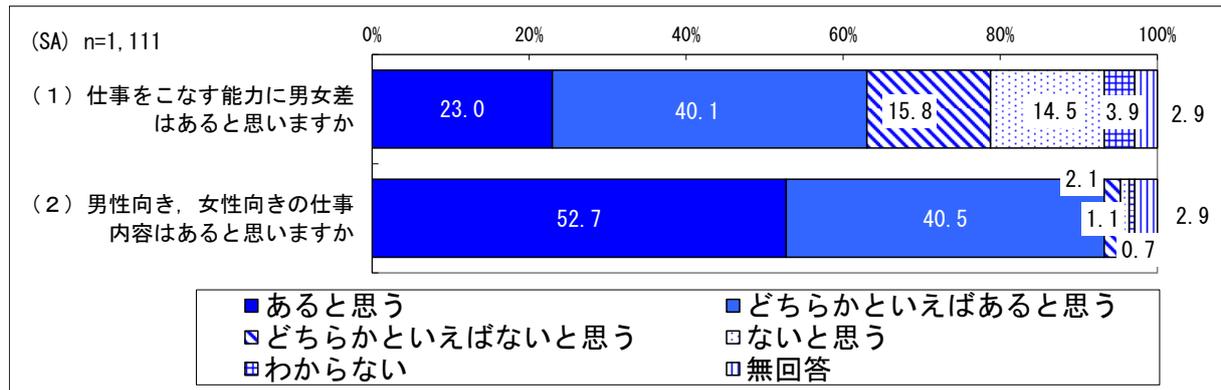
5 就業

(1) 仕事の能力・内容の男女差についての考え

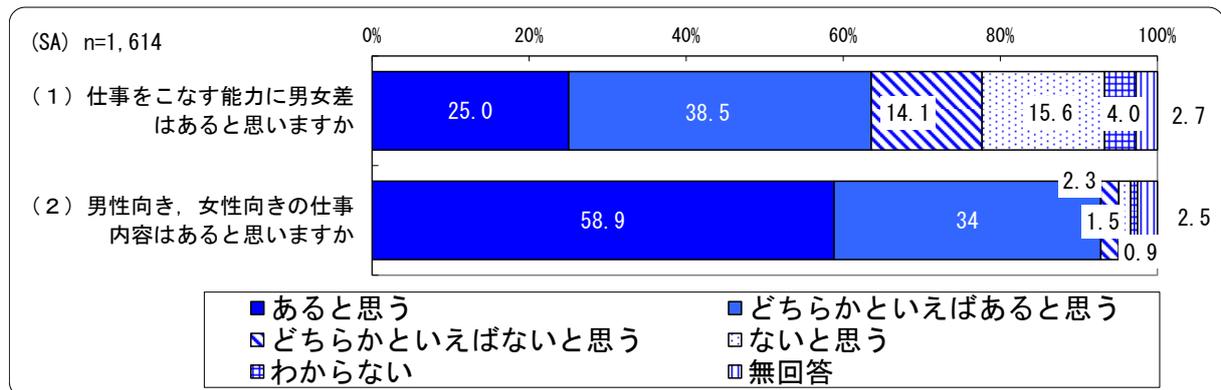
問14 就業についてうかがいます。

(1) 仕事をこなす能力に男女差はあると思いますか。(○は1つ)

(2) 男性向き、女性向きの仕事内容はあると思いますか。(○は1つ)



■平成22年茨城県



■回答者の6割以上は、仕事をこなす能力に男女差があると思い、9割以上は、男性向き、女性向きの仕事内容はあると思っている

仕事をこなす能力に対する男女差については、「あると思う」と「どちらかといえばあると思う」を合わせた『あると思う』が63.1%となっている。

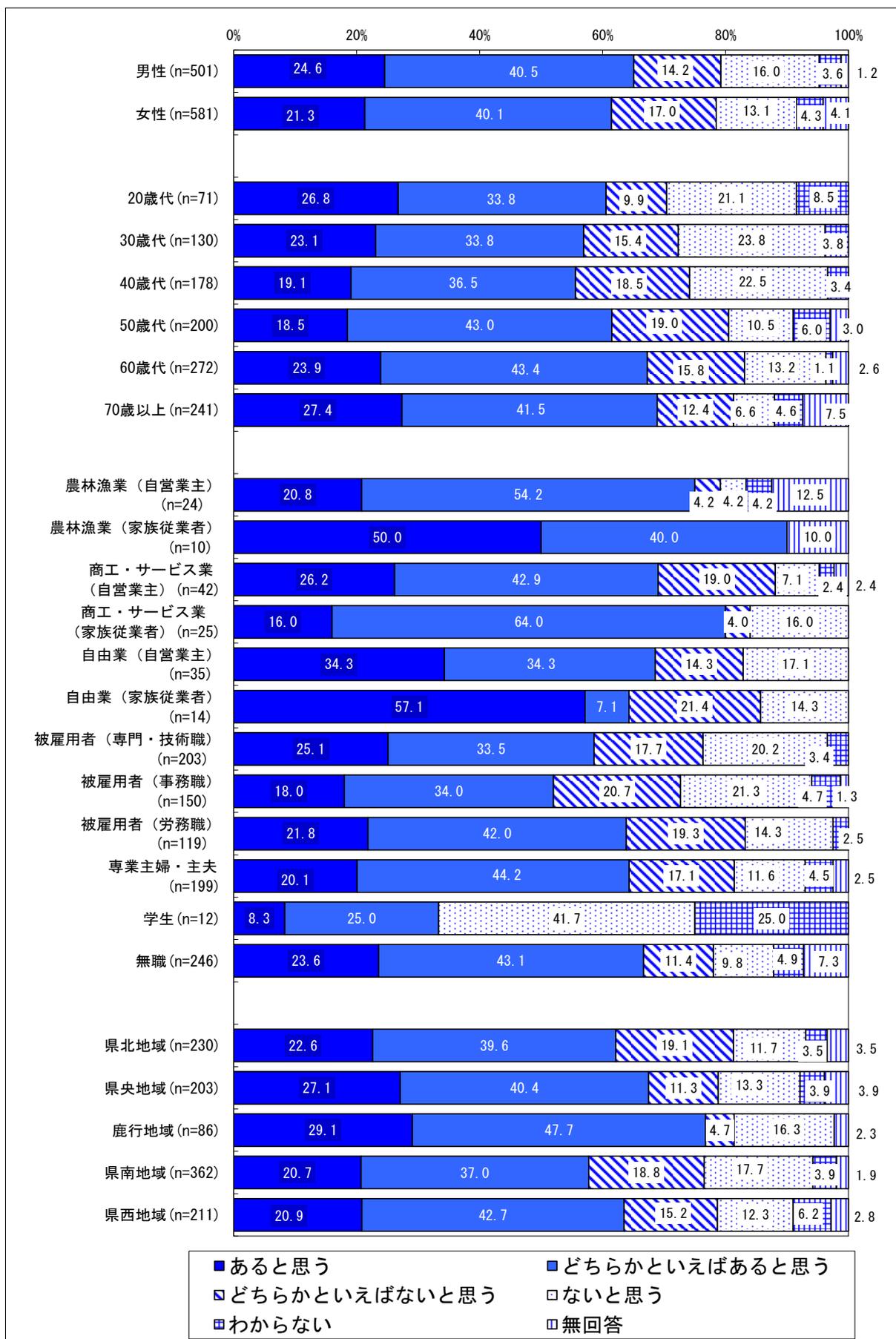
性別にみると、『あると思う』は、女性(61.4%)より男性(65.1%)の方が高くなっている。年齢別にみると、『ないと思う』は、年齢層が若いほど高い傾向にある。

また、男性向き、女性向きの仕事内容があるかについては、『あると思う』が93.2%と大半を占めている。

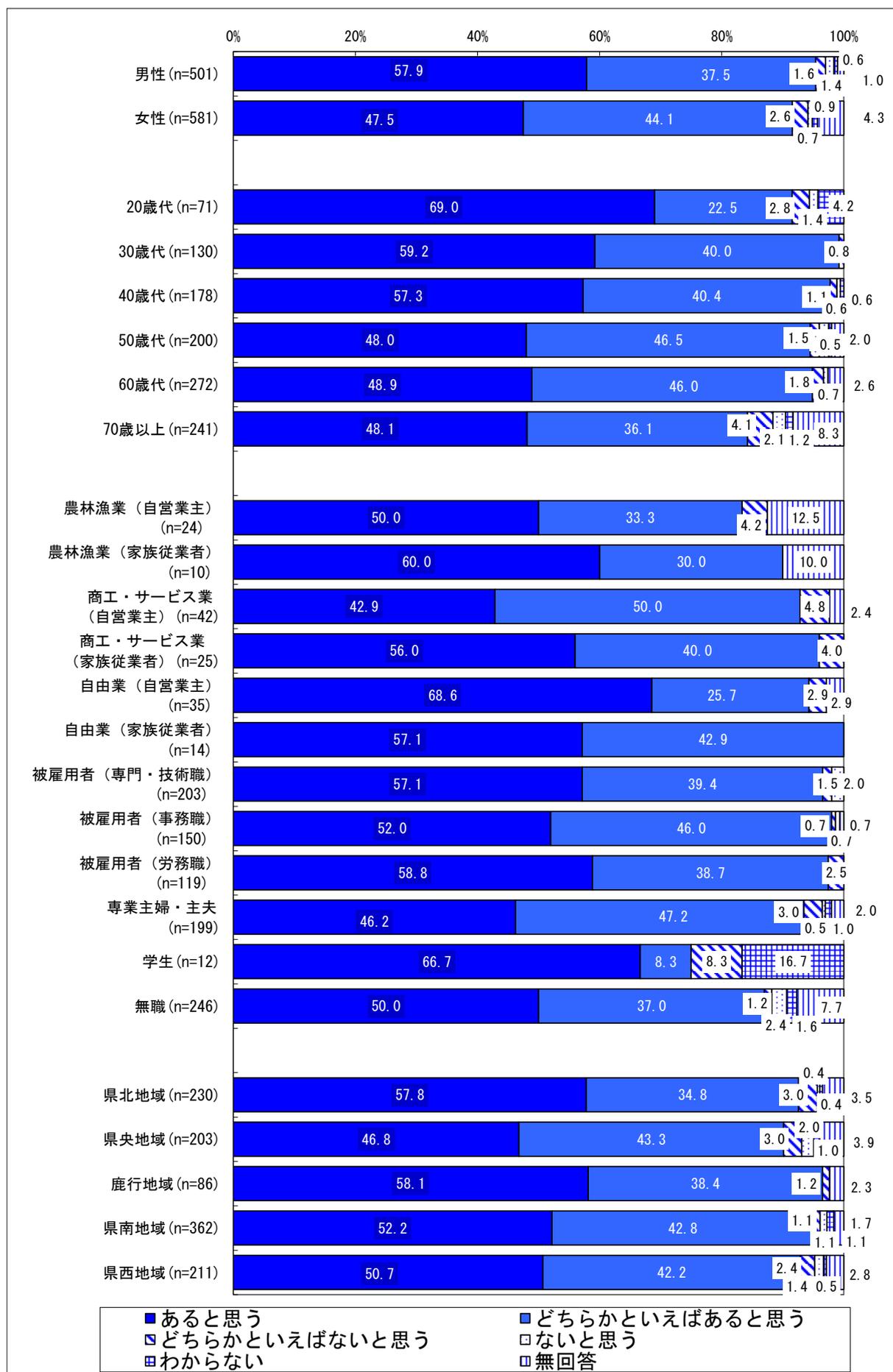
さらに、どちらの結果を前回調査と比較しても、同様の傾向となっている。

■仕事の能力・内容の男女差についての考え（各属性別）

1. 仕事をこなす能力に男女差はありますか

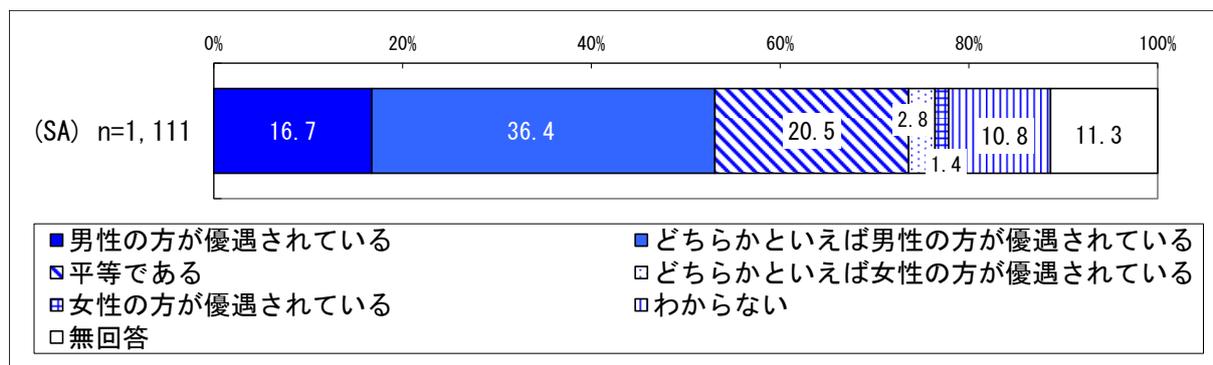


2. 男性向き、女性向きの仕事内容はあると思いますか



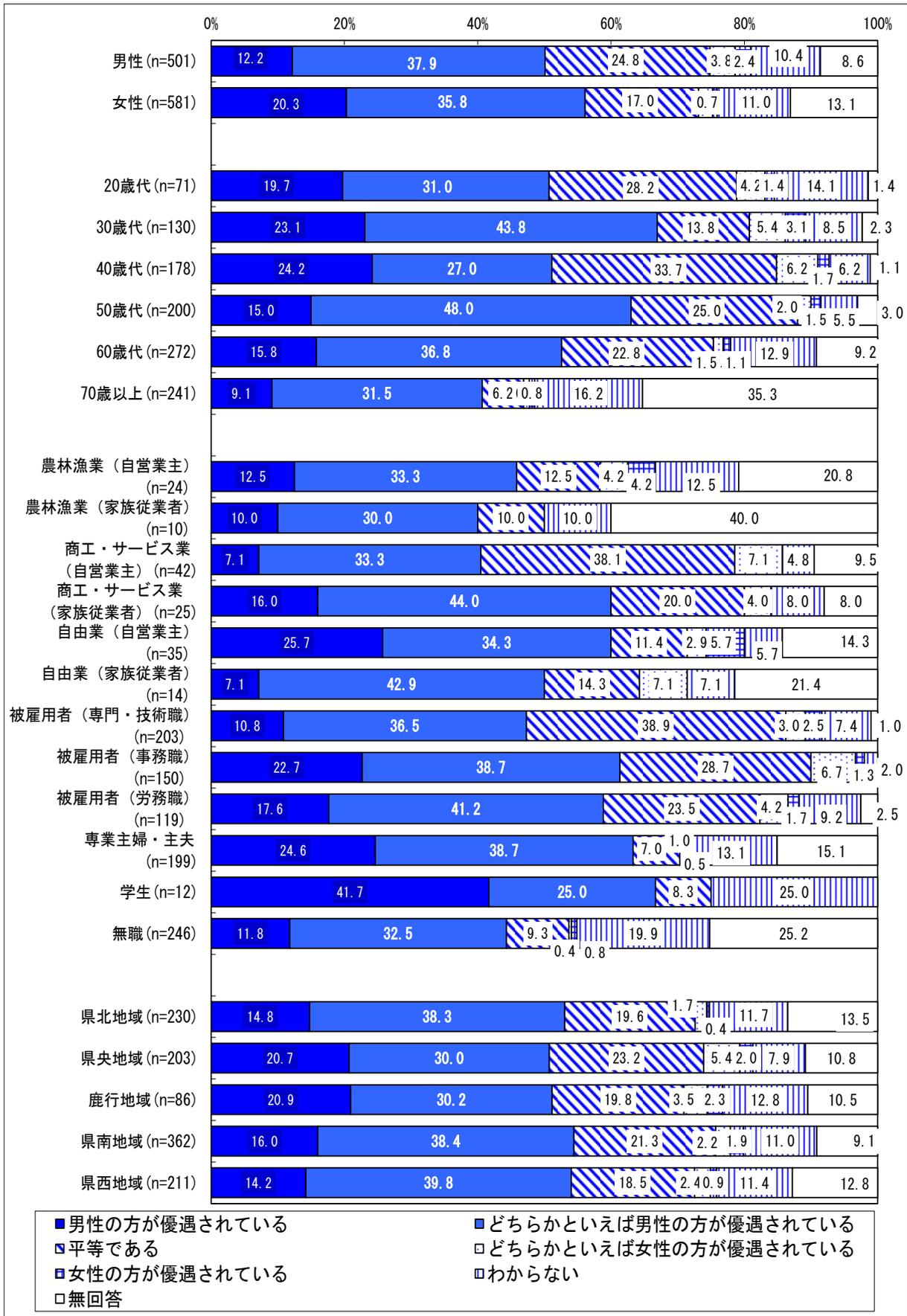
(2) 職場での男女の地位

問15-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は1つ)

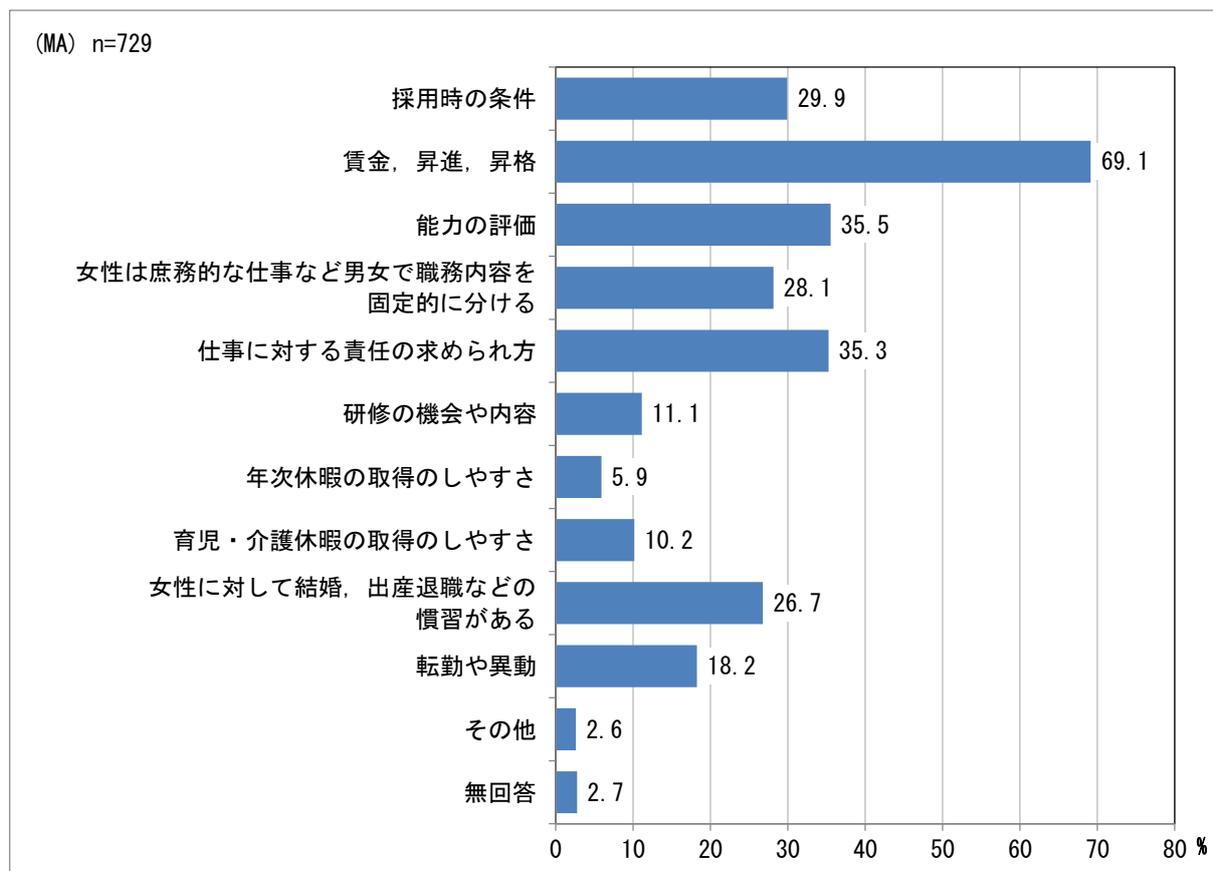


※問1の再掲のため、コメントは割愛する。

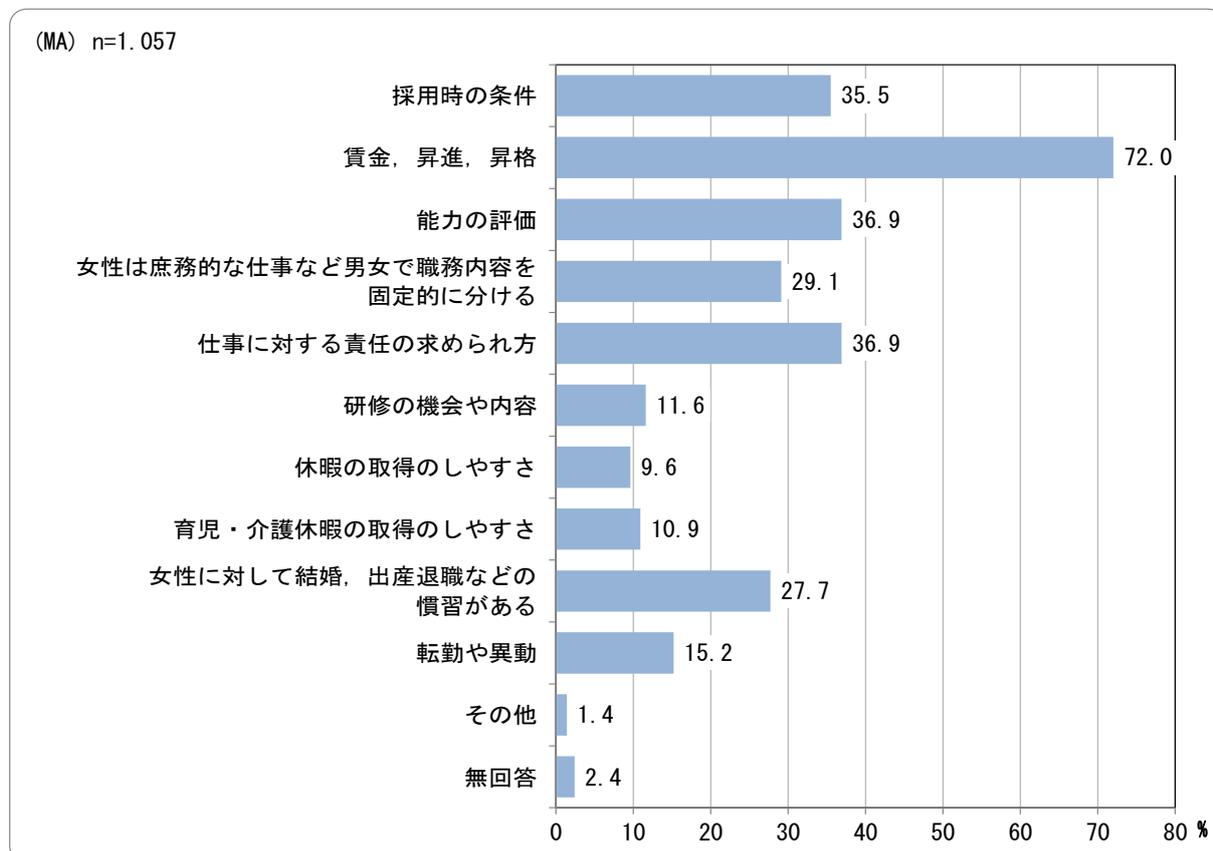
■職場における男女の地位（各属性別）



問15-2 問15-1で、1、2、4、5とお答えいただいた方にうかがいます。
その具体的な内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



■平成22年茨城県



■職場で男女の地位が平等ではないと思う具体的な内容は、「賃金，昇進，昇格」が約7割で最多

職場で男女の地位が平等ではないと思う具体的な内容については、「賃金，昇進，昇格」が69.1%と最も高く，次いで「能力の評価」が35.5%，「仕事に対する責任の求められ方」が35.3%，「採用時の条件」が29.9%となっている。

前回調査と比較しても，ほぼ同様の傾向となっている。

性別にみると，男女共に「賃金，昇進，昇格」（男性：63.0%，女性：74.3%）が最も高くなっており，女性が男性を10ポイント上回っている。また，「仕事に対する責任の求められ方」（男性：43.7%，女性：28.1%）では，男性が女性を15.6ポイント上回っている。

■職場で男女の地位が平等ではないと思う具体的な内容（その他回答）

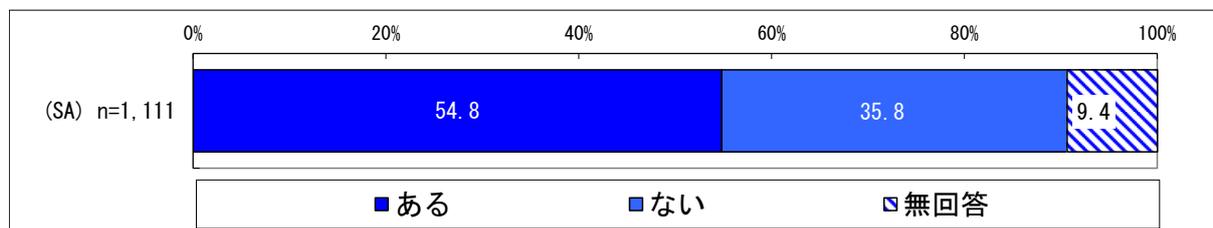
内容	性別	年齢
問いは男女の身分の感じだが賃金等の面は男女の差があると思う	男性	60歳代
仕事のしやすさ	男性	40歳代
業種により女性ではきつい内容もあるから	男性	20歳代
	男性	30歳代
	男性	50歳代
力仕事は男性が引き受けてくれる	女性	20歳代
肉体労働等の仕事はほとんど女性が任される事はなく，融通がききやすい	女性	20歳代
仕事は女性しかいない場所	女性	50歳代
全般的に女性は仕事に対する取組み方が消極的である	男性	70歳以上
社員の女性には管理職になって責任感を持とうと思っている社員がほとんどいない	男性	40歳代
有給のとりやすさ	男性	70歳以上
	女性	50歳代
セクハラ，パワハラあたり前の職場が多すぎる。	女性	40歳代
お茶出しなどは女性がする事など	女性	40歳代
出産，育事を理由に昇進の機会が少ないと思う	女性	50歳代
社内ではなく社外から見る目が女性に対し厳しい	男性	40歳代
美容室経営者なので女性の方が有利	男性	30歳代
職種，業務の内容等	男性	70歳以上
意欲の違い	男性	30歳代

■どちらかの性が優遇されていると思う具体的な内容（各属性別）

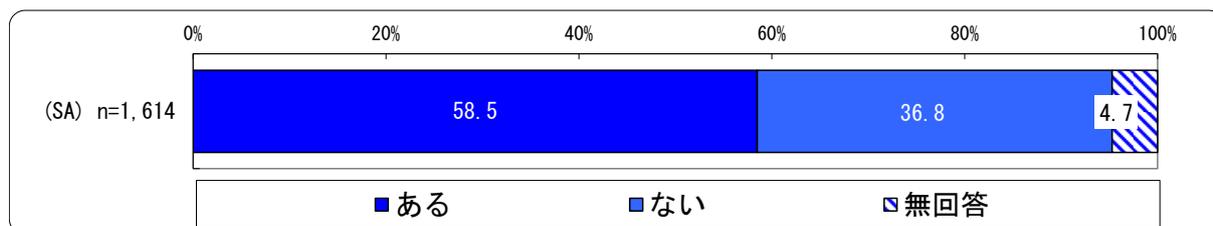
		採用時の条件	賃金、昇進、昇格	能力の評価	をな女 固性は 定の男 的女は 的庶務 にで職 分務的 けるな る内仕 容事	求仕 め事 らに れ対 する 責任 の	研修 の機 会や 内容	やす 次休 暇の 取得 のし	得育 の児 し・介 やす護 さ休 暇の取	が出女 ある産 退に職 対な しての 結婚 習、	転勤 や異 動	その他	無 回 答
単位：%													
性別	男性 (n=327)	30.6	63.0	32.7	28.4	43.7	8.9	6.1	11.6	22.0	22.6	3.7	0.9
	女性 (n=381)	28.9	74.3	37.0	28.1	28.1	13.1	5.2	8.4	31.0	13.4	1.8	4.2
年齢別	20歳代 (n=42)	26.2	59.5	26.2	21.4	23.8	4.8	7.1	21.4	40.5	9.5	7.1	7.1
	30歳代 (n=90)	28.9	66.7	33.3	34.4	32.2	8.9	4.4	10.0	31.1	18.9	3.3	1.1
	40歳代 (n=106)	22.6	66.0	33.0	33.0	33.0	10.4	12.3	12.3	28.3	10.4	4.7	1.9
	50歳代 (n=140)	25.7	70.0	33.6	31.4	34.3	6.4	3.6	6.4	29.3	13.6	2.9	3.6
	60歳代 (n=187)	36.9	75.4	34.2	25.7	39.0	13.9	3.7	8.0	25.7	24.6	0.5	1.1
	70歳以上 (n=151)	31.1	66.2	42.4	23.2	37.7	15.9	6.0	11.3	18.5	19.9	2.0	4.6
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=18)	38.9	50.0	11.1	16.7	44.4	5.6		11.1	16.7	27.8	5.6	
	農林漁業 (家族従業者) (n=5)	20.0	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0		20.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=27)	29.6	66.7	25.9	25.9	44.4	3.7		11.1	37.0	18.5	3.7	
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=15)	20.0	66.7	53.3	20.0	40.0	6.7	6.7	6.7	40.0	6.7		
	自由業 (自営業主) (n=29)	34.5	58.6	44.8	24.1	37.9	10.3	6.9	20.7	27.6	17.2	6.9	
	自由業 (家族従業者) (n=10)	20.0	40.0	30.0	20.0	50.0			10.0	50.0	30.0		
	被雇用者 (専門・技術職) (n=113)	25.7	66.4	31.0	27.4	35.4	8.0	8.0	8.0	23.0	20.4	3.5	0.9
	被雇用者(事務職) (n=101)	17.8	68.3	31.7	35.6	37.6	10.9	5.9	11.9	23.8	17.8	3.0	5.9
	被雇用者(労務職) (n=83)	32.5	67.5	36.1	24.1	32.5	7.2	3.6	1.2	22.9	8.4	4.8	1.2
	専業主婦・主夫 (n=147)	35.4	76.9	36.1	30.6	27.9	15.0	7.5	12.2	36.1	17.7	1.4	4.1
	学生 (n=9)	33.3	55.6	22.2	22.2	11.1			33.3	33.3	11.1		11.1
	無職 (n=151)	34.4	73.5	39.7	27.8	39.1	16.6	5.3	9.9	21.2	21.9	1.3	3.3
地域別	県北地域 (n=160)	26.9	69.4	34.4	30.6	37.5	11.9	7.5	10.6	32.5	15.6	2.5	4.4
	県央地域 (n=130)	28.5	63.1	37.7	31.5	28.5	11.5	6.9	10.0	26.2	17.7	5.4	3.8
	鹿行地域 (n=52)	34.6	63.5	34.6	25.0	38.5	3.8	1.9	1.9	17.3	15.4		1.9
	県南地域 (n=228)	30.7	71.5	36.0	26.8	32.9	12.7	6.6	12.7	25.4	19.7	1.8	2.6
	県西地域 (n=145)	31.0	72.4	31.7	26.2	41.4	10.3	2.8	8.3	26.9	17.9	2.8	0.7

(3) 中途退職の経験

問16-1 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)



■平成22年茨城県



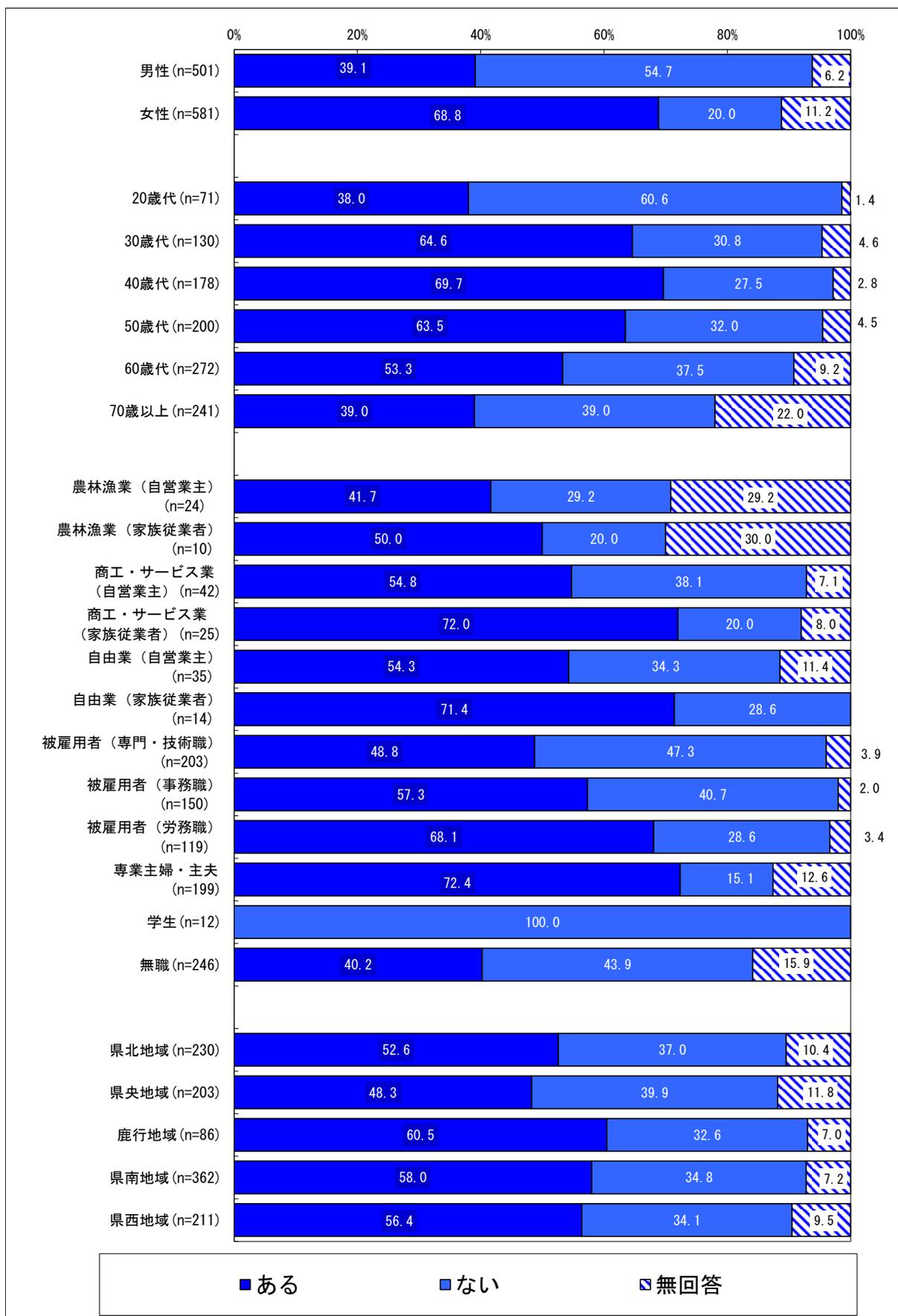
■回答者の約6割が、途中で仕事を辞めた経験がある

途中で仕事を辞めた経験については、「ある」が54.8%、「ない」が35.8%となっている。前回調査と比較すると、「ある」が若干減少している。

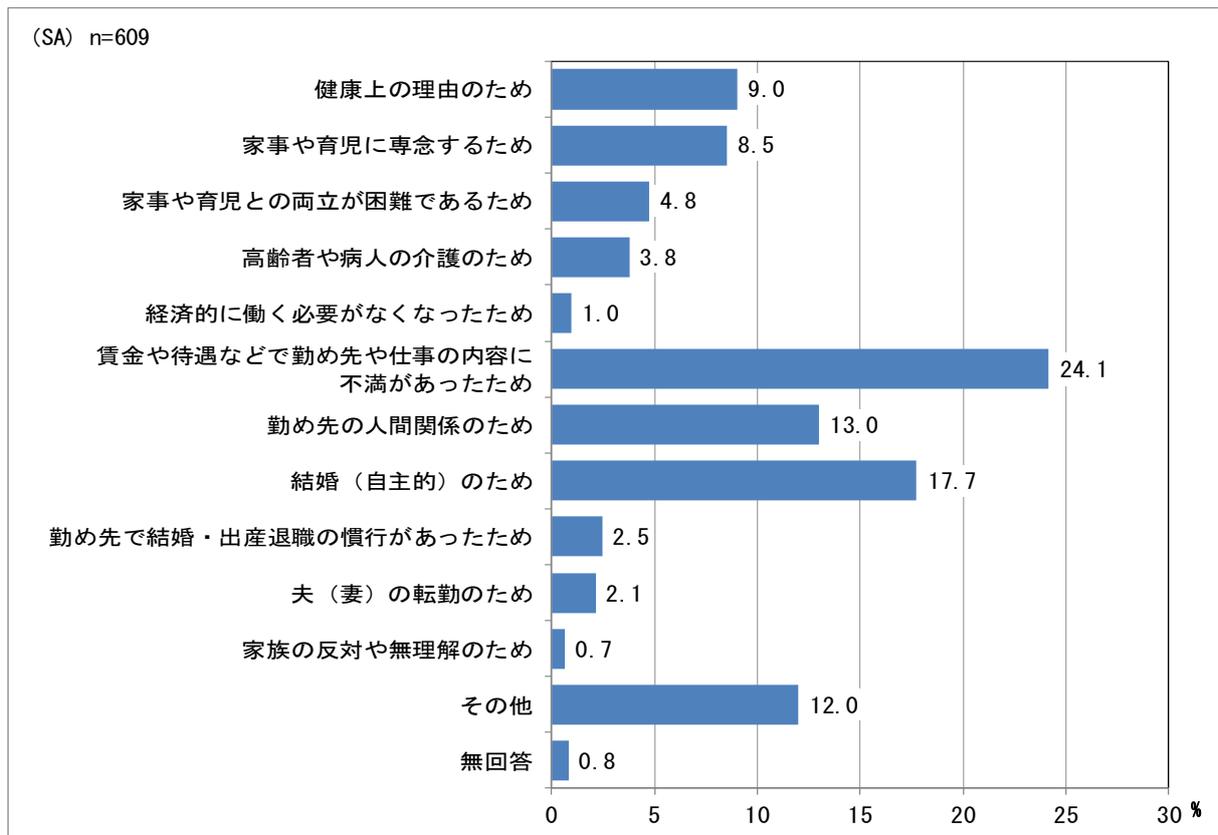
性別にみると、女性の7割近く(68.8%)が「ある」と回答しており、男性(39.1%)と比較すると約3割も高くなっている。

年齢別にみると、30～50歳代で「ある」が6割(30歳代:64.6%, 40歳代:69.7%, 50歳代:63.5%)を超えている。

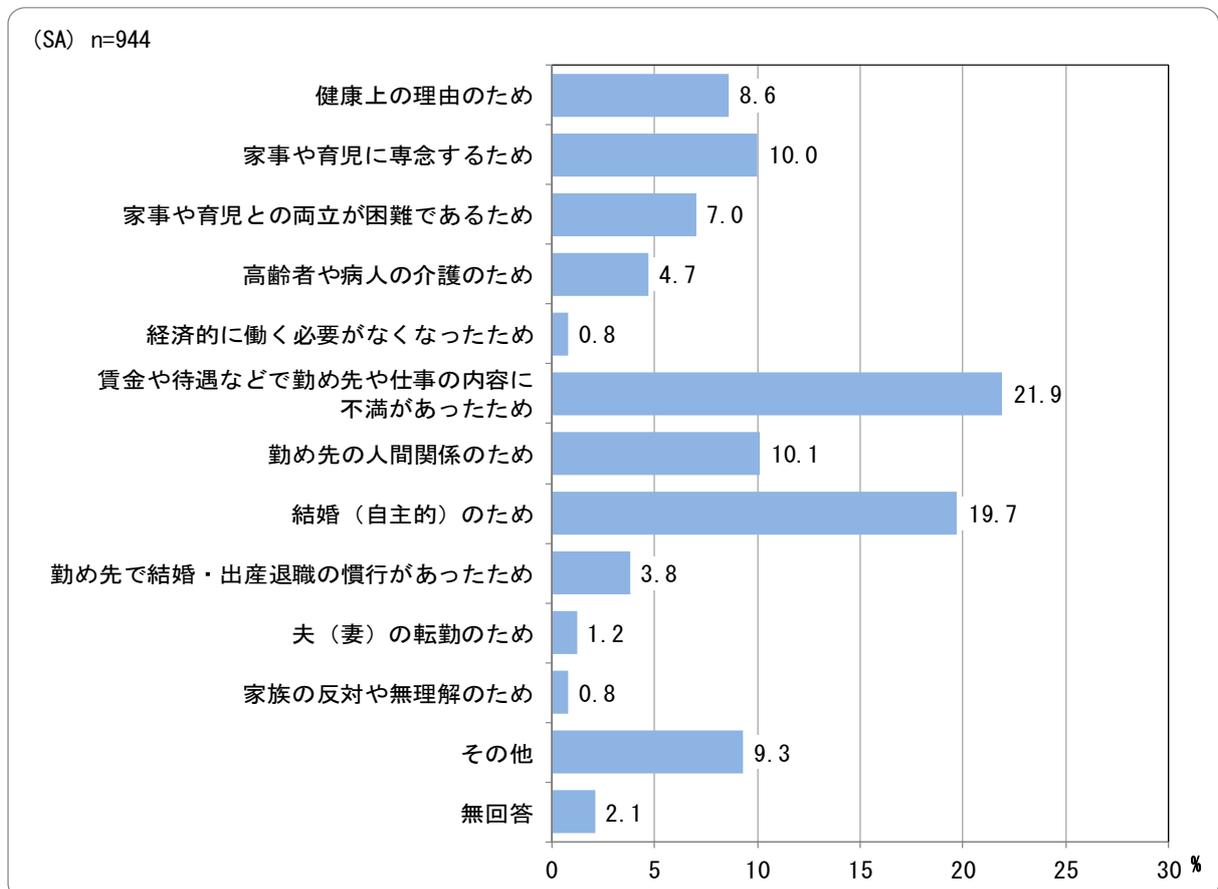
■途中で仕事を辞めた経験（各属性別）



問16-2 問16-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
仕事を辞めた主な理由は何ですか。(〇は1つ)



■平成22年茨城県



■仕事を辞めた主な理由については、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」や「結婚（自主的）のため」が高くなっている

仕事を辞めた主な理由については、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 24.1%と最も高く、次いで「結婚（自主的）のため」が 17.7%、「勤め先の人間関係のため」が 13.0%となっており、前回調査とほぼ同様となっている。

性別にみると、男性では「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 44.9%と 4 割を超えており、女性の 14.3%より 30.6 ポイント高くなっている。一方、女性では「結婚（自主的）のため」が 25.5%と最も高く、次いで「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 14.3%となっている。

■仕事を辞めた主な理由について（その他回答）

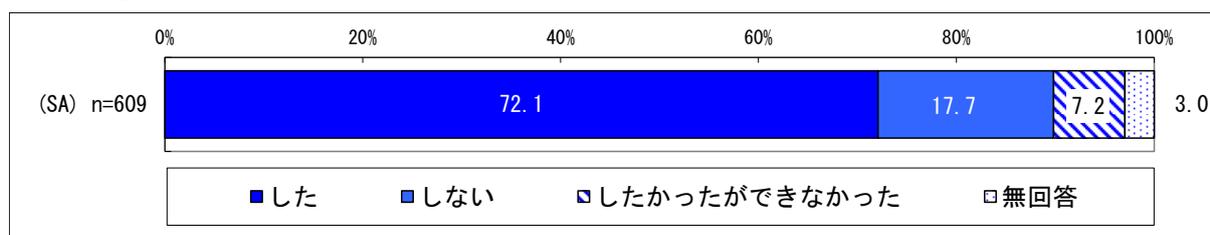
内容	性別	年齢
●家業継承のため		
家業が別の職業となった	男性	60 歳代
家業に就くことになった	男性	30 歳代ほか
実家に帰った	男性	60 歳代ほか
●転職・キャリアアップ等のため		
転職のため	女性	50 歳代ほか
独立（自営業）	男性	70 歳以上
キャリア転職	男性	60 歳代
ヘッドハンティング	男性	50 歳代
専門職につくため	女性	50 歳代
自分のやりたい事があったため	女性	60 歳代
夫と新しい仕事をはじめた	女性	70 歳以上
技術職につきたかった	男性	60 歳代
もっといい仕事が見つかったため	男性	30 歳代
いやになったため 夢と希望を実現する為	男性	70 歳以上
●勤め先の現状による		
転勤のため	男性	50 歳代
いじめ	女性	70 歳以上
パワハラに遭い、職場移動を求められた為	女性	30 歳代
期限つきだった	女性	30 歳代
働き方が変更したため	男性	60 歳代
業績不振の為	男性	50 歳代
夜遅い仕事だったため	女性	40 歳代
仕事内容	男性	30 歳代
上司のパワハラで、精神的ダメージを受けていたため	女性	20 歳代
内容	性別	年齢

●妊娠・出産等のため		
妊娠	女性	60 歳代
育児のため	女性	70 歳以上
出産・子育ての為自主的に	女性	60 歳代
●倒産・リストラ等のため		
リストラ	男性	50 歳代ほか
会社が倒産したため	男性	60 歳代ほか
会社の経営悪化	男性	30 歳代
勤め先の経営変化	男性	50 歳代
深夜勤務	女性	30 歳代
商売をやめた	女性	40 歳代
●その他		
大学院へ行くため	男性	30 歳代
孫を見ることでやめる	女性	70 歳代
自分が病気になったため	男性	40 歳代ほか
引越したため	女性	20 歳代ほか
家庭の事情	女性	50 歳代ほか
非正規雇用のため	女性	30 歳代
役職定年後の待遇不満	男性	70 歳以上
家を守るという観念が強かった	男性	60 歳代
定年退職	女性	70 歳以上

■仕事を辞めた理由（各属性別）

		健康上の理由のため	家事や育児に専念するため	め家事や育児との両立が困難であるため	高齢者や病人の介護のため	経済的に働く必要がなくなったため	賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため	勤め先の人間関係のため	結婚（自主的）のため	勤め先で結婚・出産退職の慣行があったため	夫（妻）の転勤のため	家族の反対や無理解のため	その他	無回答
単位：%														
性別	男性 (n=196)	9.7		0.5	1.5	3.1	44.9	16.8	1.5			0.5	20.4	1.0
	女性 (n=400)	8.8	13.0	7.0	4.8		14.3	11.0	25.5	3.8	3.3	0.8	7.5	0.5
年齢別	20歳代 (n=27)	22.2	7.4				29.6	22.2	3.7	3.7		3.7	7.4	
	30歳代 (n=84)	2.4	7.1	1.2			35.7	13.1	17.9	3.6	2.4		15.5	1.2
	40歳代 (n=124)	7.3	8.1	8.9	4.8		27.4	13.7	15.3	2.4	4.0		8.1	
	50歳代 (n=127)	12.6	9.4	6.3	2.4	0.8	19.7	13.4	18.1	2.4	2.4	0.8	9.4	2.4
	60歳代 (n=145)	9.7	13.1	4.1	2.8	2.1	20.0	11.0	20.7	2.1	0.7		13.1	0.7
	70歳以上 (n=94)	7.4	3.2	3.2	9.6	2.1	21.3	11.7	18.1	2.1	2.1	2.1	17.0	
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=10)	10.0					50.0		30.0				10.0	
	農林漁業 (家族従業者) (n=5)		20.0		20.0		20.0		40.0					
	商工・サービス業 (自営業主) (n=23)	17.4	4.3	8.7	4.3		17.4	21.7	4.3	4.3			17.4	
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=18)		5.6		5.6		22.2	16.7	27.8				22.2	
	自由業 (自営業主) (n=19)		5.3	10.5			5.3	21.1	21.1	5.3	5.3	5.3		21.1
	自由業 (家族従業者) (n=10)	20.0	20.0	10.0			10.0		10.0		10.0		20.0	
	被雇用者 (専門・技術職) (n=99)	7.1	6.1	8.1	1.0	1.0	37.4	10.1	9.1	2.0	2.0	1.0	14.1	1.0
	被雇用者(事務職) (n=86)	5.8	9.3	4.7	1.2		24.4	11.6	19.8	3.5	5.8		14.0	
	被雇用者(労務職) (n=81)	6.2	7.4	2.5	2.5	1.2	33.3	22.2	12.3	2.5		1.2	7.4	1.2
	専業主婦・主夫 (n=144)	11.1	15.3	4.9	5.6		11.8	10.4	27.8	3.5	2.8	1.4	4.2	1.4
	学生 (n=0)													
	無職 (n=99)	14.1	4.0	2.0	7.1	3.0	23.2	12.1	13.1	1.0			19.2	1.0
地域別	県北地域 (n=121)	8.3	9.1	3.3	5.8	0.8	19.0	15.7	19.8	2.5	3.3	0.8	10.7	0.8
	県央地域 (n=98)	11.2	9.2	3.1	2.0	2.0	17.3	16.3	14.3	5.1	3.1		15.3	1.0
	鹿行地域 (n=52)	5.8	5.8	3.8	5.8		32.7	13.5	17.3			1.9	11.5	1.9
	県南地域 (n=210)	7.1	9.0	5.2	2.9	1.0	25.7	11.0	20.0	2.4	2.4	0.5	11.9	1.0
	県西地域 (n=119)	12.6	8.4	7.6	3.4	0.8	29.4	10.1	13.4	1.7	0.8	0.8	10.9	

問16-3 問16-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
仕事を辞めたあと、再就職しましたか。(〇は1つ)



■ 「した」が約7割で、最多

再就職については、7割以上（72.1%）が「した」で最も高くなっている。

性別にみると、男性の「した」が85.2%となっており、女性の65.5%より約20ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代の「した」が59.3%となっており、30歳代～60歳代に比べて10ポイント以上低くなっている。

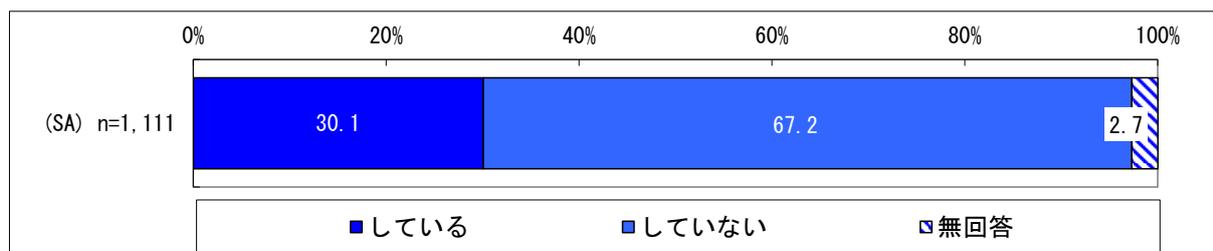
■再就職の状況（各属性別）

		した	しない	しな き した な か つ た が で	無 回 答
単位：%					
性別	男性 (n=196)	85.2	5.6	4.6	4.6
	女性 (n=400)	65.5	24.0	8.8	1.8
年齢別	20歳代 (n=27)	59.3	18.5	14.8	7.4
	30歳代 (n=84)	78.6	11.9	9.5	
	40歳代 (n=124)	77.4	14.5	6.5	1.6
	50歳代 (n=127)	74.0	14.2	8.7	3.1
	60歳代 (n=145)	71.0	20.7	7.6	0.7
	70歳以上 (n=94)	61.7	27.7	2.1	8.5
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=10)	70.0	30.0		
	農林漁業 (家族従業者) (n=5)	60.0	40.0		
	商工・サービス業 (自営業主) (n=23)	87.0	4.3		8.7
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=18)	83.3	16.7		
	自由業 (自営業主) (n=19)	78.9	15.8	5.3	
	自由業 (家族従業者) (n=10)	60.0	30.0	10.0	
	被雇用者 (専門・技術職) (n=99)	96.0	1.0	1.0	2.0
	被雇用者(事務職) (n=86)	93.0	4.7	2.3	
	被雇用者(労務職) (n=81)	90.1	4.9	3.7	1.2
	専業主婦・主夫 (n=144)	41.0	41.0	16.7	1.4
	学生 (n=0)				
	無職 (n=99)	55.6	24.2	11.1	9.1
地域別	県北地域 (n=121)	68.6	23.1	6.6	1.7
	県央地域 (n=98)	72.4	13.3	9.2	5.1
	鹿行地域 (n=52)	73.1	19.2	3.8	3.8
	県南地域 (n=210)	71.4	18.1	8.6	1.9
	県西地域 (n=119)	76.5	14.3	5.9	3.4

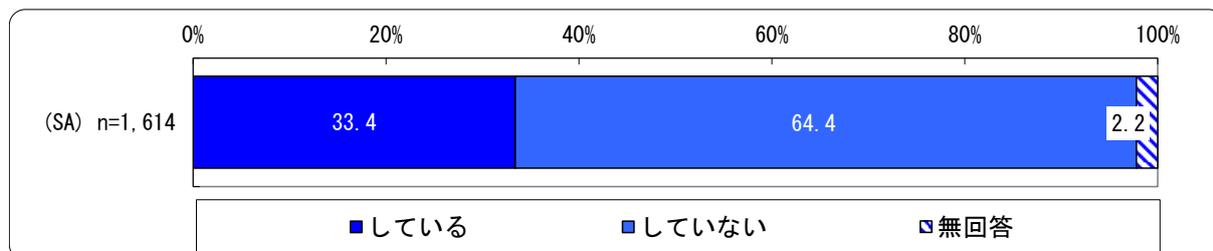
6 地域活動

(1) 地域活動

問17-1 現在、町内会やボランティア、NPO活動などの地域活動をしていますか。(○は1つ)



■平成22年茨城県



■地域活動に参加している割合は、約3割

現在地域活動をしているかについては、「していない」の67.2%が「している」の30.1%を上回っている。

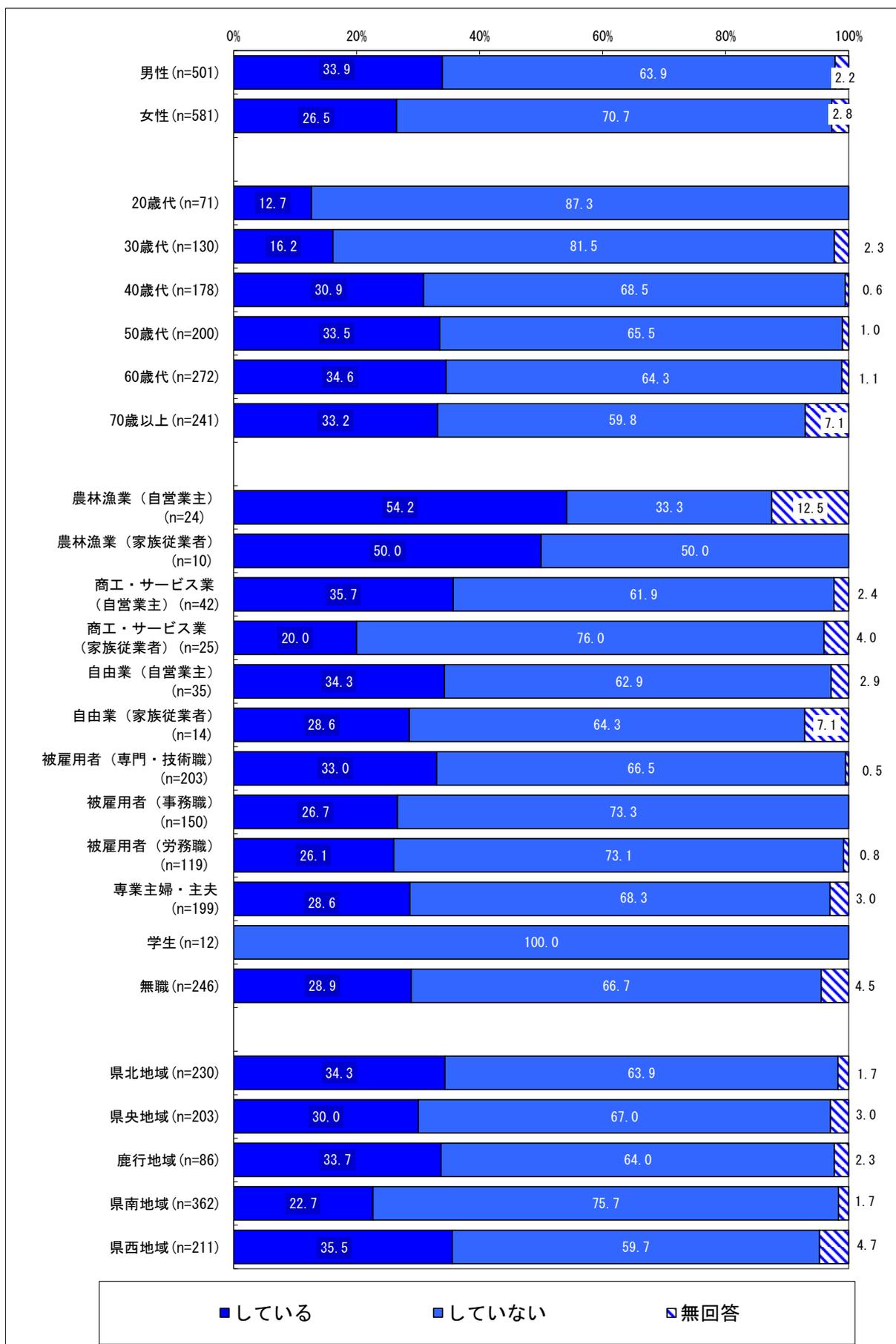
前回調査と比較すると、「している」との回答が3.3ポイント減少している。

性別にみると、若干だが男性の方が地域活動をしている割合が高くなっている。

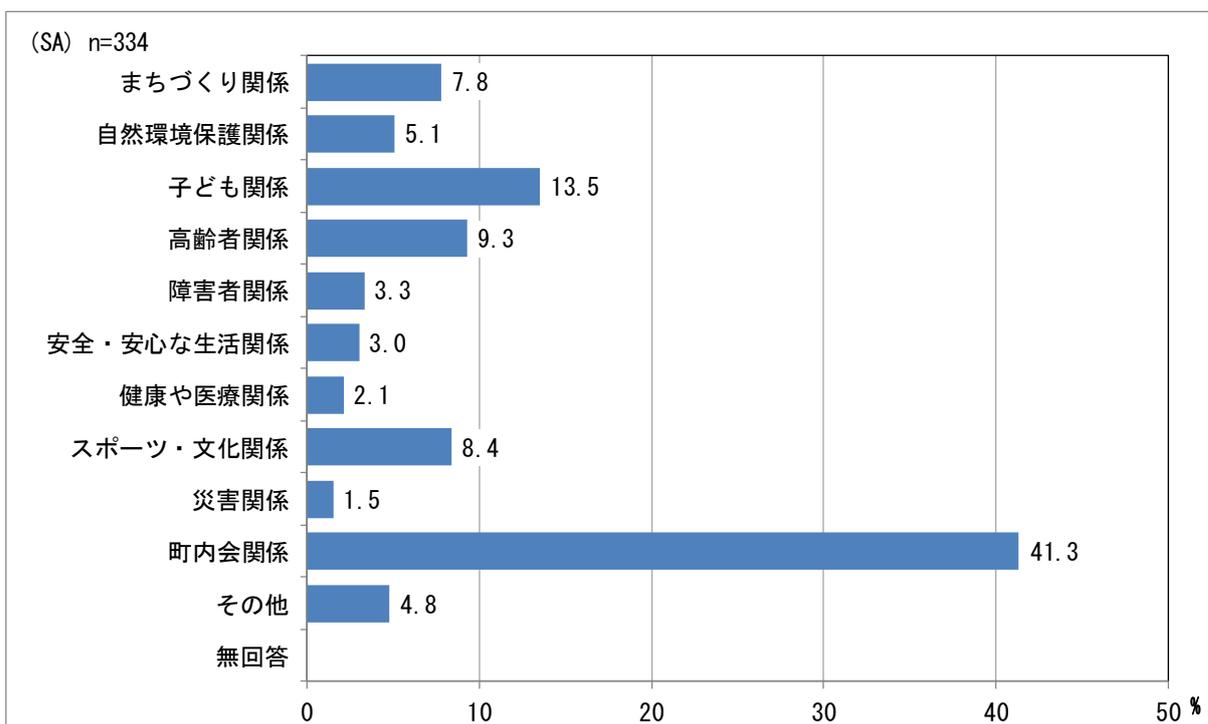
年齢別にみると、60歳代で「している」が34.6%と他の年齢層に比べて高くなっているが、20歳代では「している」が12.7%と約1割となっている。

地域別にみると、大きな差は見られないものの、「している」は県西地域(35.5%)が高くなっている。

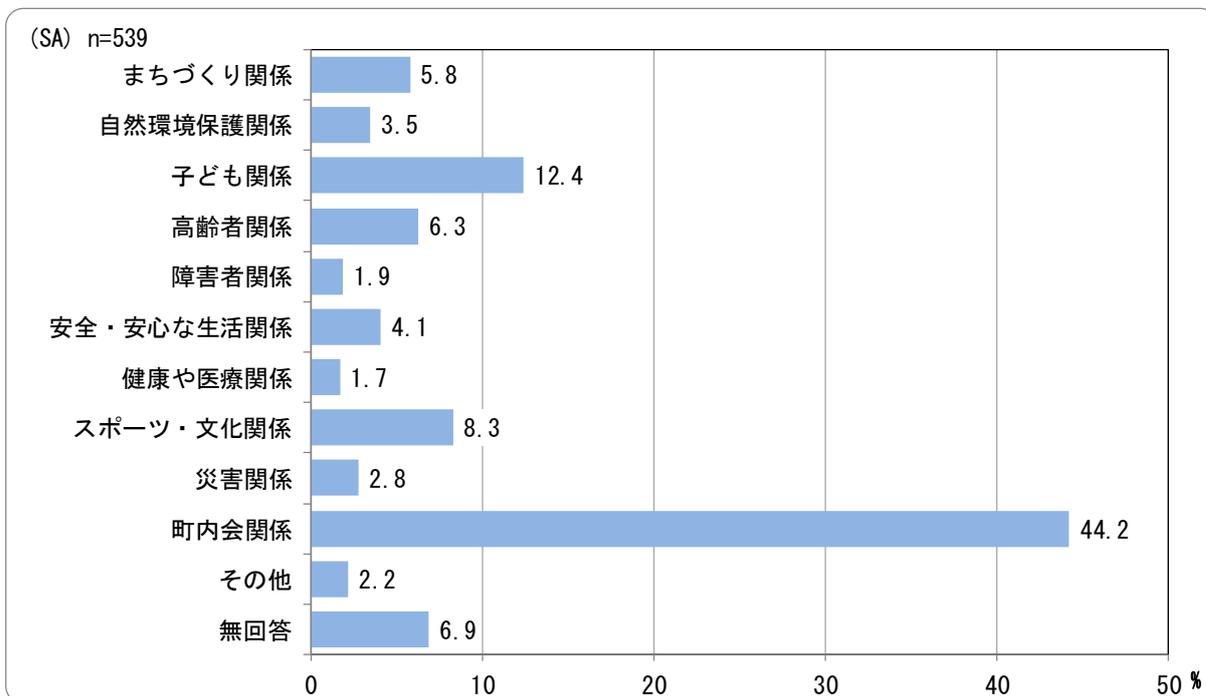
■地域活動の参加状況（各属性別）



問17-2 問17-1で、1の「している」とお答えいただいた方にうかがいます。
それはどのような活動内容（分野）ですか。（あてはまる主なものに○を1つ）



■平成22年茨城県



■活動内容は「町内会活動」が4割を超え、最多

活動している内容については、「町内会関係」が41.3%と最も高く、次いで「子ども関係」が13.5%、「高齢者関係」が9.3%となっている。

前回調査と比較すると、「高齢者関係」が3ポイント増加している。

性別にみると、あまり大きな差は見られないものの、「子ども関係」で女性（20.1%）が男性（7.1%）を13ポイント、「高齢者関係」で女性（14.3%）が男性（4.7%）を9.6ポイント、「スポーツ・文化関係」で男性（11.2%）が女性（4.5%）を6.7ポイント上回っている。

年齢別、地域別でも「町内会関係」が最も高くなっている。

■地域活動の内容（その他回答）

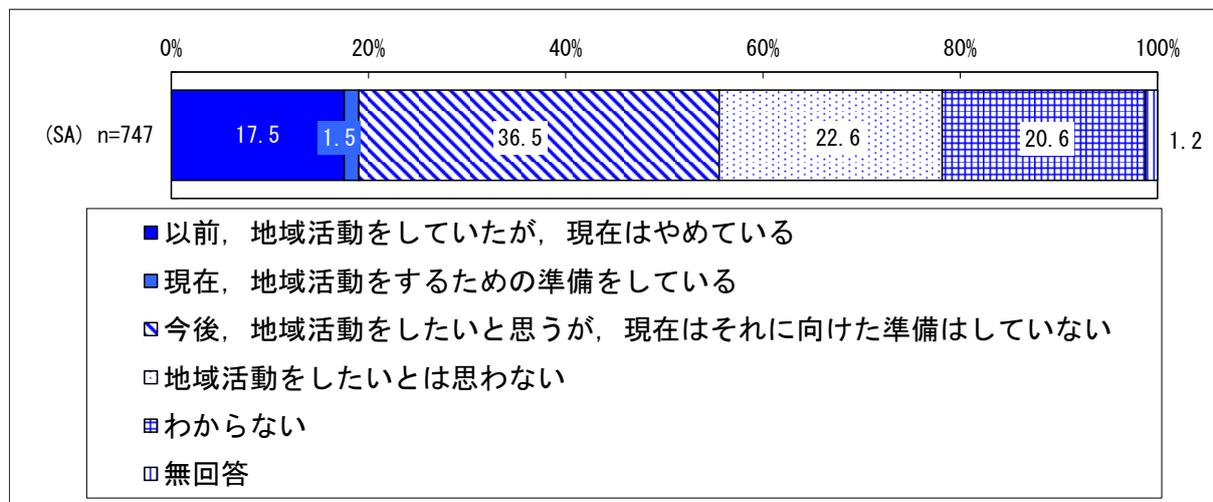
内容	性別	年齢
文化活動	女性	30歳代ほか
消防団	男性	40歳代
婦人会	女性	50歳代
環境美化	女性	60歳代
日中友好	男性	60歳代
食生活改善推進委員	女性	60歳代
神社の総代	男性	60歳代
福祉体験及び障害者外出支援ボランティア	男性	70歳以上
ライオンズクラブ	男性	70歳以上
趣味のサークル	男性	70歳以上ほか
老人会	女性	70歳以上
民生委員，地域（コミスイ）の副会長，女性会長	女性	70歳以上

■地域活動の内容（各属性別）

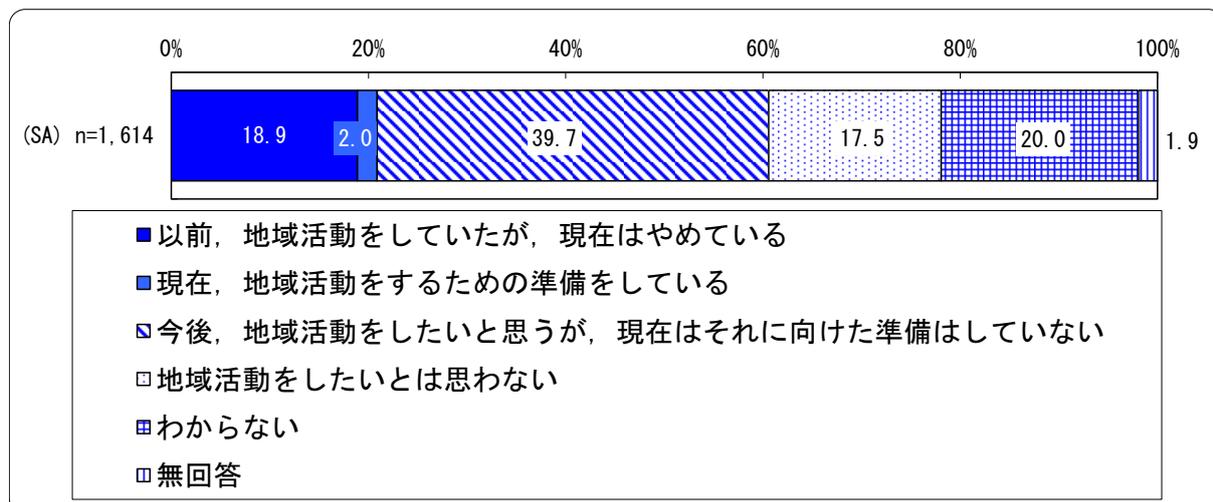
		まちづくり関係	自然環境保護関係	子ども関係	高齢者関係	障害者関係	安全・安心な生活関係	健康や医療関係	スポーツ・文化関係	災害関係	町内会関係	その他	無回答	
単位：%														
性別	男性 (n=170)	10.0	5.9	7.1	4.7	1.2	5.3	1.8	11.2	2.9	45.9	4.1		
	女性 (n=154)	5.2	4.5	20.1	14.3	5.8	0.6	2.6	4.5		36.4	5.8		
年齢別	20歳代 (n=9)	11.1	11.1	22.2							44.4	11.1		
	30歳代 (n=21)	9.5	4.8	23.8		9.5	4.8		4.8	14.3	23.8	4.8		
	40歳代 (n=55)	5.5	1.8	36.4	1.8	3.6	3.6		5.5	1.8	38.2	1.8		
	50歳代 (n=67)	7.5	4.5	10.4	4.5	3.0	1.5		9.0	1.5	56.7	1.5		
	60歳代 (n=94)	8.5	7.4	3.2	7.4	3.2	1.1	4.3	9.6		51.1	4.3		
	70歳以上 (n=80)	7.5	5.0	7.5	23.8	2.5	6.3	3.8	8.8		25.0	10.0		
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=13)	7.7	7.7				7.7	15.4	7.7		46.2	7.7		
	農林漁業 (家族従業者) (n=5)					20.0			20.0		60.0			
	商工・サービス業 (自営業主) (n=15)	20.0	6.7	6.7	6.7				6.7		46.7	6.7		
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=5)		20.0	40.0	20.0						20.0			
	自由業 (自営業主) (n=12)	8.3	8.3	16.7	16.7	8.3	8.3			8.3	25.0			
	自由業 (家族従業者) (n=4)	25.0		25.0							50.0			
	被雇用者 (専門・技術職) (n=67)	6.0	6.0	16.4	3.0	4.5	3.0	1.5	7.5	3.0	47.8	1.5		
	被雇用者(事務職) (n=40)	12.5	2.5	20.0	5.0	2.5	5.0		12.5	5.0	27.5	7.5		
	被雇用者(労務職) (n=31)	3.2	9.7	12.9		3.2			3.2		64.5	3.2		
	専業主婦・主夫 (n=57)	7.0	1.8	17.5	14.0	5.3	1.8	5.3	5.3		38.6	3.5		
	学生 (n=0)													
	無職 (n=71)	4.2	5.6	5.6	18.3			4.2	1.4	12.7		38.0	9.9	
地域別	県北地域 (n=79)	13.9	5.1	13.9	12.7	3.8	1.3	1.3	7.6	1.3	35.4	3.8		
	県央地域 (n=61)	6.6	4.9	9.8	8.2	3.3	3.3	4.9	6.6	1.6	45.9	4.9		
	鹿行地域 (n=29)		6.9	10.3	17.2	3.4	3.4		10.3	3.4	34.5	10.3		
	県南地域 (n=82)	7.3	3.7	14.6	4.9	6.1	4.9	2.4	8.5	2.4	39.0	6.1		
	県西地域 (n=75)	5.3	6.7	14.7	8.0			2.7	1.3	8.0		50.7	2.7	

問17-3 問17-1で、2の「していない」とお答えいただいた方にうかがいます。

地域活動をするかどうかについてどう思いますか。(〇は1つ)



■平成22年茨城県

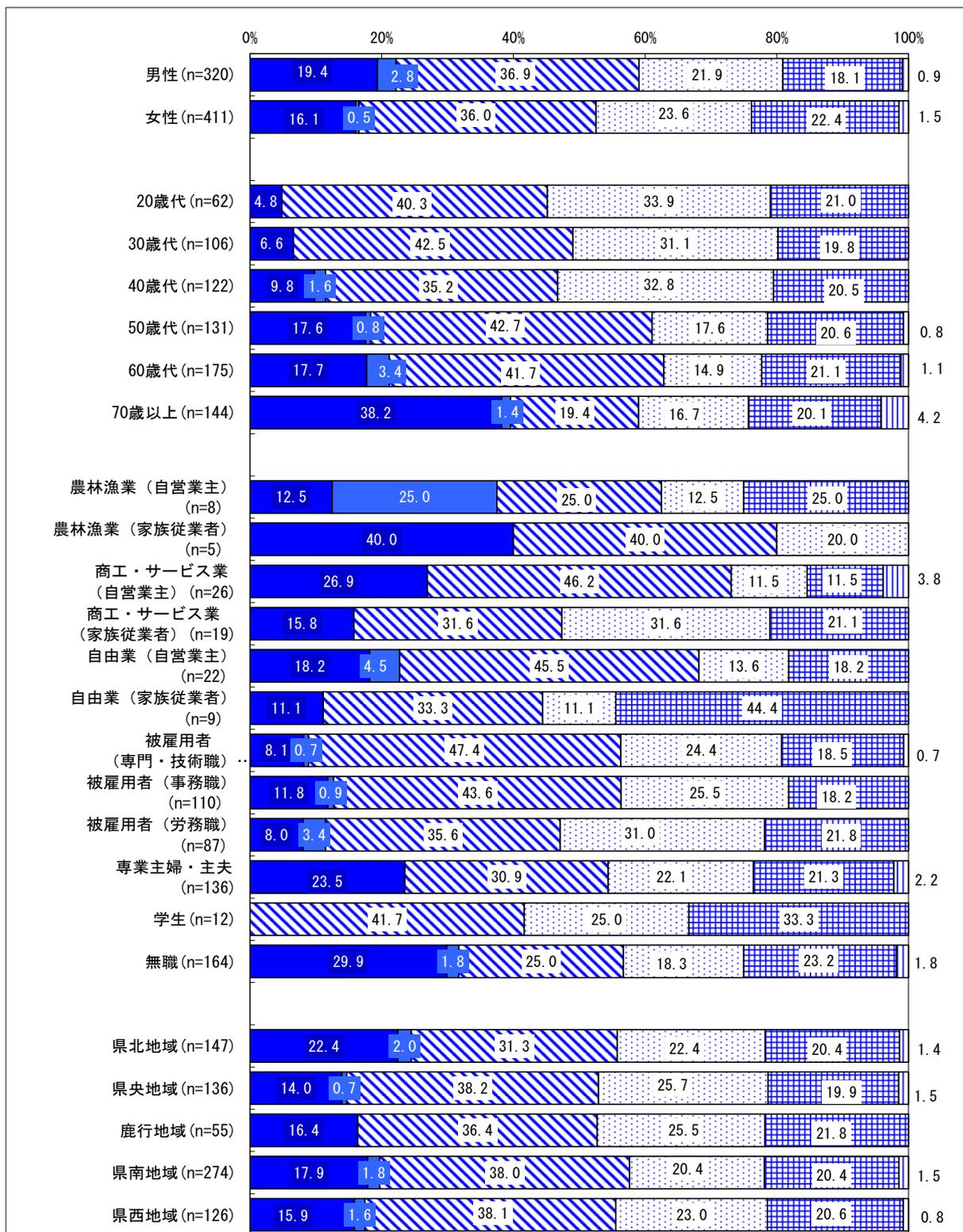


■「今後地域活動をしたいが、今はまだ準備をしていない」との回答が約4割で、最多

地域活動をするかどうかについては、「今後、地域活動をしたと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない」が36.5%と最も高く、次いで「地域活動をしたとは思わない」が22.6%、「わからない」が20.6%となっている。

年齢別にみると、「地域活動をしたとは思わない」が20歳代(33.9%)、30歳代(31.1%)、40歳代(32.8%)と他の年齢層に比べて高くなっている。また、70歳代では「以前、地域活動をしていましたが、現在はやめている」が約4割(38.2%)となっている。

■地域活動を行うことについて（各属性別）

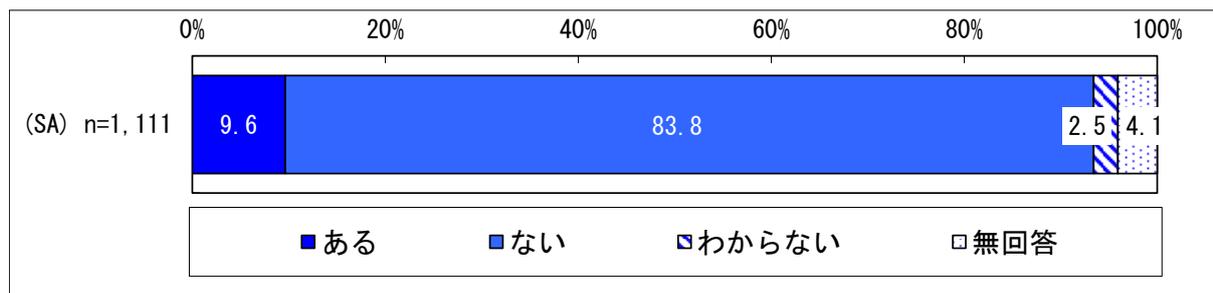


- 以前、地域活動をしていたが、現在はやめている
- 現在、地域活動をするための準備をしている
- ▣ 今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない
- 地域活動をしたいとは思わない
- ▣ わからない
- 無回答

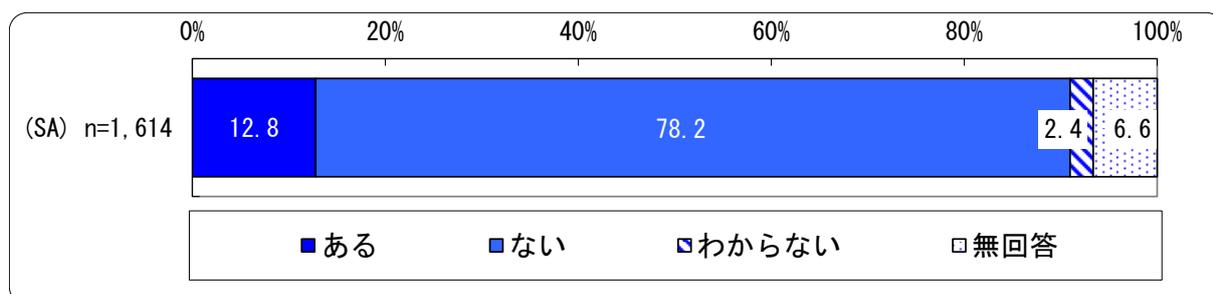
7 ドメスティック・バイオレンス

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

問18-1 配偶者（元配偶者も含む。）や恋人から暴力（下記問18-2のようなこと）を受けた経験はありますか。（○は1つ）



■平成22年茨城県

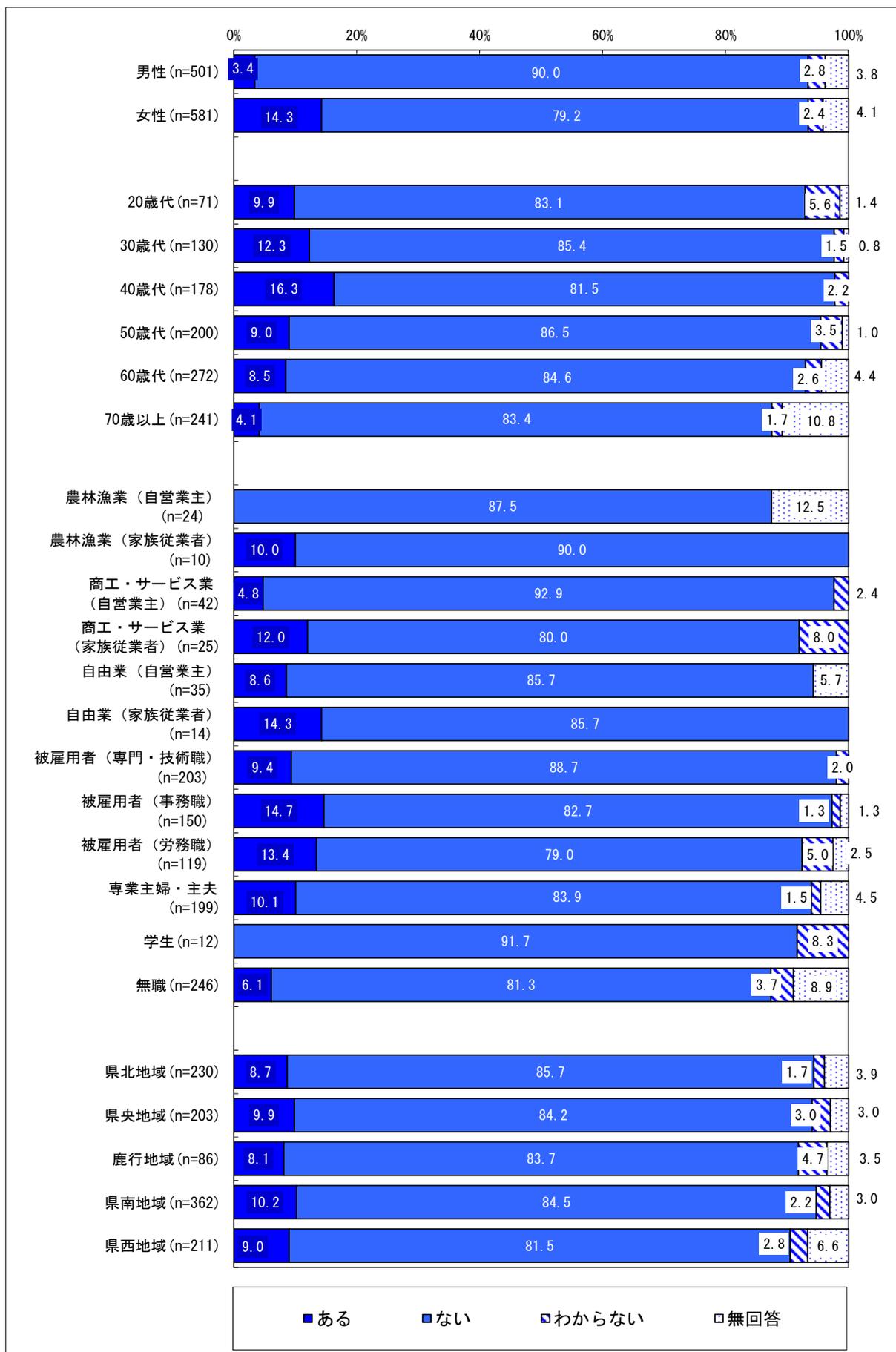


■回答者の1割強に、配偶者や恋人から暴力を受けた経験が「ある」

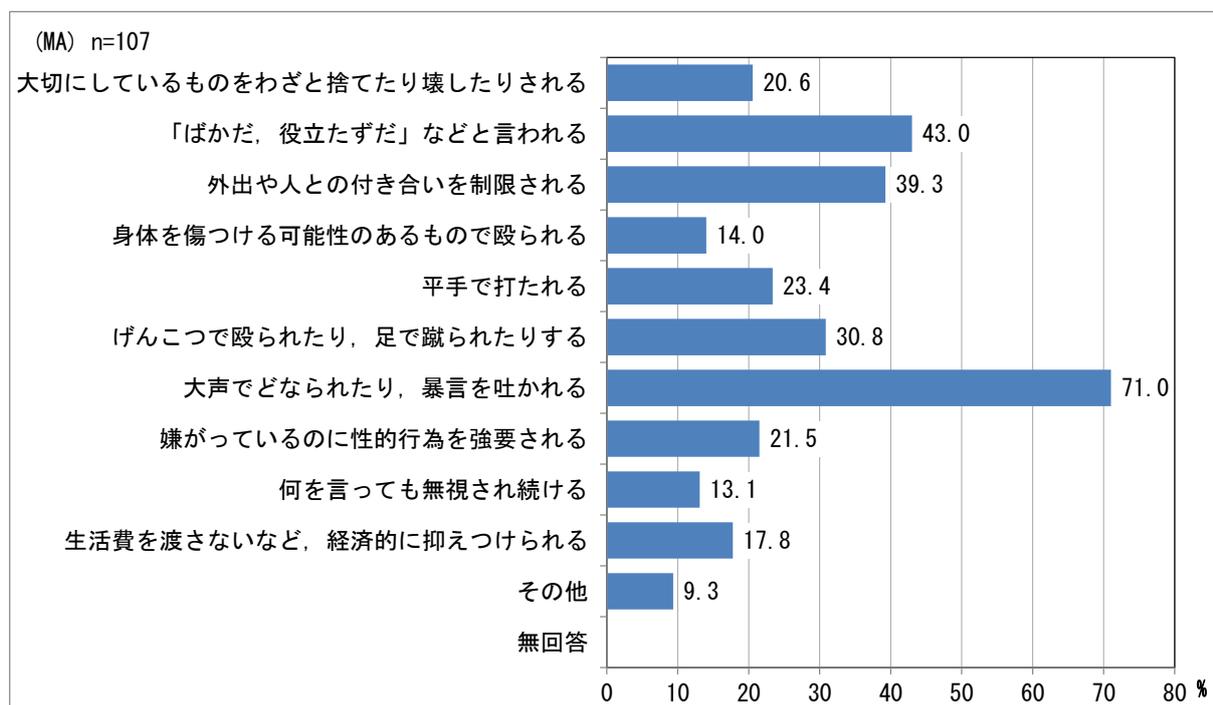
配偶者や恋人から暴力を受けた経験については、「ある」が9.6%となっており、前回調査と比較すると3.2ポイント減少している。

性別にみると、「ある」との回答は、男性で3.4%、女性で14.3%と女性が高くなっている。年齢別にみると、30・40歳代で「ある」（30歳代：12.3%、40歳代：16.3%）が他の年齢層と比べて若干高くなっている。

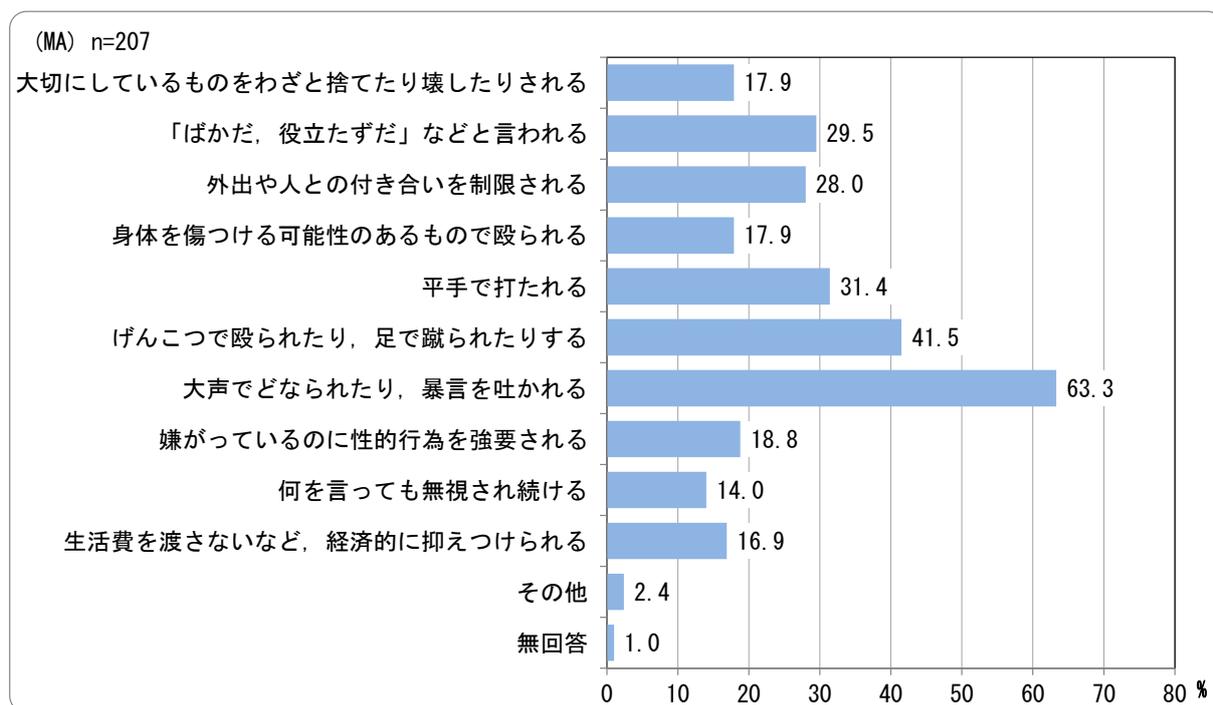
■暴力を受けた経験（各属性別）



問18-2 問18-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



■平成22年茨城県



■暴力の内容は、「大声でどなられたり，暴言を吐かれる」が7割を超え，最多

暴力の内容については，「大声でどなられたり，暴言を吐かれる」が71.0%と最も高く，次いで『『ばかだ，役立たずだ』などと言われる』が43.0%，「外出や人との付き合いを制限される」が39.3%となっている。

性別にみると，「外出や人との付き合いを制限される」（男性：17.6%，女性：42.2%）や「げんこつで殴られたり，足で蹴られたりする」（男性：23.5%，女性：32.5%）などとなっており，男性と女性で暴力の内容に差があることがわかる。

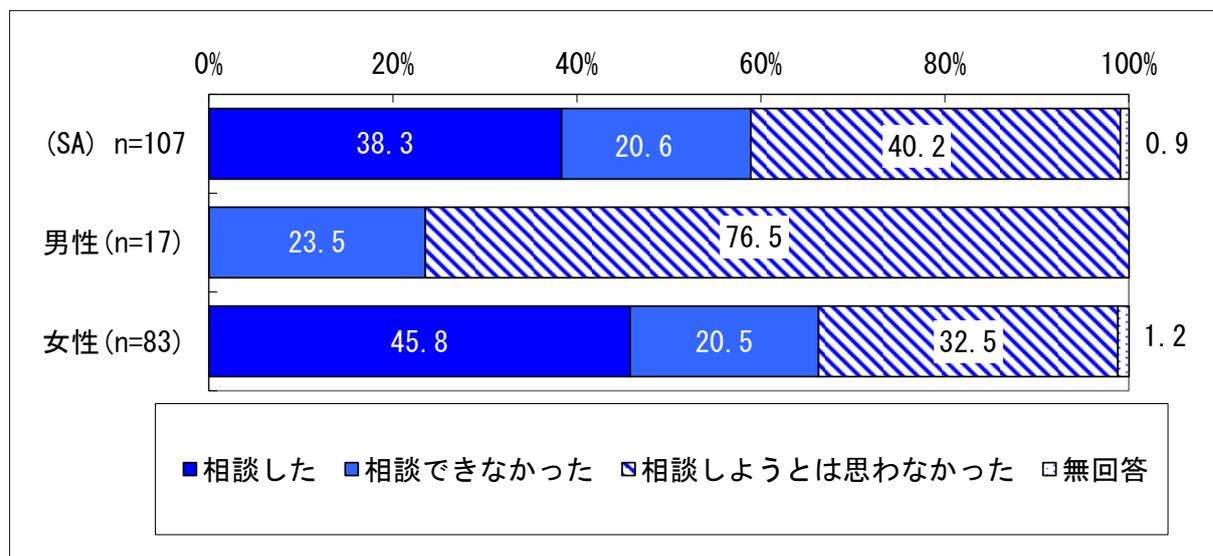
■暴力の内容（その他回答）

内容	年齢	性別
「別れるなら殺す」と言われた	女性	20歳代
家族の事の相談でも，協力を得られない	女性	40歳代
バカ女と言われる	女性	40歳代
事ある事に離婚したいと言われる	女性	40歳代
生活費を持ったまま，行方不明になった	女性	40歳代
職場に電話したり来たりする過干渉	女性	50歳代
子どもが泣くと「うるさい」と怒鳴られた，家に入れてもらえなかった	女性	60歳代
不倫	女性	60歳代
嫌がることを言われる	女性	60歳代
価値観の違い	女性	70歳以上

■暴力の内容（各属性別）

		大切にしたり壊したりされるものをわざと捨	「ばかだ、役立たずだ」などと	外人や人の付き合いを制限さ	身体を傷つける可能性のあるも	平手で打たれる	げんこつで殴られたり、足で蹴	大声でどなられたり、暴言を吐	嫌がっているのに性的行為を強	何を言っても無視され続ける	生活費を渡さないなど、経済的	その他	無回答
単位：%													
性別	男性 (n=17)	23.5	41.2	17.6	17.6	23.5	23.5	52.9	5.9	23.5	11.8		
	女性 (n=83)	21.7	42.2	42.2	13.3	25.3	32.5	74.7	24.1	12.0	18.1	12.0	
年齢別	20歳代 (n=7)	14.3	42.9	57.1		14.3	28.6	85.7	42.9	14.3		14.3	
	30歳代 (n=16)	31.3	37.5	56.3	18.8	6.3	18.8	68.8	18.8	18.8	18.8		
	40歳代 (n=29)	24.1	48.3	34.5	10.3	27.6	27.6	75.9	20.7	20.7	13.8	13.8	
	50歳代 (n=18)	16.7	50.0	50.0	22.2	33.3	44.4	72.2	22.2	5.6	27.8	5.6	
	60歳代 (n=23)	13.0	39.1	13.0	13.0	34.8	43.5	60.9	21.7	4.3	13.0	13.0	
	70歳以上 (n=10)	30.0	40.0	40.0	20.0	10.0	20.0	70.0		20.0	20.0	10.0	
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=)												
	農林漁業 (家族従業者) (n=1)			100.0				100.0					
	商工・サービス業 (自営業主) (n=2)		50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0		50.0		
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=3)	33.3	33.3	66.7	33.3		33.3	100.0	33.3				
	自由業 (自営業主) (n=3)	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7				33.3	
	自由業 (家族従業者) (n=2)	50.0	50.0	50.0				100.0					
	被雇用者 (専門・技術職) (n=19)	21.1	36.8	31.6		26.3	21.1	68.4	15.8	26.3	21.1	21.1	
	被雇用者(事務職) (n=22)	18.2	50.0	45.5	18.2	18.2	27.3	72.7	13.6	18.2	13.6	9.1	
	被雇用者(労務職) (n=16)	31.3	50.0	43.8	6.3	25.0	43.8	75.0	37.5	6.3	31.3	6.3	
	専業主婦・主夫 (n=20)	15.0	45.0	30.0	15.0	35.0	30.0	70.0	10.0	15.0	5.0	5.0	
	学生 (n=)												
無職 (n=15)	20.0	33.3	26.7	20.0	13.3	33.3	53.3	26.7	6.7	20.0	6.7		
地域別	県北地域 (n=20)	30.0	40.0	35.0	10.0	30.0	15.0	70.0	5.0	10.0	25.0		
	県央地域 (n=20)	30.0	45.0	35.0	25.0	40.0	45.0	75.0	30.0	25.0	20.0	20.0	
	鹿行地域 (n=7)	14.3	42.9	57.1	42.9	14.3	42.9	85.7	14.3		28.6		
	県南地域 (n=37)	18.9	37.8	37.8	10.8	18.9	32.4	67.6	24.3	13.5	10.8	13.5	
	県西地域 (n=19)	10.5	57.9	36.8	5.3	15.8	31.6	68.4	21.1	10.5	10.5	5.3	

問18-3 問18-1で、「ある」とお答えいただいた方。
 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (○は1つ)

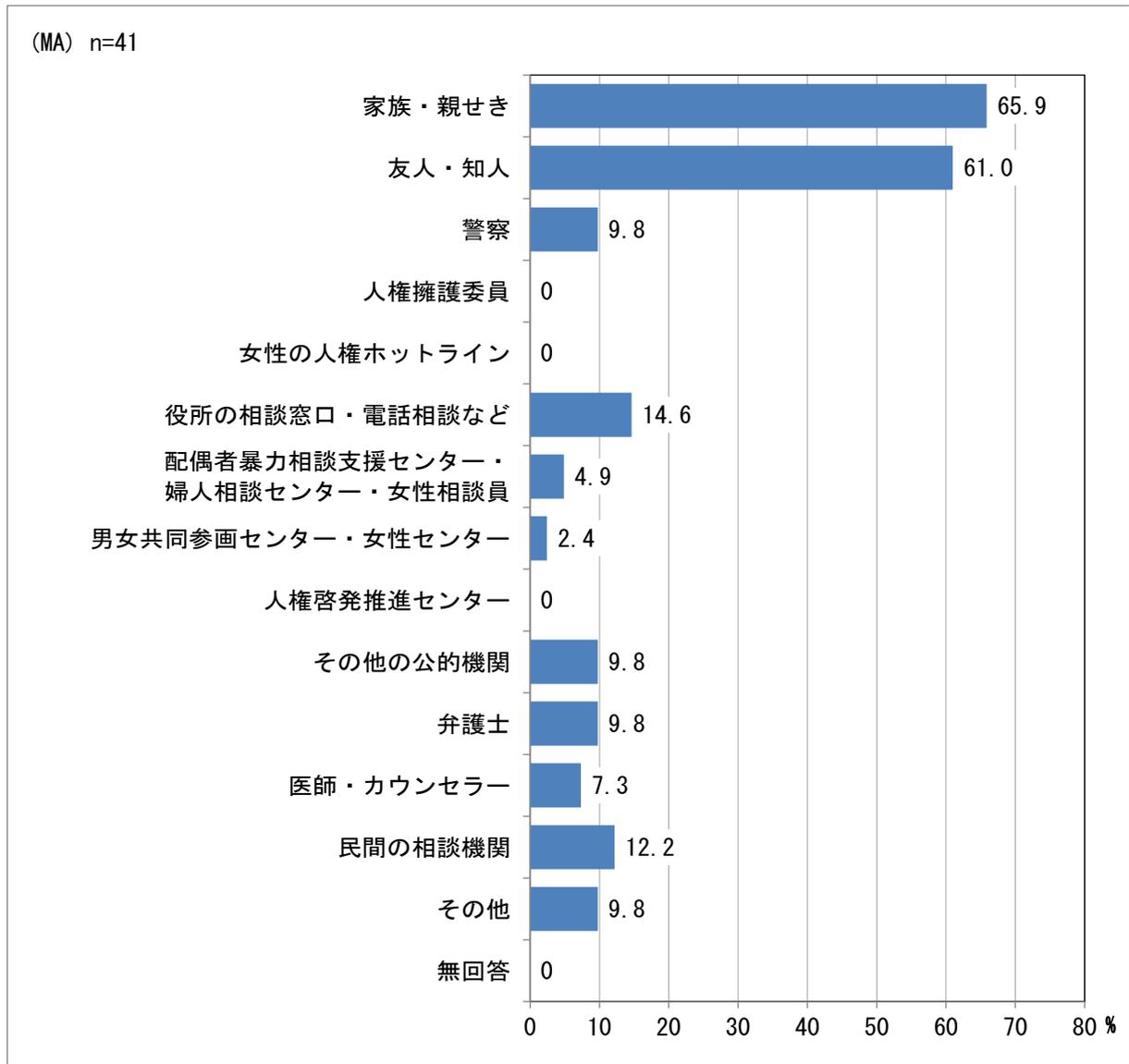


■ 「相談できなかった・しようとは思わなかった」が6割を超え、最多

相手から受けた行為について、「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」の合計が6割（60.8%）と最も高く、「相談した」は38.3%と約4割となっている。

性別にみると、「相談した」は女性の約5割（45.8%）となっているが、男性は0%となっている。

問18-4 問18-3で、1の「相談した」とお答えいただいた方。
 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）



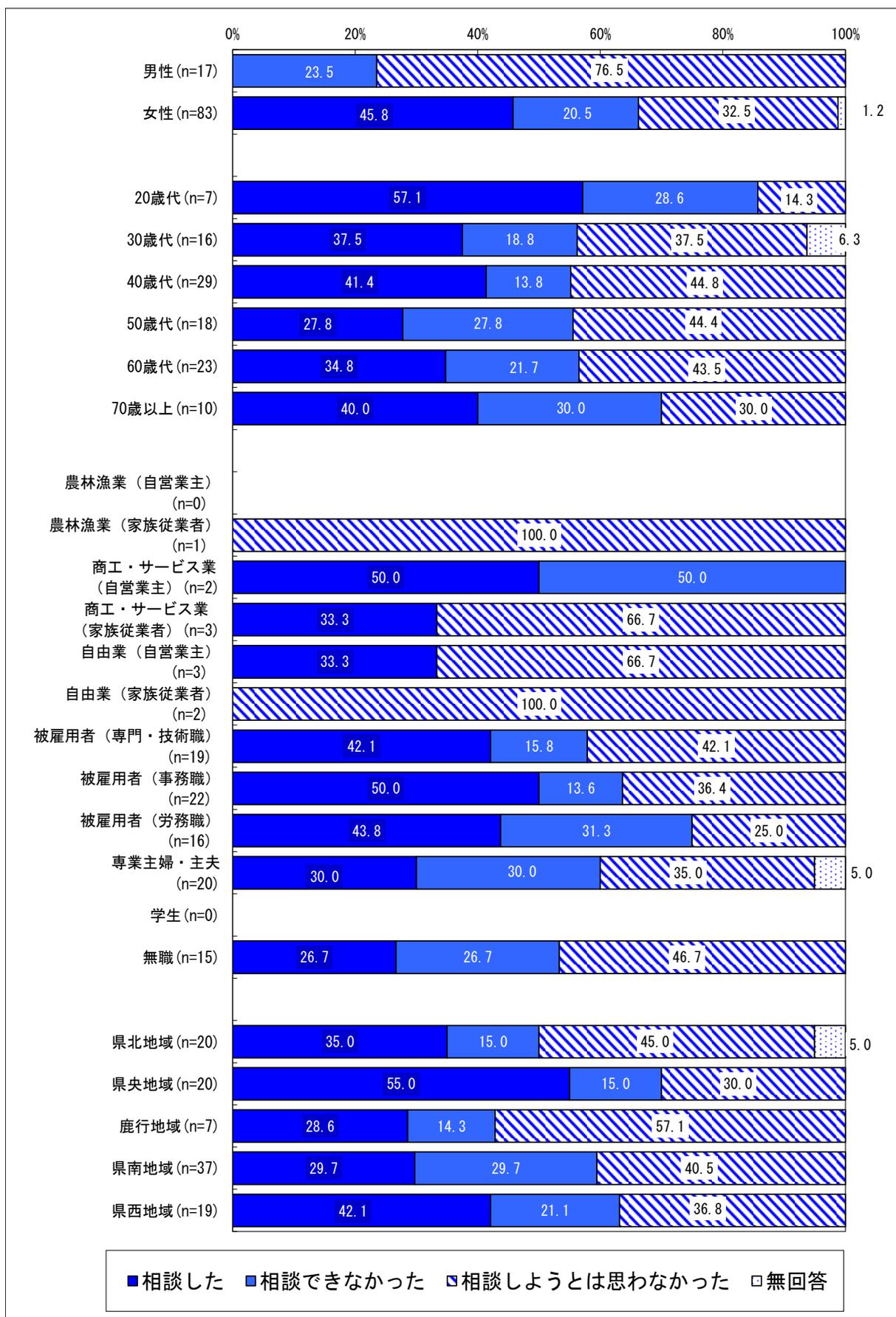
■相談先は「家族・親せき」と「知人・友人」が6割を超え最多、公的機関等への相談は約1割

相談先は、「家族・親せき」が65.9%、「知人・友人」が61.0%と6割以上で最も高く、警察(9.8%)、役所の相談窓口(14.6%)など、公的機関へも1割程度が相談している。

■ドメスティック・バイオレンスを相談した人（場所）（その他回答）

内容	年齢	性別
インターネット上で	女性	40歳代
調停	女性	50歳代
両親	女性	50歳代
県の婦人相談室	女性	50歳代

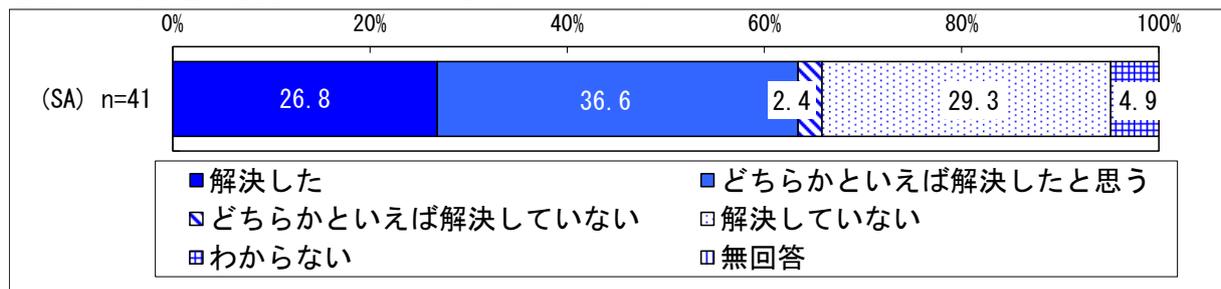
■暴力に関する相談 (各属性別)



■相談した相手（人または場所）（各属性別）

		家族・親せき	友人・知人	警察	人権擁護委員	女性の人権ホットライン	役所の相談窓口・電話相談など	配偶者暴力相談支援センター・女性相談員・婦人相談センター	男女共同参画センター・女性センター	人権啓発推進センター	その他の公的機関	弁護士	医師・カウンセラー	民間の相談機関	その他	無回答
単位：%																
性別	女性 (n=38)	63.2	60.5	10.5			15.8	2.6	2.6		10.5	10.5	7.9	10.5	10.5	
年齢別	20歳代 (n=4)	50.0	100.0	25.0												
	30歳代 (n=6)	66.7	83.3				16.7									
	40歳代 (n=12)	66.7	58.3	8.3			25.0		8.3		16.7	16.7	16.7	8.3	8.3	
	50歳代 (n=5)	40.0	80.0				20.0				20.0			20.0	60.0	
	60歳代 (n=8)	75.0	37.5	12.5			12.5	12.5				12.5		12.5		
	70歳以上 (n=4)	75.0	25.0	25.0							25.0	25.0	25.0	25.0		
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=0)															
	農林漁業 (家族従業者) (n=0)															
	商工・サービス業 (自営業主) (n=1)							100.0								
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=1)		100.0													
	自由業 (自営業主) (n=1)	100.0														
	自由業 (家族従業者) (n=0)															
	被雇用者 (専門・技術職) (n=8)	100.0	87.5				37.5		12.5		12.5	12.5		12.5	12.5	
	被雇用者(事務職) (n=11)	45.5	63.6	18.2			18.2				27.3	18.2	18.2	18.2	9.1	
	被雇用者(労務職) (n=7)	71.4	28.6	14.3			14.3					14.3		14.3	14.3	
	専業主婦・主夫 (n=6)	66.7	66.7	16.7												16.7
	学生 (n=0)															
	無職 (n=4)	50.0	75.0										25.0			
地域別	県北地域 (n=7)	42.9	85.7				28.6									28.6
	県央地域 (n=11)	72.7	72.7	9.1			18.2	9.1	9.1		9.1	18.2	9.1	9.1		
	鹿行地域 (n=2)	100.0		50.0							50.0	50.0		100.0		
	県南地域 (n=11)	63.6	45.5	9.1			18.2				18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	
	県西地域 (n=8)	62.5	62.5	12.5									12.5			12.5

問18-5 問18-3で、1の「相談した」とお答えいただいた方。
 相談して問題は解決しましたか。(〇は1つ)



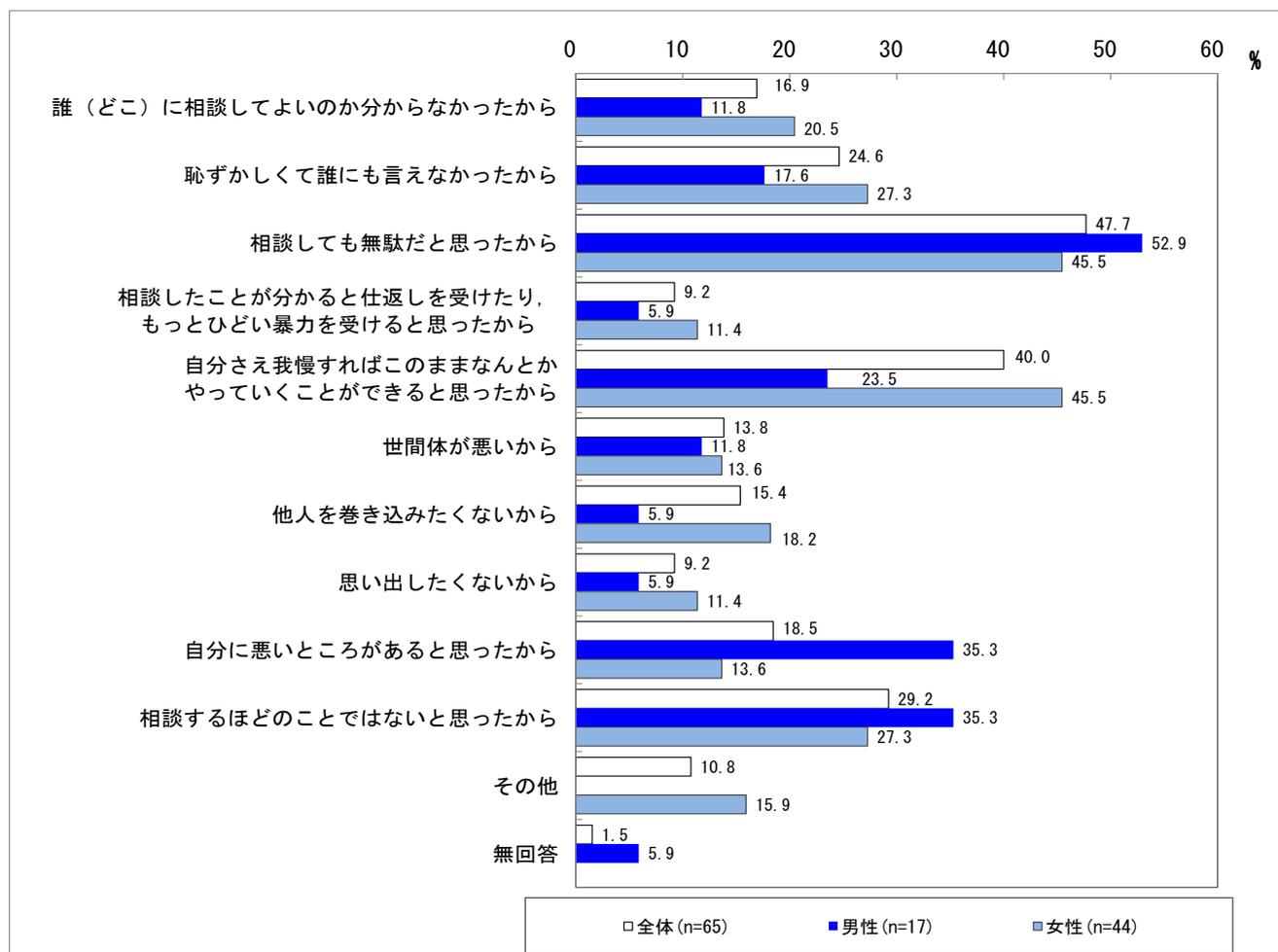
■相談による解決は6割を超えている

相談したことによる暴力の解決は、「解決した」と「どちらかといえば解決したと思う」の合計で63.4%となっている。

年代別にみると、「どちらかといえば解決していない」と「解決していない」の合計が40歳代(50%)、50歳代(60%)、60歳代(37.5%)で多くなっている。

問18-6 問18-3で、2の「相談できなかった」または3の「相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方。

あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）



■暴力を相談できなかった理由は、「相談しても無駄だと思った」が約5割で最も多いも、男女間で理由にばらつきがある

暴力を『相談しなかった』（相談できなかった）または「相談しようとは思わなかった」理由については「相談しても無駄だと思った」が約5割（47.7%）で最も高い。

性別にみると、「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」（男性：23.5%、女性：45.5%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（男性 35.3%、女性：13.6%）と男女間で20ポイント以上の差がある項目がある。

■暴力を相談できなかった理由（その他の回答）

内容	年齢	性別
子供がいたから	女性	40歳代
結婚したのは自分の責任で必ず良くなると思っていたから	女性	60歳代
警察に電話したが来てもらえなかったから	女性	40歳代
親や兄妹に迷惑をかけたくはないから	女性	50歳代
離婚したから	女性	50歳代

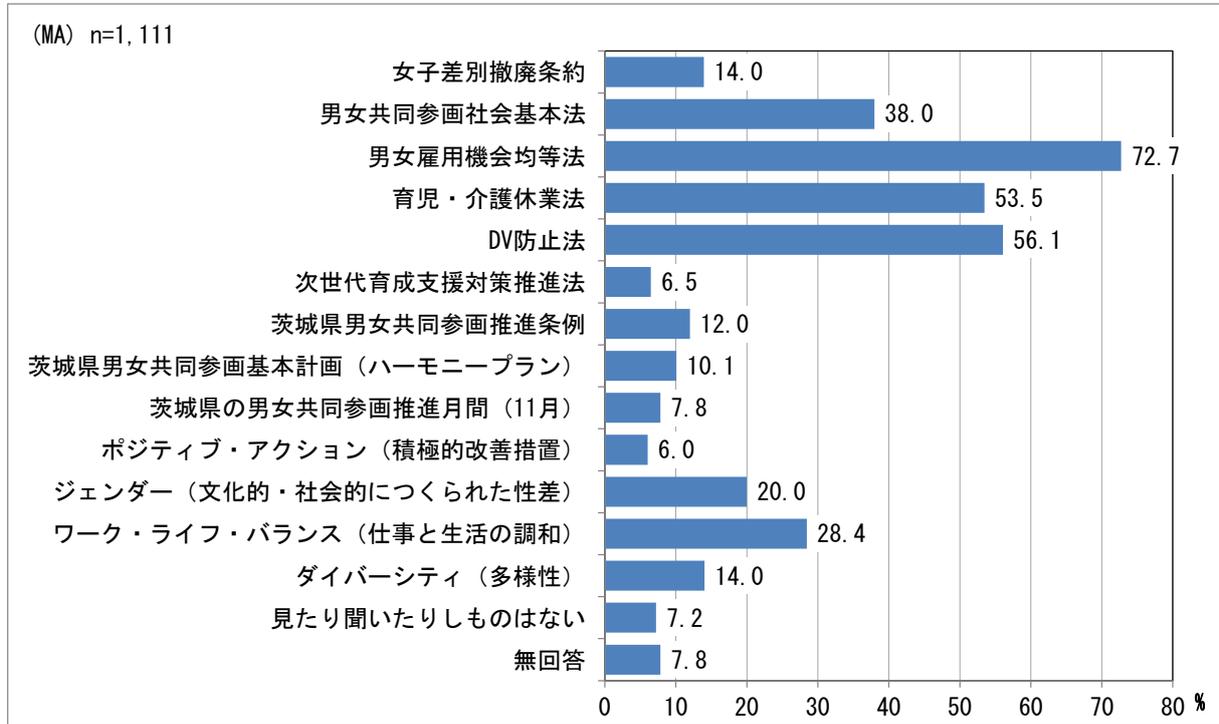
■暴力を相談できなかった理由 (各属性別)

		誰(どこ)に相談できなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことが分かると思返しを受けたりもつとひどい暴力を受けると思ったから	自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくないから	思い出したくないから	自分に悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
単位：%													
性別	男性 (n=17)	11.8	17.6	52.9	5.9	23.5	11.8	5.9	5.9	35.3	35.3		5.9
	女性 (n=44)	20.5	27.3	45.5	11.4	45.5	13.6	18.2	11.4	13.6	27.3	15.9	
	不詳 (n=4)		25.0	50.0		50.0	25.0	25.0			25.0		
年齢別	20歳代 (n=3)	66.7				33.3		33.3	33.3	33.3			
	30歳代 (n=9)		33.3	66.7	22.2	33.3	11.1	22.2	22.2		33.3		
	40歳代 (n=17)	23.5	23.5	47.1	17.6	35.3	23.5	11.8	5.9	41.2	29.4	11.8	5.9
	50歳代 (n=13)	15.4	30.8	46.2		38.5	7.7	7.7		7.7	23.1	15.4	
	60歳代 (n=15)	13.3	13.3	46.7		40.0	6.7	13.3		6.7	33.3	13.3	
	70歳以上 (n=6)	16.7	33.3	50.0	16.7	66.7	16.7	16.7	33.3	33.3	33.3	16.7	
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=0)												
	農林漁業 (家族従業者) (n=1)									100.0	100.0		
	商工・サービス業 (自営業主) (n=1)			100.0		100.0							
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=2)		50.0	100.0			50.0				50.0		
	自由業 (自営業主) (n=2)			50.0	50.0	100.0							
	自由業 (家族従業者) (n=2)			50.0					50.0		50.0		
	被雇用者 (専門・技術職) (n=11)	27.3		45.5		27.3	9.1			9.1	36.4	18.2	9.1
	被雇用者(事務職) (n=11)	18.2	27.3	72.7	9.1	36.4	9.1	27.3	9.1	27.3	36.4		
	被雇用者(労務職) (n=9)	11.1	11.1	33.3	22.2	22.2		11.1	11.1	33.3	22.2	33.3	
	専業主婦・主夫 (n=13)	30.8	38.5	30.8	7.7	46.2	30.8	23.1	15.4	23.1	23.1	15.4	
	学生 (n=)												
無職 (n=11)	9.1	45.5	45.5	9.1	63.6	9.1	18.2	9.1	9.1	18.2			
地域別	県北地域 (n=12)		16.7	33.3	8.3	41.7			8.3	25.0	33.3	8.3	8.3
	県央地域 (n=9)	44.4	33.3	44.4	11.1	33.3	22.2	33.3	22.2	44.4	11.1	22.2	
	鹿行地域 (n=5)		60.0	80.0	20.0	40.0	40.0	40.0		20.0	20.0		
	県南地域 (n=26)	19.2	23.1	46.2	11.5	46.2	11.5	15.4	11.5	7.7	26.9	15.4	
	県西地域 (n=11)	18.2	9.1	54.5		27.3	9.1			18.2	45.5		

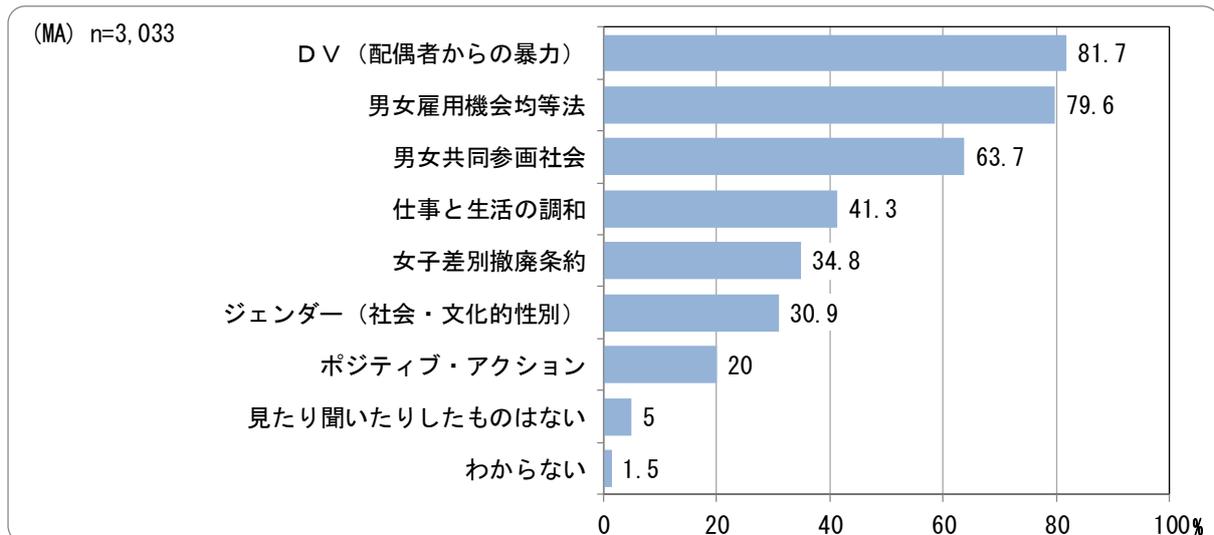
8 男女共同参画社会

(1) 男女共同参画に関する用語等の周知度

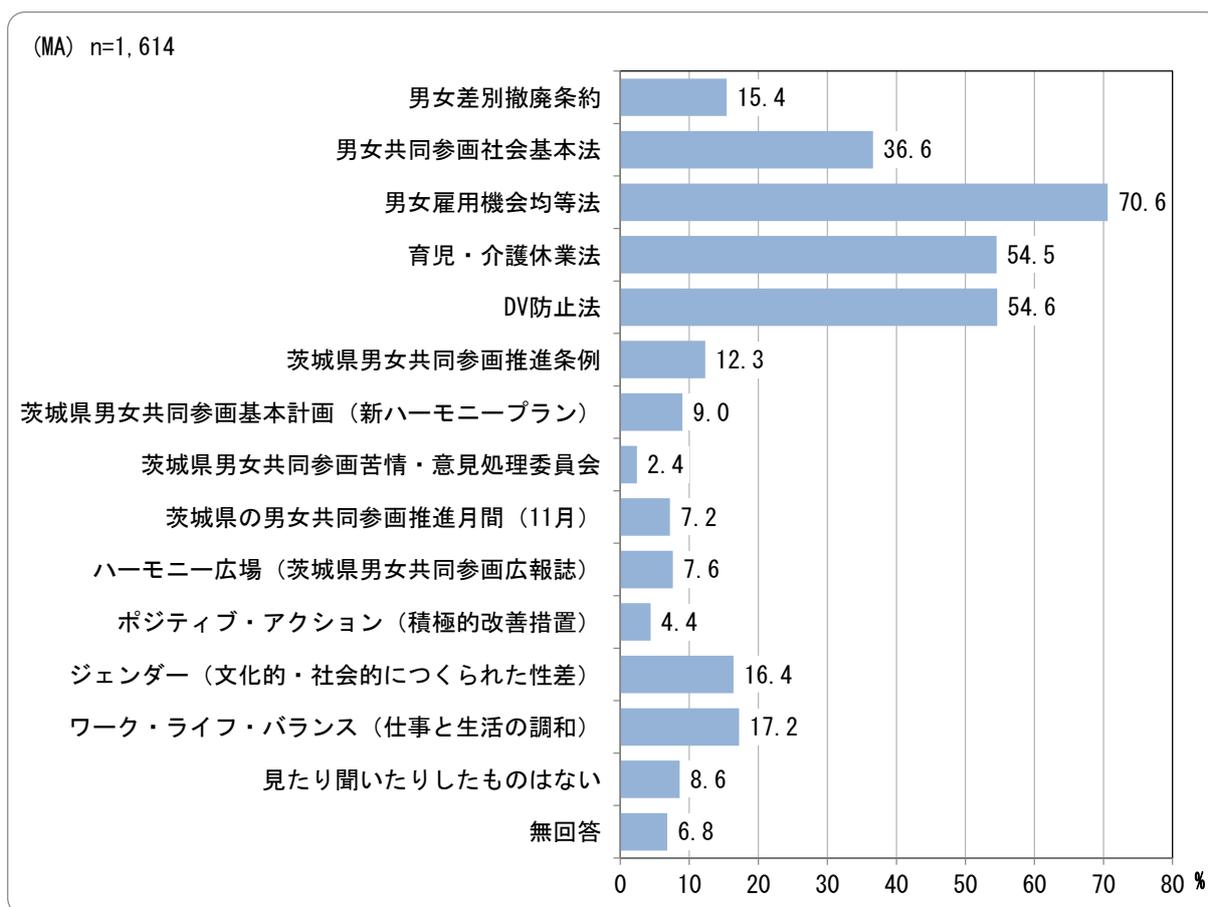
問19 次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。(〇はいくつでも)



■平成24年全国



■平成 22 年茨城県



■回答者の7割が「男女雇用機会均等法」を知っていると回答しているが、「県条例」や「県計画」などは低い状況となっている

男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」が72.7%と最も高く、次いで「DV防止法」が56.1%、「育児・介護休業法」が53.5%、「男女共同参画社会基本法」が38.0%となっている。

年齢別にみると、「ジェンダー」や「ワーク・ライフ・バランス」については、若い年齢層の周知度が高くなっている。

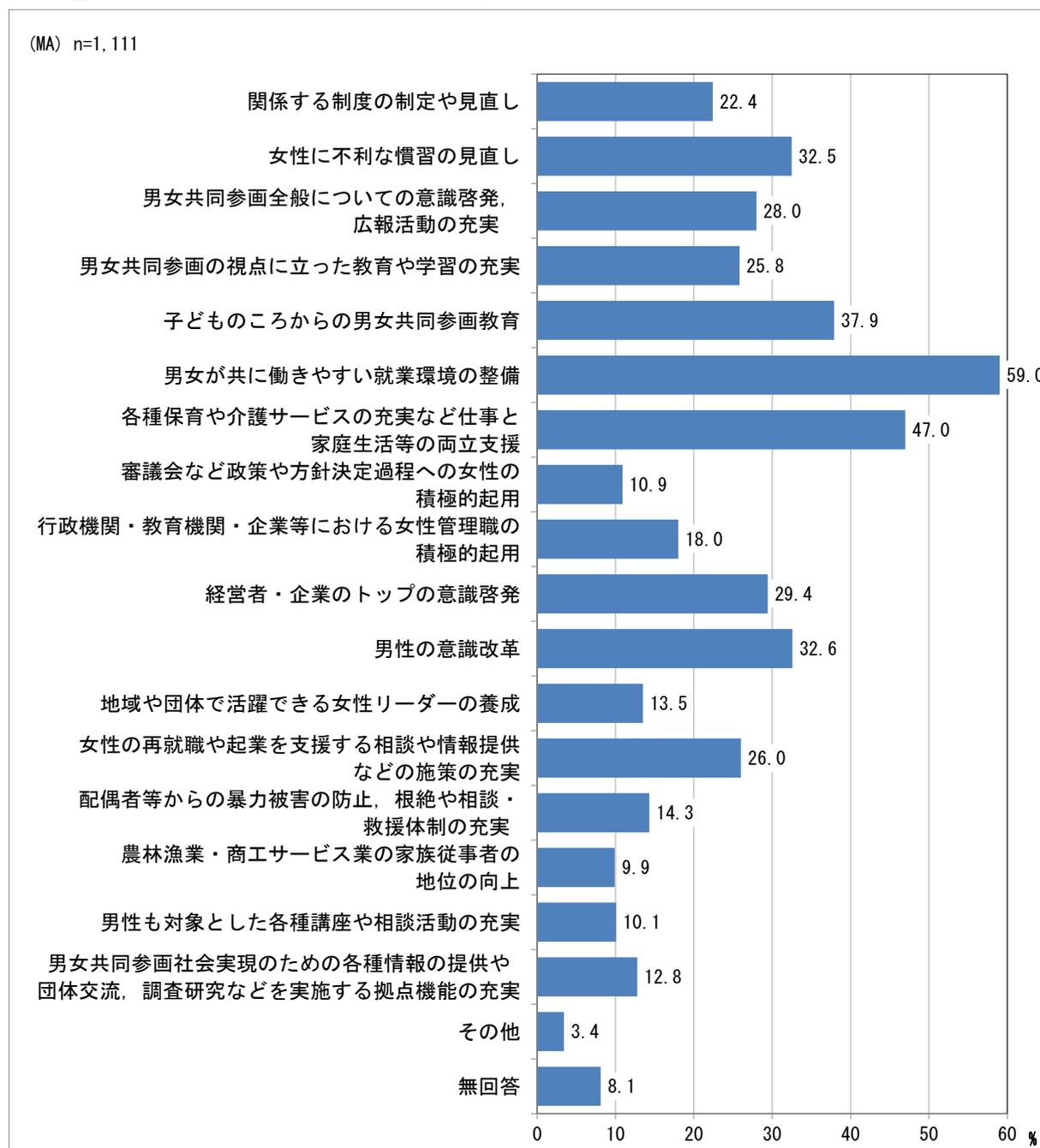
■男女共同参画に関する用語等の周知度（各属性別）

単位：%		る態子子女 条の対差別 約の撤廃に 関す形（女 子差別撤廃 条約）	法男女共同 参画社会基 本	男女雇用機 会均等法	育児・介護 休業法	律）者の暴 力防止法（ 配偶者か らDV防止 法）及び被 害者の保護 に関する法 律	進次世代育 成支援対策 推	進茨城県男 女共同参画 推	ラ本計画（ハ ーモニート ー）	茨城県男女 共同参画基 本
性別	男性 (n=501)	17.0	40.3	79.0	54.1	59.1	7.0	13.2	10.4	
	女性 (n=581)	10.7	36.3	68.0	53.4	54.2	5.5	10.7	9.8	
年齢別	20歳代 (n=71)	23.9	69.0	81.7	53.5	45.1	5.6	5.6	1.4	
	30歳代 (n=130)	17.7	29.2	78.5	53.8	50.0	9.2	5.4	9.2	
	40歳代 (n=178)	10.7	32.0	80.9	56.7	64.0	7.3	11.2	12.4	
	50歳代 (n=200)	10.5	34.5	79.5	58.5	64.0	6.0	10.0	11.0	
	60歳代 (n=272)	13.2	41.9	72.8	59.2	64.0	5.5	14.0	9.9	
	70歳以上 (n=241)	14.1	37.3	56.8	41.5	42.3	5.4	16.6	10.8	
	不詳 (n=19)	26.3	26.3	52.6	36.8	42.1	15.8	21.1	10.5	
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	4.2	37.5	62.5	37.5	62.5	12.5	16.7	8.3	
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)		20.0	20.0	30.0	30.0			10.0	
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	11.9	35.7	71.4	52.4	59.5	7.1	16.7	9.5	
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	12.0	28.0	72.0	72.0	52.0	4.0	8.0	8.0	
	自由業 (自営業主) (n=35)	17.1	37.1	68.6	42.9	51.4	11.4	11.4	17.1	
	自由業 (家族従業者) (n=14)	14.3	28.6	78.6	35.7	28.6	7.1			
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	12.8	44.3	84.7	59.6	68.0	6.4	12.3	15.3	
	被雇用者(事務職) (n=150)	10.7	46.0	84.0	64.7	59.3	5.3	13.3	13.3	
	被雇用者(労務職) (n=119)	16.8	27.7	73.1	51.3	59.7	9.2	3.4	3.4	
	専業主婦・主夫 (n=199)	13.6	37.2	72.4	57.8	58.3	5.5	12.1	9.5	
	学生 (n=12)	33.3	91.7	83.3	50.0	50.0	8.3	8.3		
	無職 (n=246)	15.0	35.4	61.8	44.3	44.3	4.5	15.0	7.7	
不詳 (n=32)	25.0	25.0	53.1	40.6	50.0	15.6	15.6	12.5		
地域別	県北地域 (n=230)	12.2	34.8	80.0	56.1	53.9	10.4	12.2	11.3	
	県央地域 (n=203)	14.8	44.3	70.9	53.7	59.6	7.9	15.8	12.8	
	鹿行地域 (n=86)	8.1	27.9	57.0	55.8	55.8	3.5	12.8	12.8	
	県南地域 (n=362)	17.1	40.3	74.9	54.1	57.5	4.4	10.2	6.9	
	県西地域 (n=211)	10.9	36.5	71.1	49.8	54.0	4.7	10.0	10.4	

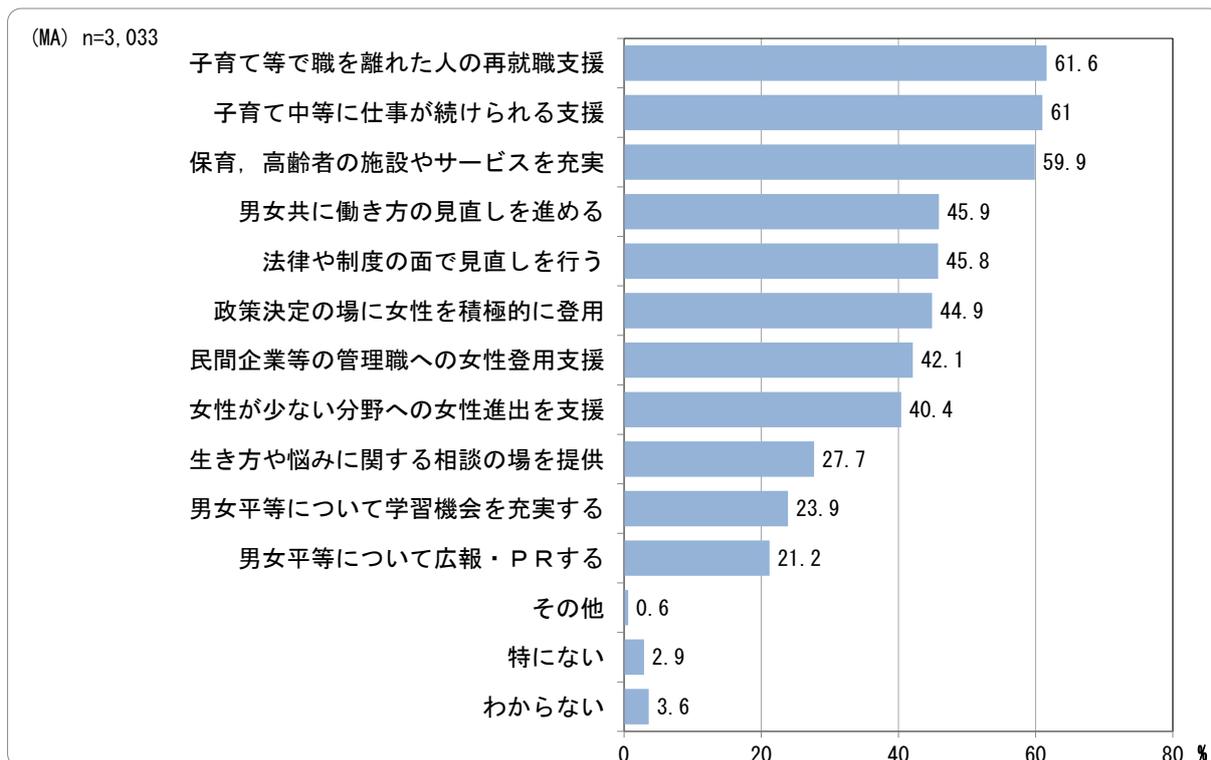
		茨城県の男女共同参画推進月間（11月）	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（文化的・社会的につくられた性差）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	ダイバーシティ（多様な性）	見たり聞いたりしたものはない	無回答
単位：%								
性別	男性 (n=501)	6.6	5.8	20.6	34.1	16.2	7.8	5.2
	女性 (n=581)	8.8	6.2	20.1	24.1	12.4	6.7	9.5
年齢別	20歳代 (n=71)	4.2	2.8	40.8	42.3	22.5	5.6	1.4
	30歳代 (n=130)	4.6	10.0	32.3	41.5	26.9	8.5	1.5
	40歳代 (n=178)	10.7	6.7	27.5	39.3	18.0	7.3	1.7
	50歳代 (n=200)	7.5	6.0	22.5	28.0	20.0	6.0	3.0
	60歳代 (n=272)	7.4	5.1	14.3	25.0	8.8	4.4	8.8
	70歳以上 (n=241)	9.1	5.4	7.1	14.9	3.3	11.6	18.7
	不詳 (n=19)	10.5	5.3	5.3	10.5	5.3		31.6
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	8.3	4.2	8.3	20.8			25.0
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)						10.0	40.0
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	7.1	4.8	2.4	19.0	11.9	4.8	7.1
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	4.0	4.0	4.0	12.0	12.0	8.0	
	自由業 (自営業主) (n=35)	8.6	14.3	17.1	22.9	11.4	5.7	14.3
	自由業 (家族従業者) (n=14)			14.3	14.3	7.1	7.1	
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	6.9	7.9	35.0	44.3	25.6	2.5	2.0
	被雇用者（事務職） (n=150)	11.3	4.0	28.0	48.7	24.7	6.7	1.3
	被雇用者（労務職） (n=119)	5.9	5.9	18.5	23.5	11.8	10.1	2.5
	専業主婦・主夫 (n=199)	10.6	6.0	19.6	21.6	9.0	4.5	9.0
	学生 (n=12)		16.7	83.3	75.0	58.3	8.3	
	無職 (n=246)	6.9	4.9	9.3	15.9	4.5	14.2	14.2
	不詳 (n=32)	6.3	9.4	9.4	25.0	12.5		21.9
地域別	県北地域 (n=230)	7.8	8.3	17.8	30.9	16.5	5.2	7.8
	県央地域 (n=203)	10.8	5.9	17.7	27.6	11.8	9.4	5.9
	鹿行地域 (n=86)	8.1	2.3	10.5	23.3	5.8	8.1	11.6
	県南地域 (n=362)	6.9	6.4	28.2	32.6	19.1	6.9	6.1
	県西地域 (n=211)	6.2	4.7	15.6	23.2	9.0	8.1	9.0

(2) 男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること

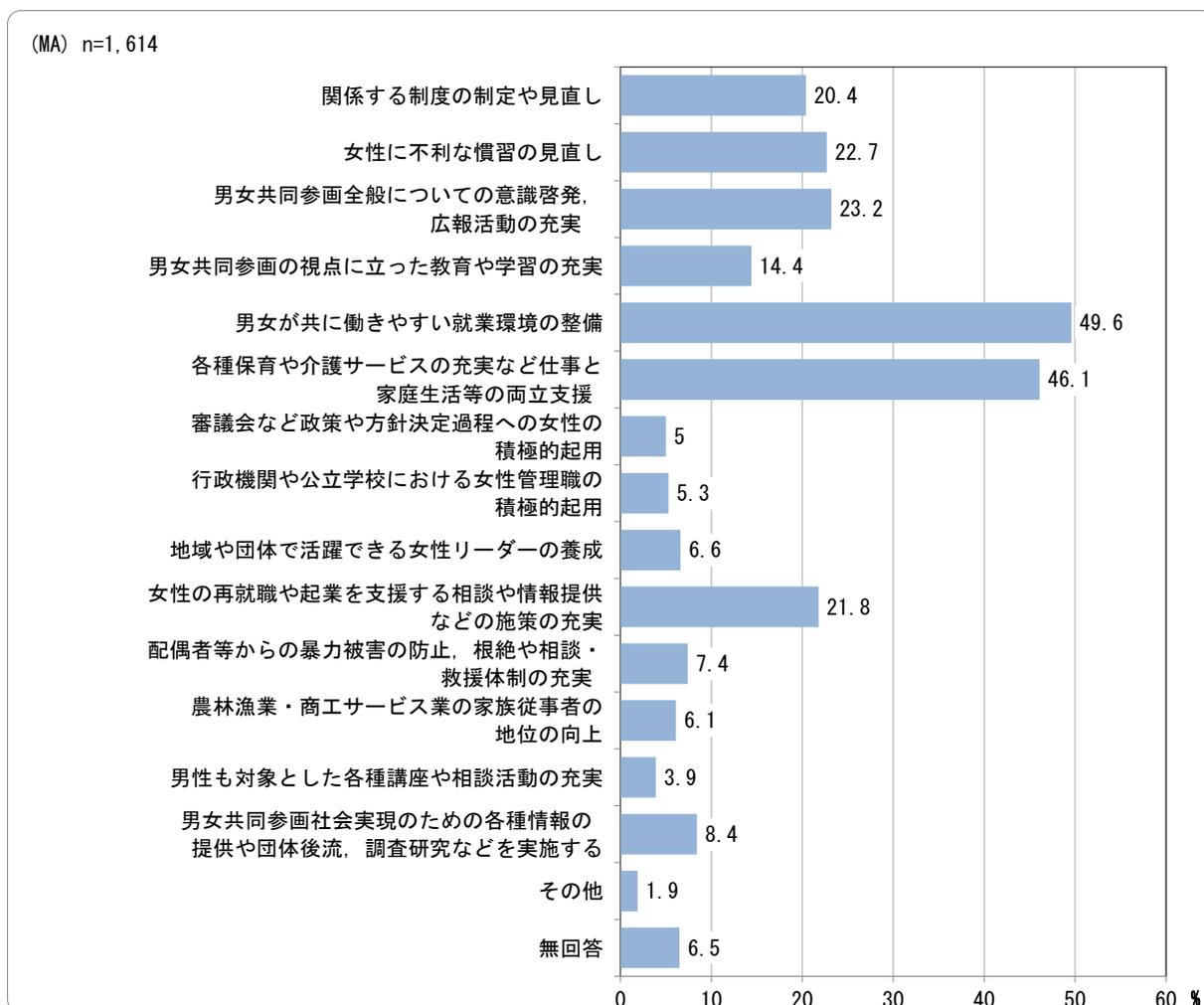
問20 男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



■平成 24 年全国



■平成 22 年茨城県



■男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望することは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が約6割で、最多

男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望することは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が59.0%と最も高く、次いで「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」が47.0%、「子どものころからの男女共同参画教育」が37.9%となっている。

全国と比較すると、施策の違い等によって項目が異なるものの、「保育・介護サービスの充実」、「就労支援・再就職支援」、「仕事と生活等の両立支援」等が上位項目となっており、ほぼ同様の傾向であると言える。

前回調査と比較しても、同様の結果となっている。

■男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること（その他回答）

内容	性別	年齢
無資格でも働ける専門職とか企業を増やしてほしい	男性	20歳代
男性、女性両方にとってすべての法律、規定が平等であるよう見直が必要だと思う	男性	30歳代
男女どちらかを優遇するのではなく、どちらも不利にならないような評価制度や慣習を見直すこと	男性	30歳代
婚活の支援	男性	30歳代
社会には女性優遇サービスがあふれているように思える	男性	30歳代
地域やPTAの長を男性に限るような慣習を強制的に改めさせる	男性	30歳代
中高老年世代への男女共同参画教育	男性	40歳代
育児休業等取得しやすくする環境づくり	男性	40歳代
わからない	男性	40歳代ほか
障害者、老人対策	男性	40歳代
できるだけ多くの“生の声”を集めてから、対応を検討する	男性	50歳代
女性の意識改革、技術のレベルアップ仕事に対する責任感	男性	60歳代
制度化された法の確実な実行	男性	60歳代
社会に出て役に立つ知識を子供のうちから学ぶこと	男性	60歳代
家庭内で男女の役割を明確にさせるためのセミナーやしくみの構築と実践	男性	60歳代
県や市町村の行政から率先して実施し、見本を見せること	男性	60歳代
正規、非正規の賃金格差の是正	男性	70歳以上
人口減を止め、社会全体を豊かにすること	男性	70歳以上
女性自身の意識改革が必要である	男性	70歳以上
女性ばかりに片寄らず、男性にも出来る事を協力してもらおう	女性	20歳代
子育てしやすく、働きやすい職場づくりと保育園のバランス	女性	30歳代
男性の労働時間過多の見直し	女性	40歳代

内容	性別	年齢
企業への訪問などで状況を知る	女性	50 歳代
シルバー世代のコミュニティーの内容の充実	女性	50 歳代
夫の両親の無理解をなくす	女性	70 歳以上

■男女共同参画社会を実現するにあたって行政に対する要望（各属性別）

		関係する制度の制定や見直し	女性に不利な慣習の見直し	男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実	男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	子どものころからの男女共同参画教育	男女が共に働きやすい就業環境の整備	各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援	審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用
単位：%									
性別	男性 (n=501)	29.1	32.9	33.1	28.3	37.3	55.9	40.3	11.6
	女性 (n=581)	16.9	31.7	23.1	24.3	38.4	62.5	53.4	9.5
年齢別	20歳代 (n=71)	31.0	29.6	15.5	14.1	33.8	69.0	50.7	7.0
	30歳代 (n=130)	24.6	36.9	10.0	16.2	37.7	62.3	49.2	7.7
	40歳代 (n=178)	17.4	31.5	17.4	21.3	40.4	64.6	56.2	5.6
	50歳代 (n=200)	22.0	37.5	32.0	30.0	40.0	61.5	48.5	9.0
	60歳代 (n=272)	23.9	30.9	34.6	30.9	40.4	58.8	50.4	11.8
	70歳以上 (n=241)	21.2	28.2	37.8	29.5	33.6	49.8	34.0	16.6
	不詳 (n=19)	21.1	47.4	36.8	15.8	26.3	42.1	31.6	31.6
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	12.5	25.0	45.8	41.7	37.5	58.3	29.2	12.5
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)		20.0	50.0	20.0	10.0	50.0	40.0	10.0
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	19.0	40.5	28.6	19.0	26.2	61.9	42.9	19.0
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	24.0	36.0	20.0	20.0	36.0	48.0	52.0	
	自由業 (自営業主) (n=35)	22.9	31.4	14.3	17.1	14.3	45.7	48.6	8.6
	自由業 (家族従業者) (n=14)	14.3	14.3	14.3	7.1	21.4	57.1	42.9	7.1
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	23.6	31.5	21.7	30.0	42.9	62.6	52.2	6.9
	被雇用者(事務職) (n=150)	24.7	35.3	26.7	26.7	47.3	66.7	53.3	9.3
	被雇用者(労務職) (n=119)	26.1	27.7	25.2	21.8	30.3	60.5	47.1	8.4
	専業主婦・主夫 (n=199)	19.1	38.2	27.1	28.1	43.7	64.8	55.3	12.6
	学生 (n=12)	41.7	25.0	8.3	8.3	25.0	58.3	58.3	16.7
	無職 (n=246)	23.2	30.1	37.8	26.4	36.6	50.4	35.4	13.8
地域別	県北地域 (n=230)	22.2	28.7	28.7	23.9	39.6	59.1	45.2	10.0
	県央地域 (n=203)	23.6	31.5	28.1	29.1	38.4	59.1	44.8	12.8
	鹿行地域 (n=86)	22.1	30.2	22.1	25.6	45.3	59.3	48.8	11.6
	県南地域 (n=362)	20.7	33.4	27.6	26.2	38.1	57.7	51.1	11.9
	県西地域 (n=211)	24.6	35.5	29.4	25.1	33.2	62.6	44.5	6.2

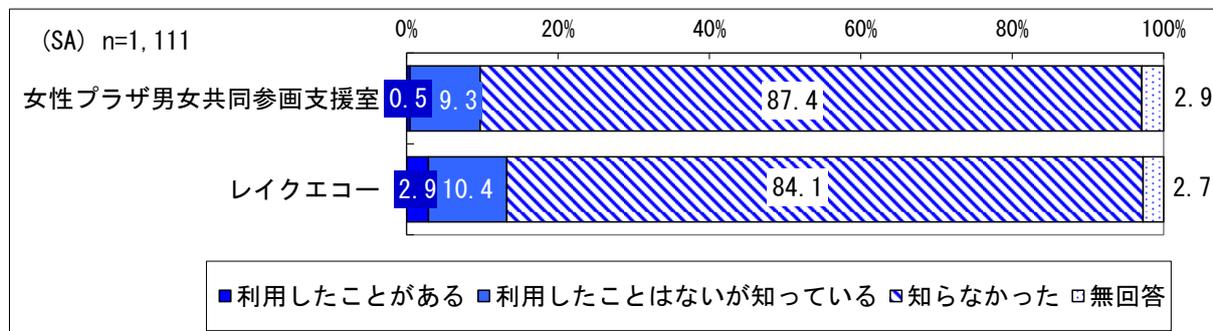
		女性管理職の積極的起用	経営者・企業のトップの意識啓発	男性の意識改革	地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救済体制の充実	農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上
単位：%								
性別	男性 (n=501)	18.6	31.5	33.7	13.6	20.6	13.6	9.6
	女性 (n=581)	17.2	27.4	31.0	13.4	30.8	14.8	10.2
年齢別	20歳代 (n=71)	12.7	23.9	22.5	8.5	35.2	18.3	5.6
	30歳代 (n=130)	16.9	34.6	31.5	6.9	33.8	16.9	9.2
	40歳代 (n=178)	15.2	34.3	41.0	10.7	31.5	16.3	6.7
	50歳代 (n=200)	17.5	29.0	37.5	11.0	27.0	14.0	9.0
	60歳代 (n=272)	16.9	31.3	28.3	15.8	23.2	11.0	11.0
	70歳以上 (n=241)	23.2	22.4	30.3	19.9	17.4	14.5	13.3
	不詳 (n=19)	26.3	36.8	36.8	15.8	26.3	10.5	10.5
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	20.8	25.0	20.8	20.8	12.5	8.3	25.0
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)	10.0	10.0	20.0	20.0	20.0		30.0
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	14.3	35.7	38.1	11.9	23.8	14.3	14.3
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	16.0	28.0	32.0	8.0	20.0		12.0
	自由業 (自営業主) (n=35)	8.6	28.6	25.7	20.0	22.9	11.4	11.4
	自由業 (家族従業者) (n=14)	7.1	14.3	14.3		21.4	7.1	35.7
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	15.8	32.5	41.4	11.8	28.1	17.7	6.9
	被雇用者(事務職) (n=150)	18.0	36.0	34.7	14.0	30.7	19.3	11.3
	被雇用者(労務職) (n=119)	14.3	31.1	28.6	8.4	28.6	15.1	3.4
	専業主婦・主夫 (n=199)	21.1	26.6	34.7	13.1	30.2	14.1	9.5
	学生 (n=12)	33.3	50.0	33.3	8.3	33.3	8.3	16.7
	無職 (n=246)	21.1	24.4	28.0	17.9	19.5	13.0	9.8
地域別	県北地域 (n=230)	16.5	27.8	33.9	12.6	24.8	11.7	8.7
	県央地域 (n=203)	21.7	34.5	34.0	13.3	25.1	16.3	12.3
	鹿行地域 (n=86)	16.3	24.4	30.2	10.5	17.4	17.4	8.1
	県南地域 (n=362)	18.8	30.1	32.3	15.2	29.6	14.9	9.7
	県西地域 (n=211)	14.7	26.5	30.8	12.8	25.6	13.3	10.0

		男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点機能の充実	その他	無回答
単位：%					
性別	男性 (n=501)	12.6	15.6	5.4	7.8
	女性 (n=581)	7.9	9.8	1.9	7.9
年齢別	20歳代 (n=71)	16.9	9.9	7.0	2.8
	30歳代 (n=130)	9.2	4.6	6.2	2.3
	40歳代 (n=178)	12.4	5.1	3.4	3.4
	50歳代 (n=200)	8.5	9.5	3.5	4.5
	60歳代 (n=272)	8.8	15.1	2.6	8.5
	70歳以上 (n=241)	10.0	23.2	2.1	17.0
	不詳 (n=19)	5.3	21.1		31.6
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	12.5	16.7	4.2	25.0
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)	10.0	20.0		20.0
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	11.9	14.3	2.4	4.8
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)		4.0	4.0	4.0
	自由業 (自営業主) (n=35)	11.4	5.7	5.7	14.3
	自由業 (家族従業者) (n=14)	7.1			7.1
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	13.3	7.9	4.9	3.0
	被雇用者(事務職) (n=150)	8.0	8.7	4.7	2.7
	被雇用者(労務職) (n=119)	9.2	15.1	6.7	4.2
	専業主婦・主夫 (n=199)	7.5	10.1	2.0	7.0
	学生 (n=12)	41.7	8.3		
	無職 (n=246)	10.6	22.0	1.2	15.0
地域別	県北地域 (n=230)	8.7	12.2	3.9	7.4
	県央地域 (n=203)	10.3	10.3	5.4	7.9
	鹿行地域 (n=86)	7.0	11.6	5.8	4.7
	県南地域 (n=362)	12.7	13.8	2.5	8.3
	県西地域 (n=211)	8.5	13.7	1.9	8.1

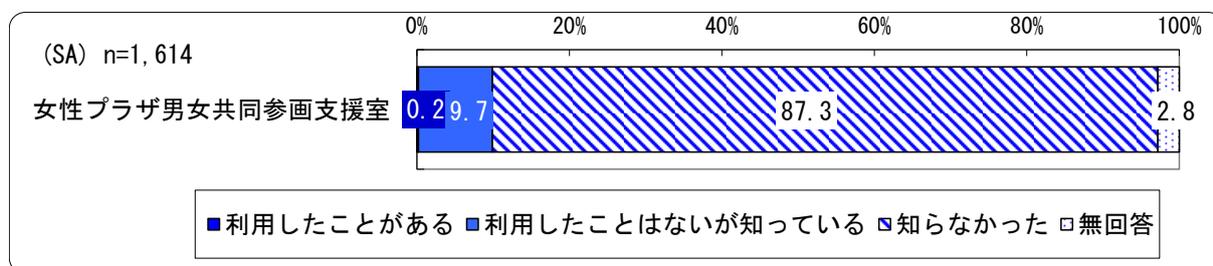
(3) 男女共同参画拠点施設

問21-1 県の男女共同参画を推進する施設「女性プラザ男女共同参画支援室」をご存知ですか。(〇は1つ)

問21-2 県の鹿行生涯学習センター・女性プラザである「レイクエコー」をご存知ですか。(〇は1つ)



■平成22年茨城県



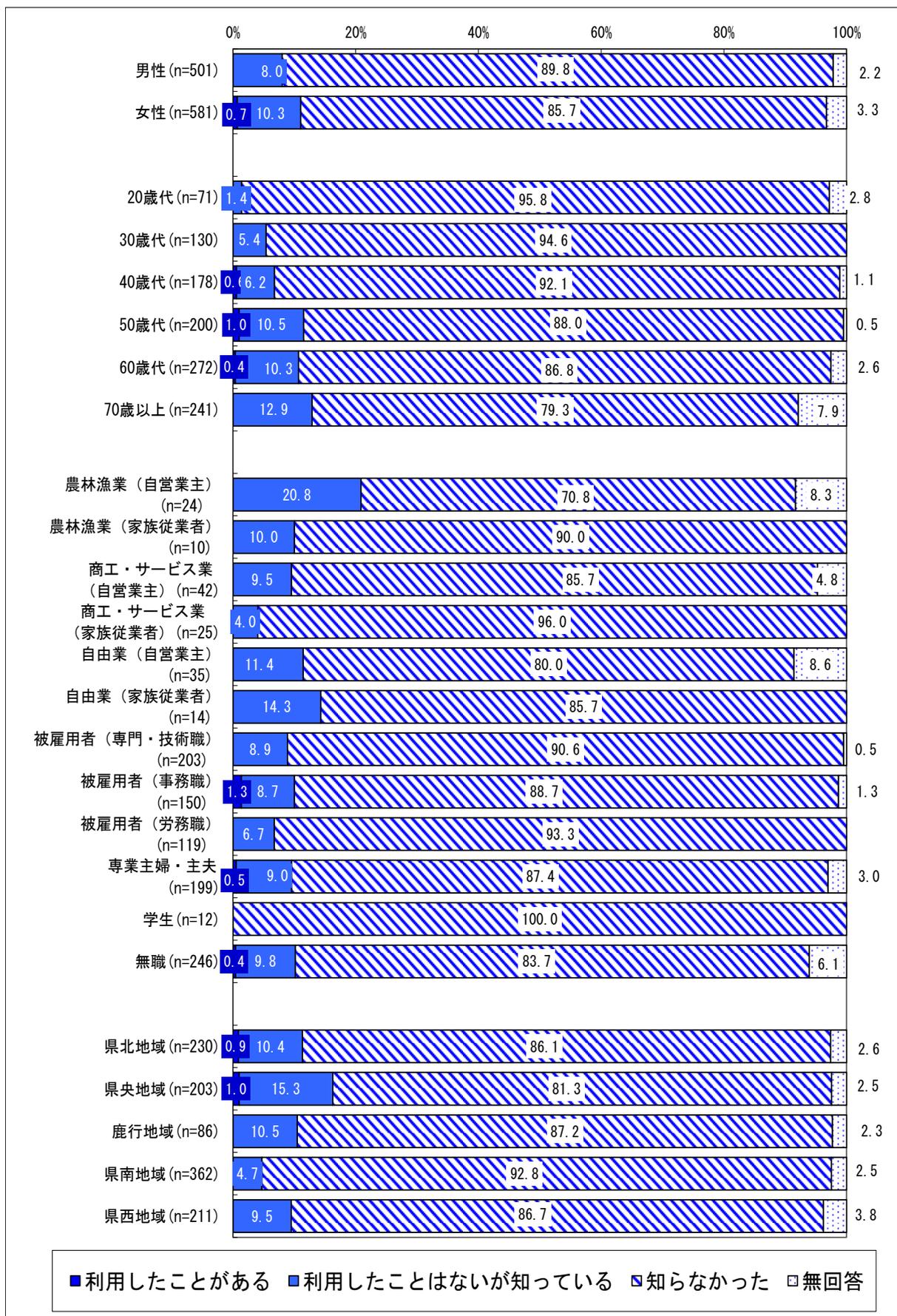
■回答者の8割以上が、県の男女共同参画拠点施設を「知らなかった」

県の男女共同参画拠点については8割以上が「知らなかった」(女性プラザ男女共同参画支援室：87.4%，レイクエコー：84.1%)と回答している。

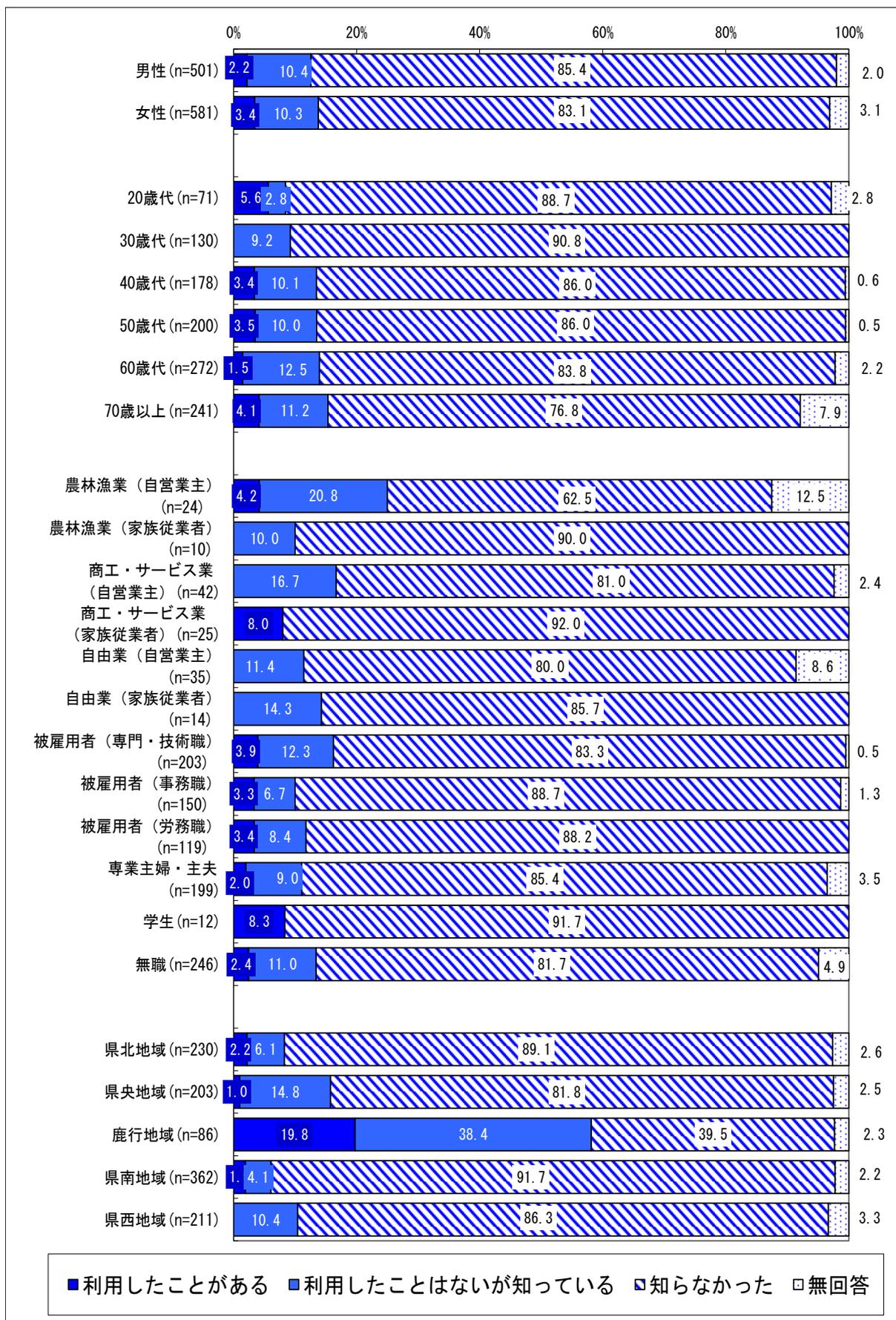
性別にみると、女性の周知がやや高くなっているが、8割以上(女性プラザ男女共同参画支援室：85.7%，レイクエコー：83.1%)が「知らなかった」と回答している。

年齢別にみると、女性プラザ男女共同参画支援室は50歳代以上で知っている割合が1割(50歳代：10.5%，60歳代：10.3%，70歳代：12.9%)を超え、レイクエコーは40歳代以上で知っている割合が1割(40歳代：10.1%，50歳代：10.0%，60歳代：12.5%，70歳代：11.2%)を超え他の年齢層と比べて高くなっている。

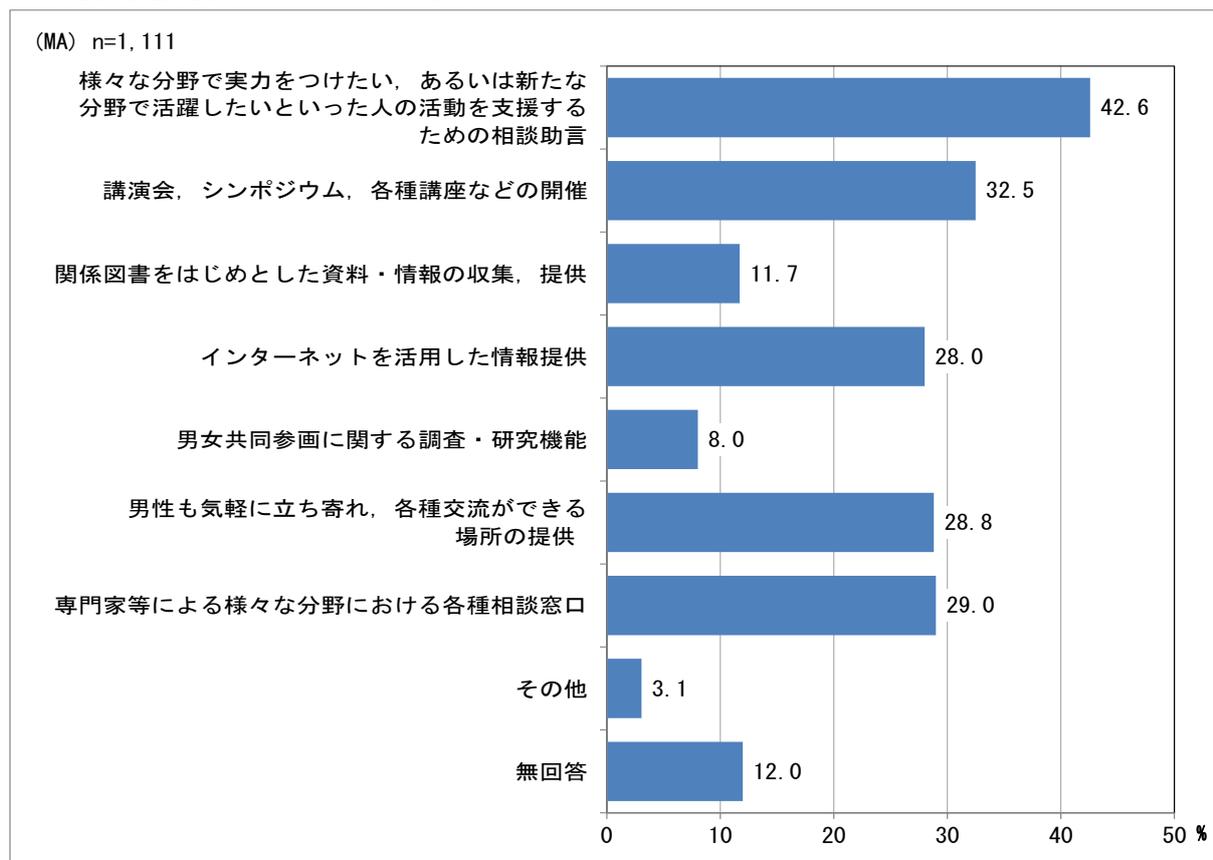
■女性プラザ男女共同参画支援室の周知度（各属性別）



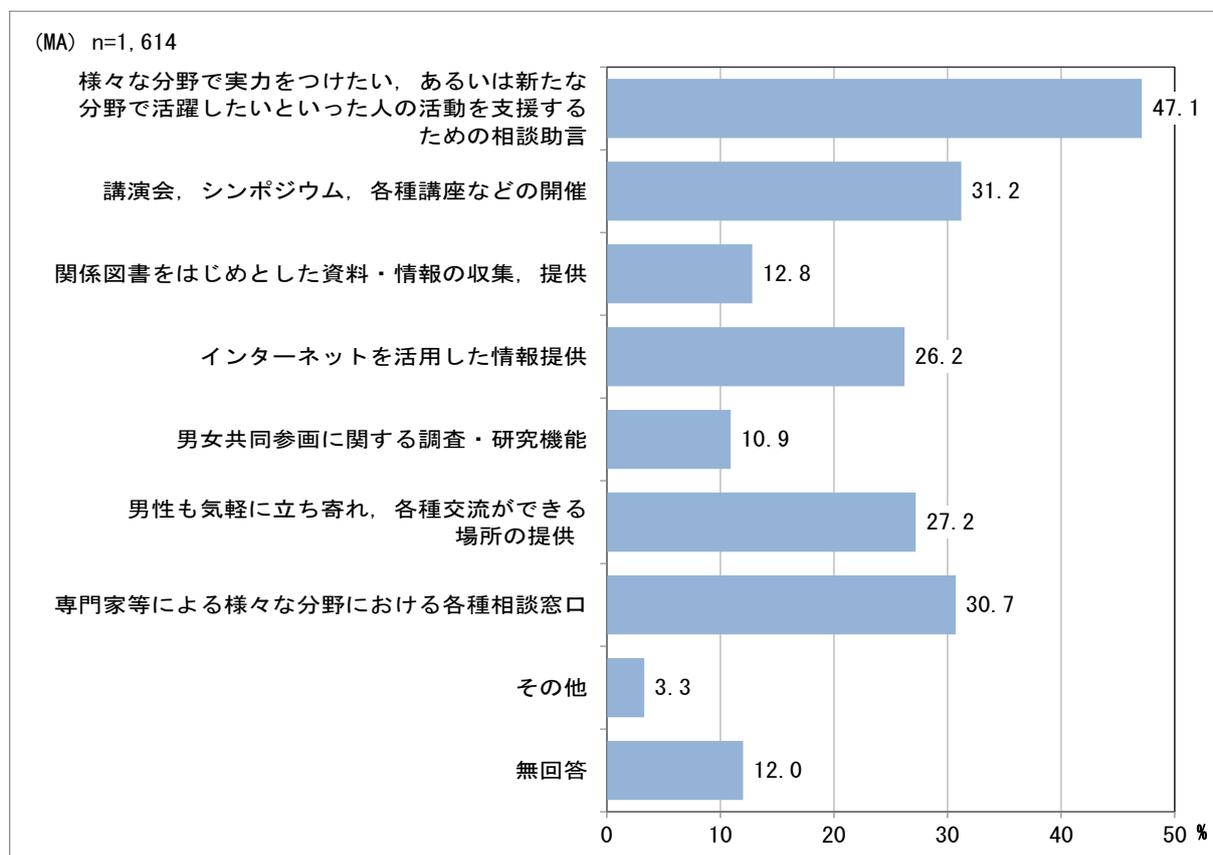
■ レイクエコーの周知度（各属性別）



問 2 1 - 3 あなたは、男女共同参画を推進するための拠点施設に対して、どのような役割を期待していますか。(〇は3つまで)



■平成 22 年茨城県



■男女共同参画拠点施設の役割として期待することは、「様々な分野で実力を付けたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言」が4割を超え、最多

男女共同参画拠点施設の役割として期待することについては、「様々な分野で実力を付けたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言」が42.6%と最も高く、次いで「講演会、シンポジウム、各種講座などの開催」が32.5%、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」が29.0%となっている。

性別にみると、「男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供」で男性（32.9%）が女性（25.0%）を7.9ポイント上回っている。また、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」で女性（34.3%）が男性（23.0%）を11.3ポイント上回っている。

■男女共同参画拠点施設の役割として期待すること（その他回答）

内容	性別	年齢
女性の権利拡大を目的とした男性差別にならない役割	男性	30歳代
行政が率先垂範しつつ、強制力を持って地域や事業所に働きかける	男性	30歳代
仕事の斡旋等、新しいかたちの会社を作ってほしい	男性	30歳代
会社の指導、会社での講演	男性	40歳代
一つでも先ず実行すること	男性	60歳代
拠点または窓口の増加	男性	60歳代ほか
めりはりをつけ重点を決める	男性	70歳以上
拠点から遠い地域の人への細かな配慮	男性	70歳以上ほか
行政と一体感のあるもの	女性	40歳代
子育てを援助するシステム	女性	40歳代
小規模（市町村）単位での活動	女性	50歳代
ワークライフバランスの勉強会を開くこと	女性	60歳代

■男女共同参画拠点施設の役割として期待すること（各属性別）

		の活動は様々 新たな分野で 支援するた めのため の相談とい う人	の講演会、 シンポジウ ム、各種講 座など	関係図書は はじめとし た資料・情 報の	インターネ ットを活用 した情報提 供	男女共同参 画に関する 調査・研究 機能	男性も気軽 に立ち寄り 、各種交流 がで	種相談窓 口	専門家等 による様々 な分野にお ける各	その他	無回 答
単位：%											
性別	男性 (n=501)	38.7	31.3	12.6	30.3	9.6	32.9	23.0	3.6	11.6	
	女性 (n=581)	46.1	33.2	11.0	26.3	6.4	25.0	34.3	2.8	11.9	
年齢別	20歳代 (n=71)	45.1	11.3	14.1	38.0	9.9	36.6	25.4	4.2	9.9	
	30歳代 (n=130)	50.0	27.7	9.2	34.6	5.4	30.8	29.2	4.6	3.8	
	40歳代 (n=178)	43.8	28.1	7.9	31.5	9.0	23.6	38.8	3.9	9.6	
	50歳代 (n=200)	44.0	27.5	13.0	37.5	9.5	27.5	32.5	4.0	7.0	
	60歳代 (n=272)	39.3	42.6	16.2	24.3	7.4	28.3	26.8	1.8	10.7	
	70歳以上 (n=241)	39.0	37.3	9.1	15.4	7.1	30.7	22.8	2.1	23.7	
職業別	農林漁業 (自営業主) (n=24)	25.0	50.0	16.7	16.7	4.2	33.3	12.5		25.0	
	農林漁業 (家族従業者) (n=10)	50.0	50.0			10.0	20.0	20.0		10.0	
	商工・サービス業 (自営業主) (n=42)	38.1	31.0	11.9	42.9	9.5	31.0	26.2		11.9	
	商工・サービス業 (家族従業者) (n=25)	52.0	28.0	16.0	40.0	4.0	16.0	28.0		4.0	
	自由業 (自営業主) (n=35)	34.3	34.3	14.3	22.9	2.9	20.0	22.9	11.4	11.4	
	自由業 (家族従業者) (n=14)	57.1	14.3	28.6	21.4		42.9			7.1	
	被雇用者 (専門・技術職) (n=203)	42.4	31.5	8.4	35.5	8.9	30.5	33.5	5.4	5.4	
	被雇用者(事務職) (n=150)	46.7	33.3	10.0	37.3	8.7	26.0	32.7	2.0	9.3	
	被雇用者(労務職) (n=119)	37.8	25.2	11.8	31.9	9.2	31.1	27.7	5.9	5.9	
	専業主婦・主夫 (n=199)	44.7	33.2	12.1	26.6	5.0	18.1	33.7	2.5	14.1	
	学生 (n=12)	58.3	8.3	25.0	41.7		58.3	41.7			
	無職 (n=246)	41.9	36.2	13.0	14.2	10.6	33.7	25.6	1.6	20.3	
地域別	県北地域 (n=230)	41.3	33.5	6.5	29.6	6.5	29.1	28.7	4.3	12.2	
	県央地域 (n=203)	42.9	35.5	11.8	24.1	8.4	27.1	37.9	3.9	11.8	
	鹿行地域 (n=86)	48.8	34.9	9.3	31.4	1.2	37.2	24.4		8.1	
	県南地域 (n=362)	43.9	28.2	14.9	27.9	11.0	26.0	28.2	3.3	12.2	
	県西地域 (n=211)	38.4	35.1	12.8	28.9	6.2	31.3	24.6	1.9	12.3	



IV 資料

(1) 調査票

茨城県男女共同参画社会県民意識調査のお願い

県民の皆様へ

県政の推進につきまして、平素からご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、県では、この度「男女共同参画社会県民意識調査」を実施することといたしました。この調査は、男女共同参画社会の実現に向けて、皆様の貴重なご意見を県の施策に反映させるために行うものです。

また、調査対象者の方につきましては、県内に居住する満 20 歳以上の男女 4,000 人を無作為に抽出させていただきました。

期間が短い中でのお願いになり、お忙しいところ大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年2月1日

茨城県知事公室女性青少年課

回答の期限：平成27年2月20日（金）

ご記入いただいた調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、回答の期限までにポストへ投函してください。

【ご記入にあたってのお願い】

- ◆ この調査には、あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ◆ 封筒のあて名のご本人自身のことについてお答えください。
- ◆ 日常のありのままのご様子やご意見をお聞かせください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。
「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は1つ）（○は2つまで）など指定されていますので、お間違えのないようお気をつけください。
- ◆ 設問によっては、回答していただく方が限られるものや、時間数やご意見などご記入いただくものがありますので、注意書きをよくお読みください。

※ 調査票に記載いただいた個人的な回答や意見は、すべて統計的な処理をするため、調査以外の目的に使用されることは一切ありません。

※ 本調査についてのご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

(1) 調査票の記入に関するお問い合わせ	東水戸データサービス株式会社 【調査実施機関】 住所:茨城県水戸市青柳町 3896 番地 電話:029-291-8800 FAX:029-291-8801 E-mail: info1@e-hds.com
(2) その他のお問い合わせ	茨城県庁 知事公室女性青少年課男女共同参画グループ 【調査主体】 住所:茨城県水戸市笠原町 978 番 6 電話:029-301-2178 (直通) FAX:029-301-2189 E-mail: josei1@pref.ibaraki.lg.jp

■ あなたご自身について

F1 性別はどちらですか。 (○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2 年齢(平成27年1月1日現在)をお答えください。 (○は1つ)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 2. 25～29歳 | 3. 30～34歳 |
| 4. 35～39歳 | 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳 |
| 7. 50～54歳 | 8. 55～59歳 | 9. 60～64歳 |
| 10. 65～69歳 | 11. 70歳以上 | |

F3-1 あなたの職業はどのような内容ですか。 (○は1つ)

(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 農林漁業(自営業主) | 2. 農林漁業(家族従業者) |
| 3. 商工・サービス業(自営業主) | 4. 商工・サービス業(家族従業者) |
| 5. 自由業(自営業主) | 6. 自由業(家族従業者) |
| 7. 被雇用者(専門・技術職) | 8. 被雇用者(事務職) |
| 9. 被雇用者(労務職) | 9. 専業主婦・主夫 |
| 11. 学生 | 12. 無職 |
- F3-2へ

F3-2 F3-1で、7, 8, 9とお答えいただいた方にうかがいます。

(1) そのお仕事は常勤ですか。パートタイムですか。 (○は1つ)

- | | |
|-------|----------------------------|
| 1. 常勤 | 2. パートタイム(パート, アルバイト, 嘱託等) |
|-------|----------------------------|

(2) あなたの職名は何ですか。 (○は1つ)

- | | |
|------------|---------------|
| 1. 役員, 管理職 | 2. 非管理職, 一般係員 |
|------------|---------------|

F4-1 あなたは結婚されていますか。 (○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------------|-------|
| 1. 既婚(配偶者あり) | 2. 既婚(現在, 配偶者はいない) | 3. 未婚 |
|--------------|--------------------|-------|

F4-2へ

F5-1へ

F4-2 F4-1で、1の「既婚(配偶者あり)」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたの配偶者の職業はどのような内容ですか。 (○は1つ)

(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 農林漁業(自営業主) | 2. 農林漁業(家族従業者) |
| 3. 商工・サービス業(自営業主) | 4. 商工・サービス業(家族従業者) |
| 5. 自由業(自営業主) | 6. 自由業(家族従業者) |
| 7. 被雇用者(専門・技術職) | 8. 被雇用者(事務職) |
| 9. 被雇用者(労務職) | 10. 専業主婦・主夫 |
| 11. 学生 | 12. 無職 |

F5-1 あなたにはお子さんがいますか。 (○は1つ)

1. いる	→	F5-2へ	2. いない	→	F6へ
-------	---	-------	--------	---	-----

F5-2 F5-1で、1の「いる」とお答えいただいた方にうかがいます。
一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。 (○は1つ)

1. 小学校入学以前	2. 小学生	3. 中学生	4. 高校生
5. 専門学校, 短大, 大学, 大学院生	6. その他 ()		

F6 お宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。 (○は1つ)

1. いる	2. いない
-------	--------

F7 現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。 (○は1つ)

1. 1人世帯	2. 夫婦のみの世帯	3. 親と子からなる世帯
4. 親と子と孫からなる世代	5. その他の世帯 ()	

F8-1 あなたが現在お住まいの市町村を○印で囲んでください。 (○は1つ)

県北地域	1. 日立市	2. 常陸太田市	3. 高萩市	4. 北茨城市
	5. ひたちなか市	6. 常陸大宮市	7. 那珂市	8. 東海村
	9. 大子町			
県央地域	10. 水戸市	11. 笠間市	12. 小美玉市	13. 茨城町
	14. 大洗町	15. 城里町		
鹿行地域	16. 鹿嶋市	17. 潮来市	18. 神栖市	19. 行方市
	20. 鉾田市			
県南地域	21. 土浦市	22. 石岡市	23. 龍ヶ崎市	24. 取手市
	25. 牛久市	26. つくば市	27. 守谷市	28. 稲敷市
	29. かすみがうら市	30. つくばみらい市	31. 美浦村	
	32. 阿見町	33. 河内町	34. 利根町	
県西地域	35. 古河市	36. 結城市	37. 下妻市	38. 常総市
	39. 筑西市	40. 坂東市	41. 桜川市	42. 八千代町
	43. 五霞町	44. 境町		

F8-2 あなたのお住まいの地域は次のどれに該当すると思いますか。(○は1つ)

1. 都市化が進んでいる地域 (市役所や町村役場、駅や商店街などの近隣、あるいは市街化区域など)
2. 上記1に隣接するなど、どちらかといえば都市化が進んでいる地域
3. どちらかといえば農山漁村地域
4. 農山漁村地域

■ 男女の地位の平等に関する意識について

問1 次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
1. 家庭生活(家事・育児など)	1	2	3	4	5	6
2. 職場 (⇒問 15-1 で再掲)	1	2	3	4	5	6
3. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
4. 政治の場	1	2	3	4	5	6
5. 町内会、自治会などの住民組織	1	2	3	4	5	6
6. 地域活動	1	2	3	4	5	6
7. 社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
8. 法律や制度	1	2	3	4	5	6

問2 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は1つ)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性の方が優遇されている 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている 3. 平等である 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている 5. 女性の方が優遇されている 6. わからない |
|--|

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。(○は2つまで)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律や制度を見直し、<u>女性差別につながるものを改めること</u> 2. 女性を取り巻く様々な偏見、<u>固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること</u> 3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、<u>積極的に力の向上を図ること</u> 4. 女性の就業や社会参加を<u>支援する施設やサービスの充実を図ること</u> 5. 国や地方公共団体や企業などの<u>重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度</u>を採用・充実すること 6. その他(具体的に：) 7. わからない |
|---|

■ 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等について

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。

(それぞれについて該当する「1~5」に○を1つ)

	そう思う	思えばそう どちらかと	思えばそう どちらかと 思わない	いそう 思わな	わからない
1. 人は結婚する方がよい	1	2	3	4	5
2. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
4. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
5. 結婚しないで子どもを持ってもよい	1	2	3	4	5

問5 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。

(それぞれについて該当する「1~5」に○を1つ)

	そう思う	思えばそう どちらかと	思えばそう どちらかと 思わない	いそう 思わな	わからない
1. 「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう	1	2	3	4	5
2. 社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない	1	2	3	4	5
3. 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである	1	2	3	4	5
4. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである	1	2	3	4	5
5. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである	1	2	3	4	5
6. 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
7. 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである	1	2	3	4	5
8. 女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい	1	2	3	4	5

問9 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでしょうかがいます。

(1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。 (○は1つ)

1. 4人以上	2. 3人	3. 2人
4. 1人	5. 0人	6. わからない

(2) 実際の子どもの数(又は実際に子育てできると思う数)は何人ですか。(○は1つ)

1. 4人以上	2. 3人	3. 2人
4. 1人	5. 0人	6. わからない

(3) (2)の実際の数が、(1)の理想の数よりも少ない方にうかがいます。

その理由は何ですか。 (○は3つまで)

1. 出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから
2. 子どもの教育等経済的負担が増えるから
3. 年齢的な理由から
4. 仕事と子育ての両立が困難だから
5. 子育てに対して配偶者の理解、協力が無いから
6. 子育てより自分の時間を大切にしたいから
7. 欲しいけれどできないから
8. その他(具体的に：)

■ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問10 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。

（現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。○はそれぞれ1つ）

用語の
意味

- ・「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。常勤、パート、アルバイトなどを問いません。
- ・「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

【理想】

1. 「仕事」に専念したい
2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい
3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい
4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい
5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念したい
6. よくわからない

【実際】

1. 「仕事」に専念している
2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している
4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している
5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している
6. よくわからない

問11 お子さんがいる方にうかがいます。

[男性へ]実際にあなたの働き方に近いものはどれですか(どれでしたか)。

[女性へ]あなたの配偶者の働き方に近いものはどれですか(どれでしたか)。

(○は1つ)

1. 仕事を優先
2. どちらかといえば仕事優先
3. 仕事と育児を同時に重視
4. どちらかといえば育児優先
5. 育児を優先

問12 父親の働き方と子育てについてどう思いますか。

子ども・配偶者がいない場合は、いるとしたらどうしたいかをお答え下さい。

[男性へ]あなたに、子どもがいる場合どのような働き方をしたいですか

(したかったですか)。

[女性へ]あなたの配偶者にどのような働き方を希望しますか(したかったですか)。

(○は1つ)

1. 仕事を優先
2. どちらかといえば仕事優先
3. 仕事と育児を同時に重視
4. どちらかといえば育児優先
5. 育児を優先

問13 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は3つまで)

1. 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をすること
2. 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
3. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
4. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
5. 男性の仕事中心の考え方を改めること
6. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと
8. 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること
9. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
10. その他(具体的に：)

■ 就業について

問14 就業についてうかがいます。

(1) 仕事をこなす能力に男女差はあると思えますか。(○は1つ)

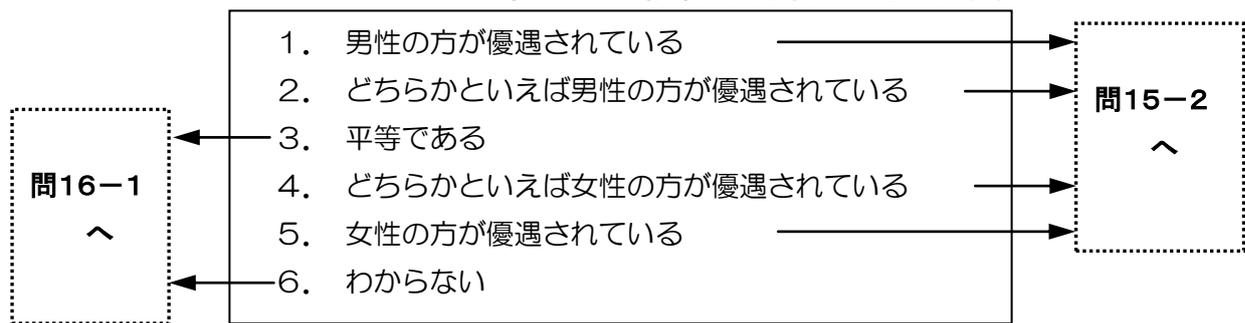
1. あると思う
2. どちらかといえばあると思う
3. どちらかといえばないと思う
4. ないと思う
5. わからない

(2) 男性向き、女性向きの仕事内容はあると思えますか。(○は1つ)

1. あると思う
2. どちらかといえばあると思う
3. どちらかといえばないと思う
4. ないと思う
5. わからない

問15-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。

(4ページ問1の2. 職場と同じ答えになります。○は1つ)



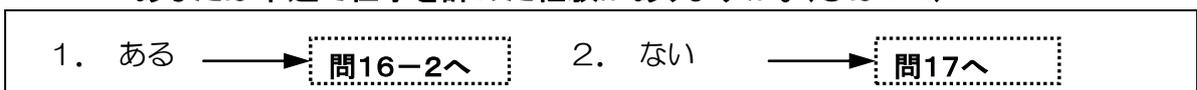
問15-2 問15-1で、1, 2, 4, 5とお答えいただいた方にうかがいます。

その具体的な内容はどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1. 採用時の条件
2. 賃金, 昇進, 昇格
3. 能力の評価
4. 女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける
5. 仕事に対する責任の求められ方
6. 研修の機会や内容
7. 年次休暇の取得のしやすさ
8. 育児・介護休暇の取得のしやすさ
9. 女性に対して結婚, 出産退職などの慣習がある
10. 転勤や異動
11. その他 (具体的に:)

問16-1 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)



問16-2 問16-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

仕事を辞めた主な理由は何ですか。

(○は1つ)

1. 健康上の理由のため
2. 家事や育児に専念するため
3. 家事や育児との両立が困難であるため
4. 高齢者や病人の介護のため
5. 経済的に働く必要がなくなったため
6. 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため
7. 勤め先の人間関係のため
8. 結婚 (自主的) のため
9. 勤め先で、結婚・出産退職の慣習があったため
10. 夫 (妻) の転勤のため
11. 家族の反対や無理解のため
12. その他 (具体的に:)

問16-3 問16-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

仕事を辞めたあと、再就職しましたか。 (○は1つ)

1. した 2. しない 3. したかったができなかった

■ 地域活動について

問17-1 現在、町内会やボランティア、NPOなどの地域活動をしていますか。

(○は1つ)

1. している → 問17-2へ 2. していない → 問17-3へ

問17-2 問17-1で、1の「している」とお答えいただいた方にうかがいます。

それはどのような活動内容(分野)ですか。(あてはまる主なものに○を1つ)

- | | | |
|------------|--------------------------------------|---------------|
| 1. まちづくり関係 | 2. 自然環境保護関係 | 3. 子ども関係 |
| 4. 高齢者関係 | 5. 障害者関係 | 6. 安全・安心な生活関係 |
| 7. 健康や医療関係 | 8. スポーツ・文化関係 | 9. 災害関係 |
| 10. 町内会関係 | 11. その他(具体的に:) | |

問17-3 問17-1で、2の「していない」とお答えいただいた方にうかがいます。

地域活動をする事についてどう思いますか。 (○は1つ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 以前、地域活動をしてしたが、現在はやめている |
| 2. 現在、地域活動をするための準備をしている |
| 3. 今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない |
| 4. 地域活動をしたいと思わない |
| 5. わからない |

■ ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人等からの暴力）について

問18-1 配偶者(元配偶者も含む。)や恋人から暴力(下記問18-2のようなこと)を受けた経験はありますか。 (○は1つ)

1. ある	→	問18-2 へ
2. ない	→	問19へ
3. わからない	→	

問18-2 問18-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。それはどのようなことですか。 (○はいくつでも)

1. 大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる
2. 「ばかだ、役立たずだ」などと言われる
3. 外出や人との付き合いを制限される
4. 身体を傷つける可能性のあるもので殴られる
5. 平手で打たれる
6. げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする
7. 大声でどなられたり、暴言を吐かれる
8. 嫌がっているのに性的行為を強要される
9. 何を言っても無視され続ける
10. 生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる
11. その他(具体的に： _____)

問18-3 問18-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にうかがいます。あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 (○は1つ)

1. 相談した	→	問18-4 へ
2. 相談できなかった	→	問18-6へ
3. 相談しようとは思わなかった	→	

問18-4 問18-3で、1の「相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたが相談した人(場所)を教えてください。(〇はいくつでも)

1. 家族・親せき
2. 友人・知人
3. 警察
4. 人権擁護委員
5. 女性の人権ホットライン
6. 役所の相談窓口・電話相談など
7. 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター・女性相談員
8. 男女共同参画センター・女性センター
9. 人権啓発推進センター
10. その他の公的機関
11. 弁護士
12. 医師・カウンセラー
13. 民間の相談機関
14. その他(具体的に:)

問18-5 問18-3で、1の「相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。

相談して問題は解決しましたか。(〇は1つ)

1. 解決した
2. どちらかといえば解決したと思う
3. どちらかといえば解決していない
4. 解決していない
5. わからない

問18-6 問18-3で、2の「相談できなかった」または3の「相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたが誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 誰(どこ)に相談してよいのか分からなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことが分かれると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. 他人を巻き込みたくないから
8. 思い出したくないから
9. 自分に悪いところがあると思ったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. その他(具体的に:)

■ 男女共同参画社会について

問19 次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。

(○はいくつでも)

1. 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）
2. 男女共同参画社会基本法
3. 男女雇用機会均等法
4. 育児・介護休業法
5. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
6. 次世代育成支援対策推進法
7. 茨城県男女共同参画推進条例
8. 茨城県男女共同参画基本計画（ハーモニープラン）
9. 茨城県の男女共同参画推進月間（11月）
10. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
11. ジェンダー（文化的・社会的につくられた性差）
12. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
13. ダイバーシティ（多様性）
14. 見たり聞いたりしたものはない

問20 男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

(○はいくつでも)

1. 関係する制度の制定や見直し
2. 女性に不利な慣習の見直し
3. 男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実
4. 男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実
5. 子どものころからの男女共同参画教育
6. 男女が共に働きやすい就業環境の整備
7. 各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援
8. 審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用
9. 行政機関・教育機関・企業等における女性管理職の積極的起用
10. 経営者・企業のトップの意識啓発
11. 男性の意識改革
12. 地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成
13. 女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実
14. 配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実
15. 農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上
16. 男性も対象とした各種講座や相談活動の充実
17. 男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点機能の充実
18. その他（具体的に： _____)

問21-1 県では、男女共同参画を推進する施設として、「女性プラザ男女共同参画支援室（所在地：水戸市三の丸）」を設置し、さまざまな分野へのチャレンジを希望する方を対象とするセミナーの開催や、家庭、職場などにおける悩みごとの相談を行っています。あなたは、この施設をご存知ですか。（○は1つ）

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが知っている
3. 知らなかった

問21-2 県では、「レイクエコー（茨城県鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザ）（所在地：行方市宇崎）」を設置し、県民のニーズに対応した講座の開催や、男女共同参画社会の実現や生涯学習の充実に向けて、研修や学習の機会を提供しております。あなたは、この施設をご存知ですか。（○は1つ）

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが知っている
3. 知らなかった

問21-3 あなたは、男女共同参画を推進するための拠点施設に対して、どのような役割を期待していますか。（○は3つまで）

1. 様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言
2. 講演会、シンポジウム、各種講座などの開催
3. 関係図書をはじめとした資料・情報の収集、提供
4. インターネットを活用した情報提供
5. 男女共同参画に関する調査・研究機能
6. 男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供
7. 専門家等による様々な分野における各種相談窓口
8. その他（具体的に： _____）

最後に、男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、県へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入下さい。

これですべての調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

(2) 単純集計表

F 1 性別 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性	501	45.1
2	女性	581	52.3
	無回答	29	2.6
	サンプル数	1111	100.0

F 2 年齢 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	20～24歳	25	2.3
2	25～29歳	46	4.1
3	30～34歳	69	6.2
4	35～39歳	61	5.5
5	40～44歳	98	8.8
6	45～49歳	80	7.2
7	50～54歳	83	7.5
8	55～59歳	117	10.5
9	60～64歳	140	12.6
10	65～69歳	132	11.9
11	70歳以上	241	21.7
	無回答	19	1.7
	サンプル数	1111	100.0

F 3-1 職業 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	農林漁業(自営業主)	24	2.2
2	農林漁業(家族従業者)	10	0.9
3	商工・サービス業(自営業主)	42	3.8
4	商工・サービス業(家族従業者)	25	2.3
5	自由業(自営業主)	35	3.2
6	自由業(家族従業者)	14	1.3
7	被雇用者(専門・技術職)	203	18.3
8	被雇用者(事務職)	150	13.5
9	被雇用者(労務職)	119	10.7
10	専業主婦・主夫	199	17.9
11	学生	12	1.1
12	無職	246	22.1
	無回答	32	2.9
	サンプル数	1111	100.0

F 3-2 (1) 勤務形態 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	常勤	314	66.5
2	パートタイム	155	32.8
	無回答	3	0.6
	サンプル数	472	100.0

F 3-2 (2) 職名 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	役員, 管理職	93	19.7
2	非管理職, 一般係員	368	78.0
	無回答	11	2.3
	サンプル数	472	100.0

F 4-1 婚姻状況 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	既婚(配偶者あり)	792	71.3
2	既婚(現在, 配偶者はいない)	107	9.6
3	未婚	144	13.0
	無回答	68	6.1
	サンプル数	1111	100.0

F 4 - 2 配偶者の職業 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	農林漁業 (自営業主)	16	2.0
2	農林漁業 (家族従業者)	9	1.1
3	商工・サービス業 (自営業主)	35	4.4
4	商工・サービス業 (家族従業者)	24	3.0
5	自由業 (自営業主)	26	3.3
6	自由業 (家族従業者)	13	1.6
7	被雇用者 (専門・技術職)	154	19.4
8	被雇用者 (事務職)	85	10.7
9	被雇用者 (労務職)	88	11.1
10	専業主婦・主夫	121	15.3
11	学生	2	0.3
12	無職	206	26.0
	無回答	13	1.6
	サンプル数	792	100.0

F 5 - 1 子どもの有無 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	いる	841	75.7
2	いない	227	20.4
	無回答	43	3.9
	サンプル数	1111	100.0

F 5 - 2 子どもの状況 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	小学校入学以前	97	11.5
2	小学生	80	9.5
3	中学生	41	4.9
4	高校生	31	3.7
5	専門学校, 短大, 大学, 大学院生	35	4.2
6	その他	539	64.1
	無回答	18	2.1
	サンプル数	841	100.0

F 6 介護を必要とする高齢者の有無 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	いる	128	11.5
2	いない	956	86.0
	無回答	27	2.4
	サンプル数	1111	100.0

F 7 家族構成 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	1人世帯	78	7.0
2	夫婦のみの世帯	300	27.0
3	親と子からなる世帯	487	43.8
4	親と子と孫からなる世帯	171	15.4
5	その他の世帯	52	4.7
	無回答	23	2.1
	サンプル数	1111	100.0

F 8 - 1 居住自治体 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	日立市	118	10.6
2	常陸太田市	38	3.4
3	高萩市	21	1.9
4	北茨城市	24	2.2
5	ひたちなか市	1	0.1
6	常陸大宮市	0	0.0
7	那珂市	0	0.0
8	東海村	28	2.5
9	大子町	0	0.0
10	水戸市	158	14.2
11	笠間市	0	0.0
12	小美玉市	21	1.9
13	茨城町	12	1.1
14	大洗町	12	1.1
15	城里町	0	0.0
16	鹿嶋市	0	0.0
17	潮来市	23	2.1
18	神栖市	39	3.5
19	行方市	0	0.0
20	鉾田市	24	2.2
21	土浦市	1	0.1
22	石岡市	0	0.0
23	龍ヶ崎市	52	4.7
24	取手市	71	6.4
25	牛久市	0	0.0
26	つくば市	137	12.3
27	守谷市	49	4.4
28	稲敷市	15	1.4
29	かすみがうら市	0	0.0
30	つくばみらい市	0	0.0
31	美浦村	6	0.5
32	阿見町	31	2.8
33	河内町	0	0.0
34	利根町	0	0.0
35	古河市	88	7.9
36	結城市	33	3.0
37	下妻市	29	2.6
38	常総市	41	3.7
39	筑西市	0	0.0
40	坂東市	0	0.0
41	桜川市	0	0.0
42	八千代町	0	0.0
43	五霞町	7	0.6
44	境町	13	1.2
	無回答	19	1.7
	サンプル数	1111	100.0

F 8 - 2 居住地域：都市，農村 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	都市化が進んでいる地域（市役所や町村役場，駅や商店街などの近隣，あるいは市街化区域など）	402	36.2
2	上記1に隣接するなど，どちらかといえば都市化が進んでいる地域	396	35.6
3	どちらかといえば農山漁村地域	193	17.4
4	農山漁村地域	84	7.6
	無回答	36	3.2
	サンプル数	1111	100.0

問1-1 家庭生活（家事・育児など）（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	240	21.6
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	400	36.0
3	平等である	193	17.4
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	90	8.1
5	女性の方が非常に優遇されている	58	5.2
6	わからない	81	7.3
	無回答	49	4.4
	サンプル数	1111	100.0

問1-2 職場（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	186	16.7
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	404	36.4
3	平等である	228	20.5
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	2.8
5	女性の方が非常に優遇されている	16	1.4
6	わからない	120	10.8
	無回答	126	11.3
	サンプル数	1111	100.0

問1-3 学校教育の場（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	41	3.7
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	132	11.9
3	平等である	600	54.0
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	25	2.3
5	女性の方が非常に優遇されている	5	0.5
6	わからない	209	18.8
	無回答	99	8.9
	サンプル数	1111	100.0

問1-4 政治の場（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	285	25.7
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	437	39.3
3	平等である	178	16.0
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	9	0.8
5	女性の方が非常に優遇されている	6	0.5
6	わからない	110	9.9
	無回答	86	7.7
	サンプル数	1111	100.0

問1-5 町内会、自治会などの住民組織（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	166	14.9
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	382	34.4
3	平等である	311	28.0
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	32	2.9
5	女性の方が非常に優遇されている	9	0.8
6	わからない	148	13.3
	無回答	63	5.7
	サンプル数	1111	100.0

問1-6 地域活動（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	91	8.2
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	277	24.9
3	平等である	437	39.3
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	49	4.4
5	女性の方が非常に優遇されている	6	0.5
6	わからない	176	15.8
	無回答	75	6.8
	サンプル数	1111	100.0

問1-7 社会通念、慣習、しきたりなど (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	216	19.4
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	487	43.8
3	平等である	198	17.8
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	12	1.1
5	女性の方が非常に優遇されている	7	0.6
6	わからない	123	11.1
	無回答	68	6.1
	サンプル数	1111	100.0

問1-8 法律や制度 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	110	9.9
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	328	29.5
3	平等である	390	35.1
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	37	3.3
5	女性の方が非常に優遇されている	13	1.2
6	わからない	160	14.4
	無回答	73	6.6
	サンプル数	1111	100.0

問2 社会全体でみた男女の地位 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	161	14.5
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	680	61.2
3	平等である	143	12.9
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	40	3.6
5	女性の方が非常に優遇されている	4	0.4
6	わからない	71	6.4
	無回答	12	1.1
	サンプル数	1111	100.0

問3 平等になるために重要なこと (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	法律や制度を見直し、女性差別につながるものを改めること	181	16.3
2	女性を取り巻く様々偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	496	44.6
3	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	379	34.1
4	女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	456	41.0
5	国や地方公共団体や企業なども重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	206	18.5
6	その他	55	5.0
7	わからない	68	6.1
	無回答	19	1.7
	サンプル数	1111	100.0

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。 (1. 人は結婚する方がよい)
(SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	506	45.5
2	どちらかといえばそう思う	416	37.4
3	どちらかといえばそう思わない	40	3.6
4	そう思わない	65	5.9
5	わからない	56	5.0
	無回答	28	2.5
	サンプル数	1111	100.0

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(2. 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい) (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	293	26.4
2	どちらかといえばそう思う	283	25.5
3	どちらかといえばそう思わない	173	15.6
4	そう思わない	247	22.2
5	わからない	40	3.6
	無回答	75	6.8
	サンプル数	1111	100.0

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(3. 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい) (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	175	15.8
2	どちらかといえばそう思う	296	26.6
3	どちらかといえばそう思わない	232	20.9
4	そう思わない	235	21.2
5	わからない	95	8.6
	無回答	78	7.0
	サンプル数	1111	100.0

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(4. 結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない) (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	255	23.0
2	どちらかといえばそう思う	217	19.5
3	どちらかといえばそう思わない	219	19.7
4	そう思わない	278	25.0
5	わからない	69	6.2
	無回答	73	6.6
	サンプル数	1111	100.0

問4 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(5. 結婚しないで子どもを持つてもよい) (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	126	11.3
2	どちらかといえばそう思う	160	14.4
3	どちらかといえばそう思わない	203	18.3
4	そう思わない	419	37.7
5	わからない	129	11.6
	無回答	74	6.7
	サンプル数	1111	100.0

問5 1. 「男性(女性)だから」という決めつけは、その人の可能性をとじこめてしまう (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	545	49.1
2	どちらかといえばそう思う	368	33.1
3	どちらかといえばそう思わない	41	3.7
4	そう思わない	58	5.2
5	わからない	35	3.2
	無回答	64	5.8
	サンプル数	1111	100.0

問5 2. 社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	207	18.6
2	どちらかといえばそう思う	492	44.3
3	どちらかといえばそう思わない	130	11.7
4	そう思わない	100	9.0
5	わからない	107	9.6
	無回答	75	6.8
	サンプル数	1111	100.0

問5 3. 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	626	56.3
2	どちらかといえばそう思う	342	30.8
3	どちらかといえばそう思わない	22	2.0
4	そう思わない	14	1.3
5	わからない	40	3.6
	無回答	67	6.0
	サンプル数	1111	100.0

問5 4. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	545	49.1
2	どちらかといえばそう思う	422	38.0
3	どちらかといえばそう思わない	43	3.9
4	そう思わない	21	1.9
5	わからない	25	2.3
	無回答	55	5.0
	サンプル数	1111	100.0

問5 5. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	273	24.6
2	どちらかといえばそう思う	462	41.6
3	どちらかといえばそう思わない	148	13.3
4	そう思わない	130	11.7
5	わからない	42	3.8
	無回答	56	5.0
	サンプル数	1111	100.0

問5 6. 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子供など家族を中心に考えて生活した方がよい (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	71	6.4
2	どちらかといえばそう思う	335	30.2
3	どちらかといえばそう思わない	308	27.7
4	そう思わない	277	24.9
5	わからない	52	4.7
	無回答	68	6.1
	サンプル数	1111	100.0

問5 7. 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	170	15.3
2	どちらかといえばそう思う	474	42.7
3	どちらかといえばそう思わない	200	18.0
4	そう思わない	146	13.1
5	わからない	50	4.5
	無回答	71	6.4
	サンプル数	1111	100.0

問5 8. 女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	そう思う	390	35.1
2	どちらかといえばそう思う	354	31.9
3	どちらかといえばそう思わない	129	11.6
4	そう思わない	96	8.6
5	わからない	77	6.9
	無回答	65	5.9
	サンプル数	1111	100.0

問6 1. 掃除, 洗濯, 食事のしたくなど家事全般 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	11	1.0
2	妻	640	57.6
3	夫婦一緒	181	16.3
4	家族全員	186	16.7
5	その他の人	28	2.5
6	わからない	18	1.6
	無回答	47	4.2
	サンプル数	1111	100.0

問6 2. 育児 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	1	0.1
2	妻	117	10.5
3	夫婦一緒	70	6.3
4	家族全員	33	3.0
5	その他の人	2	0.2
6	わからない	24	2.2
	無回答	864	77.8
	サンプル数	1111	100.0

問6 3. 高齢者の世話, 介護 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	10	0.9
2	妻	61	5.5
3	夫婦一緒	56	5.0
4	家族全員	68	6.1
5	その他の人	11	1.0
6	わからない	43	3.9
	無回答	862	77.6
	サンプル数	1111	100.0

問6 4. 家計費の管理 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	123	11.1
2	妻	538	48.4
3	夫婦一緒	228	20.5
4	家族全員	119	10.7
5	その他の人	19	1.7
6	わからない	21	1.9
	無回答	63	5.7
	サンプル数	1111	100.0

問6 5. 不動産等の購入 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	350	31.5
2	妻	23	2.1
3	夫婦一緒	390	35.1
4	家族全員	129	11.6
5	その他の人	21	1.9
6	わからない	73	6.6
	無回答	125	11.3
	サンプル数	1111	100.0

問6 6. 夫の就職・転職 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	450	40.5
2	妻	7	0.6
3	夫婦一緒	294	26.5
4	家族全員	77	6.9
5	その他の人	2	0.2
6	わからない	77	6.9
	無回答	204	18.4
	サンプル数	1111	100.0

問6 7. 妻の就職・転職 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	37	3.3
2	妻	414	37.3
3	夫婦一緒	289	26.0
4	家族全員	77	6.9
5	その他の人	4	0.4
6	わからない	77	6.9
	無回答	213	19.2
	サンプル数	1111	100.0

問6 8. 子の教育・就職 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	20	1.8
2	妻	50	4.5
3	夫婦一緒	363	32.7
4	家族全員	117	10.5
5	その他の人	9	0.8
6	わからない	34	3.1
	無回答	518	46.6
	サンプル数	1111	100.0

問6 9. 子どもの数を決めるのは (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	夫	23	2.1
2	妻	38	3.4
3	夫婦一緒	637	57.3
4	家族全員	51	4.6
5	その他の人	1	0.1
6	わからない	127	11.4
	無回答	234	21.1
	サンプル数	1111	100.0

問7 性別役割分担意識についての考え方 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	同感する	64	5.8
2	どちらかといえば同感する	380	34.2
3	どちらかといえば同感しない	271	24.4
4	同感しない	316	28.4
5	わからない	58	5.2
	無回答	22	2.0
	サンプル数	1111	100.0

問8 ア 家事 【平日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	226	20.3
2	30～1時間未満	150	13.5
3	1～3時間未満	329	29.6
4	3～5時間未満	186	16.7
5	5～7時間未満	72	6.5
6	7時間以上	25	2.3
	無回答	123	11.1
	サンプル数	1111	100.0

問8 ア 家事 【土曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	170	15.3
2	30～1時間未満	129	11.6
3	1～3時間未満	368	33.1
4	3～5時間未満	193	17.4
5	5～7時間未満	85	7.7
6	7時間以上	23	2.1
	無回答	143	12.9
	サンプル数	1111	100.0

問8 ア 家事 【日曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	167	15.0
2	30～1時間未満	123	11.1
3	1～3時間未満	377	33.9
4	3～5時間未満	197	17.7
5	5～7時間未満	81	7.3
6	7時間以上	27	2.4
	無回答	139	12.5
	サンプル数	1111	100.0

問8 イ 育児の対象者の有無 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	育児に該当する子どもはいない	700	63.0
2	育児に該当する子どもがいる	206	18.5
	無回答	205	18.5
	サンプル数	1111	100.0

問8 イ 育児 【平日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	73	35.4
2	30～1時間未満	18	8.7
3	1～3時間未満	60	29.1
4	3～5時間未満	17	8.3
5	5～7時間未満	8	3.9
6	7～9時間未満	5	2.4
7	9時間以上	23	11.2
	無回答	2	1.0
	サンプル数	206	100.0

問8 イ 育児 【土曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	58	28.2
2	30～1時間未満	12	5.8
3	1～3時間未満	49	23.8
4	3～5時間未満	25	12.1
5	5～7時間未満	17	8.3
6	7～9時間未満	7	3.4
7	9時間以上	32	15.5
	無回答	6	2.9
	サンプル数	206	100.0

問8 イ 育児 【日曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	53	25.7
2	30～1時間未満	9	4.4
3	1～3時間未満	52	25.2
4	3～5時間未満	24	11.7
5	5～7時間未満	23	11.2
6	7～9時間未満	7	3.4
7	9時間以上	34	16.5
	無回答	4	1.9
	サンプル数	206	100.0

問8 ウ 介護・看護の対象者の有無 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	介護・看護を必要とする家族はいない	783	70.5
2	介護・看護を必要とする家族がいる	125	11.3
	無回答	203	18.3
	サンプル数	1111	100.0

問8 ウ 介護・看護 【平日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	66	52.8
2	30～1時間未満	18	14.4
3	1時間～2時間未満	16	12.8
4	2時間～3時間未満	6	4.8
5	3時間～4時間未満	6	4.8
6	4時間以上	10	8.0
	無回答	3	2.4
	サンプル数	125	100.0

問8 ウ 介護・看護 【土曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	60	48.0
2	30～1時間未満	18	14.4
3	1時間～2時間未満	19	15.2
4	2時間～3時間未満	7	5.6
5	3時間～4時間未満	6	4.8
6	4時間以上	9	7.2
	無回答	6	4.8
	サンプル数	125	100.0

問8 ウ 介護・看護 【日曜日】 (数量)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	30分未満	63	50.4
2	30～1時間未満	15	12.0
3	1時間～2時間未満	22	17.6
4	2時間～3時間未満	6	4.8
5	3時間～4時間未満	5	4.0
6	4時間以上	9	7.2
	無回答	5	4.0
	サンプル数	125	100.0

問9 (1) 理想とする子どもの数 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	4人以上	45	4.1
2	3人	624	56.2
3	2人	342	30.8
4	1人	13	1.2
5	0人	4	0.4
6	わからない	59	5.3
	無回答	24	2.2
	サンプル数	1111	100.0

問9 (2) 実際の子どもの数 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	4人以上	30	2.7
2	3人	273	24.6
3	2人	536	48.2
4	1人	130	11.7
5	0人	69	6.2
6	わからない	45	4.1
	無回答	28	2.5
	サンプル数	1111	100.0

問9 (3) その理由 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから	149	17.0
2	子どもの教育等経済的負担が増えるから	247	28.2
3	年齢的な理由から	111	12.7
4	仕事と子育ての両立が困難だから	130	14.8
5	子育てに対して配偶者の理解、協力が無いから	35	4.0
6	子育てより自分の時間を大切にしたいから	12	1.4
7	欲しいけれどできないから	116	13.2
8	その他	51	5.8
	無回答	25	2.9
	サンプル数	876	100.0

問10 仕事、家庭生活、地域活動へのかかわり方【理想】(SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	「仕事」に専念したい	49	4.4
2	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい	204	18.4
3	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい	326	29.3
4	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい	264	23.8
5	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念したい	127	11.4
6	よくわからない	75	6.8
	無回答	66	5.9
	サンプル数	1111	100.0

問10 仕事、家庭生活、地域活動へのかかわり方【実際】(SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	「仕事」に専念している	139	12.5
2	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	307	27.6
3	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している	155	14.0
4	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している	115	10.4
5	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している	223	20.1
6	よくわからない	96	8.6
	無回答	76	6.8
	サンプル数	1111	100.0

問11 男性 実際にあなたの働き方に近いもの (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	仕事を優先	99	25.9
2	どちらかといえば仕事優先	165	43.2
3	仕事と育児を同時に重視	46	12.0
4	どちらかといえば育児優先	0	0.0
5	育児を優先	1	0.3
	無回答	71	18.6
	サンプル数	382	100.0

問11 女性 配偶者の働き方に近いもの (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	仕事を優先	154	34.1
2	どちらかといえば仕事優先	152	33.7
3	仕事と育児を同時に重視	43	9.5
4	どちらかといえば育児優先	12	2.7
5	育児を優先	3	0.7
	無回答	87	19.3
	サンプル数	451	100.0

問12 父親の働き方と子育て (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	仕事を優先	25	5.0
2	どちらかといえば仕事優先	192	38.3
3	仕事と育児を同時に重視	225	44.9
4	どちらかといえば育児優先	25	5.0
5	育児を優先	4	0.8
	無回答	30	6.0
	サンプル数	501	100.0

問13 男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に参加するために必要なこと
(MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	家事などの分担について，夫婦や家族で話し合い，協力をすること	664	59.8
2	男女の役割意識について社会概念，慣習，しきたりを改めること	284	25.6
3	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	296	26.6
4	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	54	4.9
5	男性の仕事中心の考え方を改めること	302	27.2
6	男性が子育てや介護，地域活動を行うための仲間作りをすすめること	133	12.0
7	男性が家事，子育て，介護，地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと	156	14.0
8	男女がともに家事，子育て，介護，地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	228	20.5
9	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	457	41.1
10	その他	31	2.8
	無回答	57	5.1
	サンプル数	1111	100.0

問14 (1) 仕事をこなす能力に男女差はあるか (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	あると思う	255	23.0
2	どちらかといえばあると思う	445	40.1
3	どちらかといえばないと思う	175	15.8
4	ないと思う	161	14.5
5	わからない	43	3.9
	無回答	32	2.9
	サンプル数	1111	100.0

問14 (2) 男性向き，女性向きの仕事内容はあるか (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	あると思う	586	52.7
2	どちらかといえばあると思う	450	40.5
3	どちらかといえばないと思う	23	2.1
4	ないと思う	12	1.1
5	わからない	8	0.7
	無回答	32	2.9
	サンプル数	1111	100.0

問15-1 職場での男女の地位 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	男性の方が非常に優遇されている	188	16.9
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	501	45.1
3	平等である	206	18.5
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	30	2.7
5	女性の方が非常に優遇されている	10	0.9
6	わからない	85	7.7
	無回答	91	8.2
	サンプル数	1111	100.0

問15-2 どちらかの性が優遇されているという具体的な内容 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	採用時の条件	218	29.9
2	賃金，昇進，昇格	504	69.1
3	能力の評価	259	35.5
4	女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける	205	28.1
5	仕事に対する責任の求められ方	257	35.3
6	研修の機会や内容	81	11.1
7	年次休暇の取得のしやすさ	43	5.9
8	育児・介護休暇の取得のしやすさ	74	10.2
9	女性に対して結婚，出産退職などの慣習がある	195	26.7
10	転勤や異動	133	18.2
11	その他	19	2.6
	無回答	20	2.7
	サンプル数	729	100.0

問16-1 途中で仕事を辞めた経験 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	ある	609	54.8
2	ない	398	35.8
	無回答	104	9.4
	サンプル数	1111	100.0

問16-2 仕事を辞めた主な理由 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	健康上の理由のため	55	9.0
2	家事や育児に専念するため	52	8.5
3	家事や育児との両立が困難であるため	29	4.8
4	高齢者や病人の介護のため	23	3.8
5	経済的に働く必要がなくなったため	6	1.0
6	賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため	147	24.1
7	勤め先の人間関係のため	79	13.0
8	結婚(自主的)のため	108	17.7
9	勤め先で、結婚・出産退職の慣習があったため	15	2.5
10	夫(妻)の転勤のため	13	2.1
11	家族の反対や無理解のため	4	0.7
12	その他	73	12.0
	無回答	5	0.8
	サンプル数	609	100.0

問16-3 再就職したか (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	した	439	72.1
2	しない	108	17.7
3	したかったができなかった	44	7.2
	無回答	18	3.0
	サンプル数	609	100.0

問17-1 地域活動をしているか (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	している	334	30.1
2	していない	747	67.2
	無回答	30	2.7
	サンプル数	1111	100.0

問17-2 地域活動の内容 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	まちづくり関係	26	7.8
2	自然環境保護関係	17	5.1
3	子ども関係	45	13.5
4	高齢者関係	31	9.3
5	障害者関係	11	3.3
6	安全・安心な生活関係	10	3.0
7	健康や医療関係	7	2.1
8	スポーツ・文化関係	28	8.4
9	災害関係	5	1.5
10	町内会関係	138	41.3
11	その他	16	4.8
	無回答	0	0.0
	サンプル数	334	100.0

問17-3 地域活動をするについて (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	以前、地域活動をしていたが、現在はやめている	131	17.5
2	現在、地域活動をするために準備している	11	1.5
3	今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしてい	273	36.5
4	地域活動をしたいと思わない	169	22.6
5	わからない	154	20.6
	無回答	9	1.2
	サンプル数	747	100.0

問 1 8 - 1 暴力の経験 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	ある	107	9.6
2	ない	931	83.8
3	わからない	28	2.5
	無回答	45	4.1
	サンプル数	1111	100.0

問 1 8 - 2 暴力の内容 (M A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる	22	6.8
2	「ばかだ、役立たずだ」などと言われる	46	14.2
3	外出や人との付き合いを制限される	42	12.9
4	身体を傷つけるような可能性のあるもので殴られる	15	4.6
5	平手で打たれる	25	7.7
6	げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする	33	10.2
7	大声でどなられたり、暴言を吐かれる	76	23.4
8	嫌がっているのに性的行為を強要される	23	7.1
9	何を言っても無視され続ける	14	4.3
10	生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	19	5.8
11	その他	10	3.1
	無回答	0	0.0
	サンプル数	325	100.0

問 1 8 - 3 相談したか (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	相談した	41	38.3
2	相談できなかった	22	20.6
3	相談しようとは思わなかった	43	40.2
	無回答	1	0.9
	サンプル数	107	100.0

問 1 8 - 4 相談した人(場所) (M A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	家族・親せき	27	31.8
2	友人・知人	25	29.4
3	警察	4	4.7
4	人権擁護委員	0	0.0
5	女性の人権ホットライン	0	0.0
6	役所の相談窓口・電話相談など	6	7.1
7	配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター・女性相談員	2	2.4
8	男女共同参画センター・女性センター	1	1.2
9	人権啓発推進センター	0	0.0
10	その他の公的機関	4	4.7
11	弁護士	4	4.7
12	医師・カウンセラー	3	3.5
13	民間の相談機関	5	5.9
14	その他	4	4.7
	無回答	0	0.0
	サンプル数	85	100.0

問 1 8 - 5 相談して解決したか (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	解決した	11	26.8
2	どちらかといえば解決したと思う	15	36.6
3	どちらかといえば解決していない	1	2.4
4	解決していない	12	29.3
5	わからない	2	4.9
	無回答	0	0.0
	サンプル数	41	100.0

問18-6 相談できなかったのはなぜか (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	誰(どこ)に相談してよいのか分からなかったから	8	13.8
2	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	8	13.8
3	相談しても無駄だと思ったから	10	17.2
4	相談したことが分かると仕返しをされたり, もっとひどい暴力を受け	2	3.4
5	自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思っ	13	22.4
6	世間体が悪いから	3	5.2
7	他人を巻き込みたくないから	4	6.9
8	思い出したくないから	4	6.9
9	自分に悪いところがあると思ったから	3	5.2
10	相談するほどのことではないと思ったから	0	0.0
11	その他	3	5.2
	無回答	0	0.0
	サンプル数	58	100.0

問19 男女共同参画に関する用語等の周知度 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する	155	14.0
2	男女共同参画社会基本法	422	38.0
3	男女雇用機会均等法	808	72.7
4	育児・介護休業法	594	53.5
5	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律	623	56.1
6	次世代育成支援対策推進法	72	6.5
7	茨城県男女共同参画推進条例	133	12.0
8	茨城県男女共同参画基本計画(ハーモニープラン)	112	10.1
9	茨城県の男女共同参画推進月間(11月)	87	7.8
10	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	67	6.0
11	ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)	222	20.0
12	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	316	28.4
13	ダイバーシティ(多様性)	156	14.0
14	見たり聞いたりしたものはない	80	7.2
	無回答	87	7.8
	サンプル数	1111	100.0

問20 男女共同参画社会を実現にあたって行政に対する要望 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	関係する制度の制定や見直し	249	22.4
2	女性に不利な慣習の見直し	361	32.5
3	男女共同参画全般についての意識啓発, 広報活動の充実	311	28.0
4	男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	287	25.8
5	子どものころからの男女共同参画教育	421	37.9
6	男女が共に働きやすい就業環境の整備	656	59.0
7	各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援	522	47.0
8	審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用	121	10.9
9	行政機関・教育機関・企業等における女性管理職の積極的起用	200	18.0
10	経営者・企業トップの意識啓発	327	29.4
11	男性の意識改革	362	32.6
12	地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成	150	13.5
13	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	289	26.0
14	配偶者等からの暴力被害の防止, 根絶や相談・救援体制の充実	159	14.3
15	農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上	110	9.9
16	男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	112	10.1
17	男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流, 調査研究 などを実施する拠点機能の充実	142	12.8
18	その他	38	3.4
	無回答	90	8.1
	サンプル数	1111	100.0

問2 1-1 「女性プラザ男女共同参画支援室」の周知度 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	利用したことがある	5	0.5
2	利用したことはないが知っている	103	9.3
3	知らなかった	971	87.4
	無回答	32	2.9
	サンプル数	1111	100.0

問2 1-2 「レイクエコー」の周知度 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	利用したことがある	32	2.9
2	利用したことはないが知っている	115	10.4
3	知らなかった	934	84.1
	無回答	30	2.7
	サンプル数	1111	100.0

問2 1-3 拠点施設の役割として期待すること (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言	473	42.6
2	講演会、シンポジウム、各種講座などの開催	361	32.5
3	関係図書をはじめとした資料・情報の収集、提供	130	11.7
4	インターネットを活用した情報提供	311	28.0
5	男女共同参画に関する調査・研究機能	89	8.0
6	男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供	320	28.8
7	専門家等による様々な分野における各種相談窓口	322	29.0
8	その他	34	3.1
	無回答	133	12.0
	サンプル数	1111	100.0

(3) 主な項目における前回調査等との比較表

■男女の地位の平等に関する意識について					
○各分野における地位の平等感					
	1 家庭生活(家事・育児など)(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	21.6	15.4	6.2	8.5
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	36.0	43.6	△7.6	34.7
3	平等である	17.4	18.3	△0.9	47.0
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	8.1	7.6	0.5	6.1
5	女性の方が非常に優遇されている	5.2	2.9	2.3	1.3
6	わからない	7.3	7.1	0.2	2.3
	無回答	4.4	5.0	△0.6	
	2 職場(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	16.7	10.7	6.0	15.6
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	36.4	39.5	△3.1	42.1
3	平等である	20.5	21.0	△0.5	28.5
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.8	4.7	△1.9	4.2
5	女性の方が非常に優遇されている	1.4	0.7	0.7	0.5
6	わからない	10.8	11.0	△0.2	9.2
	無回答	11.3	12.4	△1.1	
	3 学校教育の場(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	3.7	1.6	2.1	2.4
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	11.9	11.4	0.5	11.0
3	平等である	54.0	55.0	△1.0	67.0
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.3	2.4	△0.1	3.0
5	女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.4	0.1	0.7
6	わからない	18.8	19.6	△0.8	15.8
	無回答	8.9	9.6	△0.7	
	4 政治の場(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	25.7	16.7	9.0	30.0
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	39.3	43.0	△3.7	44.0
3	平等である	16.0	19.2	△3.2	18.6
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	0.8	1.4	△0.6	0.9
5	女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.1	0.4	0.3
6	わからない	9.9	12.0	△2.1	6.3
	無回答	7.7	7.6	0.1	
	5 町内会、自治会などの住民組織(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	
1	男性の方が非常に優遇されている	14.9	11.9	3.0	
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	34.4	38.7	△4.3	
3	平等である	28.0	28.4	△0.4	
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.9	3.2	△0.3	
5	女性の方が非常に優遇されている	0.8	0.4	0.4	
6	わからない	13.3	12.0	1.3	
	無回答	5.7	5.3	0.4	
	6 地域活動(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	8.2	5.4	2.8	6.9
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	24.9	29.0	△4.1	26.5
3	平等である	39.3	39.9	△0.6	52.1
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.4	5.6	△1.2	6.1
5	女性の方が非常に優遇されている	0.5	0.6	△0.1	0.9
6	わからない	15.8	13.1	2.7	7.6
	無回答	6.8	6.4	0.4	
	7 社会通念、慣習、しきたりなど(SA)	今回(%)	前回(%)	増減(ポイント)	全国(%)
1	男性の方が非常に優遇されている	19.4	14.9	4.5	18.6
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	43.8	48.7	△4.9	51.7
3	平等である	17.8	16.3	1.5	21.4
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.1	3.1	△2.0	2.9
5	女性の方が非常に優遇されている	0.6	0.6	0.0	0.6
6	わからない	11.1	10.1	1.0	4.7
	無回答	6.1	6.3	△0.2	

8 法律や制度 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	男性の方が非常に優遇されている	9.9	5.8	4.1	8.7
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	29.5	31.8	△ 2.3	29.5
3	平等である	35.1	35.4	△ 0.3	45.4
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.3	3.2	0.1	6.2
5	女性の方が非常に優遇されている	1.2	0.7	0.5	1.1
6	わからない	14.4	16.4	△ 2.0	9.0
	無回答	6.6	6.7	△ 0.1	
○社会全体でみた男女の地位 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	男性の方が非常に優遇されている	14.5	7.9	6.6	10.8
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	61.2	65.3	△ 4.1	59.1
3	平等である	12.9	14.2	△ 1.3	24.6
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.6	4.0	△ 0.4	3.4
5	女性の方が非常に優遇されている	0.4	0.6	△ 0.2	0.4
6	わからない	6.4	6.9	△ 0.5	1.8
	無回答	1.1	1.2	△ 0.1	
○平等になるために重要なこと (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	法律や制度を見直し、女性差別につながるものを改めること	16.3	17.0	△ 0.7	
2	女性を取り巻く様々偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	44.6	41.4	3.2	
3	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	34.1	34.9	△ 0.8	
4	女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	41.0	37.5	3.5	
5	国や地方公共団体や企業なども重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	18.5	22.6	△ 4.1	
6	その他	5.0	3.5	1.5	
7	わからない	6.1	6.1	0.0	
	無回答	1.7	1.7	0.0	
■男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等について					
○男女の生き方や家庭生活などに関する考え					
1. 「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性をとじこめてしまう (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	そう思う	49.1	46.3	2.8	
2	どちらかといえばそう思う	33.1	35.6	△ 2.5	
3	どちらかといえばそう思わない	3.7	4.6	△ 0.9	
4	そう思わない	5.2	7.0	△ 1.8	
5	わからない	3.2	2.5	0.7	
	無回答	5.8	4.0	1.8	
2. 社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	そう思う	18.6	16.0	2.6	
2	どちらかといえばそう思う	44.3	48.2	△ 3.9	
3	どちらかといえばそう思わない	11.7	9.7	2.0	
4	そう思わない	9.0	11.6	△ 2.6	
5	わからない	9.6	8.1	1.5	
	無回答	6.8	6.4	0.4	
3. 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	そう思う	56.3	55.0	1.3	
2	どちらかといえばそう思う	30.8	29.1	1.7	
3	どちらかといえばそう思わない	2.0	4.2	△ 2.2	
4	そう思わない	1.3	3.0	△ 1.7	
5	わからない	3.6	3.2	0.4	
	無回答	6.0	5.6	0.4	

4. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	そう思う	49.1	51.7	△ 2.6
2	どちらかといえばそう思う	38.0	34.2	3.8
3	どちらかといえばそう思わない	3.9	4.8	△ 0.9
4	そう思わない	1.9	3.1	△ 1.2
5	わからない	2.3	1.6	0.7
	無回答	5.0	4.5	0.5
5. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	そう思う	24.6	33.0	△ 8.4
2	どちらかといえばそう思う	41.6	37.9	3.7
3	どちらかといえばそう思わない	13.3	11.8	1.5
4	そう思わない	11.7	9.9	1.8
5	わからない	3.8	2.8	1.0
	無回答	5.0	4.6	0.4
6. 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子供など家族を中心に考えて生活した方がよい (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	そう思う	6.4	8.2	△ 1.8
2	どちらかといえばそう思う	30.2	31.8	△ 1.6
3	どちらかといえばそう思わない	27.7	23.7	4.0
4	そう思わない	24.9	27.4	△ 2.5
5	わからない	4.7	4.1	0.6
	無回答	6.1	4.8	1.3
7. 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	そう思う	15.3	22.3	△ 7.0
2	どちらかといえばそう思う	42.7	39.4	3.3
3	どちらかといえばそう思わない	18.0	18.2	△ 0.2
4	そう思わない	13.1	12.5	0.6
5	わからない	4.5	2.7	1.8
	無回答	6.4	5.0	1.4
8. 女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	そう思う	35.1	40.5	△ 5.4
2	どちらかといえばそう思う	31.9	26.0	5.9
3	どちらかといえばそう思わない	11.6	12.7	△ 1.1
4	そう思わない	8.6	11.5	△ 2.9
5	わからない	6.9	4.5	2.4
	無回答	5.9	4.8	1.1
○掃除や洗濯などの家事等の分担				
1. 掃除、洗濯、食事の支度など家事全般 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫			
2	妻			
3	夫婦一緒			
4	家族全員			
5	その他の人			
6	わからない			
	無回答			
2. 育児 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	0.1	0.7	△ 0.6
2	妻	10.5	41.0	△ 30.5
3	夫婦一緒	6.3	44.4	△ 38.1
4	家族全員	3.0	9.7	△ 6.7
5	その他の人	0.2	0.7	△ 0.5
6	わからない	2.2	0.0	2.2
	無回答	77.8	3.5	74.3

3. 高齢者の世話、介護 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	0.9	4.0	△ 3.1
2	妻	5.5	36.4	△ 30.9
3	夫婦一緒	5.0	17.3	△ 12.3
4	家族全員	6.1	17.3	△ 11.2
5	その他の人	1.0	7.6	△ 6.6
6	わからない	3.9	0.4	3.5
	無回答	77.6	16.9	60.7
○家計費の管理等の最終決定者				
4. 家計費の管理 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	11.1	10.8	0.3
2	妻	48.4	56.1	△ 7.7
3	夫婦一緒	20.5	14.3	6.2
4	家族全員	10.7	9.2	1.5
5	その他の人	1.7	2.9	△ 1.2
6	わからない	1.9	1.5	0.4
	無回答	5.7	5.3	0.4
5. 不動産等の購入 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	31.5	35.5	△ 4.0
2	妻	2.1	3.8	△ 1.7
3	夫婦一緒	35.1	31.7	3.4
4	家族全員	11.6	10.6	1.0
5	その他の人	1.9	3.6	△ 1.7
6	わからない	6.6	5.0	1.6
	無回答	11.3	9.9	1.4
6. 夫の就職・転職 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	40.5	47.6	△ 7.1
2	妻	0.6	0.9	△ 0.3
3	夫婦一緒	26.5	19.6	6.9
4	家族全員	6.9	7.7	△ 0.8
5	その他の人	0.2	1.4	△ 1.2
6	わからない	6.9	5.9	1.0
	無回答	18.4	16.9	1.5
7. 妻の就職・転職 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	3.3	5.1	△ 1.8
2	妻	37.3	41.3	△ 4.0
3	夫婦一緒	26.0	20.8	5.2
4	家族全員	6.9	7.8	△ 0.9
5	その他の人	0.4	1.5	△ 1.1
6	わからない	6.9	5.9	1.0
	無回答	19.2	17.5	1.7
8. 子の教育・就職 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫	1.8	3.4	△ 1.6
2	妻	4.5	10.4	△ 5.9
3	夫婦一緒	32.7	35.4	△ 2.7
4	家族全員	10.5	10.5	0.0
5	その他の人	0.8	1.4	△ 0.6
6	わからない	3.1	1.8	1.3
	無回答	46.6	37.0	9.6
9. 子どもの数を決めるのは (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)
1	夫			
2	妻			
3	夫婦一緒			
4	家族全員			
5	その他の人			
6	わからない			
	無回答			

○性別役割分担意識についての考え方 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	同感する	5.8	7.4	△ 1.6	12.5
2	どちらかといえば同感する	34.2	35.6	△ 1.4	32.1
3	どちらかといえば同感しない	24.4	23.4	1.0	33.3
4	同感しない	28.4	26.8	1.6	16.1
5	わからない	5.2	4.4	0.8	6.0
	無回答	2.0	2.5	△ 0.5	
○出生数について					
1. 理想とする子どもの数 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	4人以上	4.1	3.9	0.2	
2	3人	56.2	53.4	2.8	
3	2人	30.8	34.5	△ 3.7	
4	1人	1.2	1.2	△ 0.0	
5	0人	0.4	0.5	△ 0.1	
6	わからない	5.3	3.7	1.6	
	無回答	2.2	2.8	△ 0.6	
2. 実際の子どもの数 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	4人以上	2.7	2.2	0.5	
2	3人	24.6	23.0	1.6	
3	2人	48.2	50.7	△ 2.5	
4	1人	11.7	12.2	△ 0.5	
5	0人	6.2	5.2	1.0	
6	わからない	4.1	3.5	0.6	
	無回答	2.5	3.2	△ 0.7	
3. その理由 (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから	17.0	30.4	△ 13.4	
2	子どもの教育等経済的負担が増えるから	28.2	54.5	△ 26.3	
3	年齢的な理由から	12.7	19.5	△ 6.8	
4	仕事と子育ての両立が困難だから	14.8	24.7	△ 9.9	
5	子育てに対して配偶者の理解、協力がなから	4.0	8.1	△ 4.1	
6	子育てより自分の時間を大切にしたいから	1.4	3.7	△ 2.3	
7	欲しいけれどできないから	13.2	17.4	△ 4.2	
8	その他	5.8	9.3	△ 3.5	
	無回答	2.9	4.8	△ 1.9	
■仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) について					
○仕事、家庭生活、地域活動へのかかわり方【理想】 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	「仕事」に専念したい	4.4	3.8	0.6	9.8
2	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい	18.4	17.9	0.5	
3	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい	29.3	34.6	△ 5.3	
4	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい	23.8	21.9	1.9	
5	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念したい	11.4	9.4	2.0	
6	よくわからない	6.8	6.3	0.5	1.4
	無回答	5.9	6.1	△ 0.2	

○仕事、家庭生活、地域活動へのかかわり方【実際】(SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	「仕事」に専念している	12.5	12.6	△ 0.1	26.1
2	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	27.6	29.4	△ 1.8	
3	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している	14.0	14.4	△ 0.4	
4	「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している	10.4	10.3	0.1	
5	「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している	20.1	17.2	2.9	
6	よくわからない	8.6	7.9	0.7	1.6
	無回答	6.8	8.2	△ 1.4	
○男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	家事などの分担について、夫婦や家族で話し合い、協力をすること	59.8	60.1	△ 0.3	66.7
2	男女の役割意識について社会概念、慣習、しきたりを改めること	25.6	27.1	△ 1.5	
3	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	26.6	28.8	△ 2.2	55.9
4	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	4.9	5.9	△ 1.0	27.5
5	男性の仕事中心の考え方を改めること	27.2	28.6	△ 1.4	
6	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること				34.2
7	男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと	14.0	14.3	△ 0.3	36.1
8	男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	20.5	25.9	△ 5.4	
9	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	41.1	35.7	5.4	48.4
10	その他	2.8	2.2	0.6	1.1
	無回答	5.1	4.2	0.9	
■就業について					
○仕事の能力・内容の男女差についての考え					
(1) 仕事をこなす能力に男女差はあるか (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	あると思う	23.0	25.0	△ 2.0	
2	どちらかといえばあると思う	40.1	38.5	1.6	
3	どちらかといえばないと思う	15.8	14.1	1.7	
4	ないと思う	14.5	15.6	△ 1.1	
5	わからない	3.9	4.0	△ 0.1	
	無回答	2.9	2.7	0.2	
(2) 男性向き、女性向きの仕事内容はあるか (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	あると思う	52.7	58.9	△ 6.2	
2	どちらかといえばあると思う	40.5	34.0	6.5	
3	どちらかといえばないと思う	2.1	2.3	△ 0.2	
4	ないと思う	1.1	1.5	△ 0.4	
5	わからない	0.7	0.9	△ 0.2	
	無回答	2.9	2.5	0.4	
○職場での男女の地位					
(1) 職場での男女の地位は平等か (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	男性の方が非常に優遇されている	16.9	11.4	5.5	
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている	45.1	50.1	△ 5.0	
3	平等である	18.5	17.2	1.3	
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.7	3.3	△ 0.6	
5	女性の方が非常に優遇されている	0.9	0.7	0.2	
6	わからない	7.7	9.6	△ 1.9	
	無回答	8.2	7.7	0.5	

(2) どちらかの性が優遇されていると思う具体的な内容(MA)				
	今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1 採用時の条件	29.9	35.5	△ 5.6	
2 賃金, 昇進, 昇格	69.1	72.0	△ 2.9	
3 能力の評価	35.5	36.9	△ 1.4	
4 女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける	28.1	29.1	△ 1.0	
5 仕事に対する責任の求められ方	35.3	36.9	△ 1.6	
6 研修の機会や内容	11.1	11.6	△ 0.5	
7 年次休暇の取得のしやすさ	5.9	9.6	△ 3.7	
8 育児・介護休暇の取得のしやすさ	10.2	10.9	△ 0.7	
9 女性に対して結婚, 出産退職などの慣習がある	26.7	27.7	△ 1.0	
10 転勤や異動	18.2	15.2	3.0	
11 その他	2.6	1.4	1.2	
無回答	2.7	2.4	0.3	
○仕事を辞めた理由				
(1) 途中で仕事を辞めた経験(SA)				
	今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1 ある	54.8	58.5	△ 3.7	
2 ない	35.8	36.8	△ 1.0	
無回答	9.4	4.7	4.7	
(2) 仕事を辞めた主な理由(SA)				
	今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1 健康上の理由のため	9.0	8.6	0.4	
2 家事や育児に専念するため	8.5	10.0	△ 1.5	
3 家事や育児との両立が困難であるため	4.8	7.0	△ 2.2	
4 高齢者や病人の介護のため	3.8	4.7	△ 0.9	
5 経済的に働く必要がなくなったため	1.0	0.8	0.2	
6 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため	24.1	21.9	2.2	
7 勤め先の人間関係のため	13.0	10.1	2.9	
8 結婚(自主的)のため	17.7	19.7	△ 2.0	
9 勤め先で, 結婚・出産退職の慣習があったため	2.5	3.8	△ 1.3	
10 夫(妻)の転勤のため	2.1	1.2	0.9	
11 家族の反対や無理解のため	0.7	0.8	△ 0.1	
12 その他	12.0	9.3	2.7	
無回答	0.8	2.1	△ 1.3	
■地域活動について				
○地域活動をしているか(SA)				
	今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1 している	30.1	33.4	△ 3.3	
2 していない	67.2	64.4	2.8	
無回答	2.7	2.2	0.5	
○地域活動の内容(SA)				
	今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1 まちづくり関係	7.8	5.8	2.0	
2 自然環境保護関係	5.1	3.5	1.6	
3 子ども関係	13.5	12.4	1.1	
4 高齢者関係	9.3	6.3	3.0	
5 障害者関係	3.3	1.9	1.4	
6 安全・安心な生活関係	3.0	4.1	△ 1.1	
7 健康や医療関係	2.1	1.7	0.4	
8 スポーツ・文化関係	8.4	8.3	0.1	
9 災害関係	1.5	2.8	△ 1.3	
10 町内会関係	41.3	44.2	△ 2.9	
11 その他	4.8	2.2	2.6	
無回答	0.0	6.9	△ 6.9	

○地域活動をすることについて		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	以前、地域活動をしていたが、現在はやめている	17.5	18.9	△ 1.4	
2	現在、地域活動をするために準備している	1.5	2.0	△ 0.5	
3	今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない	36.5	39.7	△ 3.2	
4	地域活動をしたいと思わない	22.6	17.5	5.1	
5	わからない	20.6	20.0	0.6	
	無回答	1.2	1.9	△ 0.7	
■女性の人権、ドメスティック・バイオレンス					
○ドメスティック・バイオレンスの経験					
・暴力の経験 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	ある	9.6	12.8	△ 3.2	
2	ない	83.8	78.2	5.6	
3	わからない	2.5	2.4	0.1	
	無回答	4.1	6.6	△ 2.5	
・暴力の内容 (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる	6.8	17.9	△ 11.1	
2	「ばかだ、役立たずだ」などと言われる	14.2	29.5	△ 15.3	
3	外出や人との付き合いを制限される	12.9	28.0	△ 15.1	
4	身体を傷つけるような可能性のあるもので殴られる	4.6	17.9	△ 13.3	
5	平手で打たれる	7.7	31.4	△ 23.7	
6	げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする	10.2	41.5	△ 31.3	
7	大声でどなられたり、暴言を吐かれる	23.4	63.3	△ 39.9	
8	嫌がっているのに性的行為を強要される	7.1	18.8	△ 11.7	
9	何を言っても無視され続ける	4.3	14.0	△ 9.7	
10	生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	5.8	16.9	△ 11.1	
11	その他	3.1	2.4	0.7	
	無回答	0.0	1.0	△ 1.0	
■男女共同参画社会					
○男女共同参画に関する用語等の周知度 (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	女子差別撤廃条約 (女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)	14.0	15.4	△ 1.4	34.8
2	男女共同参画社会基本法	38.0	36.6	1.4	63.7
3	男女雇用機会均等法	72.7	70.6	2.1	79.6
4	育児・介護休業法	53.5	54.5	△ 1.0	
5	DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	56.1	54.6	1.5	81.7
6	次世代育成支援対策推進法				
7	茨城県男女共同参画推進条例	12.0	12.3	△ 0.3	
8	茨城県男女共同参画基本計画 (ハーモニープラン)	10.1	9.0	1.1	
9	茨城県の男女共同参画推進月間 (11月)	7.8	7.2	0.6	
10	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	6.0	4.4	1.6	20.0
11	ジェンダー (文化的・社会的につくられた性差)	20.0	16.4	3.6	30.9
12	ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	28.4	17.2	11.2	41.3
13	ダイバーシティ (多様性)				
14	見たり聞いたりしたものはない	7.2	8.6	△ 1.4	5.0
	無回答	7.8	6.8	1.0	

○男女共同参画社会を実現するにあたって行政に対する要望		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	全国 (%)
1	関係する制度の制定や見直し	22.4	20.4	2.0	45.8
2	女性に不利な慣習の見直し	32.5	22.7	9.8	
3	男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実	28.0	23.2	4.8	
4	男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	25.8	14.4	11.4	
5	子どものころからの男女共同参画教育				
6	男女が共に働きやすい就業環境の整備	59.0	49.6	9.4	
7	各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援	47.0	46.1	0.9	59.9
8	審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用	10.9	5.0	5.9	44.9
9	行政機関・教育機関・企業等における女性管理職の積極的起用	18.0	5.3	12.7	42.1
10	経営者・企業トップの意識啓発				
11	男性の意識改革				
12	地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成	13.5	6.6	6.9	
13	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	26.0	21.8	4.2	
14	配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救済体制の充実	14.3	7.4	6.9	
15	農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上	9.9	6.1	3.8	
16	男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	10.1	3.9	6.2	
17	男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点機能の充実	12.8	8.4	4.4	
18	その他	3.4	1.9	1.5	0.6
	無回答	8.1	6.5	1.6	
○「女性プラザ男女共同参画支援室」の周知度 (SA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	利用したことがある	0.5	0.2	0.3	
2	利用したことはないが知っている	9.3	9.7	△ 0.4	
3	知らなかった	87.4	87.3	0.1	
	無回答	2.9	2.8	0.1	
○拠点施設の役割として期待すること (MA)		今回 (%)	前回 (%)	増減 (ポイント)	
1	様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言	42.6	47.1	△ 4.5	
2	講演会、シンポジウム、各種講座などの開催	32.5	31.2	1.3	
3	関係図書をはじめとした資料・情報の収集、提供	11.7	12.8	△ 1.1	
4	インターネットを活用した情報提供	28.0	26.2	1.8	
5	男女共同参画に関する調査・研究機能	8.0	10.9	△ 2.9	
6	男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供	28.8	27.2	1.6	
7	専門家等による様々な分野における各種相談窓口	29.0	30.7	△ 1.7	
8	その他	3.1	3.3	△ 0.2	
	無回答	12.0	12.0	△ 0.0	

茨城県男女共同参画社会県民意識調査報告書
平成 27 年 3 月

発 行 茨城県知事公室 女性青少年課
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978-6
TEL 029(301)2178

調査実施機関 東水戸データサービス株式会社
〒310-0004 茨城県水戸市青柳町 3896 番地
TEL 029(291)8800
